

やまなみ

第 9 号



岳人あびこ



GAKUJINABIKOGAKUJINABIKOGAKUJINABIKOGAKUJINABIKO

岳人あびこ
岳人あびこ
岳人あびこ
岳人あびこ
岳人あびこ
岳人あびこ
岳人あびこ
岳人あびこ
岳人あびこ
岳人あびこ

やまなみ

第9号



手賀沼一周より

やまなみ 第9号 目 次

『やまなみ』 第9号発刊に寄せて

平成20年度会長 中村隆泰

平成19年度活動方針

NO.	山 名	山 域	月 日	執 筆 者	ページ
平成19年度(2007年3月～2008年2月)			2007年度		
525	古賀志山(新人歓迎山行)	前日光	3/25	やまたんより転載	1
526	棒立山	谷川	3/31-4/1	小川誠二郎	5
527	有馬山～蕨山	奥多摩・奥武蔵	4/8	清家三保子	8
528	大高山	奥武蔵	4/15	飯沼トミ子	10
529	セドの沢右俣	丹沢	4/15	堀口昭二	12
530	坪山	中央沿線	4/22	安田みづほ	13
531	岩山	鹿沼	4/29	坂巻 明	15
532	岩櫃山	上州	5/3	原田君子	17
533	鹿島槍ヶ岳	北アルプス	5/4-6	外崎 蓮	19
534	本社ヶ丸	中央沿線	5/13	細野清子	22
535	モミソ沢	丹沢	5/13	千葉有子	24
	セドの沢左俣			武内勇二	24
536	霧島・祖母山・烏帽子岳	九州	5/21-24	高橋芳恵	27
537	鬼石沢	西丹沢	5/27	佐藤健一	31
538	男体山麓荒沢水源	日光	5/27	小川洋子	33
539	荒船山	上州	6/3	小松庸信	35
540	日光白根山	日光	6/7	斉藤清一	37
541	カヤの平・奥裾花(市民登山)	北信濃	6/9-10	柴田節子	39
				飯沼トミ子	39
542	谷川岳	上越国境	6/16-17	原田和昭	46
543	大雲取谷	奥多摩	6/23-24	青山寿子	48
544	袈裟丸山	足尾山塊	6/23-24	坂口よし江	50
545	秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山	東北	6/30-7/2	柴 勇	52
546	武甲山	奥武蔵	7/7	早川不二子	55
547	三ツ峠山	富士周辺	7/8	石垣吉朗	57
548	焼岳～西穂高岳	北ア	7/18-20	大串秀雄	59
549	塩見岳～北岳	南ア	7/28-31	外崎 蓮	62
550	雲取山	奥多摩	8/4-5	箕輪完二	65
551	大岳山～鋸尾根	奥多摩	8/12	高橋英雄	67
552	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳	中ア	8/12-14	佐藤明子	68

NO.	山名	山域	月日	執筆者	ページ
553	笠ヶ岳	北ア	8/17-20	瀬田映子	70
554	北股岳～大日岳～飯豊山	飯豊	8/24-27	小松庸信	75
555	五十沢～金城山	上越	9/1-2	千葉有子	78
556	笹ヶ岳	南ア	9/9-10	武内勇二	81
557	太平山（ウイズハイク）	栃木	9/23	高橋 重	83
558	鳳凰三山縦走	南ア	9/29-30	坂口よし江	87
559	雨飾山	頸城山塊	10/8-9	品田千恵子	89
560	赤薙山（県連平日ハイク）	日光	10/11	斉藤清一	91
561	百蔵山～扇山・大蔵高丸～滝子山	中央沿線	10/21-22	大串秀雄	93
562	丸山	奥武蔵	10/28	箕輪カオル	96
563	夕日岳	日光	11/4	坂巻 明	98
564	小川山	奥秩父	11/10-11	柴田節子	100
565	社山	日光	11/18	高橋英雄	103
566	愛宕山・ポンポン山	京都	11/20-22	細野清子	105
567	手賀沼一周	東葛	12/1	飯沼トミ子	110
568	高宕山～八郎塚（忘年山行）	房総	12/9	小松庸信	112
569	三本槍岳	那須	12/15-16	千葉有子	114
570	鷹取山	三浦半島	1/20	中村隆泰	117
571	赤城山	上州	1/19-20	桐生恭子	119
572	石尊山～清澄寺（県連ロングハイク）	房総	1/26-27	坂口よし江	122
573	高山	日光	1/27	中村八重子	124
574	鳥屋山～倉岳山	中央沿線	2/3	村松敏彦	125
575	大霧山	奥武蔵	2/10	箕輪カオル	128
—	高尾山（新人卒業山行）	中央沿線	2/11	坂巻明・小松庸信	130
資料	推移グラフ（1996年～2007年）			編集者	131
	山行一覧表（2007年度）			編集者	132
	活動の記録（1996年～2007年）			編集者	136
編集後記				編集者	—

*表紙イラスト提供 : 箕輪完二氏 タカネビランジ(ナデシコ科)



やまたん 2007年3月号～2007年8月号



『やまなみ』第9号発刊によせて

平成20年度 会長 中村 隆 泰

今年もここに「やまなみ」第9号をお届けすることができます。形にするまで多くの方々の献身的な労力とすばらしいIT技術が注がれています。皆様のご努力に敬意を表わすとともに、心から感謝を申し上げます。



平成19年度のスローガンは

「燃やそう 山への情熱、深めよう 仲間の絆。 気持ちを緩めず 安全登山」

を掲げました。情熱がなければ何一つ達成できない。一緒に汗する仲間は自分に力を与えてくれる。みなさんの笑顔がその喜びを表しています。

また毎月「やまたん」の表紙にメッセージが載せられました。改めてまとめてみました。これらは〈岳人あびこ〉が創立以来実践してきたもので、これからも続けていかなければならないことではないでしょうか。

4月 築こう 人の輪

10月 探そう 楽しみ

5月 もらおう 山の気

11月 守ろう 自然

6月 作ろう 体力

12月 みがこう 山の技術

7月 流そう いい汗

1月 祈ろう 山の安全

8月 目指そう 高み

2月 果たそう 一人一役

9月 活かそう 先人の知恵

3月 残そう 思い出

以上

第12期 岳人あびこ活動方針

**スローガン：燃やそう山への情熱、深めよう仲間の絆
気持ちを緩めず安全登山**

**作ろう体力、目指そう高み、探そう楽しみ、もらおう山の気、
守ろう自然、築こう人の輪、残そう思い出**

1. 活発な山行と質の向上
 - (1) 自主性ある登山実施にむけた会員意識の高揚
 - (2) 定例、準定例山行活発化による多様な登山に積極的にチャレンジ
 - (3) 多様な山行に挑戦するための装備品の活用
2. 基礎能力の向上と安全登山
 - (1) 体力向上のための自主トレーニングの励行
 - (2) 基礎的知識・技術向上のための机上研修、研修山行の実施。
3. 事故防止
 - (1) 危険箇所、特に下山路における声かけの実行
 - (2) 緊急時の連絡方法・手順の徹底
4. 会員親睦とコミュニケーション推進
 - (1) 新人歓迎山行、忘年山行、岳人祭の実施
 - (2) やまたん、やまなみの発行
 - (3) ホームページの内容充実
5. 市民と自然との関わり
 - (1) 一般市民向けの市民登山の実施
 - (2) ウイズハイクの継続実施
 - (3) 自然保護活動への積極参加
6. 県連や他の山岳団体との交流推進
 - (1) 県連理事会、各種委員会への積極的参加
 - (2) 県連行事への参加を通じ他の山岳団体との交流

以上



平成19年度

平成19年3月～平成20年2月

< 5 2 5 > 新人歓迎山行

古賀志山
(583m)

「やまたん」より転載

新人の感想

“待ちに待った初山行”

早川不二子さん

前夜は強風と雨音、それに緊張でほとんど眠れなかった。
遠くから見る御岳山・古賀志山。あんな高い所まで登るのかと思うと不安。
雑木林、檜林は小雨にしっかりと濡れ、靄がかかり、そんな山も素敵でした。
御岳山では日光連山も望めた。高い所から山々を見るなんて初めて。感激でした。
下山は速度が落ち、迷惑をかけてしまいました。「新人さん！ 新人さん！」とやさしくして頂き、ありがとうございました。次の山行が楽しみです。

心をこがしての「古賀志山」

小松庸信さん

夜半中の暴風雨の音のせいなのか、或いは新人山行の集合時間に遅刻していけないとの思いからか、緊張から十分な睡眠がとれず、少々寝不足の中で当日を迎えました。
そんな中ではありましたが、心をこがしての「古賀志山」新人山行を無事出来ました。
新人教育担当の外崎さん、清家さんをはじめ、岳人の皆さんのお陰と感謝いたしております。
帰途のバスの中では、先輩諸氏と親睦で飲んだ酒はまた格別で、非常に楽しい新人山行でした。

“山行が終って”

坂巻 明さん

ずうっと続いた天気も今日は雨でした。折角の岳人あびこファーストステージなのに生

憎でした。朝4時半に起きたのは本当に久しぶりです。希望と不安の入り混じる中での出発です。雨は降り続き、現地の高速道路を下りるとき近くの山が霞んで見え、まるで水墨画のようでした。駐車場に着き、いよいよ山行です。新しく取り揃えた用具の装着ですが、うまく出来ません。外崎さんの指導で何とか出来ました。スタートした途端、飲み水を忘れたことに気がつきましたので申し出たところ、坂口さんが優しくペットボトルを差し出してくれました。運がよいのか、御岳の頂上に着く頃には薄日が射し始め、雨が止み、雲に乗ってる日光連山を見ることができました。先輩たちが私たちにラッキーと声をかけてくれました。

さて、ゆっくり出来るかと思いきや、古賀志山山頂を回っての下山です。行きはよいよい帰りは何とか…登りより下りの大変さを知りました。4時間の行程はあっという間でした。私たちが集合場所に着いたら、もう皆さんは宴の準備をして待っていてくれました。手際の良さに感心し、感謝するしだいです。振る舞われたけんちん汁・ほうとうがすごく美味しかったです。又、清家さんが提供してくれたおかずは、酒の肴にぴったりでした。お酒をたしなむ女性が多くいるのは、大変頼もしく思われるしだいです。久しぶりの運動に少々疲れました。のんびりする暇もなくの一日でした。スケジュールが変わり、温泉に入れなくて残念！！ 帰りのバスの中でも宴会は続き、山行より飲行のほうが疲れたかな？ 心地よい疲労で今日はぐっすり眠れるでしょう。先輩の方々に声をかけていただき、気づかっただき、ご指導いただき有難うございました。又、食担の方々本当にご苦労様でした。

各班メモ

新人コース

- ◇ 小雨の中、新しい雨具もまぶしい新人コース。赤川ダムにはマガモの番いが3組泳ぎ、桜の花もちらりと。私達も和気あいあいと出発。
- ◇ 林道から御岳に入る道標に少し惑わされる。
- ◇ 一句「伐採の檜ひのき 香るや菜種づゆ」
小川選
- ◇ 道中は常に新人以外は皆先生となって質問に答えたり、指導？しながらの山行。

◇ 御岳山頂では雨が止み、日光連山が顔を出し迎えてくれる。

◇ 御岳山への道や、古賀志山からの下りは特に注意し、全員無事下山できた事は何よりだった。本日の主役である新人さんは皆に迎えられての最後の登場となった。

食担さん、トン汁、ほうとうの味は丁度良く、
本当においしかったです。ありがとうございました。

食担コース

- ・小雨の中、駐車場を出発。北コース登山口までは車道を歩く。
- ・富士見峠迄は、エイザンスミレ、一輪草、カタクリを愛でながら雨で濡れた岩の多い急坂に行く。
- ・富士見峠から見晴台迄は10分、見晴台からの展望は幻想的な山水画の世界。
- ・見晴台を下り始めた直後に、滝コースパーティーとすれ違う。富士見峠に戻り古賀志山山頂へ、山頂では583mと表示された標識をバックに記念撮影。
- ・古賀志山から御岳に向かうが、雨で岩場が濡れている為、直登しないで巻き道を通り御岳に到着。山頂には数パーティーが休憩中。山頂からは日光男体山、女峰山、高原山、鶏頂山が雲の間から山容を表す。低山ながら展望は素晴らしい。新人コースパーティーが到着し、展望を譲り下山開始。
- ・南コース分岐から階段状の急坂を下り車道に出る。東稜コース登山口を確認しながら第一キャンプ場到着。
- ・ヒヤリハットなし。

滝コース

開花を待つばかりである城山西小学校前のしだれ桜を横目に、歩いてすぐ登山口に入る。鬱蒼とした杉林の中を登っていくと、しばらくして大きな岩壁に到着。不動の滝である。落下している水量は少ないが、岩からの湧き水にのどを潤すことができる。岩の窪みに滝尾大権現が祀られてある。

それから、ゴロゴロした岩と鉄ばしごを登りきると御岳山頂。ほんの少しの距離ではあるが、雨ですべりやすいので登り降りには充分の注意が必要だった。そこを後にしてから間もなく、赤い小さな鳥居を通過した。また、鹿沼市から来たという一群に出合った。芽吹きつつある雑木林を少し行くと古賀志山山頂。分岐点の道標に沿って、富士見峠から北コースを通り、キャンプ場へと向かった。

いつの間にか雨は上がっていた。水のせせらぎ、鳥のさえずり、木々の芽吹き、カタクリやきぶし、いちりん草も目にしながら歩いた。第一キャンプ場には滝コースの私たちが、一番早く到着したグループとなった。

(記録 箕輪カオル)

熟練Aコース

予想したとおり雨。我孫子駅北口 5:40 発東北道大谷パーキングでトイレタイムと雨に備えカップを身につける。宇都宮で下り登山口へ。今日は雨の為熟練コースは中止、3班共滝コースにする。登山道は不動の滝辺りから石が多く登りにくい。富士見峠から中尾根コースに変更、少しのアップダウンがあつて結構楽しめた。キャンプ場での新人歓迎会は食担の方々のお陰で大変良い宴でした。有難うございました。

(英)

熟練Bコース

*朝から霧雨模様で熟練コースA班・B班はコース変更の指示があり滝コース班と共に城山西小学校入口でバスを降り他の班を見送り登山準備をする。

*車中で雨具を着用しているメンバーがほとんどだったので早々に出発できた。

空模様は雨が上がりそうであるが、熟練コースはコース変更は可能であるとの指示が出る。

*古賀志山古墳群の道標があり豊かな森であったのだと思いながら通過してゆくと、カタクリの群生地が整備されていて寄り道をしてわき道に入る。昨夜からの雨と今朝の霧雨で紫の花は閉じたまま。

*不動の滝に着くがA班と入れ替えに安全登山を祈願する。ほどなく滝コース班が到着する。3班等間隔で歩いているようだ。

*鉄梯子と鎖綱を見て前回登頂したと思い出すメンバーが出てきた。2回目だとか、3回目だとか御岳は古賀志山と赤岩山の分岐で思い出話がでた。

*古賀志山山頂で決断。展望台濃霧のため眺望聞かずパスする。559mのピークもパスし中尾根コースにするとLの決断がくだり、富士見峠で展望台に向かったA班を待つ。雨は上がったが眺望はきかず。下山口に向った。

*歓迎会は食担の皆さんのお世話で美味しく暖まる物を頂いて盛り上がった。

概要

山名	古賀志山		
月日	平成19年3月25日(日)		
形式	日帰り	ゲレト	1A、1B
山城	前日光	地形図 1/2.5万	大谷
目的	新人歓迎 会員同士の交流		
費用	3,100円	交通機関	貸し切りバス
日程 コース	<p>全体コース 我孫子駅 5:38 → 大谷 SA → 宇都宮インター → 城山西小学校 8:00 (滝コース、熟練A・Bコース下車) → 宇都宮市森林公園 8:15 (各コースに分かれて登山、下山後第一キャンプ場に集合。懇親会) 宇都宮森林公園 14:00 → 宇都宮インター → 羽生 SA → 我孫子駅 16:40</p>		
	<p>各コース 新人コース 駐車場 8:15/8:30 ⇒ 林道 9:18 ⇒ 登山口 9:30/9:35 ⇒ 御岳への分岐 10:05/10:15 ⇒ 御岳山 10:25/10:30 ⇒ 古賀志山 10:45/11:00 ⇒ 富士見峠 11:10 ⇒ 水場 11:45/11:55 ⇒ キャンプ場 12:20</p>		
	<p>食担コース 宇都宮市森林公園 8:30 ⇒ 北コース入口 8:43 ⇒ 富士見峠 9:28 ⇒ 見晴し台 9:40/45 ⇒ 古賀志山 9:55 ⇒ 御岳 10:10/20 ⇒ 南コース分岐 10:40 ⇒ 林道 10:55 ⇒ 東稜コース分岐 11:10 ⇒ 第一キャンプ場 (懇親会場) 11:20</p>		
	<p>滝コース 城山西小学校入口 (8:00-8:10) ⇒ 古賀志山南登山道入口 (8:25) ⇒ 不動の滝 (8:40-8:45) ⇒ 御岳 (9:15-9:20) ⇒ 古賀志山 (9:40-9:50) ⇒ 富士見峠 (北コース) (10:10) ⇒ 第一キャンプ場 (11:00)</p>		
	<p>熟練Aコース 城山西小学校入り口 8:10 ⇒ 古賀志山登山入り口 8:25 ⇒ 御岳山頂 9:10 ⇒ 古賀志山山頂 (583m) (気温 11度) 9:35 ⇒ 東稜展望台 9:50 ⇒ 富士見峠 10:30 ⇒ キャンプ場 11:30</p>		
	<p>熟練Bコース 城山西小学校入口 (8:00/8:10) ⇒ 古賀志山南登山道入口 (8:20) ⇒ 不動の滝 (8:40/8:45) ⇒ 御岳 (9:15/9:20) ⇒ 古賀志山 (9:40/9:45) ⇒ 富士見峠 (10:00) ⇒ 分岐 (10:25/10:30) ⇒ 富士見峠分岐 (11:00) ⇒ 下山口 (11:20) ⇒ 第1キャンプ場 (11:30)</p>		

ルート 状況	<ul style="list-style-type: none"> 古賀志山～御岳間は岩場で、雨で岩が濡れている場合は巻き道あり (食担コース報告) 昨夜からの雨で城山西小学校入口から登ることに変更した。 眺望が聞かないので展望台へ行かず古賀志山山頂を目指した。 小雨が降っているので559mピークに行かず中尾根コースを歩く。 登山道は整備されており鎖綱・鉄梯子を慎重に対応すれば良い。 (以上熟練Bコース報告)
参加者	<p>新人コース 外崎 (CL)、清家 (SL)、小川誠、坂口、大平、小松、坂巻、早川 (男3名 女5名 計8名)</p> <p>食担コース 中村八 (総括L)、武内 (L)、青山 (SL)、村松峯、桐生、高橋重、府賀、本間、瀬田、 (男3名 女6名 計9名)</p> <p>滝コース 日下 (CL)、箕輪カ (SL)、安田、品田飯合、原、箕輪完、藤倉、柴田 (男2名 女7名 計9名)</p> <p>熟練Aコース 高橋英 (L)、中村美 (SL)、細野省、細野清、大串恵、田村、矢野、千葉 (男2名 女6名 計8名)</p> <p>熟練Bコース 柴 (CL)、斉藤 (SL)、大串秀、大島、榊原、原田君、佐藤明、 (男3名 女4名 計7名)</p> <p>全体 (男13名 女28名 計41名)</p>

概念図



古賀志山写真集

古賀志山山頂にて新人コース



食担コース



← 熟練 B コース
熟練 A コース →



まるで墨絵の世界が広がります



深めよう仲間の絆！



< 5 2 6 >

棒立山 ・ タカマタギ
(1420m) (1529m)

小川 誠二郎

雪山敗残兵の記

雪山に入りテントで寝る、これを一度経験したいと常々思っていたが、想定外の厳しいものだった。

以前、クリスマス山行に参加するには20キロ背負って筑波山で訓練せよと言われ、10キロで始めてみて容易じゃないと悟っていた。今回の計画は、棒立山直下でテントを張ってタカマタギにサブザックで往復するとのこと。雪洞掘りの訓練が目的とのこと。それならなんとか行けるかと思って申し込んだ。これが大間違いと山に入るとすぐに判ったが、すでに遅し。まず装備。冬用シュラフを持っていないので、石井スポーツ店で聞いたら、ダウンの4、5万円のを勧める。「雪山はこれでないと」と例の調子。待てよと思って聞いたら会の装備として化繊綿のものが2個ある。それを重ね着すればよからうと、2個借りた。家で畳にシュラフ2個重ね着し、シュラフカバーをかけて寝てみたら快眠。マットは古い銀色の巻物。これで行くことにした。

ワカンのは会のものを借りた。冬靴、12本爪アイゼン、ピッケル、ヤッケは前に大菩薩嶺のときに揃えたのがある。シュリングとカラビナ各2を今回購入。さて、これを拝借してきた大型ザックに詰めてみたが、とても入らない。結局、シュラフ2個とマットはザックの外にくくりつけることにした。

当日早朝、家を出て天王台駅まで10分歩く。これで山に登るとは考えられないほど重い。一步一步踏み締める。我孫子駅で村松さんと武内さんに笑われた。曰く、「中央公園デビュースタイル」「ブルーシートも持って来た?」。新幹線で荷造りのやり直し。ザックの腹のベルトを緩めて内容積を広げ、シュラフを2個とも中に入れる。マットはやむなく上

に縛って両側に張り出す。岳人あびこのTシャツのデザインスタイル。雪山のイロハは梱包術からと知る。土樽駅に到着したとき、重いザックの担ぎ方を習った。即ち、まず、右膝の上に引きずり上げて、右腕を通し、体を揺すって左腕を通す。これも雪山のイロハ。しばらく自動車道を歩く。雪空だが棒立山がはっきり見える。写真を撮る。

吉川さんが細い棒に赤い旗を付けたものを数本持参。テントが雪に埋もれたときに備えて救助隊に位置を知らせるためにテントの位置に立てておくものかと思ったら、さにあらず。登り道の要所に立てて、下山の目印とするもの。雪山1年生はいちいち知らないことばかり。さて、この山は、雪が積って藪を押え付けたところを歩いて登る山で、夏場は登山道はなく、雪の上を歩く冬場だけの山。ところが今年は雪が少なく、藪を充分押え付けていない。「雪が少ないから藪漕ぎになる」と聞いていた意味が現場で判った。

雪道を入れて、尾根道に取り付く。雪山の必須科目のキックステップを習う。たちまち藪漕ぎとなる。笹だけならいいが、低木の枝が横に張り出している。それが頭とザックの間に食い込む。腰を落して枝を外して前進して立ち上がる。体力を消耗する。その繰り返し。横に張り出すマットが邪魔。こういうスタイルはだめ。身幅の荷物を背負うのでないとだめと知る。

一步一步の足を置く場所が容易ではない。笹がなぎ倒されているところを踏むと滑る。木の根を踏むと滑る。倒木をまたぐときザックが重くて足元がよろめく。雪を踏むときは前の人の足跡を踏む。足跡と言っても一つ一つが膝下までの深さの穴。その足跡の底が抜けて足が深く沈むこと度々。ザックが重いからよろめく。両腿の前、膝のすぐ上が固くなり痛くなった。あと一步、あと一步と登る。これでテン場まで辿り着けるのかと甚だ心もとない。

痩せ尾根に差し掛かる踊り場(1040m 地点)の手前で立ったまま昼食を摂る。胡瓜を食べると、胡瓜やバナナは重いから雪山には不適當とご指摘。雪山ノウハウは随所にあると知る。

踊り場(1040m 地点)に来て、小川の体力が尽きそうだから、ここでテントを張って、翌

朝3時に起きて棒立山とタカマタギに行く案が話された。きょう中に棒立山まで登ってテントを張れば翌朝5時起きでよい。結局、小川の荷物の重いものを皆さんに持って頂いて、ゆっくり棒立山まで登ることになった。痩せ尾根を覆っていた雪の片側がずり落ちて雪庇になっているから稜線は危ない。稜線の下側を歩く。斜面の藪漕ぎ。一步一步の足場の覚束ないこと。

棒立山から下りて来た人に聞くと、タカマタギへの道は雪の片側がずり落ちて雪庇になっていて危険、棒立山の下にテントを張るのは危険とのこと。そこで、きょうは棒立山に登って、引き返してテントを張ることに決まる。早速、ザックをブナの根方に置いて、身軽な形で棒立山頂上を目指す。夏山登山道なら左へ斜めに登って、右に切り返して登れば楽と見えるが、雪山は一步一步が疲れるから、傾斜はきつくとも歩数の少ない直登を選ぶ。これも雪山ノウハウ。両足とも足元が底抜けして動けなくなった。武内さんが斜面の下側に来て尻を押して下さってようやく脱出。頂上は強風。吹き飛ばされないように身を低くして踏ん張って、写真を撮って即下山。なるほど、立派に聳えるタカマタギへの道は地獄への道。

棒立山山頂にて。風が強く、吹き飛ばされそう



下山道は急傾斜。転べば雪達磨になってどこまでも落ちるであろう。柔らかい新雪の斜面が蟻地獄に見えた。ピッケルが必須と知る。小雨の中、テント張りもトイレ作りも皆さんの手際の速さに感嘆。テント2張を出入口を向かい合わせにして張る。その間隔を掘り下げて出入口の土間にする。なるほど出入りが楽だ。雪洞掘りは雪が厚くないので断念。テ

ントの風上に雪のブロックを積んで風除けを作るべくやってみたが雪が固まらずうまく行かない。断念。近所のテントはうまくやっていた。炊事用のきれいな雪をビニールの大袋に取り、テントの横に置き、随時鍋に取り込む。

炊事料理も焼酎も語らいも、Oh！これがテント生活と、いちいち感激。シュラフ1個とシュラフカバーで寒くもなく快眠。シュラフ1個は結果的にはお荷物。

朝、雨はやんで霧。テントで炊事朝食。昨夜に続き外崎リーダー御手ずから玉ねぎを刻んだりの料理。鰻炊き込みご飯など。テントを撤収して下山にかかる。

マットは縦にして縛りつけた。ウェストポーチはご指摘頂いてザックに詰めた。ピッケルの紐は手首に絡ませるものはだめと知る。左右持ち替える都度紐を付け替えることはできない。吉川さんから襷掛けの紐を拝借。下りも登りと同様、一步一步に難渋。痩せ尾根の雪庇では一人ずつ間隔を置いて慎重に進む。雪庇には線ができていてそれを境に色が違っている。そこから割れて雪崩れるとのこと。

踊り場(1040m 地点)に来て一休み。頂いたチョコレートが大変おいしい。ブナ林の奥から鶯の声。降り口にマンサクの花。山の神様も時には優しい。

さて、これからきのうと同様藪漕ぎ下山。先頭の村松さんの後に付いたが追いつけない。付いて来ないとせっかく作った足の踏み場が判らなくなるじゃないかと叱られる。わかっちゃいるけどの植木等が偲ばれる。木の枝を掴むとポキンと折れた。頼りにしてはいけないと知る。ストックを2本ザックの横に付けておいたのがそっくり木の枝にひっかかって置きっ放し。吉川さんに証拠写真を撮られた。雪山藪漕ぎの資料となるであろう。転倒すること2、3度。都度、頭を打たぬよう、手足をくじいたり折ったりしないよう、無理に踏ん張らないで受身で素直に転ぶ。立ち上がるにはかなり体力を消耗する。鉄塔が見えたぞの声にやれやれの気持。鉄塔で休憩、水と栄養補給。鉄塔管理用の道を下り、沢のような雪道を通り、林道に出る。土樽駅まで歩く。へとへと。

皆様に多大なるご迷惑をお掛けして申し訳

ない気持と、多々学習してよき経験をさせて頂いた感謝の気持と、鍛え直して出直さなければならぬとの反省の気持がカクテルになって、総じて言えば雪山敗残兵。帰りの電車と新幹線では焼酎などほろ苦くもおいしく頂きました。ありがとうございました。

概念図



翌朝はホワイトアウト慎重に下山



概要

山名	棒立山～タカマタギ山		
月日	平成 19 年 3 月 31 日(土)～4 月 1 日(日)		
形式	テント	グレード	3 C
山城	谷川	地形図 1/2.5 万	土樽
目的	① 純白の谷川岳の展望と雪洞掘りの訓練をする。 ② 一般ルートのないヤブ山へ、この時期に登ってみる。		
費用	約 11,000 円	交通機関	J R、上越新幹線
日程コース	1 日目	我孫子駅 5:30→上野駅 6:14 (とき 301 号) →越後湯沢駅 7:25/8:05 (上越線) →土樽駅 8:21/8:30⇒毛渡沢橋⇒棒立沢尾根取付 9:10/9:15⇒鉄塔下 9:40/9:50⇒1040m 地点 11:45/12:00⇒棒立山 14:33/14:40⇒テント場 (1180m 地点) 15:30 〈歩行時間:約 6 時間 15 分〉	
	2 日目	テント場 7:30⇒1040m 地点 8:25⇒鉄塔下 10:03/10:15⇒棒立沢尾根取付 10:35 ⇒毛渡沢橋⇒土樽駅 11:15/12:15⇒水上駅 12:38/13:48⇒高崎駅 14:55/15:19 (あさま) →上野駅 16:06/16:24→我孫子駅 17:00 〈歩行時間:約 3 時間 45 分〉	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・上越線に沿って土樽林道を進み、棒立沢を渡って、林道に最初にせり出した尾根が取り付き地点。杉の枝に目印の赤いリボンがぶらさがっている。 ・上の鉄塔まではここを直登するか、棒立沢を進み、右手作業道をあがってもよい。私たちは、地面を這う木や笹につかまって直登した。 ・1040m 地点までは、西方へ確実に尾根をたどる。 ・ここから棒立山までは南に向かって、等高線の混んだ登り一辺倒となる。 		
参加者	外崎 (L)、村松 (SL)、武内、小川誠、千葉、吉川 (男 4 名 女 2 名 計 6 名)		



< 5 2 7 >

有間山 ～ 蕨山
(1214m) (1044m)

清家 三保子

～早春のヤブ歩き～

我孫子駅から3時間を超える乗り物の後、長い行程の1日が始まった。私にとってはこの長丁場の歩きは本当に久し振りである。少々不安がある。2年程満足に行っていないブランクは大丈夫だろうか、その確認と次なる5月連休の鹿島槍ヶ岳につなげるステップにしようとの様々な思いを持ちこの山行に臨んだ。そして山なみ担当をもらった。

川井駅でタクシーに乗り、ヘリポートのある林道終点迄行く。準備をしながらおにぎりをほおぼり、エネルギーを常に補給して行こうと考える。大丹波川沿いの登山道は全く静かである。「おしゃべりが揃っている」と誰かに言われても、期待に答えられる程しゃべってられない。速いリーダーの足に、呼吸のリズムを合わせ、整えるのに忙しいのだ。

足元にはモクモクと湧き上がる様に二輪草が出ている。細い登山道にずうっと続いている。蕾が葉っぱに埋まってやっと覗いている。我が家では満開なのに。

川の水はとてもきれいである。こんな場所の狭いちょっとした平地に鮮やかな緑がある。「わさび田」の様だ。だいぶ荒れていて現在も栽培しているのかどうか解らない状態であった。

獅子口小屋跡で今日始めて、単独で川乗山へ向かうという男性に会う。全く静かな山道である。踊平に出る頃、雪が残っている所が点々と現われる。それもフワツとした新雪だ。たぶん4月の始めに降った雪と思うが、北斜面は、しっかりと雪道が続きびっくりする。

日向沢の峰あたりから「早春のヤブ歩き」が多くなる。丁度顔に当たるのが嫌であるが、斜に構えて歩いたり、平泳ぎの様にかき分け進む。雪の多い急斜面の下りでは笹の助けを

借り早いこと早いこと。

有間峠を過ぎ有間山に着く。有間山は有間谷の源流にあたる広い部分の名称だったそう。今は橋小屋の頭からタタラの頭が有間山とのこと。(一般的に1213.5mのタタラの頭を有間山としている)有間山が2つあると思っていた私のナゾが解けた。

タタラの頭で写真撮影をしながら「長い行程の先は見えただろうか？」と少しホッとす。橋小屋の頭には「有間山」と大きな看板があった。



タタラの頭にて。(ここがホントの有間山)

蕨山へ向かう。本日何度アップダウンを繰り返したことか。再び急な下りで逆川乗起。もう十分歩きました、と体中で思う。少し穏やかな明るい尾根になると蕨山はまもなくであった。

あまり眺望のない今回の歩きの中で蕨山々頂は明るかった。名郷の分岐に向かう登山道は何と広い道だろうか。

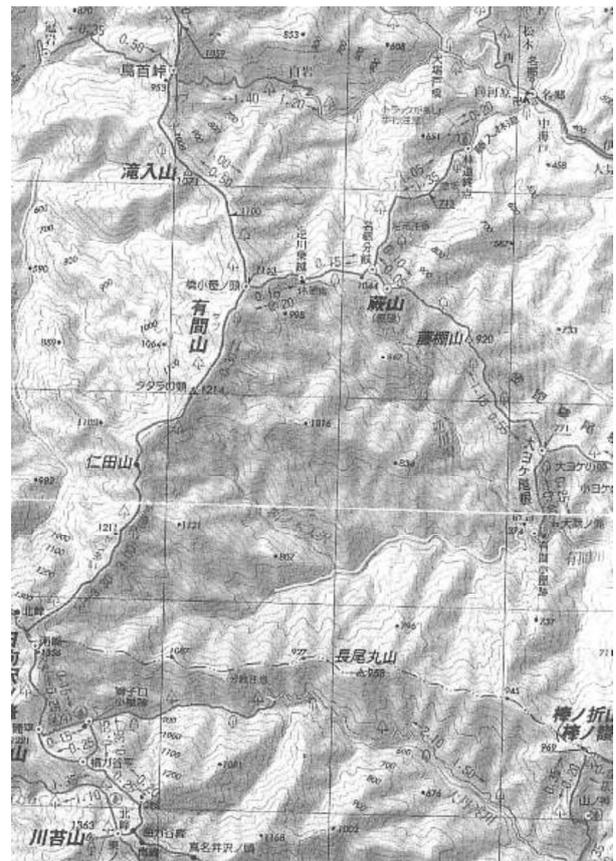
どう見ても車やバイクのタイヤ跡が付いている。何の為に誰が通るのか、せつかくの静かな山ではないかと残念に思う。

名郷のバス停への下りの転げ落ちそうな急な下り。芽吹き前の何もない枝の中に赤ヤシオが咲いていた。鮮やかなこの花は何と印象的であった事か。そしてバスに乗ると、名郷から飯能駅迄は、白の雪柳の土手、そして川沿いは全て桜並木、桃やツツジのピンクの濃淡。町をあげての春爛漫であった。

概要

山名	有間山～蕨山		
月日	平成19年4月8日(日)		
形式	日帰り	グレード	3B
山域	奥多摩～ 奥武蔵	地形図 1/2.5万	武蔵御岳
目的	早春のヤブ歩き		
費用	4,000円	交通機関	電車、タクシー、バス
日程コース	<p>我孫子駅 5:33→立川→川井駅 8:15/20 →林道終点 8:35/40⇒獅子口小屋跡 10:00/10⇒踊平 10:35/40 日向沢の峰 11:10/20⇒有間峠 12:10⇒有間山(タタラの頭) 12:53/57⇒橋小屋の頭 13:10/25⇒名郷分岐 13:55⇒蕨山 14:00/15⇒名郷分岐 14:20⇒名郷バス停 15:25/50⇒飯能駅 16:50/18:20⇒新秋津→我孫子駅 21:00 <曇り 歩行時間:6時間></p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 獅子口小屋跡迄は沢沿いの登山道で、標識が古く整備されていない。 獅子口小屋跡～踊平は急登。 日向沢の峰～有間峠は一部背丈ほどの笹で、藪漕ぎを強いられる。 		
参加者	青山(L)、村松敏、清家、外崎、高橋英、佐藤明、田村 男2名 女5名 計7名		

概念図



< 5 2 8 >

大高山 (493m)

飯沼トミ子

芽吹き of 静かな里山歩き

里山と云えども侮るなかれ！「迷い」マークのある点線ルート歩きです。リーダーに導かれた「迷い」マークの山行はいろいろ楽しませてくれた。不安やら、驚きやら、不思議な道に「迷い」を感じさせてくれるには十分な山歩きでした。この「迷い」道を無事に下山できると参加者のグレードも「2B」に昇格(?)と云う期待で胸ワクワクの計画です。

当日は天気にも恵まれた最高の登山日和でした。貸切バスにて一路東吾野へ行き、そこで2班に別れて出発です。縦走コースはアップダウンの繰り返しではありましたが、芽吹き of 美しさに魅了されながら中高年(?)の方々の足取りは意外に軽い。所々では、まだ山桜にも出逢えました。地図の上での「迷い道」とは裏腹に、私達は道に迷うこと無く、そして足の裏のクッションも快適な昔ながらの山道歩きでした。さわやかな風が私達を快適なリズムに乗せながら「迷い」マークのコースも無事に通過。途中、可憐な「イワウチク」の群生にも出逢い、白花エンレイ草、黄ケマン草、エイザンスミレ、イワウチワの歓迎を受け、自然の美しさを再認識しました。子の権現にてメンバーは再び合流しました。

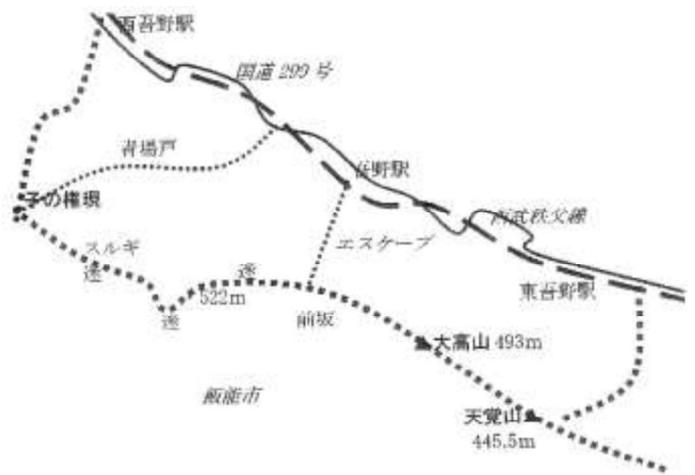


今回のテーマは、「里山といえども侮ることなく確かな道をたどるには？」と云うのでありました。チーフリーダーの提案で、リーダー養成の観点から9期生、10期生の方々に

リーダーの指揮を執って頂く事で終始されました。その結果、仲間の絆は深く二班共々「迷うことなく」ほぼ同時に下山することが出来、メデタシ！メデタシ！ 天候にも恵まれた事も今回の山行成功を応援してくれたようで、有難うございました。

それにも増して、皆様のご協力は言うまでもありませんでした。入間川の一本橋を渡って辿り着いた反省会場の「櫟庵」でいただいた蕎麦が美味しかったこと、格別でした。

概念図



大高山を望む



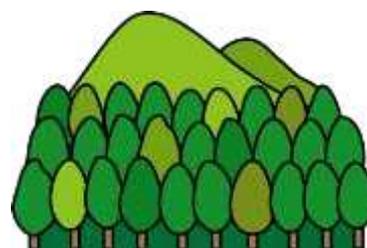
概要

大高山山頂にて、A班

山名	大高山		
月日	2007年4月15日(日)		
形式	日帰り	グレード	2B
山城	奥武蔵	地形図 1/2.5万	原市場、飯能
目的	芽吹き of 静かな里山歩き (里山といえども侮るなかれ。確かな道をたどるには?)		
費用	3100円 (交通費)	交通機関	貸切バス
日程コース	<p>我孫子駅北口 5:30→常磐・外環・関越)→三芳PA 6:38/6:58→(圏央)→狭山日高IC→東吾野駅着 7:35</p> <p>(A班) 7:55 出発⇒登山口 8:05⇒天覚山(446m) 9:13/9:23⇒大高山(493m) 10:40/10:50⇒昼食 11:25/11:45⇒前坂⇒(522m峰) 12:35⇒(531m) 13:15⇒スルギ 13:25⇒子の権現 14:05/14:20(参拝)⇒西吾野 15:20</p> <p>(B班) 7:50 出発⇒天覚山 9:10/9:23⇒大高山 10:45/11:10 昼食⇒前坂 11:40⇒子の権現 14:00(参拝)⇒西吾野 15:20</p> <p>西吾野発 15:30→飯能(反省会 櫛庵(くぬぎあん) 16:15/17:30→我孫子駅北口着 19:35</p>		
ルート状況	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当初東吾野駅から登って吾野駅に下りる駅から駅のハイキングコースを考えていた。地図を確かめていると、途中から子の権現に向かって、点線が伸びていて、迷マークが4個付いている。好奇心が膨らんで、追加延長することにした。 2. 里山特有の古い仕事道に時々悩まされるが、地図と勘を働かせて確かな道をたどる必要がある。 3. 中間点の前坂で体調などを確認する。ここから吾野へのエスケープルートがある。エスケープ希望者なし。 4. いよいよ迷コースへ向かう。しかし結果的には、道標やテープ、道を閉鎖した枝などに気をつけて歩いたので迷うことはなかった。(昔は迷ったのだろうか人間が手を加えてやさしくしたようだ) 5. 今回はすべての役割を女性にお願いした。特に9、10期生には班のリーダーを体験してもらった。先輩たちを引き連れててきぱきとよく任務を果たせた。(中村隆) 		
参加者	中村隆(CL)、 A班: 矢野(L)、柴田(SL)、斉藤、中野、原田君、飯沼、原、松本、箕輪完、 B班: 桐生(L)、瀬田(SL)、日下、榊原、中村美、安田、大島、原田和、箕輪カ、小川、藤倉 男7名、女14名 計21名		



大高山山頂にて、B班



< 5 2 9 >

セドの沢右俣

堀口昭二

セドの沢右俣

今年は暖冬と言う事で続いてきましたが、このところの天気は冬に戻ったような気温が続き、今日のセドの沢が心配しましたが幸いに、快晴にはならなかったけれども気温も下がらず風も無く4月の沢としては快適な沢日和になりました。

35mの2段大滝を目指して遡行開始したが、今年の沢初めを考慮せずに、自分の体力を考えず設定したことを途中で思い知らされる羽目になる。

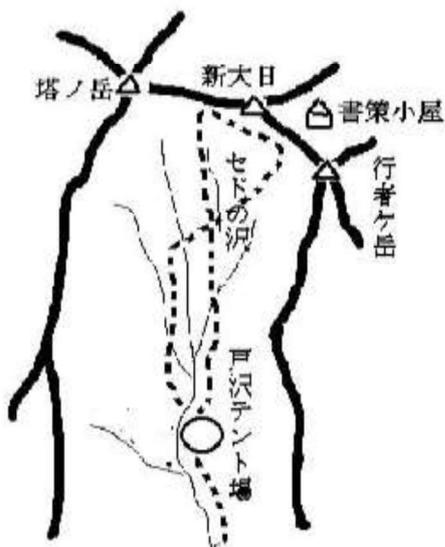
右俣のF1からザイルを出すことになり、前半の各滝にて体力の消耗してしまい、色々なアクシデントの遭遇にあいながら、F4通過時点でタイムオーバーになるとの判断でエスケープすることに決まる。

右俣は早朝達にて、体力が沢に順応してからもう一度挑戦してみたい沢です。

今回、参加して下さったメンバーには、完登できずに申し訳ありませんでした。

ぜひ、次回には満足の行く遡行が出来ますように頑張らしましょう。

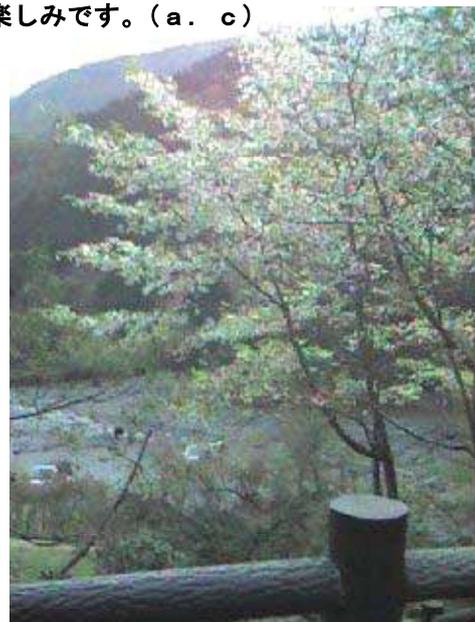
概念図



概要

山名	セドの沢・右俣		
月日	平成19年4月15日(日)		
形式	日帰り	グレード	3C
山城	丹沢・水無川	地形図	大山
地形図	1/2.5万		
目的	次の沢へのステップアップ		
費用	2,000円 (反省会費用を除く)	交通機関	電車
日程コース	我孫子駅(千代田線)5:33→代々木上原駅→渋沢駅8:08→大倉8:35⇒水場9:17⇒戸沢9:55/10:20⇒水無川本谷入渓10:42⇒セドの沢11:12⇒セドの沢右俣11:35⇒F3下13:30⇒F3上14:25/35⇒政次郎尾根登山道15:30/15:55⇒戸沢16:32⇒大倉17:45→渋沢駅18:10/19:30→我孫子駅21:55 <歩行時間:9時間10分>		
ルート状況	滝の表示が本谷・左俣との関係で判断に戸惑う 概略説明より、手ごわい滝でした		
参加者	堀口(L)、青山、千葉、佐藤明、由布 男1名 女4名 計5名		

戸沢では桜が満開だった。
毎年、沢開きと一緒にこの桜も楽しみです。(a. c)



< 5 3 0 >

坪山
(1102m)

安田みづほ

ヒカゲツツジの花に会いに行く

昨年、中村（八）リーダーが計画されたが雨のため中止となった坪山を清家リーダーが再度計画され今度の山行となった。ここ数年、ヒカゲツツジの咲く山として人気が出てきて雑誌にも紹介された。上野原駅から臨時バスが何台も出るほどである。

私たちも臨時バスに乗った。里山の淡いパステル調の山肌、民家に咲く花々に心が和む。50分ほどでバスは八ツ田向橋バス停に着いた。（バス停は飯尾の御岳神社前に普通は停まるのだがツツジの季節にはこの一つ手前の八ツ田向橋に臨時停車してくれる。）このバス停で降りるとトイレがある。大勢の登山者のため、登山道を整備し、トイレを設けてくれたのである。（トイレの脇に二輪草が咲いていた。）この日も大勢のハイカーでトイレには行列ができた。

すぐに御岳神社側からの登山道と合流するが、神社側からの登山者は殆どいない。登山道は狭い。しかも両側が切れていておまけに急登で、その上、ぞろぞろと登山者が数珠つなぎ。ヒカゲツツジは咲いているかな？と思っていると岩ウチワの群落が姿を現してくれた。今年は岩ウチワの当たり年かな？岩ウチワにはなかなかお目にかかれなかったのに今年は2回も見る事が出来て嬉しい。イワウチワの花にはじめて出会ったのは数年まえの5月の朝日連峰縦走の雪解けの尾根道だった。あんな所にたくさん咲いていて感動した。村松さんがイワウチワの花だと教えてくれた事を思い出した。（あの頃はもっと意欲的だったな！）白っぽいのがピンクの花でほんとうに可愛い花である。

今日は写真山行、後ろの人を気にしながら

も、ここにも咲いているよ、あっちにも、と声を聞く度にシャッターを切る。写真はデジカメでもセンスや技術が必要。なかなか思うように写真が撮れない。



ヒカゲツツジ（日陰躑躅）はしゃくなげ科で、葉がツツジとは違い石楠花の葉である。色はクリームイエロー、うすい黄色で花は小さい。木は1m位の高さでちょうど目線の高さに花が咲いている。ロープが所々張られていた。枯れているものや、これからという蕾のものやら、咲き終わったものとかあり、天候の不順が影響しているようだ。頂上近くになりけっこう咲いていて私達を喜ばせてくれた。（柏の布施弁天様の横道にもヒカゲツツジが咲いていました。桜が散りかけた4月中旬頃でした。）今までつつじの季節の山行は多かったけどヒカゲツツジは見た事がなかった。他の山にはないようである。

お花に慰められ急登をがんばり坪山の頂上に着いたが、大勢の登山者のため、記念撮影をお願いして山座同定もせず頂上を後にした。少し下りた登山道（尾根道）でお昼。ヒカゲツツジやイワウチワなどのお花をいっぱい見たせいか満足しておにぎりも美味しい。

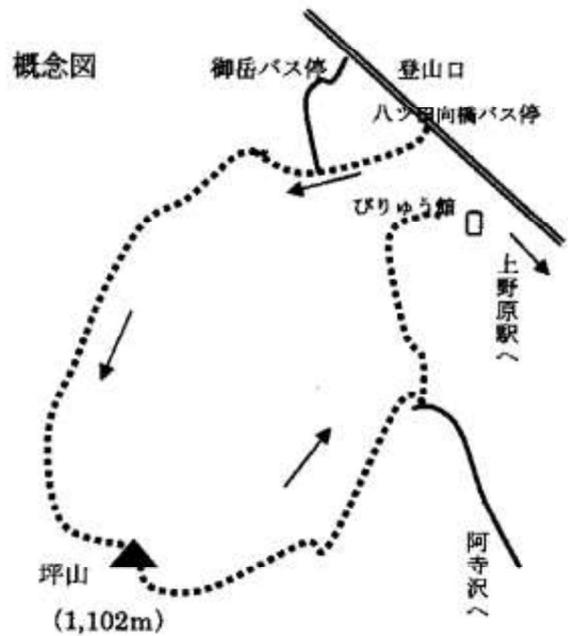
帰り道はツツジやイワウチワのお花は全くない。山桜とミツバツツジが少し咲いていただろうか。あれだけの人たちは登ってきた道を引き返すのか？こちらの下山道に来る人は数えるくらいだ。静かな山道をゆっくりとびりゅう館への道しるべに導かれ下りた。帰りのバスも臨時バスが出たのでありがたかった。

坪山で会ったお花たち…ヒカゲツツジ・イワウチワ・スマレ・二輪草・ミツバツツジ・山桜・シュンラン・カタクリ・イカリソウ…

この時期が過ぎると今度はイワカガミが咲く
 坪山、登山者で荒れないようにと願いたい。
 お花に会える山行・写真山行が増えた今年度
 の企画は嬉しい。ゆっくり歩けるし、余裕の
 ある山行となるだろうから。お天気も良く、
 ヒカゲツツジに会えて楽しかった一日だった。

概 要

山名	坪山		
月日	平成19年4月22日(日)		
形式	日帰り	グレード	1 A
山域	中央線沿線	地形図	猪丸 1/2.5万
目的	花と写真タイム		
費用	4140円	交通機関	JR、バス
日程コース	我孫子 5:33→新松戸 5:47/5:55→西国分寺 6:45/6:55→高尾 7:21/7:26→上野原駅 7:55/8:15→(バス)→八ツ田 8:57/9:20 ポイントで写真タイムを取りながら歩く⇒坪山 11:00/11:05⇒昼食(広めの尾根にて) 11:20/11:45⇒ピリユウ館への分岐 12:40⇒ピリユウ館 13:10/14:00(反省会)→(バス)→上野原駅 14:40/14:55→我孫子 16:58		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 御岳バス停は道路が狭く、乗客の多い時は少し手前で降りる(トイレ、登山口あり)。 春、秋シーズンは山頂までほぼ渋滞である。 道は明瞭で分かりやすい。 小さい山ながら、痩せ尾根、急登である。 		
参加者	清家(L)、榊原(SL)、日下、原田君、安田、品田、原、原田和、箕輪カ、佐藤健、佐藤明、本間 男3名 女9名 計12名		



坪山山頂 後は三頭山



< 5 3 1 > 教育研修

岩 山
(328m)

坂巻 明

3点確保の技術研修

ゴールデンウィークの最中、新緑を求めての山行。私にとって今回は新人山行に始めて2回目の参加行事となりました。前回の交通手段はバスでしたが、今回は電車を利用した山行です。

昨日降った雨も今日は止み、快晴で雲ひとつない絶好の山行日和となりました。北千住駅から東武線に乗り、一路、新鹿沼へ・・・

そうしたらどうでしょう、同じ格好をした人たちが沢山いるのに驚かされました。聞くところによると、中央線はこんなもんじゃない、だらけだ！そうです。電車は座ることができたが春日部に着くころには、もう座席は満杯でした。車中、原田さんから山行の心得を聞くことができました。特に衣服・靴等の備えについての大切さを教わりました。

しばらくして、景色が変わり、車窓から日光連山をくっきり見ることができました。メンバーは12人の予定でしたが、2名欠席で10名の山行となりました。

新鹿沼駅で降り、出発点の神社まではウォーミングアップしながら徒歩30分の行程です。神社の境内は静かで早朝のせいか空気がひんやりしていました。早速のトレーニング開始となり、皆で輪になってストレッチ体操で体をほぐしていきます。

皆さん慣れた様子で各自それぞれのペースでやっています。女性の方々は日頃から鍛えているのか、総じて体がやわらかいです。その点、私の体は運動不足でぎしぎし言っています。続いて、装備のトレーニングが始まります。柴さんが用意してくれたハーネスを装着しました。このような事は初めてであり、言われるままにやっています。2～3の人は納まりが悪く、あとで直されていました。

いよいよ出発です。スタートしてまず目に入りましたのは、地元の小学生か中学生が書

いた注意看板です。山を汚さないための切実な願いが伝わってきます。“皆さん、ゴミは持ち帰りましょう”

歩く間もなく岩場に到着、なにをするのか？リーダーたちがロープを出してなにかやっています。しばらくして、ここがトレーニングの場所だとわかり始めました。

そこで、柴さんがトレーニングの内容について説明をしてくださり、三点確保の意味をはじめて理解できました。ハーネス、カラビナ、シュリング等の装備の仕方やロープの結び方の説明を聞きました。そのあとリーダーが実演してくれました。その後、一人ずつやってもらいますとのこと！

こんな急なところを登り降りするなんて、はたして自分にできるのかと不安ですごく緊張しました。トレーナーの指導を受け、見よう見まねでなんとかできました。一度経験してしまえばもう余裕です。皆、一通り終わったところで再チャレンジさせてもらいました。

つぎは、反対の岩場を登りますとのこと！反対側はさっきの倍もあるのに大丈夫だろうか？そんなことならスタミナを温存しておけばよかった。

こんどは、岩場に頂上があり、セルフビレーの動作を含めたトレーニングです。メンバーは次々と登っては降りてきます。やがて、私の順番です。ここでこそ頑張らなきゃ！頂上にたどり着いたら、他のパーティが別の角度から着ていて頂上は満杯です。原田さんから景色を十分楽しんでから降りてきてくださいといわれ、“はい”と返事はしてみたけれどそれどころではありません。遠くに筑波山が見えるそうですが、体力の消耗で休まざるを得ません。

今日の課題は終わったと思いきや、午後もトレーニングありと聞き、またまたビックリ！そこで一句

「ニラ蕎麦が 跳ねて遠くに なりにけり」 おそまつ

プログラムが進み、昼食の時間となり、指定の場所へ行き各自思い思いの食事をとりました。そこはトレーニングした岩場が見下ろせてベンチがあり、約258度のパノラマです。遠くに雪の帽子をかぶった白根山を観ることができました。又、ちらっと目を落とすと岩場の端に薄紫のつつじが咲いていました。

昼食のあと、私たちは全員で山行の写真をとりました。さて、体力回復ままならず午後のトレーニング開始です。初めてづくしの私にとって、大変難しい課題がまっていました。それは、午前中登った岩場の反対側に降りる事です。ふつう一度登ったところを降りるのは下りられそうですが、登ってないところを下りるのは至難の業に思えたのです。

さて、登ってはみたけれど、登ってないところを下りるこの恐怖感は何なんでしょう。下を覗いたら、90度の壁を下りるようで足はすくみ、体は硬直しどうなることか？どうなってもいい！ 勇気をもってトライ！ 途中、掛け場（ホールド）が見つからず躊躇していると、佐々木さんから右手を下方にホールドして下りろとの指示がでた。しかし、腰より下でのホールドがあることなど思いもよりません。言われたとおりにやってみましたらできたんですよ！感動ものです。佐々木さんの絶妙なロープ裁きに安心し、やり遂げることができました。感謝です。

今日は天気がよく、プログラムは順調に進み、中級段階までやってしまいました。柴さんから、卒業までいかずとも、終了証書を言葉でいただきました。

トレーニングメニューを一通りこなし、ヒヤリハット・怪我もなく無事下山となりました。帰りには、出発点の神社に深々と頭をさげてお礼を言ってきました。

私たち研修生のための準備に大変苦労されたスタッフの皆様、お疲れさまでした。何事もすべて勉強でした。今日覚えたことを忘れる前に訓練の成果を出したいです。

帰り道、いきつけの蕎麦やで反省会を開き、電車で揺られてかえりました。皆さん、ご苦労様でした。



概要

山名	岩山		
月日	平成19年4月29日(日)		
形式	日帰り	グレード	2B
山城	鹿沼 (前日光)	地形図 1/2.5万	鹿沼
目的	3点確保の技術を習得する。 (新人・一般会員対象)		
費用	約2,920円 (除反省会)	交通機関	JR, 東武
日程コース	我孫子駅 6:01 出発→北千住 (東武線) 6:31→新鹿沼 7:56 着⇒日吉神社 9:00 (装備装着)⇒岩山 9:30 (研修開始) ～11:50 (午後の研修) 13:00～14:50 岩山 15:00⇒みっちゃん蕎麦 15:45 (反省会 1時間) ⇒新鹿沼 17:11→春日部 18:49→柏 19:36→我孫子駅 19:45		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 三番岩のA峰のすぐ脇の高さ5Mの岩場で3点確保の基本を練習。 全員慣れたところでA峰の傾斜の緩いほうから3点確保で登り、クライムダウンで降りる練習をした。 ひやり・はっと、事故なし。中身の濃い研修会でした。 		
参加者	柴(L),高橋英(SL)、中村美、高橋芳、原田和、松本、小川誠、早川、坂巻、佐々木 男7名、女3名 計10名		

概念図



< 5 3 2 >

岩櫃山 (803m)

原田君子

新緑と岩場を楽しむ

以前から気になっていた山・岩櫃山。岩場が嫌いでない私は岩櫃山に一度は行ってみたいと今回の山行に参加した。

5月3日は4連休の初日。バス山行は関越道の入口から車の渋滞にはまり、ノロノロ運転で10時を過ぎても目的の郷原駅には着かない。「今日は岩櫃城温泉に入っただけで帰るか」等と冗談を言いながらも時間が気になる。登山開始が遅くなる事を予測して、バスの中で軽い昼食を摂り郷原駅に11時到着。

予定より大幅に遅れて登山開始。集落から見上げる岩櫃山の岩峰はなかなかの迫力があり、これからあの頂上をアタックするのかと思うと胸がドキドキする。しばらくは、古谷の集落を岩櫃山の岩峰を右に見ながら進むと貯水槽（登山口）の前にくる。ここから鞍部までは、ざれた急登で大勢のグループでは休憩する場所もない。鞍部から頂上まではもうすぐだが、山頂への鎖場は直登で足場も不安定、手と足がバラバラに動き身体が岩にはりついてしまう。体勢をたてなおしてもう一度やり直し。最後は、はしごを登って頂上に着く。360度の展望は素晴らしいが狭いので早々に下りて東峰に向かう。二つの峰の間は岩場の狭い尾根、岩のせり出た所は慎重に横歩き。後ろの方で胸がひっかかると騒いでいる人がいる。うらやましーい。

東峰からの展望も素晴らしい。下から吹き上げる風が心地よく、切り立った岩場の下には集落が見渡せるが足がすくむ。東峰からは沢通りコースを下るが、ここは危険な所もなく芽吹いたばかりの新緑の中、気持ち良く歩ける。まるで若草色のレースのカーテンが風に揺れているようで、いつまでもこの中に居たい気持ちになる。下山途中鎌倉時代の歴史

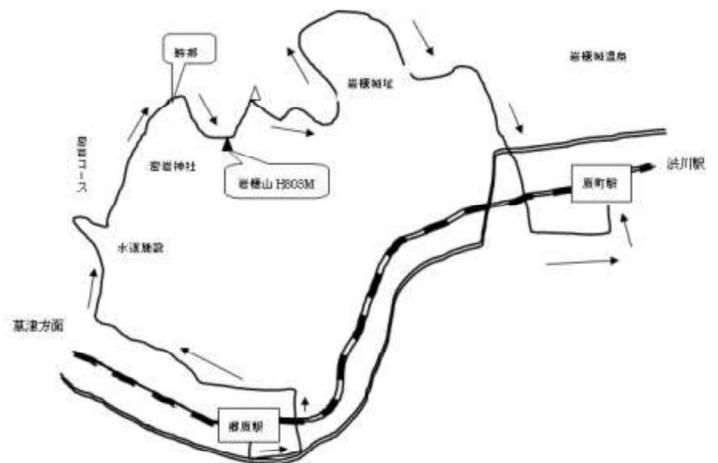
を伝える岩櫃城跡を見て、岩櫃城温泉センターに向かって下山する。

急登あり、岩場あり、鎖・はしごあり、新緑のハイキングコースあり、温泉あり、歩行時間は3時間余りと少ないが変化のある登山が出来て満足な一日でした。



新緑を見ながら急坂を登る

概念図





頂上直下の鎖場



岩櫃山の頂上で



概 要

山名	岩 櫃 山		
月日	2007年5月3日(木)		
形式	日帰り	グレード	2 B
山域	上信越沿線	地形図 1/2.5万	群馬原町
目的	新緑と岩場を楽しむ		
費用	4,750円	交通機関	貸切バス
日程 コース	<p>我孫子駅北口バス発 5:35→(貸切バス) →柏 IC 5:50→高坂 SA 8:30/8:40→渋川・伊香保 IC 10:05→休憩 10:35/10:40 →郷原駅着 11:00 (準備)</p> <p>登山開始 11:10→案内板 11:25→登山口 (水道施設) 11:35→休憩 11:53/11:58→ 鞍部 12:00→天狗のかけ橋う回地点 12:10→岩櫃山 H803m 12:35/12:45→東 峰(昼食) 12:55/13:25→天狗の蹴上げ岩 13:45→岩櫃城跡 14:05/14:10→一本松 登山口 14:38/14:43→岩櫃城温泉セン ター着 15:15 (入浴)</p> <p><行動時間4時間05分 内:歩 行時間3時間10分、休憩時間55分></p> <p>温泉センターバス発 16:20→(貸切バ ス)→渋川・伊香保 IC 17:05→高坂 SA 18:00/18:15→柏 IC 19:16→我孫子駅北 口着 19:43</p>		
ルート 状況	<p>1) 登山ルートは密岩コースなので登 山口から急登が始まり、平らな所 は無い。岩稜の岩肌は不安定な ので鎖が多く設置されている。</p> <p>2) 鞍部を過ぎて天狗のかけ橋のう回 地点から梯子を少し降りて大岩 を回り込むと岩稜の細尾根に出 る。鎖も有って慎重に登れば安全 である。</p> <p>3) 頂上直下はカニの横ばいや鎖の連 続で慎重を要す。頂上は狭いが展 望は最高。</p> <p>4) 下山道は鎖や梯子が設置さ れているが天狗の蹴上げ岩を過 ぎると普通の山道になる。特に危 険な箇所は無い。案内標識は設置 してある。</p>		
参加 者	<p>A班 原田和(L)、細野清(SL)、細野省、 柴田、榊原、高橋芳、田村、瀬田 B班 小川(L)、大串(SL)、斉藤、原田君、 大島、矢野、坂巻 男5名 女10名 計15名</p>		

< 5 3 3 >

鹿島槍ヶ岳
(2890m)

外崎 蓮

厳しくも美しい雪山への挑戦、
耐えに耐えてついに…

5/4 (晴れ)

里は春まっ盛り。雪の感触をとうに忘れかけていた5月の連休、村松さん恒例の春山合宿に参加した。行き先は、なんと鹿島槍ヶ岳。この名峰には強烈な思い出がある。山を初めて間もない頃、細野省二さんに連れられて柏原新道から登った。爺ヶ岳に立ったとき、それまで見たことのない雄大な景色に度肝を抜かれた。その時は強風のため、鹿島槍ヶ岳の手前の布引岳から引き返したが、家に帰ってからもしばらくの間、腑抜け状態であった。その後、別のパーティと今度は赤岩尾根から登って双耳峰を踏んだ。もちろん夏山である。

我孫子駅で5人と合流。いつになく荷物が重い。松本駅の大糸線乗り場で由布さんと落ち合う。信濃大町でアルコールを仕入れ、タクシー2台で扇沢出合へ。扇沢の橋を渡った先には、観光客で賑わうアルペンルートの発着所がある。その橋の向こう側に車を止めた北川さんと最後に合流して7名がそろった。由布さん、北川さんとは久しぶりの再開である。

標識のある爺ヶ岳登山口から、道幅の広い柏原新道を登り出した。40分ほど歩くと、道端に通行止めの立て看板があり、南尾根を登れという矢印が書かれていた。この新道は、雪崩の巣なそうである。その地点から右手の藪をよじ登って尾根に取り付き、大木の針葉樹林の中にコースを変える。トレースが付いていたので迷う心配はなかったが、凍った木の根が縦横無尽に張り出し、足元から目が離せない。南尾根は急登の連続で、尾根を外さないようひたすら登るだけだ。樹林を抜け出したあたりから積雪が一段と増してくる。とは言え、春の雪は水を含んでいて腿まで踏み抜くことがしばしばだ。4時間ほどかかってようやく2300m地点の平坦地に出る。すでに

数張りのテントが張られていた。

テントを張っているとき、ハプニングが起こった。組み立てたばかりのポール的一本が見当たらない。辺りを探すと、雪の斜面にポールの作ったトンネルがスーと伸びている。ポールは生き物のように雪の中を滑り降りていったのだ。ポールを扱っていた吉川さんが慌てて斜面を駆け下りていく。トンネルの足跡が消えた先端部分を掘り起こして無事に回収。皆で胸を撫で下ろした。

それにしても、雪がなければこんな所にテントなど張れないであろう。現に解けかけた雪の穴から私たちのテントの下を覗くと、針葉樹の枝が今にも張り出しそうにしていた。テント場からは、北方に一段と迫力を増した鹿島槍ヶ岳と爺ヶ岳、その左に岩小屋沢岳、赤沢岳、そして南面には針ノ木岳と蓮華岳が眼前に迫ってくる。皆はビールのコップを片手に、暮れなずむ山々に向かって立ち尽くした。夜、大町の明かりが美しく瞬いていた。



鹿島槍南峰のゴレンジャー。
ゴレンジャーにしては人数が多いなあ？

5/5 (晴れ)

雪山装備も勇ましく、色とりどりの七レンジャーが真っ白な雪面に小気味よくアイゼンの歯を食い込ませて、イザ出発…などという奮い立つような意気込みは、ほんの歩き出しだけ。長い急登とアップダウンの繰り返しに、あの意気込みはどこへやら。テント場からは爺ヶ岳の南峰がすぐそこに見えていたのに何と遠いこと。ようやく南峰に立つと、柏原新道の突き当りに建つ種池山荘が、小さな赤い屋根を残してすっぽり雪に埋もれていた。ここからの眺めはさらに迫力満点で、黒部川の向こうの立山三山、剣岳本峰、八つ峰が威容

を誇っている。そして進む先には美しい双耳峰がいよいよ迫ってくる。気合を入れて爺ヶ岳の中央峰を越え、北峰は左に巻いてゆるやかに下っていく。下った所が冷乗越で、分岐の右手は鹿島槍ヶ岳への最短コース、赤岩尾根登山道である。冷乗越からは、黒部側の樹林の中につけられたトレースを辿って冷池山荘に出た。夏道を歩けば容易に山荘に着けるが、一部信州側に切れ落ちている箇所があるので、安全のため迂回させているのであろうか。

二度も泊まったことのある、トイレの臭気の激しかった小さな小屋は、木の香りも真新しい“山荘”に変身していた。4月に起きた水晶小屋のヘリコプター事故の影響で、現在は素泊まりのみとのこと。山荘前はテントを張る人、撤収する人らで賑わっていた。私達は日当たりのいいベンチで昼食にする。



発達した雪庇

山荘の脇から再び登山開始。夏なら右手信州側に広大なお花畑が広がり、つい道草をしたくなる場所だが、今は恐ろしいほどに雪庇が張り出している。少しずつ風が出てきたが、何とか耐えられそう。岩のガラガラした斜面で私のアイゼンが両方ともゆるんだ。由布さんと吉川さんにプレートを伸ばしてもらって履きなおしたが、こんなことは初めてであった。布引岳の小さなピークを右に見送り、鹿島槍ヶ岳の南峰を目指して真っ直ぐに一歩一歩足を前に出す。この歩みはいつ終わるのだろうか。終るときが来るのだろうか。横殴りの風の中でそんなことを考える。雪は一段と深まって来る。さらに全身の力を振り絞って、急な斜面にピッケルを深く突き刺す。それを頼りに身体を持ち上げる。平坦地に出た。目を凝らすと、かなり先にぼんやりと標柱が見

える。山頂の雪は強風で飛ばされ、掃き清められたようだ。もの凄いい雪煙で目も開けていられない。誰かにつかまってやっと標柱にたどり着き、皆で固い握手を交し合った。残念なことに私は、五竜岳も白馬連峰もすぐ隣の北峰さえもはっきりとは見ていない。身体を風に揺さぶられて、谷底へ吹き飛ばされないように必死に耐えていただけであった。南峰にいたのはわずか7分間。

北峰へ行くには、一旦下って吊尾根を越えなければならないので行かないことにした。早々に下山開始。思わずヤッターと叫びたくなってくる。途中、道端のハイマツの上をちょこちょこ歩く雷鳥の親子に出会った。すでに羽が生え変わっているのもいた。

冷池山荘でトイレを借りる。広い山荘内はシンと静まり返っていた。冷乗越の分岐で、地図を広げている男性に出会う。見れば小さなザックだ。こんな時間に、これからどうしようというのだろう。冷池山荘が辛うじて開いていることを伝える。単身で、しかも小さなザックで、よくもこんな山に来れるものだと思った。

爺ヶ岳北峰の下に来ると、歩き足りない三人が登って行く。今朝、左側を巻いてきたので気になるのだろうか。こうなったら中央峰との鞍部へどちらが先に辿りつくか競争だ。当然、下を巻く組が楽に着けると思いきや、足がズボズボと解けかかった雪の中にもぐって、この上なく歩きづらい。それでも先に着いて北峰を見上げると、上の方でも雪の中のハイマツに足をとられて、懸命に格闘しているのが見える。おかげで、三人が下りてくるまでゆっくりと休むことができた。

爺ヶ岳の稜線まで戻って来ると、左下方に私たちの青いテントが見えてきた。見えているのに遠い。小さなアップダウンを繰り返して夕方5時過ぎ、ようやくテント場に帰ってきた。今朝6時過ぎにテントを出てから、なんと11時間も行動していたことになる。よくも歩いたものだ。テント場には、昨夜数張りあったテントが全部なくなり、私たちのテントが2つきりとなった。夕闇が迫ってきてテントの中に入る。村松さんは、めずらしくアルコールも口にせず、ごろりと横になった。私たちを連れて歩くことで疲労困憊したのであろう。夕食はカレー。このころになって起き出したので皆ホットする。テント内はどこか気が抜けたような雰囲気である。

5/6 (雨)

今朝は空が暗い。朝食の支度をしているころ小雪が舞っていたが、いつしか小雨に変わった。気になるほどの雨ではない。手早くテントを撤収して下山にかかる。雪は二日前よりもっと解けてきた感じだ。思わぬところで穴ぼこに深く足をとられ、抜くのに一苦労。かと思えば、昨日、一旦解けた雪水が再度凍って、落ち葉の下で私たちを待ち構えている。張り巡らされた木の根も油断大敵。ズボンのおしりを泥だらけにして、約1000m、南尾根を下った。赤いリボンが賑やかな地点からヤブを抜け、柏原新道に合流。扇沢出合に下りて来ると、途中予約しておいたタクシーが待っていた。北川さんの車と二台に分乗して、大町の薬師の湯へ連れて行ってもらう。温泉につかただけで、北川さんは一足先に帰って行った。食堂で改めて乾杯する。12時のバスで、今度は由布さんが信濃大町経由で帰って行った。残った私たちも薬師の湯を出、少し先のバス停留所から長野駅に向かう。費用が少しかさむが、長野新幹線で上野に出た方が早いのである。乗り場は混雑していたが、全員無事に自由席に座ることができた。今後、白馬岳や鹿島槍ヶ岳、剣岳などに行く場合、時間を短縮したかったら新幹線で長野に出、そこから定期バスを利用して大町や、白馬、扇沢に行くことをお勧めする。

こうして一昨日も昨日も晴天に恵まれ、5月の美しい後立山連峰を思う存分堪能することができたのである

概念図



概要

山名	爺ヶ岳・鹿島槍ヶ岳		
月日	平成19年5月4日(金)～6日(日)		
形式	テント	グレート	4D
山城	北アルプス (後立山連峰)	地形図 1/2.5万	大町、十字峡
目的	1、美しくも厳しい雪山への挑戦 2、北アルプスの大展望 3、雪と氷の技術の習得 4、雪上でのテント生活を楽しむ		
費用	約20000円	交通機関	JR、タクシー、バス
日程・コース	1日目	我孫子駅発 5:30→新宿 7:00 (あずさ1号)→松本 9:39/9:41 臨時快速(大糸線)→信濃大町 10:17 (タクシー)→扇沢出合 11:00/11:20⇒八ツ見ベンチ 12:00⇒柏原新道から南尾根⇒JP、2300m地点 BC 設営 15:45(テント泊)	
	2日目	BC テント場 6:05⇒爺ヶ岳南峰 7:30/7:40⇒冷池山荘 9:00/9:20⇒鹿島槍ヶ岳 11:30/11:37⇒冷池山荘 13:20/13:40⇒爺ヶ岳南峰 15:50⇒BC テント場 17:05	
	3日目	(曇後雨) BC 撤収(テント場)6:15⇒南尾根⇒扇沢出合 9:15/9:25⇒薬師の湯→大町経由長野駅 15:10→上野駅 16:43→我孫子駅着 17:40	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> この季節柏原新道は積雪のため通行不可。爺ヶ岳及び鹿島槍ヶ岳へ行くルートに一般道はない。我々は爺ヶ岳南尾根を選んだ。 扇沢出合から40分ほど柏原新道を歩くと通行止めの看板と南尾根方向を示すプレートがあり。その右側のヤブの急登をよじ登って尾根上に出る。 標高2300m(JP)地点の尾根上に平らな場所があるのでテント場(BC)にした。この場所以外は適当なテント場はない。 稜線上は風が強いので、吹き飛ばされないように耐風姿勢、バランスの崩れなどに対応できるようにしておく事 		
参加者	村松(L)、清家、外崎、北川、青山、吉川、由布 男3名 女4名 計7名		

< 5 3 4 >

本社ヶ丸
(1631m)

細野清子

萌黄色に魅せられて

『沢を越えたあたりまで歩いたような気がする』『人家のないところに郵便ポストがあったはずだ』『変電所までこんなに歩いたかなあ』『タクシーできたんじゃない?』『タクシーで来たのは別の山だよ』『私も雪のないときに来ているけどそのときにタクシーで入ったのかなあ』など、ワイワイガヤガヤ変電所までの一般道路が長いこともあって、一度来たことがある人は覚えている記憶を呼び戻そうと忙しい。両側にはワラビがたくさん生えていた。やっと登山口に到着…ヤレヤレ

いきなり急登。けれども散々一般道路を歩いてきただけに誰も文句なし。左右、前後。上を見てもどこもかしこも萌黄色。〔これが萌黄色というのだと下山後知った〕登山道の両脇には、マイズルソウ、チゴユリ、ユキザサ高度が上がるにつれ、ヒメスミレサイシン〔白いスミレ〕、シロバナエンレイソウ、フデリンドウの花々。

笹子駅から歩くこと3時間やっと清八峠に到着。清八峠は笹子鷹が原摺山に通じる。〔旧500円札の裏に印刷された富士山はここから見たもの〕さらに15分ほどで、清八山に着く。沢筋に残雪が光る富士山が目の前に現れた。奥秩父や富士周辺の山々が一望できた。富士を見ながら思い思いの場所で昼食をとる。

原さんが担ぎ上げた、パイナップルが甘くて美味しく疲れをとばしてくれた。

清八峠に戻り今日のメインの山、本社ヶ丸に向う。この山は大月市秀麗富嶽十二景のひとつで、富士山を西南方向に見ることが出来る最高の山だけあって、見事な姿を見せてくれた。頂上からは鶴ガ鳥屋山に抜ける尾根道へ。頂上を過ぎて間もなくの岩場にはあっちにもこっちにも可憐なコイワカガミがビッシリ。咲いているのやら、もうすぐ咲きそうのやら、思いがけないプレゼントに歓声があがっ

た。数は少ないがこの尾根道にはミツバツツジや山桜、オオカメノ木の花が咲いていた。下からは心地よい薫風が吹き上げてくる。ふっと後ろを振り返ると萌黄色の木々が木漏れ日に輝き、なんともいえない幻想的な世界に引き込まれそうになる。どこを切り取っても《絵》になる風景の連続である。カラマツの芽吹きもきれいで、砂糖をまぶせば食べられそうにおいしそうに見えた。

尾根道の分岐まで、シロバナエンレイソウ、マイズルソウ、そして今までに見たことがないほどのたくさんのエイザンスミレも咲いている。分岐からの下り道は滑りやすい。皆緊張し寡黙になる。頂上付近で行き会った神奈川からの山の会の人は、ここから登ってきたのか・・・さぞかしきつかったことだろう。下りも『いい加減にしてよ』というくらい降りたころやっと沢の音が聞こえてきた。林道を一時間歩くと笹子駅に到着。



雑木林の中の尾根道

今、私たちにできること

下山後やまなみをひっくり返してみた。三度目の本社ヶ丸だった。一度目は一月下旬。大雪でやむなく敗退。〔次の週勇敢な山男たちと清家女史が大雪に負けてなるものかとお出かけて登頂したはずだがその記録はない〕二度目は六月で、鶴ガ鳥屋山に抜けた。いずれもリーダーは細野省二さん。しかし、今は悲しいことにまったく記憶はないらしい。

今回5月。時期が少しずれるだけでこんなにたくさんの高山植物に会えるとは。厳しい風雪に耐え一年の4分の一くらいしかない短い期間にだけ生長して、その間に花を開き実を結ばなければならぬ高山植物。本来人間が山に入ら

なければあらされること無く楚々といつまでも咲き続けるであろうに。子や孫にこのすばらしい自然を残すために、今私たちができることは何か。触らない・踏まない・折らないことではないだろうか。

京都の友人が京都西山にあるポンポン山を案内してくれた。何度でも登りたい一山と自慢していた。岳人あびこにもそんな誇れる山がもてたらいいな。だとしたら本社ガ丸は入らないだろうか。

四回目は秋の紅葉の時期に行って見たい。

初参加の早川さんと大島さんから感想をいただきました。

《研修後初参加の早川さん》

富士山を見たときに、感激で涙がこぼれそうになった。お花がきれい緑の風がおいしく何年か寿命が伸びた気がする。

《大島さん》

新緑とたくさんのお花で、春の山を満喫しました。また、今年初めて富士山が見られて、母の日の良いプレゼントになりました。



本社ヶ丸山頂にて

概 要

山名	本社ヶ丸		
月日	2007年5月13日(日)		
形式	日帰り	グレード	3B
山域	中央線沿線	地形図	河口湖東部、 1/2.5万 笹子
目的	富士山や南アルプスの展望と新緑を楽しむ		
費用	2,800円	交通機関	JR
日程コース	<p>我孫子 5:33→新松戸 5:47/5:51→西国分寺 6:45/6:55→高尾 7:21/7:26→笹子駅 8:30 (準備)登山開始 8:40⇒追分 9:00⇒山梨東変電所 10:00⇒休憩(砂防ダム)10:05/10:10⇒登山届提出 10:30⇒休憩 10:53/11:03⇒休憩(ベンチ有り)11:20/11:30⇒清八峠 12:07⇒清八山 H1593m 12:20/12:55(昼食)⇒本社ヶ丸 H1631m 13:40/13:55⇒休憩 14:30/14:35⇒鉄塔 14:45⇒角研山 15:10⇒分岐 15:35/15:40⇒林道 16:00⇒水道施設 16:55/17:00⇒笹子駅 17:25/17:33→立川駅 19:04/19:16→西国分寺 19:21/19:25→新松戸 20:21/20:33→我孫子 20:45</p> <p><行動時間 8時間 45分 内：歩行時間 7時間 15分、休憩時間 1時間 30分></p>		
ルート状況	<p>1) 笹子駅から山梨東変電所までの一般道路が長い。登山届提出箇所から急登が始まる。案内標識は随所に設置してある。</p> <p>2) 清八峠からは岩場とガレ場の連続である。滑り易く転石の注意が必要。本社ヶ丸から鶴ヶ鳥屋山への主稜線はアップダウンが激しく、細尾根もあるので要注意。</p> <p>3) 尾根から分岐して下る道は急降下の連続である。土質も滑り易く、足の置く場所を考えながら降りる。今回は天候に恵まれたので無事に降りることが出来たが、雨の場合はこのコースは避けるべきと思う。</p> <p>4) 頂上までの高低差 1,000mと主稜線のアップダウン、岩場の状況、歩行時間等を考慮してグレードを 3B に変更する。</p>		
参加者	<p>A班 原田和(L)、安田(SL)、柴田、大串恵、中野、箕輪カ、中村隆、本間、早川、品田</p> <p>B班 大串秀(L)、中村八(SL)、細野清、細野省、原、榊原、原田君、大島、矢野</p> <p>男 4名 女 15名 計 19名</p>		

< 5 3 5 >

モミソ沢・セドの沢左俣

千葉有子
武内勇二

モミソ沢

千葉有子

まずは岩トレ

今年の沢登り講習には新人として小川誠二郎さん、桐生恭子さんのお二人が参加された。といっても全くの新人ではない。桐生さんはすでに葛葉を経験済み。小川さんも岩山でロープワークや懸垂下降を学んでいる。ベテラン揃いのセドの沢班と分かれ、モミソ班は新茅の沢手前から林道を左に下り、懸垂岩に取り付き岩トレの開始。由布さんと私もモミソ組に参加させてもらおう。二人の思惑は確保のロープワークを習得することだ。

すでに懸垂岩はザイルが垂れ、2パーティーほどが格闘中。そこで練習場所を岩の左側面にとることにする。堀口さんがセットしてくれたザイルを使い一人一人ブルージックで登る。左側面を登るのは初めて。難しいのは最初の取り付きと、途中から右のリッジに移るところだ。シュリングを自分の動きに合わせて持ち上げていくのが相変わらず大変だ。とにかく登るだけで懸命なのだから。小川さんは岩山講習の甲斐あって懸垂下降がすばやくてうまい。最後に登った私は、補助ザイルとカラビナを使ってのザイルの回収方法を教えてもらった。最後まで待つて正解、ちょっと得した気分だ。



モミソ班ロープワーク練習中

5度目?のモミソ

岩トレ後、昼食をとってモミソ沢に入った。すでに13時をまわっている。合流時間に間に合うようにと急ぐ。モミソは5度目だろうか？この先を左に曲がると小さなゴルジュが現れる、ここを少し行くと左から涸れ沢が合流する、もう少し行くと明るくなってやがて大棚だ……。5度目ともなるとなんとなくコースの様子が分かる。相変わらず水の少ない、小さな滝が続く。新人のお二人はたよりないスタンスに奮戦している。登りにくい滝の場合、普通「いやらしい」とか「難しい」とか言うのだが、小川さんはさすが俳人だけあって表現がおつだ。「うーん、なやましい、なやましい」。そうか、なやましい滝か、と無粋な私は妙に納得する。

モミソのハイライト、大棚下に到着した時点で14時半になっていた。トップを由布さんが登る。最後のかぶさった落ち口を乗り越えるときには、下から見ているだけでも自分が登っているような緊張感を覚える。続いて登る。逆層の微妙な斜度の岩を慎重に、慎重に……。最後の難関で足場がない。ホールドもない。なぜだろう、ここは回数を重ねるたびに難しくなる。下から堀口さんが「年取ったなあ」と容赦ない言葉を浴びせる。「ふん、でもそのとおりかもしれない。なんとか由布さんに助けてもらい登り終えた。セルフビレイして大棚の上から高みの見物を決めこむ。小川さんも桐生さんも落ち口で苦戦。由布さんが二人を引っ張り上げるのを手伝った。しかし、堀口さんは涼しい顔であがってきて、確保がちゃんとできているかわざと滑落した振りをする。まったく憎らしいくらいの余裕である。

全員登り終えたのは15時半。すでに約束の時間を過ぎている。靴も沢シューズのまま、解除もせずに戸沢へと急ぐ。心配した佐藤さんが途中まで登って迎えにきてくれた。

セドの沢 左俣

武内勇二

モミソ班と別れ水無川に沿って林道を更に進むと間もなく戸沢に出た。先ほど別れたモミソ班とは午後ここで落ち合う予定となっている。ここは何度かキャンプしたことのある馴染みの場所だ。流木を拾い集め豪勢なファ

イアーを楽しんだことを思い出す。

駐在所前の休憩所で暫し憩った後、更に登山道を進み沢に入って愈々遡行開始。ところが堰堤に先を阻まれ、左側斜面の鎖を頼りに高巻きせざるを得ない羽目となった。訝しく思って地図を確認のところ、どうも源次郎沢に入ってしまったようだ。沢を一旦離れ右側の斜面を登ると登山道に出た。この道は書策新道で本谷・セドの沢はその右（東）側の沢だ。書策新道を少し下って、「書策小屋」と「源次郎沢入口本谷 F5 近道」の2本の道標を認めた後、無事に本谷に降り立った。大よそ30分のロスタイムだ。

本谷 F1(10m)の向かって左側斜面を難なく越え、セドの沢入り口に出る。セドの沢 F1 を越え、F2 も向かって右側を登ると直ぐに右俣・左俣の分岐に出た。本日は左俣に行く計画である。

水しぶきを浴びながら、滝に立てかけてある丸太の端に足を乗せエイヤ！と体重を持ち上げる滝にはコンパスが短いため悪戦苦闘した。しかし、女性はリーダーの垂らしたテープに掴まり難く通過。リーダーは女性には甘い。

下から見上げると何段にも見える滝が連続しているところは美しくまさにセドの沢左俣の核心部。そしてその上にこの沢最大の滝の F5(大滝)13mが懸かっている。向かって右側斜面のルートは、滝の中ほどまでは問題ないが中段から上段にかけてのホールドがどうか？ 思案していると、トップに行く青山さんがノーザイルで挑戦、無事登りきった。見上げるパーティ仲間より拍手。残る4人はさてどうするか。リーダーの健ちゃんが腰にロープを結び、残置ハーケンを利用して2箇所カラビナを掛けて登った。確保にあたりいざと言う時に健ちゃんの巨体を何としても止めてみせるとの気構えで臨んだが、トラブルなく上に上りきったときは正直言ってほっとした。そして、残る3人はリーダーの確保するロープの助けを借りて難く登りきった。

F7を過ぎ水量の少なくなった沢を遡っているとき、突然先頭に行く青山さんの悲鳴を聞いた。はっとして顔をあげると左方向によろけているのが目に入った。腐乱した鹿を踏んづけたとのこと。帰途、戸沢の駐在所のお巡りさんの話では、最近丹沢は鹿が増えすぎて縄張り争いが激しくなり、人も落ちないような崖から鹿が落ちて死ぬことがよくあるらし

い。

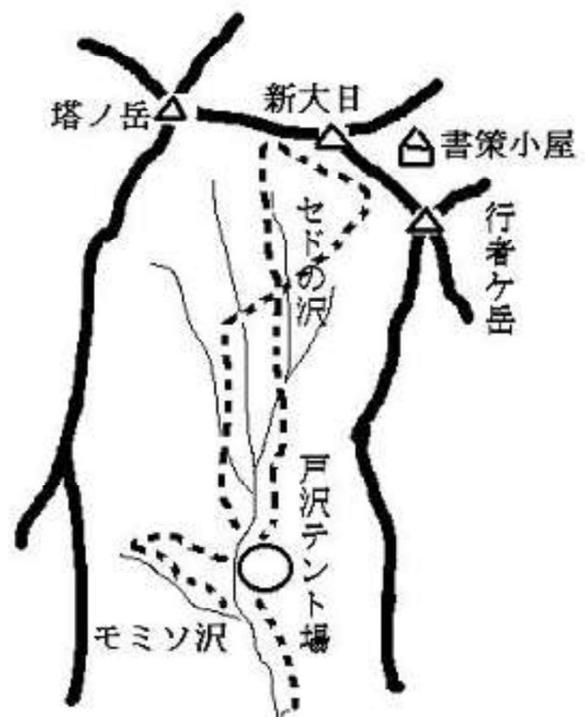
書策新道に出て装備解除。このときの開放感溢れる気分はなんとも心地よい。ぬれた服を着替えてさっぱりし、お握りをほおぼる。ゆっくりと昼寝をしたい気持ちであるが、モミソ班と戸沢で落ち合う約束の時間が迫っておりそうはゆっくりして居られない。大急ぎで書策新道を駆け下り戸沢に2時半頃に到着したが、モミソ組の姿はなかった。何かあったかと心配しながら待つこと約1時間半、元気な人影を認めてほっとした。

久しぶりの沢だったが、天気にも恵まれ楽しく遡行することが出来ました。リーダーを始めパーティの皆さんありがとう。



最大の難関セドの沢大滝

概念図



戸沢にて全員集合



概 要

山名	モミソ沢・セドの沢左俣		
月日	平成19年5月13日(日)		
形式	日帰り	グレート	3C
山城	丹沢・水無川流域	地形図 1/2.5万	大山
目的	沢登りを楽しむ(教育研修)		
費用	2000円 (除反省会費)	交通機関	JR・小田急
日程コース	モミソ沢	我孫子駅(千代田線)5:33→渋沢駅 8:08 →大蔵 8:45 モミソ沢出合い 9:50(岩トレ) 10:00/13:00・モミソ沢入渓 13:15 ⇒大棚着 14:35/15:35 完登⇒戸沢 16:00 ⇒大倉 17:30/17:35→渋沢駅 17:55→我孫子駅 21:15 ＜歩行時間:4時間45分＞	
	セドの沢	モミソ沢出合 9:50⇒戸沢出合 10:02/10:16⇒入渓点 10:30/50⇒セドの沢入口 11:00⇒F1 11:10⇒F2 11:20⇒二俣 11:25⇒大滝 12:10/50⇒書策新道 13:25/55⇒戸沢出合 14:43	

ルート 状況	<p>モミソ班</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩トレは懸垂岩の左側のチムニーで行ったが以前より岩が安定していた。 ・例年通り水が少なく、滝の直登が思う存分出来た。 ・しかの腐乱死体があり異臭が漂っていた。 <p>セド班</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セドの沢左俣は水量少なく、小滝が連続する中、F5以外はノーザイルで楽しく登れた。 ・沢中一番のF5(13m)は残置ハーケンが4本ほどあり、何れもしっかりしている。スリングはどこにもついていない。 ・大きい鹿の腐乱した屍骸が沢中に！当然だが、どんなに澄んでも沢の水は飲むべからず！
	<p>参加者</p> <p>モミソ班: 堀口(L)、小川、由布、千葉、桐生</p> <p>セド班: 佐藤健(L)、佐藤明、田村、武内、青山</p>

< 5 3 6 >

韓国岳～高千穂峰・祖母山・烏帽子岳
(1700m) (1575m) (1756m) (1337m)

高橋芳恵

霧島連峰最高峰から 天孫降臨神話の山まで縦走

1日目 快晴

初めて足を踏み入れる九州の山を3泊4日の大型山行で訪れることができた。早朝のJAL機はあっという間に鹿児島空港に到着し、チャーターしたバスにて一路、えびの高原に向かった。晴天の鹿児島の第一印象は緑の濃さ、本州と比して深緑の美しさに圧倒された。

えびの高原では昼食と登山準備をし、硫黄山への遊歩道をたどった。硫黄山との鞍部を抜けるとゴロ石の急坂となり、今日の最高峰、韓国岳は噴煙の向こうにそびえている。期待通りミヤマキリシマはほぼ満開、キリシマミツバツツジは遅咲きの種類が見頃で快適な登山道に彩を添えてくれた。何処までも続く、広大な緑の高原はニュージーランドのトンガリロ国立公園そっくりで日本の山ではめったにない光景である。八合目からは火口となり、大きく回りこむようにやっと韓国岳山頂に到着した。頂上からの絶景はすばらしく、霧島山縦走路を一望することができた。



霧島山縦走路を一望(韓国岳
山頂直下で)

NHKの「日本の名山」の撮影班が我々の後から続き、カメラを向け続けた。山頂から

の下りは急斜面の悪路であったが、岩肌には岩つつじの黄色が美しかった。しばらく灌木帯の緩やかな道を歩き、獅子戸岳に至る。ここからは新燃岳、高千穂峰の雄大な姿を臨むことができた。ミツバツツジのトンネルを抜け、新燃岳の火口の縁に沿い、エメラルドグリーン火口湖を右に見て新燃岳山頂へ。さらに最高点の辺りから直角に折れて斜面を下った。この先には中岳があり、この辺りでさすがに疲れを感じた。今日の縦走路の素晴らしさを思いもう一頑張り、高千穂峰を正面に見て岩の多いジグザグ道を下り、歩きにくい石畳道を降りると本日の終着地、高千穂河原であった。待っていた旅館車に乗り込み、宿泊地みやま荘に向かった。ゆったりとくつろいだ温泉の良さはいまでもなく、特に飲み水のおいしさは格別であった。

天孫降臨の伝説と天の逆鉾の山

2日目 快晴

翌日は再び旅館車で昨日の高千穂河原へ。ミヤマキリシマに染まった霧島神宮古宮跡から石積みの道を登り高千穂峰登山口から急坂を登り、お鉢の火口壁に至る。ここでもミヤマキリシマの群落が咲き誇っていた。これよりはガレ場が続き、丁度富士山の砂走りのようで、足場を確かめながら一步一步登って行った。短時間ながら難儀を強いられることになった。高千穂峰山頂には天孫降臨ノ天の逆鉾が立っており、日の丸の旗がなびいていた。やはり、日本国の起源は高千穂かるとにわかに信じる気持ちが起こってきたのは面白かった。頂上には高千穂山頂小屋があり、表敬訪問をした。下りはまたまた難儀なことで、2本のストックが役に立った。霊験あらたかな霧島神宮古宮跡をゆっくり参拝し、旅館車にて霧島神宮へ向かった。坂本竜馬がお良さんと新婚旅行で訪ねた地として知られているだけあり、荘厳な社であった。ここでマイクロバスに乗り換え、サミットで有名となった宮崎のシーガイアを車窓より眺めながら、延岡に向かった。宮崎ではあちこちで有名な東国原知事さんの顔が特産品に貼られ、セールスマン知事の健在ぶりを伺うことができた。

延岡からはさらに旅館車に乗り換え、高千穂峡を散策後、高千穂の民芸旅館かみの家に

到着した。こちらの夕食が郷土のスローフードで健康食そのもの。体に効いたところで、毎夜近くの境内で行われているかの高千穂夜神楽を見学に出かけた。役者は全て農家の男性で、100名ほどが交代で毎夜舞っているとのこと、重要無形文化財である。

物語は岩戸に隠れた天照大神をうずめの舞でおもしろおかしく誘い出すというもの。御神体の舞ではイザナギ、イザナミが酒を酌み交わし、抱擁し合い、あげくは上になったり、下になったりで夫婦円満の舞となり、場内一同大笑いした。神話の神々のおおらかさに脱帽した夜神楽だった。有難い神様に私とTさんが見物人の中から特に選ばれ、愛を告白されたことも特記事項であり、今年は何か良いことが起こりそうとうれしい予感を感じた。

宮崎県の最高峰、祖母山に登る

3日目 快晴

宿の朝食はこれはまた自然食で何より体へのご馳走であった。旅館車で相当な距離である祖母山北谷口まで送ってもらい、サービスのよさと親切さに感激した。

本日のコースである千間平経由の迂回ルートは九州自然道路に指定され、よく整備されていた。登り詰めた6合目付近に三県界があり、さらに7合目付近は国観峠といって祖母山の眺めがよい広場となっていて地藏様が祀られていた。「祖母山はきつい山と聞いていたけれどたいしたことないね」と思っていたが、この先9合目付近より急登で雨水によりえぐられた悪路が頂上まで続き大苦戦であった。快晴の頂上からは傾山から大崩山の展望ができ、何よりかねてから一度見たいと思っていたアケボノツツジが満開に咲いていて大感激した。福岡からの登山者が「今年は半月遅れだったからラッキーですよ」と話してくれ、お互い幸運を喜び合った。アケボノツツジは私が想像していた以上にそれは美しい花だった。

下山には避難小屋ルートを選んだが、結局こちらの方の道がよかった。おりよく管理人が山に上がってきたところだったので、トイレを借り、しばらく情報交換をした。

国観峠からは竹田方面に向け下ったが、樹林の中の急下降路はやはり聞いていた以上に手ごわく、「甘く見るとひどい目に会うよ」と警告されたような難路であり、足元に全身を

集中していて周りの風景を見る余裕もなく下山した。5合目避難小屋で休憩し、さらなる急傾斜を林道まで下った。汗でびっしょりになった衣類を替える間も無く、林道終点の駐車場には何と豊後大野社会福祉協議会のバスが待っており乗り込んだ。今宵の宿泊地は昼間は地域の老人が集う「憩いの家」で、2階の部屋は好きなように使ってよいとのこととて全て2人1室とゆったりと過ごすことができた。毎日、日替わりで各種の宿に泊まることは旅ならではの醍醐味である。辺りは水田地帯の湯宿で温泉は効能あるかけ流し源泉。心行くまで温泉に浸ることができた。家庭的な料理も格別であった。本日の祖母山は充実感に満たされた一流の山であった。

やはり阿蘇連山は廣大だった

4日目 快晴

昨日の社会福祉協議会のバスで近くの岡城址を散策。若き滝廉太郎が作曲した「春高樓の花の宴・・・」を口ずさみながら壮大な古城をしのんだ。明治政府の廃藩置県で大分県はこの見事な城を破壊してしまったというから、より哀れなことである。ユカリナ演奏者にあわせ全員でこの名曲を合唱し、よき旅への感謝の意を表した。私は旧年来、是非来て見たい史跡のひとつを訪ねる事ができ、有難かった。古城址からは九重山、祖母山、傾山の連山がはっきりと望めた。下から望む祖母山もなかなかである。

バスは一路、阿蘇山に向かった。峠を越えると突然目前に阿蘇の火山が出現し、広大な草千里は牛馬が草食むのどかな丘陵であった。バスとはここで別れを告げたが、九州の皆さんのご好意は本当に有難かった。その後私たちは草花の咲き乱れる山肌を巻き込み、この阿蘇連山のひとつ烏帽子岳を目指した。下方には乗馬コースを楽しむ観光客を眺め、上方には阿蘇連山や昨日踏破した祖母山の姿を見上げ、急傾斜のガレ道に足をとられながら、汗をかきながら一路山頂をめざした。山頂では日差しの強さをさえぎる木々もなく360度の大展望であり、心行くまで阿蘇の眺望を楽しみ、至福の時を過ごすことができた。

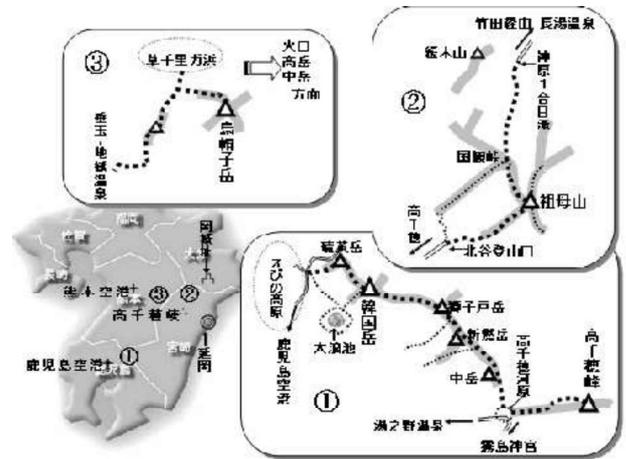
本日の最終地点は玉簾地獄温泉で下り道は相当な道のりであった。玉簾の湯から坂道を

登り返すと地獄温泉であり、地獄温泉では地獄どころか天国の気分を満喫し、九州の奥深さを感じた。男性方は温泉の泥パックですっかり色白になって男振りをさらに上げ、それを見た女房方は惚れ直したという話は全く聞かなかったことは魔か不思議なくらいである。全員ゆったりと何種類もの温泉をゆっくり堪能することができた。

終わりに

今回の九州大型山行は4日間すべて快晴の天気や満開の花々に恵まれた。リーダーの周到的な準備で旅館車を活用し、効率よくしかも安価な有意義な山旅を実施することができた。韓国岳から高千穂峰への縦走路の圧巻とミヤマツツジの美しさ、祖母山の峻険さ、阿蘇の広大な火口と連山の眺望を心行くまで楽しむことができた。ひとえに大串リーダーのご指導によるものと深く感謝している。又長期間、大勢でありながら何のトラブルもヒヤリハットもなく山行できたことは参加者一人ひとりの努力あってであり、参加者の皆様にも感謝の言葉を添えたい。「皆様、楽しい山行をありがとうございました。」

概念図



阿蘇山主峰と大火口群をバックに(烏帽子岳山頂)

概要

山名	韓国岳～高千穂峰・祖母山・烏帽子岳		
月日	平成19年5月21日(月)～24日(木)		
形式	山麓泊	グレート	3B
山城	九州南部 祖母・傾・ 大崩山地 阿蘇山系	地形図 1/2.5万	韓国岳・日向 小林・高千穂 峰・霧島温泉 豊後柏原・祖 母山 阿蘇山
目的	①霧島連峰最高峰から天孫降臨神話の山まで縦走+満開のミヤマキリシマ。 ②歴史を秘めた山、祖母・傾・大崩山地の主峰から九重・阿蘇連峰を眺望。 ③阿蘇五岳の一つ、草千里の山から阿蘇火山を眺望+満開のミヤマキリシマ。		
費用	約58千円	交通機関	航空機・タクシー・旅館車・JR・モノレール
日程コース	1日目	我孫子駅 5:30→上野駅 6:04/6:10→浜松町駅 6:24/6:30→羽田空港 6:52/8:05→(JAL1863便)→鹿児島空港 10:00/10:20→(旅館車)→えびの高原登山口(昼食) 11:25/12:00⇒五合目 12:40⇒韓国(カクニ)岳 13:10/13:20⇒獅子戸岳 14:55⇒新湯分岐 15:10/15:15⇒新燃(シモエ)岳 15:50⇒中岳 16:20⇒高千穂河原登山口 17:15/17:20→(旅館車)→湯之野温泉 国民宿舎みやま荘 17:30(泊) <晴れ 歩行時間4時間55分+休憩時間55分>	
	2日目	旅館 6:55→(旅館車)→高千穂河原登山口 7:05/7:10⇒御鉢巡り(立入禁止)分岐 8:20⇒馬の背 8:45⇒高千穂峰 9:15/9:37⇒馬の背 10:00⇒御鉢巡り分岐⇒天孫降臨神籬齋場(霧島古宮址) 11:00/11:05⇒高千穂河原登山口 11:15/11:20→(旅館車)→霧島神宮(参拝) 11:35/11:55→(貸切マイクロバス=山之内PAで昼食)→延岡市立図書館 16:00/16:05→(旅館車)→高千穂峡(散策) 17:05/17:25→(旅館車)→高千穂町旅館かみの家 17:30(泊) <晴れ 歩行時間3時間35分+休憩時間30分>	

3日目	旅館 7:15→(旅館車=五ヶ所バス停経由)→北谷登山口 8:05/8:20⇒4合目 9:25/9:30⇒千間平 9:40⇒五合目 9:43⇒三畳(宮崎・大分・熊本)境 10:00⇒七合目 10:15⇒国観峠 10:25/10:38⇒祖母山(昼食) 11:35/12:05⇒九合目小屋 12:20/12:30⇒国観峠 13:00/13:05⇒七合目 13:43⇒徒渉地点 14:35⇒5合目小屋 14:45/14:55⇒林道終点 15:15⇒神原1合目滝登山口 15:20/15:28→(旅館車=神原バス停経由)→長湯温泉 豊前大野市宮惣の家 16:15(泊) <晴れ 歩行時間5時間40分+休憩時間1時間20分>	
	4日目	旅館 7:20→(旅館車)→岡城址(散策) 7:45/8:35→(旅館車)→阿蘇草千里ガ浜バス停 9:50/10:00⇒垂玉温泉分岐 10:15⇒烏帽子岳(昼食) 10:55/11:25⇒垂玉温泉分岐 11:53⇒展望台 12:35/12:40⇒林道 12:55⇒垂玉温泉登山口 13:25⇒地獄温泉(入浴) 13:30/15:50→(タクシー)→熊本空港(夕食) 16:35/18:50→(JAL1816便)→羽田空港 20:20→浜松町駅→上野駅 21:33→我孫子駅 22:06頃 <快晴 歩行時間3時間+休憩時間30分>
	ルート状況	①韓国岳⇒高千穂河原 稜線上は砂礫地で、樹林は鞍部の一部のみ。強風や濃霧時の対策が必要。 ③祖母山 9合目～山頂間は、粘土質の急斜路で滑りやすく、加えて雨水による土砂流出で大荒れ。迂回路になるが、避難小屋經由ルートが無難。 ④烏帽子岳 登山口が分かり難い(登山口は山に向かって草千里草原の右端)。 交通機関/温泉宿 地場の移動はバスや汽車の便が悪く、タクシー利用が一般的。今回は人数が多かったので旅館の長距離送迎サービスを利用し、費用負担の軽減を図った。航空券は格安のバーゲンフェア券と先得21割引券を利用。
参加者	細野清(祖母山SL)、細野省、柴田(阿蘇山L)、大串恵、大串秀(全般L)、日下(祖母山L)、斎藤(全般SL)、榊原、中野、原田君(霧島山L)、高橋芳(霧島山SL)、飯沼、原田和、田村(阿蘇山SL) 男性5名、女性9名、計14名	

< 5 3 7 >

鬼石沢

佐藤健一

久しぶりの西丹沢は晴れてはいたものの遠い道程だった。JR、小田急、バスと乗り継ぎ、更に大滝橋バス停から歩いて一軒家避難小屋に到着するまでに要した時間は、我家を出てDoor To Doorで5時間30分。鬼石沢は、なんとも近くて遠い僻地の沢であった。

さりながら、東海自然歩道の林道も、滝沢沿いの登山道もよく整備されているし、流れ込む沢やガレ場には木橋が架けられ、多すぎるほどの道標もあり、朝陽に輝く緑、溪流の音と小鳥のさえずり、いずれも見事に調和して、いつもながら汗ばんだ心身を慰めてくれる。

沢を渡ると一軒家避難小屋が建っていた。ここで、沢装備したのち鬼石沢に入渓したのが11時と“やまたん”に描いてある。

* 編集部に追い立てられ、19年5月の沢紀行を20年9月に書くような仕儀になり、いつもの事ながら自嘲気味で参っている。

F2 (10m) は、岩のホールドが多いので簡単に通過し、すぐにF3 (20m) となった。ここはランクで3級上と紹介されていて本日より一番と目される奴だ。見るからに滝の中間部がいやらしい。左岸も滑りそうで、右岸からホールドを探していくしか無いと思っていたら、リーダーはYにトップを命じた〔Lがお願いしたのか、Yが自薦したのか不明だが〕。しかし、性格がいやらしいYだが、足技と岩への粘着力、くそ度胸だけは見事なもので、軽々とクリアしながら落ち口右を越えて滝上に立った。もっともその後のザイル操作〔ビレー〕がトロク大分時間を喰い、ザイルが降下された時は、滝下で待つ4人は水飛沫をかぶって芯から冷えてしまう。その後一人ひとり登っていったが、この通過に約一時間も費やしてしまったのは残念なことであった。

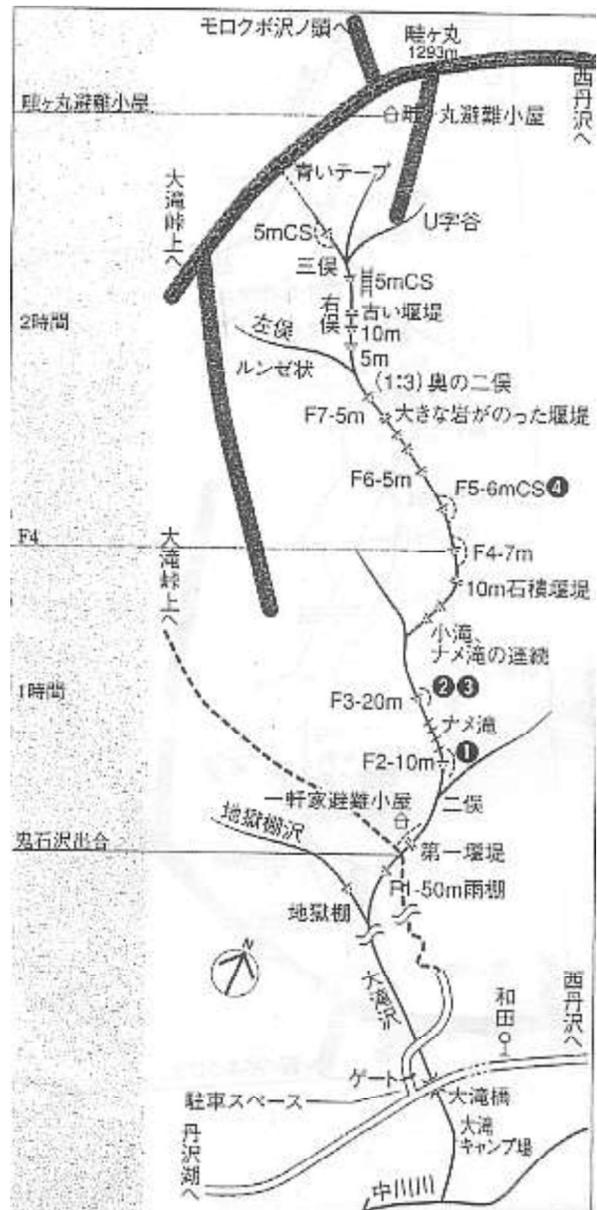
その後小さな滝やナメを越えて行ったが、何時F4 (7m) を超えたか分からず、歩き続けいくと、特異な形をしたF5 (6m) に

出た。3つの大きな岩が折り重なる特徴的な滝で、換わる変わる写真を撮った。

F5を越え、F6を過ぎて二俣となり、水量の多い右俣に入ったのはいいのだが、その先がルート図とどうも一致しない。ルートを外したなと思えたが、引き返すのは面倒だし、ここからはどう登っても大して違わない筈だ。ただ我輩の大嫌いなヤブ漕ぎだけは無いように、あってもお手柔らかにと念じつつ皆の後に続いて登っていった。

踏み応えの無い小石大のザレ場をナントカこなし、幸運にも死ぬようなヤブ漕ぎにも出会わず、無事に畦ヶ丸避難小屋の直下にでられたのはLの底力のお陰であり、だからこそ心底感謝している。

概念図





最初の滝 F 2



F3 右から取り付くと水に濡れながら下部を登る

概要

山名	鬼石沢		
月日	平成19年5月27日(日)		
形式	日帰り	グレード	3C
山域	西丹沢	地形図 1/2.5万	中川
目的	苔むした沢		
費用	4,500円	交通機関	電車、バス
日程 コース	○日	我孫子 5:33→代々木上原 7:56→新松田 8:13/8:25→(バス)→大滝橋 9:40→一 軒家避難小屋 10:36(沢装備)入溪 11:03 ⇒F3下 11:20⇒F3上 12:15⇒F5(鬼 石) 12:40⇒稜線 14:30⇒蛙ガ丸避難小 屋 14:45/15:10⇒大滝峠上 15:32⇒一軒 家避難小屋 15:54⇒大滝橋 16:30→(バ ス)→新松田 17:40/18:46→我孫子 21:10 <晴れ 歩行時間:2時間15分 遡行時間:3時間40分>	
ルート 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・F3(20M)は中間緩傾斜バンドをトラバースする時濡れる。 ・F6先の二俣は遡行図に記載されていなくルートを外しやすい(外してしまった) ・藪漕ぎなしで登山道に出る予定が、藪漕ぎ20分で蛙ガ丸避難小屋に出た。 		
参加者	青山(L)、佐藤健(SL)、千葉、佐藤明、吉川 男2名 女3名 計5名		



F5は大きな岩が3つ重なったチヨックス
トーンこれを鬼石と呼ぶ(らしい)

< 5 3 8 >

男体山麓荒沢川水源

小川洋子

荒沢川水源を訪ねる

5月27日梅雨前の爽やかな1日、大谷川を経て鬼怒川に注ぐ荒沢川の水源地を求めて美女5人が東武日光駅に降り立つ。タクシーに乗り裏見の滝駐車場へ。女峰山登山口から歩き始める。出発前このあたりに詳しくそうな男性から「笹が伸びて道がはっきりしないのでそのルートはやめた方がよい」とご親切な忠告をいただく。でもわがリーダーはもっとご存知。大丈夫、だいじょうぶ、と軽やかに歩を進める。しばらく木洩れ日を浴びながら静かな登山道を歩く。モミジイチゴ、ミツバウツギ、チゴユリ、コアジサイ、どれも見ごろはこれからだ。林道を横切りなお女峰山登山道に行く。

ところどころにピンクのツツジが姿を見せ始める。ピンクの濃淡のヤマツツジの中にオレンジ色のレンゲツツジがアクセントをつけ、今は盛りと咲き誇る。上を見れば唐松を通して青い空、風に吹かれる雲が早足に通り過ぎる。天気が変わるのだろうか。登りで汗ばんだ顔に当たる風はとても爽やか。

リョウブ、ミズナラ、樺、などの新緑を愛でながら花を咲かせた木々の名前に思いを巡らせる。しばらく行くと唐松林に入る。植林によるものだろう、行儀よく並んだ唐松の少し色を深めた新緑を楽しみながら、黄葉の頃の美しさを想像する。

イヅラ峠に差しかかる頃シロヤシオが現れる。はじめは気づかずに通り過ぎてしまいそうになるくらいひっそりと咲いている。その内あちらにもこちらにもとシロヤシオの姿が。笹もまだ背丈は低い、夏には伸びてきつと歩きにくいに違いない。

滝の音につられて広々とした、慈観滝の左岸に出ると、対岸の新緑が目飛び込む。慈

観滝は旧慈観滝の位置より左岸寄り低い位置にある。左岸の際はえぐられていて近寄りすぎると危険だ。水量も豊かで、これからその水源を求めてゆくことになる。

いくつか堰を越え、その先に何枚もの屋根瓦を縦に並べたような奥壁がそびえる。雲隠れの滝とも言われ今水は流れていないが、下に滝つぼのような湧水池が出来ていて、山の側面のあちこちから湧き水が豊かに流れ落ちている。冷たい、美味しい水。雪や雨がこの緑豊かな山に降り、こうして湧き水として流れ落ちるまで一体どれぐらいの時間が経っているのだろうか。荒沢川、大谷川、鬼怒川、利根川を経るにつれ水量を増し太平洋に注ぐ、その一端がここにある。

今度は慈観滝を見晴らしのよい右岸から眺める。先ほどの湧き水が結集し豊かな流れを作っているのがよく分かる。ここからは裏見林道を歩くことになる。通行止めのはずだが、2、3台の車とすれ違う、荒沢川に糸をたれる釣り人を2、3人見ただけでほとんどすれ違う人もいない。静かな山だ。

野洲原林道に変わり、観音の滝を見る。滝への降り口に迷うほど人が入らない、ひっそりとした滝だ。しばらく林道を歩き朝登ってきた女峰山登山道を今度は下る。裏見の滝駐車場まで下り、歩いて10分の裏見の滝へ。

華厳の滝、霧降の滝と並んで日光三名瀑のひとつ、裏見の滝は高さ19m、幅2mとさほど大きくないが、直接滝壺に落ちる水飛沫の迫力がすごい。かつては名前の通り直下する滝の裏側を見ることが出来たが岩が崩れ今は出来ない。後方のくぼみには江戸初期に出羽三山からお迎えしたお不動さまが安置されている。松尾芭蕉が奥の細道の帰途立ち寄り、一句残している。

暫時は滝に籠もるや夏の初め

里に降り立つと風は少し強さを増し、涼気が爽やかで新緑にとっぷりと浸かった、幸せな1日を感謝し2匹の猿に見送られながら帰途につく。

概要

山名	男体山麓(荒沢川水源探検)		
月日	2007年5月27日(日)		
形式	日帰り	グレード	1A
山城	日光	地形図 1/2.5万	日光北部
目的	水の旅 水源探検		
費用	5,100円	交通機関	JR、東武電車、タクシー、バス
日程コース	我孫子駅 5:31→北千住 5:53/6:31→東武日光 8:24/8:30→(タクシー)→裏見の滝駐車場 8:40/8:50⇒(女峰山登山道)イヅラ峠 10:00⇒慈観の滝左岸 10:45/11:00⇒奥壁(雲隠滝) 11:35/12:10⇒慈観の滝右岸 12:55/13:00⇒野州林道⇒観音の滝 14:25⇒裏見の滝 14:40⇒裏見の滝駐車場 15:05⇒裏見の滝入り口 15:38/16:01→(バス)→東武日光 16:18/16:58→春日部 18:57/19:02→柏 19:30/19:42→我孫子 19:48		
ルート状況	<ol style="list-style-type: none"> 1) 女峰山登山道のため道は明確だが、夏にかけ笹が伸びてはっきりしない? 2) 慈観滝から先の奥壁へは砂防ダム工事のため道はない。これぞ探検である。 3) 観音滝へおりの道は赤テープをたよりにおる(滝の裏に入れる)。 		
参加者	中村八(L)、小川洋、品田 藤倉、榊原 女5名		

概念図



奥壁の側面、あちこちから湧き水が流れ落ち自然の神秘に触れました

< 5 3 9 >

荒船山 (1423m)

小松庸信

「荒船」と聞いて私が思い起こすのは、暴れん坊の政治家の異名をとる荒船清十郎先生です。この山は暴れん坊の山（登山が苦難）なのかと思いました。私は初めての地図読み研修山行ということで参加させていただきました。

山の案内版による荒船の名前は『遠景が荒波に漂う一隻の船に見えることに由来する』とのことであり、この船は北側の高さ150mもの岸壁（艦岩）のある方が船尾で、南側の端の経塚山が舳先である。

薄曇りの中、山歩きには良き日和であったが視界は余りきかず遠景は望めない天候であった。内山峠でバスを降り、早速に地図読み研修がスタート。コンパスの置き方（正置）から説明開始。私は周囲の皆さんに聞き、真似ることから何とか登山道の進む方向を得る。



内山峠登山口にて地図読みの練習

荒船山登山開始。小さな尾根道を小刻みに何度となく回り込み、Up-down を繰り返しながら高度を稼ぎ、1時間位で「一杯水」に到着。更に進むと岩場の急斜面となり、滑らないよう注意しながら慎重に登る。平らな台地を進むとまもなく艦岩見晴台に出る。真下の谷底が望めるので近くのひと山の全貌が見られ景色に迫力がある。あいにく朧にかすみ、遠くの山並の展望が利かなかった。予定の“山

座同定”研修は出来なかったのは残念であった。艦岩上で地図正置を試したが、コンパスの磁針が安定しないのは岩に帯磁している為である。

艦岩から経塚山への道は荒船の甲板にあたり、平坦な台地の道である。ブナ、クヌギ、樅等の木々の新緑がとても優しく、新鮮さを感じた。しばらくの間、道端の小さな草木を観察しながら散歩道を進む。荒船山の最高地点は経塚山1422.5mで、群馬県境寄りにあるピークへの最後数百mは、結構な急斜面であった。その頂上は樹間からの眺望であるが朧にかすんでいた。

概念図



帰りは来た道に戻り、艦岩の手前にある相沢方面の下山道を下る。この下り坂は下山直後から急峻な道であった。この道を登りコースに選ばば、大変な苦難を要することは必死である。山の麓の相沢は鮮やかな色の草花が見られ、のどかな山里である。

ここからバスに乗り、数分先の「荒船の湯」で汗を流し荒船山を後にする。



艦岩見晴台

概要

山名	荒船山		
月日	平成19年6月3日(日)		
形式	日帰り	グレード	1A
山域	上州	地形図	信濃田口、 荒船山
1/2.5万			
目的	研修山行(地図読み)		
費用	約4,300円	交通機関	貸切バス
日程コース	<p>我孫子駅北口 5:33→(貸切バス)→柏 IC5:48→高坂 SA6:42/7:00→甘楽 PA7:40/7:50→下仁田 IC7:58→内山峠 登山口着 8:40 (地図読み研修)登山開始 9:10→休憩 9:40/9:45⇒一杯水 10:12⇒鱸岩展望台 10:35/11:15(昼食・地図読み研修)⇒星尾峠への分岐 11:42⇒荒船山 11:52/12:00⇒星尾峠への分岐 12:10⇒展望台手前の下山口分岐 12:32⇒休憩 12:50/12:55⇒中の宮 13:12⇒休憩 13:37/13:42⇒林道に出る 13:53⇒相沢 14:00/14:05→(貸切バス)→荒船の湯 14:11/15:20(入浴)→下仁田 IC15:50→高坂 SA16:57/17:10→柏 IC18:10→我孫子駅北口着 18:40 <行動時間4時間50分 内:歩行時間3時間50分、休憩と研修時間1時間></p>		
ルート状況	<p>① 一杯水～鱸岩に岩場があるが気をつければ特に問題はない。 ② 鱸岩～経塚山は落葉樹の林の気持ちのよい散歩道。 ③ 相沢への下山路は急峻だがよく踏まれている。</p>		
参加者	<p>武内(L)、高橋英、小川誠、松本、原田和、小松、坂巻、清家、外崎、中野、中村美、原田君、箕輪カ、原、青山、矢野、早川、松井(ゲスト) 男7名、女11名計18名</p>		



ブナ林のプロムナード



経塚山山頂にて



< 5 4 0 >

日光白根山
(2578m)

斉藤 清一

シラネアオイを見に！

桑原ハイキング委員長より5月28日の下見をされ、今年の「日光白根山」は未だ積雪があるが10日後の山行日には雪解けが進むであろうが軽アイゼンの用意は必要であるとの連絡が入る。

下山予定の菅沼方面は崩落状況が見受けられるので山頂までの往復ルートに切り替えるとの決断をされたとの事。

千葉県連ハイキング委員会主催の2007年度第1回ウキディハイキングに「岳人あびこ」より4人のメンバーが参加しました。

新松戸発のバス(32名)は「岳人あびこ」は最後に乗り込んだので席は他の山の会のメンバーと隣り合う事になる。顔見知りの人、初めての人、それぞれであるが山好きな人たちであるので話が弾む。

今回は通算8回の山行で9団体51名の参加であったが回を増すことに参加者が増加してきている傾向です。

高坂SAでもう1台の千葉発のバス(19名)と合流を兼ねながらのトイレ休憩を取るが千葉発のメンバーとお互いに挨拶を交し合うのは交流の深まりが浸透してきたしるしである。

ロープウェイ山頂駅付近は雪がなく軽く準備運動後4班として岳人あびこ4名、山の会らんたん5名、山翠会1名の10名で編成を組む。

曇天模様であるが登山口前の「二荒山神社」に本日の登山の安全と降雨にあわないことを祈願して出発する。

雪解けが終わった森林地帯を10分ほど歩行を続けるが、登るに従い30cmほどの積雪を踏みしめ始める。高度2000m以上のこの付近は十日程前の下見時は2m位の積雪があったとのことですが新芽もチラホラ、地肌も見え始め春を迎えているのだなと感じされる箇所が各

所で見えた。

不動岩の壁を仰ぎ見て慎重に残雪の路を歩行するが、錫ヶ岳方面は霞んだ眺望で残念、更に奥の皇海山方向を望むが霞んでみえず。大日如来像を通過時に再度降雨なしを祈願したがこの時点ではアイゼンを装着せずに前進することにした。

ガレ場付近は残雪もなく進むことが出来た。5班51名の長い隊列が斜めに登っているのを眺めることが出来た。ガレ場を登りきると南峰に着く。

ハイキング委員長より20分の休憩兼昼食の伝令がある。

我々「岳人あびこ」4名は始めて一緒になり北峰へ向かった。ガレ場を下り

北峰へと上り返すが北峰の頂は狭くくると一まわり体を回すほどの時間しか

なかったが「前白根山」は手の届くほどの目前にあり三度目の頂に感激をした。

三度とも登山口が異なっており三度とも季節が異なっている別な山を登ったような感じを実感した。

下山時は51名の登りの残雪を踏み固められた路を慎重に歩むが雷鳴が二度ほど鳴り響いた時は神頼みも万事休すかと思いきや「岳人あびこの晴れ女神の

存在に気がつき」今日は大丈夫！あわてず、ゆっくり下ろうと“櫛を”とばす。あいかわらず下山時も眺望はきかず、足元に神経を集中することにした。

「二荒山神社」に下山報告と「降雨なし」の御礼を述ベロックガーデンへと下る。道々植栽されたのだろうか？ 色々な花々もちろん「シラネアオイ」も見ることが出来た。

ロープウェイ乗車までの時間2006年8月に開設された「天空の足の湯」に向かう。

今年の初の「天空の足湯」開きとの事で温泉で満たされていた。

われわれも腰掛けて「天空の足湯」に両足を入れる。本日の山行の思い出を語りながら足を上げると足の裏が真っ赤なのにビックリ全員足を上げてみると「足の裏は真っ赤」歩いた結果と理解が出来た。

帰途中10程の集中豪雨があるが幸いにも「バスの中」無事家路に着いた。

概要

山名	日光白根山		
月日	2007年6月7日(木)		
形式	日帰り	グレード	2B
山城	日光	地形図 1/2.5万	丸沼 男体山
目的	シラネアオイを見に		
費用	5,000円	交通機関	ミニバス2台
日程コース	我孫子駅(6:12)→新松戸(6:25)⇒流通経済大学前6:32→高坂SA7:40/8:00→丸沼高原スキー場ロープウエー駅 10:10/10:30→ロープウエー山頂駅 10:45/10:50⇒大日如来11:20⇒日光白根山頂13:10/13:30⇒ロックガーデン 15:20⇒ロープウエー山頂駅15:30→丸沼高原スキー場ロープウエー駅 16:10/16:30→三芳SA19:10/19:30→新松戸流通経済大学前20:10⇒新松戸駅 20:30→我孫子駅20:50 <行動時間 4時間40分 歩行時間 4時間>		
ルート状況	・30cm程の残雪があった。 ・登山道の崩壊箇所はなし。		
参加者	斉藤(L)、高橋芳(SL)、榊原、小松 男2名 女2名 計4名		

概念図



標高 2000m 天空の足湯

頂上より五色沼。



< 5 4 1 > 市民登山

カヤノ平・奥裾花

柴田節子
飯沼トミ子

一日目 カヤの平散策

柴田節子

バスでカヤの平へ通じる山道を登っていくと杉やカラマツ林がなくなり、道から少し入った所に全く珍しい姿のブナの大木に出会う。大木は幹の途中から三本に分かれている。このような形の木を三頭木と言い、山の神様が休む神聖な場所だと説明された。その根元には石造の小さな祠が祀られて、地元では昔からこの森を鎮守の森として大切にしていた。大木の周りを何度も回り乍ら首が疲れる程見上げていた。再びバスに乗りカヤの平公園総合案内所前で下車し、しばし一服する。刈り込んだ草の上でのティータイムは気持ちよくどんなブナたどが待っていてくれるのか等と考えている頃、ずっと気がかりにしていた天気だったがとうとうポツ、ポツリと降り出した。カッパを急いで着て遊歩道へ入っていく。カヤの平高原から北ドブ湿原へ向かう道は、台地でアップダウンはない。腐った落葉が道の両脇に寄りその役目を果たしているに違いない。けれど油断大敵根っこ蔓り足元に気をつけてと皆で度々声を掛け合う。山道を挟み白いブナ独特の模様を描いている。ずっと奥の方まで林立してスクツとしかも整然とした風景は「日本一美しいブナ林」と言われるはずだ。そんなブナ林にすっぽりと包み込まれ至福の時だ。あふれる程明るい緑色にやさしい空気の恵みに大いにリラックスする。五叉路では巨木のブナの幹に聴診器を直接当ててみる。じっと耳を澄ませばズズ、ズズッとブナが水を吸い上げる音が確かに聞こえる。

100～150年という長大な年月（それ以上のブナたちも）をただじっと立っているだけではなく、さまざまな困難を耐え抜いて生きていく姿に感動する。北ドブ湿原へ向かう途中の林床にはサンカヨウの群落を観ることが出

来た。間もなく明るく広がる湿原に到着する。一体は緑一色を呈している。7月下旬から8月上旬にかけてニッコウキスゲが湿原を覆い尽すという。それらに加えて高知(1400～1700m)では独特のさまざまな動、植物が観られるだろう。陽差しが熱くなってきたが、ブナ先生の解説はいよいよ佳境に入り自然界の緻密さに脱帽する。又同時に知る事の楽しみも味わった。森中すべての「いのち」は互いに共存するバランスがあり、繰り返しながら過酷な環境を必死で生き抜いている事を学びいとおしく思う。ブナ先生の御同伴あってこそこの山行は、有意義であり参加者の皆から満足した結果が得られて市民登山実行委員の一員として安堵の胸をなでおろした。明日の臆裾花は？

ブナの原生林に浸りながら楽しもうと思った。

二日目 奥裾花自然園

飯沼トミ子

あっ！雨、、、。今にも泣き出しそうな空模様でした。しかしながら、皆さんは足取り軽くバスに乗る。早朝にもめげずに途中で朝食を調達しながら一路奥裾花に向かう。安易な道路状態ではなかったが、運転手さんの腕さばきを信じ安心して車中の人となる。

奥裾花自然園は戸隠連峰、高妻山、奥西岳、等々の山々に囲まれていて裾花川の源流近くの標高1200メートル余の台地にある湿地帯である。ここは、知る人ぞ知る水芭蕉の群生地である。残念ながら、水芭蕉に出会うことはできませんでしたが、今日のブナ林の散策はここに棲息する生き物の探検である。園内に入ると直ぐに、モリアオガエルの卵を発見、それからまたクロサンショウウオの繭玉のような美しい卵にも出会った。これから先、何に遭遇できるかと思うと心はウキウキであった。

冬眠から目覚めた熊は、ブナの花の蕾を食べ宿便しては谷間で山菜を食べに来ると云う。トチの花とマルチバチの持ちつ持たれつの関係は興味深い。土中の菌類がブナの子供を育てるのだそうだ。昨日のカヤの平と違って、

当地のブナは巨木が多くどっしりとしていて、それらのブナが作る森は、まるで「緑のダム」や「緑の水瓶」と例えられる所以を証明していた。自然林の美しさに感動したのは私一人ではなかったでしょう。

次回は、是非とも自然の中の水芭蕉を見たいものです。地球温暖化の危機が唱えられている昨今、自然林をもっともっと大切に地球を守っていききたいものです。坪田先生を中心に、この二日間に一般参加して下さった多くの方々と共に一体となり、有意義な公開登山が無事に終了できました事、嬉しく思っております。



カヤの平新緑のブナ林

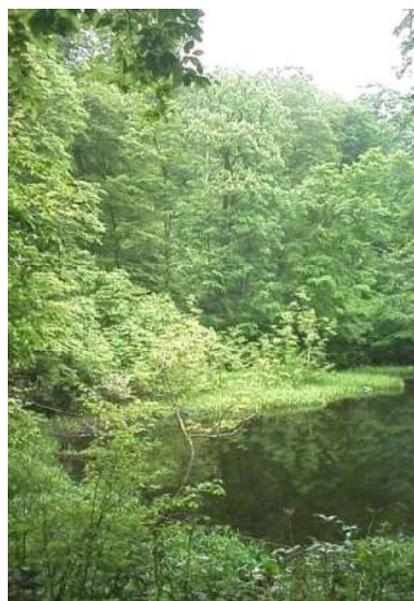
ハウチワカエデ



カヤの平概念図



奥裾花自然園概念図



奥裾花自然園吉池

概要

山名	カヤの平・奥裾花		
月日	平成19年6月9日(土)～10日(日)		
形式	市民登山	グレード	1C
山城	北信濃	地形図 1/2.5万	鳥甲山、切明、 雨中
目的	ブナ林への招待		
費用	20,000円	交通機関	バス
日程コース	1日目	我孫子駅北口 5:35→柏IC→高坂SA (休憩) 6:55/7:15→横川PA 8:20→松代SA (休憩) 9:20/9:40→信州中野IC 10:00→郷土の森大ブナ山の神 11:07/15→カヤの平高原 11:30/12:00 (昼食)⇒説明①ハウチワカエデ②フィトンチッド⇒変則五叉路 13:10⇒北ドブ湿原東屋 13:45⇒カヤの平高原 15:35/15:50→パノラマランド木島平 16:45 ＜歩行時間：3時間35分＞	
	2日目	パノラマランド木島平 5:30→朝食購入 5:45/5:53 (バスの中で朝食) →豊田飯山IC 6:08→小布施SA 6:20/6:35→長野須坂IC 6:43→奥裾花自然園入場料金所 8:00→奥裾花自然園駐車場 8:30/8:45⇒平成の森自然園入口 9:25⇒10:00 説明①芽吹き順番②ブナの言葉③夜のブナ⇒10:20 説明①森の動物たち⇒吉池 11:00⇒11:05 説明①エゾハルゼミ⇒11:20 説明①昆虫⇒奥裾花自然園駐車場 12:20/12:35→鬼無里の湯 13:10/14:10 (入浴・昼食) →長野市内燃料給油 15:15/15:25→長野IC 15:50→東部湯の丸SA 16:20/16:35→嵐山PA 18:03/18:20→柏IC 19:20→我孫子駅北口 19:40 (解散) ＜歩行時間：3時間45分＞	

カヤの平

志賀高原と野沢温泉の中間に位置し、秘境と言われる秋山郷にも近い、手つかずの大自然が残る高原です。「日本一美しいブナの原生林」に加え、高山植物の咲く湿原もありアップダウンがなく、ブナの落ち葉で敷き詰められて、森林浴に相応しい。

ここのブナは植林されたとの事で、整然とした感じの森です。

歩行順路：B(東コース)⇒変則五叉路⇒C(北ドブ湿原)⇒D⇒E(西コース)

奥裾花自然園

戸隠連峰、高妻山、奥西岳などの山々に囲まれた、裾花川の源流近くの標高1,200m余の台地にある湿地帯で、明治百年事業として長野県と旧鬼無里村が整備したものです。多くの池や湿原があります。

鬼無里村の管理により林道にて入園料を納めてから、駐車場へ行きシーズンの時は、駐車場から自然園入口まで送迎バスが有るとの事ですが、この時は1週間遅く送迎バスはありませんでした。

水芭蕉は終わっていましたが、ここではブナ林の人の手が加わっていない原生林を見ることが出来ました。こちらのコースは歩いている時、方位の確認が困難になりました。

歩行順路：入口⇒A⇒D⇒C⇒B⇒A⇒入口

ルート
状況

参加
者

一般・男性11名、女性13名
会員・男性9名、女性10名
講師・1名 計44名



キヌガサソウ

1班：参加者

岳人あびこ L：日下芳十、堀口昭二（総合リーダー、連絡）、
中村隆泰（記録、写真）、原田君子（救急）、
桐生恭子（人数確認）、
一般参加者 大久保俊夫、大久保すみ子、高橋弘至、高橋由紀、
高橋寿江、熊沢幸隆、熊沢史子

ブナ林に魅せられて

日下芳十

今回市民登山に参加して、いままでと違った登山を経験した。

講師坪田先生のブナに対する情熱、解りやすい解説私の今までの山に対する考えを変えたハイキングでした。

カヤの平高原は、手つかずの大自然が残る高原でした。本当に『日本一美しい』ブナの原生林で湿原もあり高山植物が咲き、アップダウンが少なく歩きやすい登山道でした。

まず驚いたことは、最初に立ち寄った山の神の巨木のブナが空に向かって立っている雄大な姿だ。

カヤの平中間点の五さ路での坪田先生の解りやすい解説のガイド。

ブナ林は、標高700～1200メートルの冷涼な山地を中心に鹿児島から北海道にかけ分布している。カヤの平一帯は広範囲に渡ってブナが茂り、中部地方最大の自然休養林になっているとのこと、また側に立っているブナの幹に聴診器を当ててブナが水を吸い上げる音を聴きながら、また幹に抱きついて、ブナが生きることが実感でき親近感を感じた。

ブナの森は豊穰の森と云われ秋には実を实らせ、子孫を残し、その実は動物達の餌にもなり、冬には大量の落葉を林床に落とし、その落とした葉は、微生物や昆虫達の餌になりまた落ちた葉は腐葉土層となって水を蓄えるので、ブナの森は『緑のダム』、『緑の水瓶』と云われ倒木はやがて、森の土に還るとのこと、感銘しました。

ブナの樹皮を見るとなめらかなもの、縦に剥げるもの、すべすべして薄皮が剥がれるもの、斑点やまだら模様のあるもの、コルク質が発達して隆起したものなどさまざまな樹木

の顔が見られた。樹皮に『地衣類』といわれる藻類と菌類が共生しモザイク模様を見ていと同じ模様をつけた木は二つとないので飽きることがなく散策することが出来た。遊歩道も整備され原始性豊かなブナの森『フィトンチッド』の効果で心身の健康に役立ち、西コースのブナ林のすばらしさ飽きることがないハイキングでした。

奥裾花自然園のモリアオガエルの木の葉についている卵・池の中にはクロサンショウウオの卵を見て感動しました。有難う御座いました。



2班：参加者

岳人あびこ L：高橋英雄、柴田節子（連絡、会計、やまなみ）、
佐々木侑（記録、写真）榊原文子（救急）、
本間恭子（人数確認）
一般参加者 柳正直、柳日出子、亀山重夫、
戸田健、野口恵子

市民登山、信州カヤの平、 奥裾野、ブナ林を訪ねて

高橋英雄

平成19年6月9日（土）～10（日）1泊2日で行われた。我孫子駅北口を中型バス2台に分乗し、5時40分頃出発し高速道乗り継いで上信越道、中野ICから一路カヤの平へ。今回はブナ林を訪ねるのが目的である。日本一美しいブナの原生林に加え、高山植物の咲く湿原もあるそうで林の中は若

いブナの木が延々と続く、途中、先生の説明を随所で聞きカヤの平を後にバスでパノラマランド木島平へ（泊）

パノラマランド木島平から奥裾花自然園の駐車場にバスを止め、各班ごとに林道を30分位歩くと奥裾花自然園、戸隠連峰、高妻山、奥西岳の山々に囲まれ、裾花川の源流近くで標高1200m余の台地にある湿地帯で長野県と旧鬼無里村が整備したそうです。自然園には今池、ひょうたん池、古池、こうみ平湿原があり、探索コースがいくつもあってブナの原生林に囲われ、ミズ芭蕉でも有名な所でもあるそうです。2日間にわたり坪田先生の話を楽しみながらブナの木について新しい知識を知りました。今後登山するごとにブナに関心あるような気がする。ブナ林について小生の感じたことは、カヤの平のブナは若くて美しく清々しく感じた。又、奥裾花のブナは巨木が多くどっしりとして重量感があった。

帰路の途中、鬼無里の湯に入り一路、我孫子へと向かう。天気にも恵まれ勉強になった2日間でした。先生及び実行委員の方本当にご苦労様でした。



3班：参加者

岳人あびこ L：外崎蓮、武内勇二（総合サブリーダー、連絡）、石垣吉朗（記録、写真）、矢野貞子（人数確認、救急）

一般参加者 中村久一、高野セツ子、染谷卓、染谷一美、大久保昭子、坪田満知子

市民登山を振り返って

外崎蓮

今年の市民登山は例年の山行と違い、ブナ林をゆっくり探検してみようという楽しい企画でした。実行委員の方々の用意周到な段取りのお陰で、さらに充実したすばらしい市民登山だったと思います。これまで漫然と通り過ぎてきたブナ林が、今後は少し違って見えるのではないのでしょうか。

6/9（土） カヤの平

- ・3班は1名不参加となり、男性4名、女性6名の10名。バスの中では一般参加者の方々とすぐ打ち解けあい、なごやかな雰囲気となりました。

- ・カヤの平ログで班毎に自己紹介後、散策開始。ブナの緑に染まりそうでした。

- ・林の中の五叉路で、ブナの幹に聴診器を当て、水を吸い上げる音を聞きました。

コトン、コトンという音がそれだそうですが、“生きてるんだ”という実感がわきました。

- ・北ドブ湿原の端に立っている八剣山入口の標識を無視し、山頂には登らないのも時にはいいものです。

- ・ブナの幹に、一つとて同じものがない模様を描き出す地衣類は、実は着生植物で、ブナには害を与えていないことがわかりました。明るい場所と湿気を好むことから、ブナに生きる場所を借りていることがわかって、長年の疑問が解けてホッとしました。

- ・宿泊先での部屋割りもよく、班員がとても仲良くなれました。

6/10（日） 奥裾花

- ・まず鬼無里、奥裾花などという地名がどこに在るかも知りませんでした。入園料を払ってから現地に着くまでの道のりの遠いこと。奥裾花溪谷の切り立った岩壁の連続には圧倒されました。

- ・園内には、みごとなブナの原生林が生い茂っていました。ここの池の中には、めったに目にする事のないモリアオガエルの卵やクロサンショウウオの繭玉のような卵が育っていました。

- ・今日のブナ林散策は、ここに棲む生き物探検です。冬眠から目覚めた熊は、ブナの花の蕾を食べて宿便を出し、谷間に山菜を食べに行くのだそうです。

- ・トチの花とマルハバチの持ちつ持たれつ

関係や、土の中の菌類がブナの子どもを育てることなど、自然界のすばらしい仕組みに驚かされました。

- ・ 坪田さんのお話はどれも興味深くて、なるほどと納得することばかり。楽しい時間はアツという間に過ぎました。
- ・ 二日間、一般市民の方々と行動を共にし、また来年を約束して名残惜しく別れました。



4班：参加者

岳人あびこ L：清家三保子、飯沼トミ子（連絡、会計、やまなみ）、村松敏彦、箕輪カオル（人数確認、救急）、原田和昭（記録、カメラ）

一般参加者 浅井芳郎、綿引美沙、佐伯祥江、吉板恒善、吉板富子、上野雄二

ブナの木とブナ先生

清家三保子

感想を書こうとペンを持つと、ブナの木とブナ先生がダブって浮かんでくる。お酒を片手にブナの実をかじりながら自然の中に一体化しているのだ。

ブナの木があって、昆虫が舞い、イモ虫毛虫がいて、大ナメクジもいる。ブナの実があって、小さなネズミ大きなクマも好んで食べる。人が食べてもおいしい。菌糸類、苔類、落葉、花たち、草、小さな木々、倒木、幼木全てに意味がある。そんなお話を聞きながら、このさわやかなグリーンの中を歩いていると、生きとし生ける物全てがいとおいしくなる。気

分もやさしく大らかになる。この様な素晴らしい計画を会員のみならず、市民に公開できた事は本当に良かったと思う。さらに感受性豊かな子供達にも、こんな体験を得る機会を作れたらと思う。

一般参加者の初対面の方達も、みんな以前からの岳人の仲間の気がする。これも大自然のなせるワザなのだろうか。

岳人あびこ「ブナ林への招待」 に参加して

山名＝カヤの平・奥裾花（北信濃）

参加者 熊沢幸隆

私たち夫婦は時々二人で山登りに行っています。「特技」は、ゆっくり登山、即ち歩くのがとても遅いのです。ですから、団体で歩くのが苦手で、ツアー山行は殆ど経験がありませんでした。

「岳人あびこ」が、市民参加の登山を催されているのは以前から承知していましたが、ゆっくり登山の二人には「高嶺の花」、参加された皆さんのお話を伺うだけでした。

ところが、今回の山行は、ブナ林歩きで高低差も少なく、都度説明を受けながら（ときどき休憩できるのだ～）『2～3時間の行程だから是非参加しては？』と「岳人あびこ」の方（飯沼さん）からお誘いを受け、どうしようか迷っていましたが、案内して下さる方が坪田先生と聞き、即座に参加をお願い致しました。

坪田先生には、平成13年9月にやはり「岳人あびこ」の主催で、田部井先生との講演会がありました時に初めてお目にかかり、お話を拝聴しました。坪田先生からブナの魅力についていろいろ説明していただきました。また、お仕事の合間をみて全国のブナ林を飛びまわっておられる情熱には敬服いたしました。私たち夫婦もブナの木には以前から多少なりとも興味がありましたので、坪田先生の著書「ブナの山旅」を購入し、山行きの際には、ブナ旅をも組み入れてみたいと思っていましたが、なかなか実行に移せずにいましたので、今回は大変良い機会と思ったのです。

山に入れば当然の如く木や林・森は沢山あります。その中でもブナ林は特に素晴らしいと云われていますが、私は他の林、例えば、

白樺・ダケカンバ・ミズナラ・或いはカラマツ林なども同じように素晴らしいと思って観ていました。そこで、今回の山行目的「ブナ林への招待」で、ブナ林の更なる魅力に触れ、他の林との違い・特徴などからブナ林の理解をより深めたいと期待しました。

当日の長野地方の天気は、降雨確率が非常に高い荒れ模様との予報を聞き、皆さんの歩行スピードについて行けないのでは、と心配していました。ところが、前線が南下した為なのか、二日とも薄日が出る程の「登山日和り」に恵まれ、新緑の光の中で坪田先生のお話をじっくりとお聞きすることが出来ましたのは、何よりもラッキーでした。(我孫子では、一部の道路が水没する程の大雨だったようです。)

坪田先生のお話から、私たちが今まで抱いていたブナ林に関する疑問が解け、理解が一層深まりました。

その1、籠坂峠—三国山（神奈川県）で、ガスのかかった薄暗いブナ坂峠を歩いていた時、ポツリポツリと雨が降り出し、やがて大粒になったので慌てて合羽を着込みました。しばらく歩いていると小降りになったものの、すれ違う人達は不思議なことに雨具をつけていないし、濡れている様子は全くありませんでした。合羽を着用しているのは私たちだけ。この現象を「樹雨」と呼ぶことを知りました。相模湾から駆け上がって来る霧がブナの枝に結露した結果、合羽を着なければ、と思わせる雨を降らせたのです。

その2、玉原高原のブナ林を歩いている時も雨が降ってきました。下山口に近かったので傘だけをさして足早に歩いているとき、ブナの幹を（誇張した表現かも知れませんが）小さな滝のように水が流れ落ち、まだ乾いている登山道に流れ込んで来るのです。この現象は、ブナの葉一枚一枚が受け止めた雨を、自らの枝・幹を通じて根の周りに誘導するのだそうで、「木雨」と呼び、ブナの特徴であることを知りました。

その3、次も玉原高原で、ブナ林の中央近くに「ブナ地蔵」と呼ばれるブナの大木があります。ブナの幹の一部がコブ状に盛り上がって、まるで地蔵さんのような形になっています。どうしてこんな形になったのか不思議に思っていましたところ、これはブナが自らの強度を高める為の裏技であることを知りました。

その4、新潟松之山町に「美人林」というブナ林があり、つい名前に誘われて行ったのですが、ハッキリ云って、どうしてここが「美人林」なのか？どうして「美人林」とネーミングされたのかが分かりませんでした。カヤの平で、毎年数メートルの積雪によって木肌の地衣類が削り取られ、白くお化粧するのだ、と説明を受け、なるほどすっきり立った白い木肌のブナから「美人」と云う名にふさわしいたたずまいを感じました。もう一度「美人林」に行ってみたくてじっくりと観たい気持ちになりました。

その5、ブナの葉は、日本海・太平洋側の環境によって大きさを変える話。古代ブナと現代ブナとでは葉の形が違う、その古代ブナがここカヤの平で見つければ“大発見”とのこと。見つけました「古代ブナの葉」を！しかし、坪田先生の鑑定では、「古代ブナもどき？」とのことでしたが、私は自分ながら「古代ブナの葉」と確信し、ラミネートしてお宝として保存しておきたいと思っています。

その他、坪田先生にはブナの花・実・地衣類やキノコ、昆虫や獣、また根周り穴や気象に関するお話、そして縄文時代から我々の祖先がこのブナ林の中で自然と共存して生活を営んできたお話など、ブナ林の中の適所で大変分かり易く、そして情熱を込めて説明を施して戴きました。お蔭様で、私は僅かではありましたが、ブナ林からの生命の息づかいを感じ取ることが出来、また、自然現象を通してその豊かな自然の恵みを感じることが出来るようになったと思います。今後、私たち夫婦の山行は、単に山に登るだけでなく、森行・林行を「自然の一員」として、坪田先生のお話を思い出しながら、ゆっくり、ゆっくりと楽しみたいと思っています。

最後になりましたが、「岳人あびこ」のスタッフの皆さんによる支援活動のお蔭で、参加者全員が無事に、そして楽しく山行目的を達成できたことを心より感謝いたします。そして、その成果は予想を上回るものであったと確信しつつ、本当に有難うございました。

以上

< 5 4 2 >

谷川岳
(1963m)

原田和昭

第一日目、魔の山「谷川岳」を望む

今年度から始めた目的別山行の「花と写真」山行です。快晴の天気恵まれて昼過ぎに我孫子駅前を出発。私が運転するレンタカーは13kmしか走っていない新車。乗り心地は満点、交通渋滞もなく宿泊地白樺小屋に到着する。荷物を小屋において魔の山「谷川岳」のマチガ沢と一の倉沢の急峻な岩壁を見上げる場所に到着。あの岩峰で多くの登山仲間が尊い命を亡くしたことを思うと暗い気分になる。日暮れに近い時間なのに岩壁には登山者が張り付いている。上空ではヘリコプターが旋回して今日も転落事故があったらしい。危険な岩壁を安全に登ってもらいたいと願いながら、早めに切り上げて小屋に帰る。白樺小屋はリーダーの仲間が所有する快適な小屋でした。

第二日目 花と快晴のパノラマ

昨日に続いて快晴。谷川岳ロープウェイ水上駅から一番のロープウェイで天神平駅に上る。早朝の冷たい空気がひんやりと爽やかに感じる。天候に恵まれたため写真を撮る人も多く登って来ている。天神平からは谷川岳や新緑に覆われた白毛門と朝日岳が目の前に広がっている。

準備運動をしてから行動開始。始めはトラバース道の木道が敷いてある道を歩くので滑り易い。花と写真をテーマとしているので花が咲いていると立ち止まる。後から来る登山者に道を譲りながらの歩行。熊穴沢避難小屋を過ぎたあたりから花が増えてきた。樹林帯を過ぎると覆土が流されて竹や木の根っこが露出して急登の岩場が出て来る。右に西黒尾根の稜線が迫って来る頃から積雪が出て来た。残雪は予想以上に多いがロープに沿って慎重に登る。雪渓を登りきると肩ノ小屋である。

肩ノ小屋で一本を入れてからトマの耳に向

かって登る。トマの耳からは、昨日下から見上げたマチガ沢の岩場が良く見える。尾根筋に沿ってトマの耳から富士浅間神社の社まで行って一の倉沢を望む。登山者が岩場を登っているのが良く見える。頂上から望む360度のパノラマは遠く富士山から南アルプス、北アルプス、日光白根、尾瀬の山、越後駒ヶ岳等多くの山々を見ることが出来た。谷川岳には何度か登ったことがあるが、こんなに良い天候に恵まれたのは初めての経験である。

尾根筋付近は高山植物の宝庫と言われるほど多くの花が咲いていた。花と写真を楽しんだ後は肩ノ小屋まで引き返すとあたりは登山者で賑わっていて落ち着かない、少し小屋から離れた静かな所で昼食をする。

リーダーの話では25種類の花に出合ったようですが、私の記憶に残った花はシラネアオイ、ナエバキスミレ、ホソバヒナウスユキソウ、ハクサンイチゲ、ムラサキヤシオツツジで、どの花にもカメラを向けて撮って見たが思う写真は撮れていなかった。写真技術が未熟なので再度挑戦したいと思っている。

昼前頃から気温がどんどん上がり夏日を思わせるほどになる。下山路は雪渓の有る場所は滑り易いので注意しながら下り、その後は登って来た道なので順調に下山する。

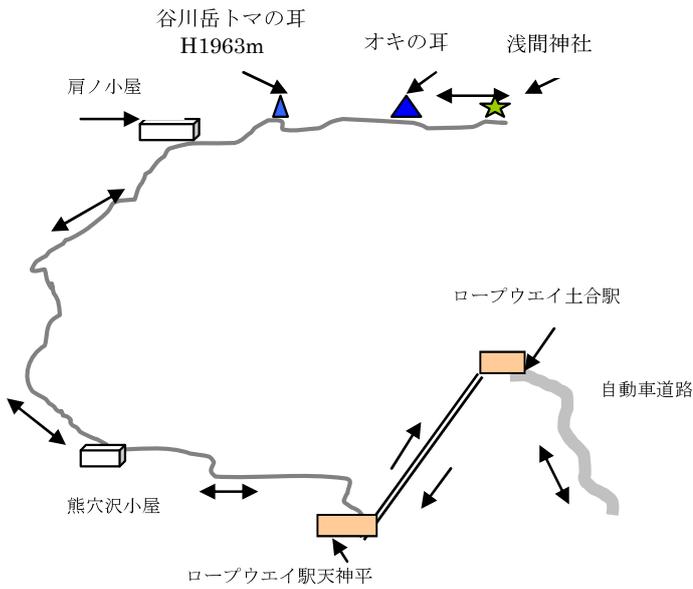
天神平からはロープウェイを利用し車も交通渋滞にはまることなく予定時間には柏に到着する。

天候に恵まれて魔の山「谷川岳」の花と緑を存分に堪能することが出来た二日間でした。リーダーと仲間に感謝します。



ハクサンイチゲ
バックはトマの耳。

谷川岳ルート概略図



人の少ないオキの耳で
(越後駒をバックに)



概要

山名	谷川岳		
月日	平成19年6月16日(土)~17日(日)		
形式	山麓1泊	グレード	2B
山域	上越国境	地形図	水上、茂倉岳 1/2.5万
目的	谷川岳山頂付近(トマの耳~オキの耳)の花を楽しむ		
費用	10,300円(交通費+宿泊食事代)	交通機関	レンタカー、ロープウェイ
日程コース	1日目	我孫子駅北口集合 13:00 車発 13:05 → 柏 IC13:25 → 高坂 SA14:20/14:35 → 水上 IC15:40 (食料購入) → 谷川温泉白樺小屋着 16:15 (泊)	
	2日目	白樺小屋 5:30 → (車) → 谷川岳ロープウェイ駅 5:50/7:00 → (ロープウェイ) → 天神平駅 7:10/7:20 → 熊穴沢避難小屋 8:12/8:22 → 休憩 9:07/9:12 → 天神ザンゲ岩 9:37 → 肩の小屋 9:50/10:00 → トマの耳 (1963m) 10:10 → オキの耳 10:35 → 富士浅間神社奥の院 10:50/11:00 → 肩の小屋 11:35/12:00 → 熊穴沢避難小屋 13:05/13:15 → 天神平 → (ロープウェイ) → ロープウェイ駅 13:55/14:10 → 水上 IC15:10 → 寄居 PA16:03/16:33 → 柏 IC18:20 → 柏レンタカー会社解散 18:45 <行動時間:6時間35分 歩行時間:5時間25分 休憩時間:1時間10分>	
ルート状況	<ol style="list-style-type: none"> 1) ロープウェイの土日曜の一番は7時発、切符の発売は5分前。駐車場500円。 2) 熊穴沢までは快適なトラバース道 3) 肩の小屋下の雪田の雪は多く、東側にトラロープが張ってある。雪が硬いときは出来るだけ西黒沢側を歩く。下りはスリップに備え経験者が下で安全対策を取るように。 4) トマの耳~オキの耳間はマチガ沢側に落ちぬよう。富士浅間神社では一ノ倉沢側に転落せぬように。 5) 天神尾根は人も多く、オキの耳まで足を延す、肩の小屋から万太郎方面で休むなどちょっとした工夫でゆったり my 谷川岳を楽しめる。 		
参加者	高橋重(L)、中村八(SL)、田村、日下、斉藤、榊原、原田君、柴田、安田、大島、藤倉、瀬田、品田、原田和 男4名 女10名 計14名		

< 5 4 3 >

大雲取谷

青山 寿子

釣屋と虫に悩まされた遡行

5年前、川下リーダーの大雲取谷に参加して以来、2度目の大雲取谷遡行だった。

昨日の真夏日とは異なって、薄雲りの為気温が上がらない朝7:00遡行開始となり、長沢谷と大雲取谷の合流点では前回同様に記念撮影する。

大雲取谷に入ってから、奥多摩の沢特有のへつりが多くなり気持ちよく遡行を続けると水流が切れゴーロ帯となり、右岸に大崩壊跡が出現する。大崩壊の土砂の為沢が埋まり、流れを堰きとめて出来たダム湖が出現する。

先行者の釣屋が2人、ダム湖のほとりで休憩していて、これから釣り糸を垂らす予定だったらしく、堀口リーダーがダム湖の傍に近づくと「魚が逃げるじゃないか、何しているんだオッサン！」と罵倒されリーダーは泳ぐのを諦め、崩壊した右岸を高巻き為登り始めるが、ダム湖への落石が心配の為高巻きを諦め下り始め、少し戻って左岸を高巻する事になるが、私達女4人は「アンタ釣屋だけの沢じゃないのよ！」と口々に非難をする。

自然は釣屋と山屋が仲良く共存して遊ぶフィールドだと思うのになんてマナーの悪い釣屋なんだろう。

その後S字峡で出会った若い釣屋は私達が通過する時に「昼食は1時間位取るのですか」と聞いてきたので「特別に昼食の時間は割きません」と返答したが、私達より先行し釣をする為の問い合わせだと解り、その場で昼食時間を設けることにして先行してもらった。こんな謙虚な釣屋もいるのにダム湖の中年2人の釣屋はナンナダ！

時間切れの為、芋ノ木窪から大ダワ林道に逃げる予定が大ダワ林道を見落とし、二軒小屋尾根に突き上げた頃は雨模様となり、二軒小屋尾根～芋ノ木ドッケ～大ダワ～大ダワ林道～駐車場と長い尾根歩きとなったが、雨模様の中の高巻、尾根歩きのため、虫刺されを

下山後の入浴で発見。当日はかゆみはなかったが、翌日から数日痒くて痒くて参った。

虫の種類は由布さんによると蛇や蝸ではなくヌカカではないかと。東北の山では虫に悩まされるが、奥多摩の沢で悩まされるとは予想外であった。

概要

山名	大雲取谷		
月日	平成19年6月23日(土)夜～24日(日)		
形式	夜行日帰り	グレード	3D
山城	奥多摩	地形図 1/2.5万	雲取山
目的	大水量の豪快な沢を楽しむ。 前夜の宴会も楽しく懇親を深める。		
費用	7,000円 (反省会費用を除く)	交通機関	自家用車
日程コース	1日目	我孫子北口 18:10→奥多摩駅 20:40 (懇親会・就寝)	
	2日目	起床 4:50→奥多摩駅 5:30→林道日原線終点・駐車 6:51→長沢谷入渓 6:55→大雲取出合 7:55→第一崩壊 8:10→第二崩壊(ダム湖) 8:27→高巻き終了 9:00→7m二条滝 10:45→小雲取谷出合 11:20→昼食 11:40/55→芋ノ木窪出合 12:13→尾根に上がる 12:50→芋ノ木ドッケ 14:45→大ダワ林道出合 15:23→長沢谷入渓点 16:46→林道日原線・駐車 17:00→もえぎの湯入浴・食事 18:16/20:00→我孫子 22:00 <歩行時間：9時間51分>	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 林道日原線の長沢谷入渓点の所で車の通行止めになっていたの、確認しやすかった。 大雲取谷の崩落がひどく、以前の苔むした静かな沢とは一変していた。 		
参加者	堀口(L)、千葉、青山、佐藤明、由布 男1名 女4名 計5名		



概念図



白いしぶきがとてもきれいな滝。



< 5 4 4 >

袈裟丸山
(前袈裟丸山 1878m)

坂口よし江

ユキワリソウを訪ねて

6月23日(土) 一日目

わたらせ渓谷鉄道沢入駅を下車し、登山口まで1時間程の林道歩き。途中、登山口に向かうタクシーを何台か羨ましく見送りながら汗をかきかき緩やかな上り坂を歩き、塔ノ沢登山口に到着。登山口にはトイレがあり、車を駐車するスペースもあった。

沢沿いの気持ちの良い登山道を何度も沢を渡り返して登って行く。この道なら夏でも涼しく登ることができそう。塔ノ沢は利根川の源流なのだそう。

沢を右に左に見ながら進み、沢の左の急斜面を登っていくと寝釈迦に辿り着いた。自然石に彫られたという涅槃像は大きくなにやらほほえましい感じ。対岸の山には相輪塔という自然岩でできた塔が新緑の中に見える。さらに沢沿いの道を進み笹の斜面を登ると、新旧2つの避難小屋と崩れかけたトイレがあった。そこからツツジの林を登ると賽の河原と呼ばれる場所に着く。黒っぽい石が積まれていて地蔵尊も安置されている。死んだ子供を濟度したという弘法大師にまつわる伝説があるそう。

賽の河原から先は、ツツジに囲まれた緩やかな登りで、5月の花の季節にはきっと素晴らしいに違いない。

程なく小丸山山頂に到着。開けていて周囲の展望がすばらしい。皇海山・日光白根山を見ることができた。

小丸山から急な坂道を下ると、小丸山避難小屋がある広場に出る。ダケカンバ林の広場に黄色い蒲鉾型の鉄製の避難小屋で狭くて窓もなく中に入るのは躊躇われる感じ。避難小屋は使わずに持参のテントで休むことにして、広場の一角に今晚の宿を設営する。トイレもあるのでとても安心。

南斜面へ下ると水も取れるということなので、早速水汲みに出た。確かに沢はあったが水量が少なく汲むのに時間がかかるのと鹿の水のみ場となっているようで鹿の糞が沢の近くに散乱しており少々衛生面での不安を感じたが、仕方がない。火を通して使うことにして皆で手分けして水筒に汲んだ。

6月24日(土) 二日目

お天気はまずまず、前袈裟丸山(袈裟丸山)を目指し、5:00出発。笹に深く覆われた緩やかな道を登る。登山道沿いに桜の木が生えていて開花の時期にはきっと綺麗に違いない。シャクナゲがちらほらと出てくると急斜面の始まりだ。木の根に掴まって大きな段差を乗り越える。ようやく、前袈裟丸山山頂に到着。山頂は、シラビソなどの針葉樹林とシャクナゲが群生している気持ちの良い所で一等三角点も置かれており

南面が開けているので展望も良い。

後袈裟丸山へと向かう登山道は、シャクナゲの大群落が続く、名残の花が数輪咲いている。5月の花の季節にはとても見事だろう。前袈裟丸山と後袈裟丸山との鞍部、八反張のコルは風化が進んでいて両側が切れ落ちていて通行には注意を要する。その切れ落ちた斜面に本山行の大目玉、ユキワリソウの可憐な花が群落を作っていた。紫色のかわいい花はまさに見ごろで一服の清涼剤。

足元の悪い急な斜面を登り、笹の原を抜けて後袈裟丸山山頂に到着。狭い山頂で、休憩するのも到着かない。今日は、長い林道歩きが控えているので、なんとなく気ぜわしく早々に山頂を辞し、群界尾根へと下山を開始する。群界尾根は明るくてのびやかなコースで歩いていても気持ち良い。シャクナゲやシロヤシオの花は咲き終わったばかりで残念だったが、林床の笹、シラカバ、ブナ林の緑が美しく心を和ませてくれる。

群界尾根は人気コースらしく、登ってくる多くの登山者と出会った。下山口から小中駅まで、3時間弱の林道歩きが始まる。途中、道の脇に木いちごが群生して黄色い鈴なりの実をつけていた。電車の時間を気にしながら、木いちごの実を摘んでは食べ摘んでは食べを繰り返し早足で歩き続ける。その長いこと、結局予定の電車には乗れそうもないことが判明し、途中で休憩を取った。

無人の小中駅に着くと、雨が降り出した。

近所のお店でビールとおつまみを調達し、駅のホームの待合所でささやかに打ち上げ。1時間後に来た、わたらせ渓谷鉄道で水沼駅へ出て、ここで一時下車し駅の温泉で汗を流した。

袈裟丸山は、予想以上に大変すばらしい山。長い林道歩きには少々食傷気味になったけれど、5月のツツジやシャクナゲの花が咲く頃にまた訪れてみたい。そんな素敵な山でした。



概要

山名	袈裟丸山		
月日	平成19年6月23日(土)～24日(日)		
形式	テント	グレート	3B
山城	足尾山塊	地形図 1/2.5万	沢入・袈裟丸山・上野花輪
目的	① ユキワリソウに逢う。 ② シロヤシオとシャクナゲの咲く尾根歩き。		
費用	5500円	交通機関	JR、私鉄
日程コース	1日目	我孫子駅 5:30→北千住 6:04 (東武伊勢崎線) →太田 7:39/7:43 (東武桐生線) →相老 8:06/8:14 (わたらせ渓谷鉄道) →沢入駅 9:11/9:23⇒小中西山線 (林道) との分岐 10:30⇒塔ノ沢登山口 10:55/11:00⇒寝釈迦像 12:15/12:25⇒賽の河原 13:55/14:05⇒小丸山 15:00/15:15⇒小丸山避難小屋 15:30 テント泊 <行動時間:約6時間のうち車道・林道歩き約1時間30分>	
	2日目	テント場 5:00⇒前袈裟丸山 6:00/6:05 ⇒八反張のコル⇒後袈裟丸山 6:45/7:05⇒郡界尾根 1415m地点 8:50 ⇒下山口 9:20/9:35⇒追付橋 11:30⇒小中駅 12:20/13:22 (わたらせ渓谷鉄道) →水沼駅 (入浴) 13:37/14:51→相老 15:23/15:43→太田 16:11/16:25 (特急りょうもう32号)→北千住 17:42/17:49 →我孫子駅 18:10 <行動時間:7時間20分のうち林道・車道歩き約2時間30分>	

ルート状況	小丸山避難小屋のある平坦地はテント場に最適。トイレが設置され、南斜面に水場がある。カマボコ型の小屋は狭く、4人で満杯。 前と後袈裟丸山の鞍部、八反張のコルは、両側が切れ落ちているので要注意。このような崩壊地に、ユキワリソウが一面に咲いていた。
参加者	外崎 (L)、武内、高橋芳、坂口 男1名 女3名 計4名



袈裟丸山山頂にて

概念図



< 5 4 5 >

秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山

(1637m) (1613m) (2038m)

柴 勇

山の楽しみは無限

《1日目》

息子の家庭の事情で1ヶ月八戸の息子の社宅に居て孫たちの面倒を見ていたが、お別れして今日上野から新幹線でやって来る人たちと盛岡で合流した。

田沢湖駅ではやまの詩の主人が迎えてくれた。早速送迎車に乗り登山口に向かった。ここからは、シャトルバスで8合目まで行くことになる。途中ブナの林がきれいだ。8合目には避難小屋があり不要な荷物をここに置き冷たい水を出納に詰め軽くストレッチをやって男女岳に向かう。民宿の主人がボランティアのガイドを付けてくださったので、山に詳しい2人のガイド付の楽しい山旅となった。ガイドの後藤裕紀さんは、北上市から今朝車でやってきた環境省認定のボランティアである。

片倉岳で昼食をとる。ここからは田沢湖が展望できるところだがあいにくの曇り空で見ることは出来なかった。

男女岳に到着するまでに出会った花は、アカモノ、オオバキスミレ、ハクサンチドリ、ミヤマセンショウズル、モミジカラマツソウ、ウラジオウラク、ツマトリソウ、マイズルソウ、エゾツツジ、イソツツジ、コバイケイソウ、サンカヨウ、キンボウゲ、ムシトリスミレ、ミヤマダイコンソウ、ニッコウキスゲ、イワカガミ、ミツカシワ、チングルマ。



ムーミン谷にて

男岳から駒池にかけては、ルートの上側にシラネアオイが群生し、続いてチングルマが密生している。駒池の辺りは、誰が言うとはなしに、『ムーミン谷』と呼ばれるようになったという。霧に覆われてそれらしい雰囲気があった。

大焼砂から横岳にいたるルートの上側には、砂礫地特有のコマクサが少し高いところに、タカネスミレのお花畑が広がる。

民宿のご主人の取り計らいで、下山の時間を気にせずに花の観賞と撮影にこころ行くまで楽しむことが出来たこと、ガイドブックにはない説明をしてもらえたこと。心から感謝したい。

温泉は、すぐ近くの水沢温泉、乳白濁の温泉で地元の人も乳頭温泉に負けず劣らずいい温泉だと言っていた。食事も満足する内容だった。

《2日目》

朝早い時間の八幡平までのバスがないので取り合えず、田沢湖畔まで民宿車で送ってもらい路線バスで玉川温泉まで行くことにした。ここには、何年前かに大島さんが訪ねたことがあり、岩盤浴が誰でも出来るということで皆で温泉饅頭を食べながら岩盤浴をしばし楽しんだ。日帰りから、1週間、又は、長期の湯治の人がムシロの上で寝転んでいた。

途中の大場谷地にはニコウキスゲ、エゾツツジが見事満開であった。

八幡平は、観光客も多い。ガマ沼にいたるまでにハクサンチドリが色よく、形良く多く見られた。八幡平山頂からは展望はない。来た道に戻って、ガマ沼を展望できる展望台で私たちは、車座になって昼食をとった。とても完食できそうもないほどの大きいオムスビと色んな副菜それにデザートに草もちであったが全員がペロリ……。体調の快適さは証明された。

源太森までのルートには、ヒナザクラ、チングルマの群生が続いていた。源太森からは、これから登る茶臼岳が展望できた。岩手山は雲に隠れていた。ここで、シルバコンパスでこれから行く茶臼岳の方角を確認した。

黒谷地湿原には、池糖が点在し、ワタスゲ、イワイチョウが見事。かえるの声ものどか。熊ノ泉は、確認できなかった。茶臼岳に着くとちょうど岩手山の雲がとれて山頂まで展望できたので、急いで岩手山をバックに記念写真を撮った。茶臼岳からは熊沼、石ガタ沼、夜沼が綺麗。モッコ岳を山座同定の復習のつもりでやってみる。

民宿への途中松尾鉾山(昭和40年代まで、硫黄、銅を採掘生産していた)のあったところに立

ち寄る。1万人が住んでいたという鉱山町で体育館、集合住宅が幾棟もガラス戸のガラスが割れ又はなくなり、コンクリートの壁は、鉄筋がむき出しになっていて、産業構造の移り変わりを複雑な気持ちで実感した。今は、排水処理設備だけがむなしく稼動していた。

《3日目》

今日が1番体力を要する岩手山。おまけに天気予報は、午後から雨。なんとか山頂を踏むまでは、雨が降らないように祈るだけ。登山口からまもなく『改め所』があった。登山の適否を何を基準に決めたのか。1合目までは結構長い。ミズナが多く見られブナも時々見られた。7合目までは、登り勾配がややきつい。4～5合目にかけては、イソツツジ、オダマキが多く見られた。5～6合目は、カラマツソウ、6～7合目は、サンカヨウ、シラネアオイ、カラマツソウ、ウコンウツギが多く見られた。

7合目から9合目にかけては、ほとんど平坦で歩きやすい。8合目避難小屋に不要なものを置いて少しでも身軽にして山頂を目指した。山頂登頂時はもちろん下山まで晴れていて、昨日の八幡平、茶臼岳が展望できた。

3日間とも花畑、天気、民宿、温泉食事すべて満点であったのであともう少しというところで気のゆるみが出て、6合目を下ってまもなくの所でスリップし転倒したときに骨折事故を起こしてしまった。荷物を分担し、新聞紙、テープ、ひざ用サポーターで応急処置をして、片腕を支えてもらい右手にストックをもって、時間内には予定の時間内には下山できた。この事故だけが悔やまれた。

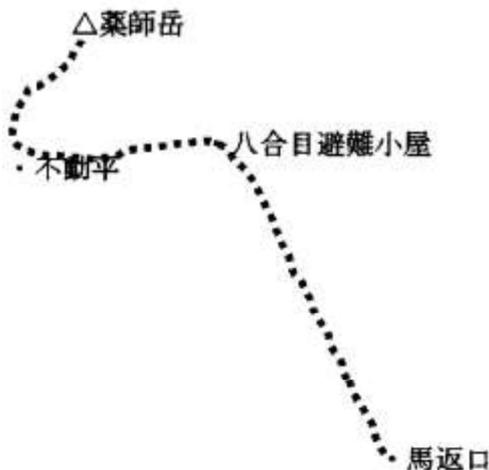
概念図《秋田駒ヶ岳》



概念図《八幡平》



概念図《岩手山》



岩手山山頂にて



茶臼岳山頂にて



概要

山名	秋田駒ヶ岳・八幡平・岩手山		
月日	平成19年6月30日(土)～7月2日(月)		
形式	山麓宿泊	グレート	3B
山域	東北	地形図 1/2.5万	茶臼岳、八幡平、大更、松川温泉、篠崎、姥屋敷、秋田駒ヶ岳、国見温泉
目的	花の100名山と温泉 花と写真を楽しむ		
費用	約30,000円 (民宿2泊 6食飲み物)	交通機関	JR、バス、 民宿送迎車
日程コース	1日目 我孫子 6:12→上野 6:45/7:02→(新幹線こまち1号)→盛岡 9:24→田沢湖畔 9:57/10:02→(民宿送迎車)→登山口(シャトルバス)10:18/1044→秋田駒ヶ岳 8合目小屋 11:10/11:25⇒片倉岳 11:55/12:10(昼食)⇒阿弥陀 12:55⇒阿弥陀小屋 13:00/13:07⇒男女岳 13:20/13:30⇒阿弥陀小屋 13:40/13:43⇒男岳 14:05/14:16⇒横岳分岐 14:27/14:32⇒駒池 15:02/15:08⇒大焼砂 15:23⇒横岳 16:00/16:12⇒阿弥陀小屋 16:23⇒片倉岳 16:47/16:50⇒8合目小屋 17:08/17:30→(民宿車)→民宿 18:05(泊り) 天気：曇り <行動時間：5時間43分(写真撮影・休憩含む)>		

2日目	<p>民宿 8:00→(バス)→田沢湖畔 8:07/8:16 (バス)→多摩川温泉 9:26/1046(バス)→八幡平頂上駅 11:40⇒登山口 11:53⇒ガマ沼 12:13⇒八幡平頂上 12:23/12:30⇒ガマ沼(昼食)12:35/13:05⇒源太森 13:33/13:45 黒谷地湿原 14:20/14:30⇒茶臼小屋 15:10⇒茶臼岳 15:15/15:45⇒茶臼岳登山口バス停 16:20/16:30→民宿(泊) 天気：晴れ<行動時間：4時間25分(写真撮影・休憩含む)></p>
3日目	<p>民宿 6:00→馬返し登山口 6:37/6:55⇒旧道分岐 7:27⇒1合目 7:41⇒2合目 7:55/8:00⇒3合目 8:15⇒休憩 8:23/30⇒4合目 8:33⇒5合目 8:52/9:00⇒6合目 9:23/9:30⇒7合目 9:55/10:05⇒八合目避難小屋 10:10/10:20⇒不動平 10:37⇒岩手山山頂 11:15/11:55⇒不動平 12:13⇒八合目避難小屋 12:25/12:40⇒7合目 12:43⇒6合目 13:00⇒5合目 13:30⇒2.5合目 14:42⇒旧道分岐 15:24⇒馬返し登山口 15:50/16:00→(タクシー)→盛岡 16:50/17:40(新幹線はやて26号)→上野 19:02→我孫子 20:05 天気：晴れ <行動時間：8時間55分(写真撮影・休憩含む)></p>
ルート状況	<p>《秋田駒ヶ岳》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8合目小屋は、水場(水量豊富)、水洗トイレがあり、2階に20人位泊ることができる新しい小屋で、毛布も少し置いてある。 ・ 阿弥陀小屋は、トイレもあるが故障中。 ・ 男岳から駒池への下りは勾配がきつい。 ・ 大焼砂の登りは、砂礫帯で登るたびに足がすべり登りにくい。 <p>《岩手山》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登山口には、水洗トイレ、水場がある(水量豊富)。避難小屋もある。 ・ 8合目避難小屋は、夏季は、管理人が常駐するが食事はない。120人は泊れる。水洗トイレあり。水場あり。 ・ 1合目から7合目までは、勾配がややきつい。新道コースを選んだ。 ・ 不動平から山頂までは、砂礫帯で足元がすべり右側の登りのほうがやや登りやすい。
参加者	<p>柴(L)、安田(SL) 細野清、細野省、大島、小川誠、小松 男子4名、女子3名 計7名</p>

< 5 4 6 >

武甲山
(1304m)

早川不二子

梅雨の時期、天候を気にして迎えた山行の日、まずは雨が降っていないことを確かめホッとす。

我孫子から日暮里、池袋を経て特急秩父号に乗り、横瀬駅で下車。改札を出ると右手に山肌があらわに削り取られた白っ茶けた山が目飛び込んで来た。良く知られている“秩父セメント”になる石灰岩を採掘している所なのだ。その山の裏側がこれから登る武甲山だと教えていただく。

タクシーに分乗して生川登山口迄行く。いよいよ登山。小川さんは記念すべきリーダーデビューの日。新人の私は足を引っぱらないようにしなければ・・・と思った。

しばらく清流の涼しげな音を聞きながら歩く。ほとんどが杉の木で「昼なお暗き杉の～」と歌われているように、ヒンヤリとうす暗い。

登山道に沿って何m間隔なのか、〇〇丁目と彫られた石柱があった。数字を読み上げながら歩く。確か地図によると52丁目が頂上だったはず、あと何丁目あると話しながら頑張る。足元がぬかるんでいる所あり、小石がゴロゴロしている所、木の根がとび出している所ありで歩きにくかった。それでも、視線を上に向けるとマタタビの白い葉、つるあじさいの白い花が濃い緑色の中に鮮やかだった。

半分ぐらい登ったあたりで杉の大木に会う。思わずワー！大きい！と声をあげる。さっそく両手を広げ手をつなぎ太さを計る。5人分あった。どれ位の間ここに佇んでいるのだろう。“氣”をいただいて再び頂上を目指す。

頂上付近になると霧がかかっていてさらに夕方のように暗くなった。杉林の中から空が開けて来て頂上に着いた。小川さんと握手をする。まずは「お疲れさま」でした。“南をのぞく展望よい”ということでしたが、霧に覆われて見ることが出来ず残念。

汗をかいたところに冷たい空気。雨もパラ

パラして寒かった。それでも楽しく昼食をとる。食後には小川洋子さんが焼いてきてくれたケーキをいただく。とても美味しかったです。ごちそうさまでした。

小雨も止んで今度は浦山口へ向かって下山です。冷えた体も動き始めるとすぐ汗ばんで来た。食後30分は事故が多いらしい。充分足元に気を付けて下る。上りのように地面は湿っていなかったが長い下りに爪先が痛んだ。

明るい場所に出ると、バラぐみ(木いちご)がたくさん実を付けていた。食べ頃はもう少し先。子供の頃摘んで食べたのを思い出した。左斜面からはさわやかな風が吹き上げ、右はカラマツ林、所々にはうす紫のホタルブクロが可愛く咲いている所もあった。自然の花々を見るのはとても気持ちいい。このあたりは軽快に下る。

しばらくすると溪流の音が聞こえて来た。小滝もある。少し深くなっている所では釣をしている人を見かけた。何の魚が釣れるのかな？イワナ？マス？とっても綺麗な水なのだ。武甲山登山口に下りる。しばらく一般道を行き、浦山口には早目に到着。秩父鉄道お花畑駅から少し離れた西武秩父駅前にて反省会。しいたけラーメンでお腹を満たす。初めての味だがなかなかの美味。和やかなうちに反省会を終え駅へ。運良く15時31分の急行に乗ることができた。

照りつける日差しもなく曇り空の山行、恵まれた山行だったと思う。小川さん！初めてのリーダーお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。



リーダーから補足 小川誠二郎

頂上の標高の表示は1336-41+9（つまり1304）。セメントの原料を取るため山を削り、頂上が下がり、石を積んだ。登山道は頂上の御嶽神社の参道になっており、生川の登山口（540m）の1丁目から頂上（1304m）の52丁目まで、石碑で何丁目とそれぞれ表示している。（標高差764m）。目的は、「夏場の低山」。1Aとしたが、2Aとの境目かとの印象だった。

（登り2時間05分、登りとは別のルートの下り2時間35分、標高差764m）。

概念図



概要

山名	武甲山		
月日	平成19年7月7日(土)		
形式	日帰り	グレード	1A
山域	奥武蔵	地形図 1/2.5万	秩父
目的	夏場の低山		
費用	3,800円 (含反省会費)	交通機関	JR、西武池袋線、タクシー
日程コース	我孫子駅 5:31→日暮里→池袋 6:20/西武池袋 6:50 (特急秩父号) →横瀬 8:09 →タクシーで生川登山口 8:25/8:35→大杉 9:50⇒御嶽神社 10:35⇒武甲山頂上 10:40/11:20⇒杉林急坂下山道に入る 12:27⇒登山道入り口 13:05⇒浦山口 13:55/14:09→秩父鉄道お花畑駅 14:17 →西武秩父駅前にて反省会/西武秩父駅 15:31→池袋 17:20→我孫子 18:20 <歩行時間: 4時間50分>		
ルート状況	○頂上の御嶽神社の横に立派なトイレがある。 ○頂上の御嶽神社の裏手が本当の頂上・展望台。そこへの案内表示は親切でない。 ○下山道は急勾配のところあり、砂利道や湿って滑りやすい土の道が随所にあり、雨のときは難儀するであろう。 ○登山口に下山後は林道を浦山口まで50分歩く。それ以外は終始杉林中。		
参加者	A班：小川誠(L)、清家(SL)、松本、箕輪カ、箕輪完、藤倉、瀬田、早川、村松峯 B班：日下(SL)、外崎(SL)、中野、安田、原、高橋芳、小川洋、石黒省治 男5名、女12名 計17名		



武甲山頂にて全員集合



< 5 4 7 >

三ツ峠山 (富士山周辺)
(1786m)

石垣吉郎

夏山に向けて

今回の山行に参加した目的は、これから始まる夏山に向けて現在の体力がどれだけあるか計るためでした。

我孫子駅に総勢9名が集合。7月ともなると早朝から少々蒸し暑く先が思いやられると感じながら出発しました。

今回のコースは、三ツ峠山登山コースのバリエーションルートで、あまり一般の登山者は入っていないので楽しみにしていました。

順調に電車やタクシーを乗り継ぎ、登山口のけいごや橋で準備運動の後、沢沿いの道をゆっくり登ってゆくと外人さんを含む団体と遭遇。この団体は沢沿いの道を散策しているとのことでした。

我々は北口登山道に入り、沢筋を巻く様にしてついている少々荒れ気味の細い道をひたすら登り続けました。

夏の低山の特有の蒸し暑さも加わり、汗が噴き出してきますが、山全体が深い霧に覆われ気温が思った上がらないためペースは落ちませんでした。

沢沿いの道のため、時々かかっている橋など滑りやすく下りには適さない道だと感じました。

辛抱すること3時間。急に平になり花が見えると清八峠に続く登山道に合流しました。ここから山頂まではすぐ。頂上での昼食中は深い霧のなかで富士山は見えませんでした。

浅間神社に向けて下山を開始。途中までは天上山の道といっしょのため快適に下ってゆきますが、途中で母ノ白滝に曲がる道標がないのは注意が必要です。

下山道は全体になだらかですが、一部階段

があり疲れているからだには注意が必要です。

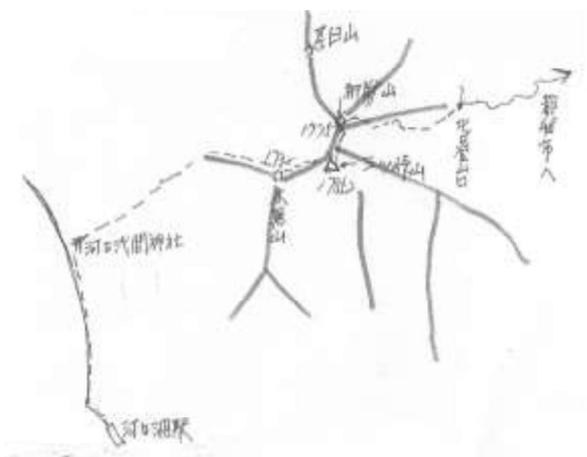
浅間神社に到着。杉の巨木に囲まれた社は、富士山の守り神をまつっているだけに、風格がありました。

ここから河口湖大橋を渡る1時間の車道歩き。脇を自家用車やバスがとおり過ぎる中、ひたすら駅を目指して前へ進むのみ。ここが一番疲れしました。

駅について電車に乗るとそこは楽園。乗った電車がイベント電車(ビール電車)で、車内が居酒屋さんではありませか。大月までの短い時間でしたが、一日の疲れが吹きでしまいました。いつの間にか所期の目的の体力測定はおろそかになり、次回にすることにしました。

リーダーさん暑い一日ご苦労様でした。

概念図



概 要

山名	三ツ峠山		
月日	平成19年7月8日(日)		
形式	日帰り	グレード	2B
山城	富士周辺	地形図 1/2.5万	河口湖東部
目的	富士の展望 高山植物		
費用	4,550円	交通機関	JR、富士急行、タクシー
日程コース	<p>我孫子 5:33→新松戸 5:49/51→西国分寺 6:46/55→高尾 7:21/26→大月 8:15/19→都留市駅 8:36/43→(タクシー)→大幡川けいごや橋 8:55(準備)9:00⇒北口登山口(衣服調整)9:25/28⇒猿遊岩 10:05⇒初滝 10:20⇒大滝 10:35⇒七福の滝 10:43/48⇒休憩 11:43/48⇒清八峠分岐 12:10⇒三ツ峠山 12:35(昼食) 13:00⇒木無山 13:25⇒母の白滝 14:45/55⇒浅間神社 15:15/20⇒河口湖駅 16:25/36→大月 17:35/38→新宿 18:53/19:01→日暮里 19:20/27→我孫子 20:03 <行動時間:7時間25分 歩行時間:6時間35分></p>		
ルート状況	<ol style="list-style-type: none"> 1) 松の植林の中のやや荒れ気味の登山道を登り始める。 2) 初滝より先は岩場コース。急登が始まり、平らな場所がない。はしご、鎖、ロープがかけられている。 3) 白竜の滝展望台は倒木で道がふさがれ、たどることができなかった。 注:登山ルートを探す。 4) 山頂は屏風岩の上部に当たる部分は鎖で囲まれ、崩壊を防いでいた。 5) 下山道はなだらかな山道だが、母の白滝付近は多くの階段が設置され、急降下。疲れている体には十分注意が必要である。 6) 母の白滝から登山道に戻る所は標識無し。不明瞭だった。 		
参加者	中村八(L)、高橋英(SL)、石垣、坂巻、細野清、細野省、原田君、原田和、矢野 男5名 女4名 計9名		



サンショウバラ(山椒薔薇)。ノイバラ、ハマナスなど、日本に自生する十数種の野生バラのうち的一种。葉や棘がサンショウによく似ているのでこの名がついた。富士・箱根地方にだけ分布する落葉低木。

三ツ峠山頂にて



< 5 4 8 >

焼岳～西穂高岳
(2393m) (2909m)

大串秀雄

3000m峰は濃霧の彼方

松本駅前のエスパ(我孫子エスパ姉妹店)地下から、ガラガラの上高地行きバスに乗り込む。新島々駅でも乗車する者がなく、定刻少し前に、上高地帝国ホテル前バス停に到着した。今回の山行は過去3回、悪天候のため中止を余儀なくされ、漸く、実施に至ったもの。天気が一番心配だったが、天気予報は良好、初日の空模様もまずまずで、取敢えず一安心(ところが実際には、3日間とも天候に恵まれず、最後は途中で引き返す破目に…早とちりを大いに反省した次第)。

新緑に覆われたホテルの横道を通り、田代橋脇の広場で先ずは腹ごしらえ。焼岳登山口は田代橋から林道を800mほど下ったところ。暫くの間、樹林の中の一本道を登ると、ほどなく峠沢に出る。稜線の溶岩帯から梓川にかけて、土石流でえぐられた大崩れの沢に、思わず息を飲む。見上げれば、岩峰が薄霧の中から出たり入ったり。数箇所の鎖場や梯子を慎重に通過し、最後に10数メートルの垂直梯子を登れば、小屋までは15分ほど。昭和初期に建立された焼岳小屋は樹林の中。意外にも小振りで、北アルプスの小屋と言うよりも奥秩父の小屋のようだ。トップシーズンの直前だったことと天候の影響からか、閑散状態。今夜の宿泊者は我々のみ。しかも久しぶりの泊り客…とか。労山割引き500円ありがたい。



焼岳小屋に到着。

夜来から雨。何となく空が重たい。それでも、日が昇れば予報どおり晴れてくるだろうと、高を括っていた。しかし、明け方になっても依然として霧雨状態。小屋の若衆が携帯電話の天気予報画面を見せてくれた。10時頃からは晴れ間が広がるようで、期待が膨らむ。雨が上がるのを小1時間ほど待って、予定より遅れて小屋を出発。10分ほどで展望台に出たがもちろん霧ばかり。暫くすると、僅かながら青空が見え始め、ひとまず雨の心配はなくなったが、山頂方向は真白な霧。溶岩ドームの垂直な岩壁を巻きながら、稜線に出る。分岐を右方向に、急勾配の溶岩帯を登る。時折、硫黄臭の生温かい風を感じながら山頂に出る。

焼岳山頂(北峰)は、残念ながら、360度すべて真白な霧。登頂禁止になっている直ぐ脇の南峰さえも見えない。穂高や槍、笠ヶ岳、乗鞍・御嶽…3000mの大展望など夢のまた夢。山頂直下の、硫黄がこびりついた排気口からは、ガスが噴出す。不気味な排気音や、一帯に漂う硫黄臭で、何となく落ち着けない。無風で寒さはないが、展望もない。記念撮影を済ませ、早々に山頂を後にする。山霧の中の登山道を、一気に焼岳小屋まで下降。

小屋で荷物整理を終え、焼岳小屋管理人に、崩落箇所、岩稜帯、笹藪の急勾配などのルート情報を再確認してから、西穂山荘に向かう。急登路の笹藪は昨夜の雨に濡れ、雨具のズボンにはビッショリ。泥濘の隘路はまるで田圃のようだ。割谷山中腹急斜面のガレ場では、登山道が10m近くにわたって飛驒側に崩落。鎖ロープなどの設置がなく、一人一人慎重に通過。樹林の中で展望がない。標識が整備されていないので、位置を正確に判断し難い。唯一の展望台、槍見台で初めて位置を確認できた。漸く霧が上がり始め、昼食をとりながら、霞沢岳全景と初対面。眼下には上高地…帝国ホテルの赤い屋根や田代橋も確認できる。常念岳～蝶ヶ岳と明神岳絶壁の間に、梓川の溪流が光る。ただ、正面に聳えている筈の前穂高～奥穂高～西穂高や、その後方に屹立している筈の槍ヶ岳は、残念ながら分厚い霧の彼方だった。登山者に会わない。焼岳中腹で単独行の女性ハイカーに行交っただけ。快調にと言うか、展望がなかったためか、予定より早くガスの中の西穂山荘に到着。暫し数組のハイカーと談笑。お互いに展望のなさを慰めあう。全ては明日に…。

早朝、玄関脇のインターネットポイント予報画面に目を凝らす。期待に反し、正午頃からは降雨予報。このため、計画を繰上げ、4時半から朝食(小屋弁当)をとり、5時過ぎに濃霧の中を出発。稜線上は濃霧と冷風。霧雨に濡れた岩稜路を慎重に登り、独標の岩峰に出た。何も見えない。360度真白。岩峰直下の登山道さえもガスの中に隠れていた。状況は一段と厳しさを増したようだ。全員で協議の結果、数時間後の降雨予報なども総合的に判断し、残念ながらここまでで断念。西穂高岳登頂は、安全を考え、独標地点での撤退を余儀なくされた。下山路では、ひとつがいの雷鳥が我々一行を見送ってくれた。まるで傷心を癒してくれているように思われた。

西穂山荘で記念撮影をし、直ちにロープウェイ山頂駅に向かう。皮肉にも、急にガスが上がり始めた。正面には、雲の切れ間から笠ヶ岳～抜戸岳～弓折岳あたりが望める。その右奥には裏銀座の山々が霞んでいた。暫くすると、独標、ピラミットピーク、西穂高岳の岩峰群が顔を出し始めた。一瞬ながら、最奥に槍ヶ岳の鋭鋒も望めた。焼岳全景と西穂山荘までの縦走路もカメラに収められた。最後の最後に、慈愛溢れる山々が、結構な土産を授けてくれたのかも…。

本山行は、平成16年から連続3年間、台風などで中止を余儀なくされていた。今年は、出発直前の天気予報によれば、台風一過で尻上がりに良くなるとのことで、今度こそと期待を膨らませて出掛けたものだった。ところが、実際には予報とは全く異なり、3日間ともしっかりした濃霧の中の“展望不芳山行”。残念無念な結果となり、同行いただいた方々には、とんだご足労をお掛けしてしまった。その上、こんな山行にもかかわらず、同行諸兄弟には普段にもまして、明るくさわやかにお振舞いいただき、唯々感謝あるのみ。登頂を断念した西穂高岳には、何とか次回を期したいと思うが…。

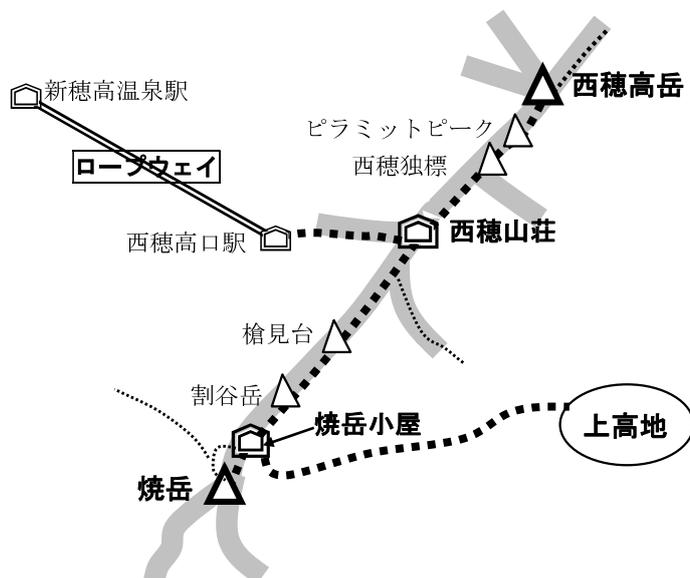
概要

山名	焼岳～西穂高岳		
月日	平成19年7月18日(水)～20日(金)		
形式	小屋泊	グレード	3B
山域	北アルプス	地形図 1/2.5万	上高地・ 穂高岳
目的	北に穂高～槍、南に乗鞍、西に笠ヶ岳… 3000m大パノラマ。		
費用	31千円	交通機関	JR・バス・ ロープウェイ・ケーブル カー・タクシー・高速バス
日程 コース	1 日目	我孫子駅 5:30→新宿駅 7:00→(特急あ ずさ)→松本駅 9:38/10:15→(バス)→ 上高地帝国ホテル前 11:42→田代橋(昼 食)11:55/12:15⇒登山口 12:27⇒峠沢 (休憩)13:15/13:20⇒村営焼岳小屋 14:35(泊) <曇り 歩行時間：2時間20分>	
	2 日目	焼岳小屋(起床 4:40/朝食 5:15)6:30⇒ 展望台 6:40⇒焼岳北峰 7:40/7:55⇒焼 岳小屋(荷物詰替え)8:55/9:30⇒休憩 10:25/10:30⇒槍見台(昼食)11:10/ 11:30⇒上高地分岐(休憩)12:40/12:45 ⇒西穂山荘 13:00 <曇り 歩行時間：5時間55分>	
	3 日目	西穂山荘(起床 4:10/朝食 4:40)5:15⇒ 西穂独標 6:20/6:35⇒西穂山荘 7:25/8:00⇒西穂高口駅 9:00/9:45→ (ロープウェイ・ケーブルカー)→新穂高 温泉駅 10:05/10:15→(タクシー)→平 湯温泉(入浴/昼食)10:40/15:35→(高速 バス)→新宿 20:00→我孫子 21:05 <濃霧 歩行時間：3時間10分>	
ルート 状況	焼岳小屋～西穂山荘間は、通過者が少なく 笹藪などの整備状況が良くない。なか でも、割谷山中腹急斜面(焼岳小屋から 30分ほど)のガレ場路10m近くが、 飛驒側に崩落。鎖ロープなどの設置な く、下山路として通過の際は特に注意 。また、分岐の標識はしっかりしてい るが、山頂等の主要地点の標識は全く ない。		
参加 者	大串秀(L)、小松(SL)、柴田、大串恵、 斎藤、榊原、安田、田村、ゲスト2名 男4名 女6名 計10名		



360度ガスの中の山頂で記念撮影（焼岳）

概念図



< 5 4 9 >

塩見岳～北岳
(3047m) (3193m)

外崎 蓮

～雷雨に打たれてガタガタ震え、
ブロッケン現象に感動した南アの旅～

7/28 (土) 晴

性懲りもなく、南アの荒川三山に今年で5度目のアタックを試みたが、またも振られた。この間の台風4号が畑薙ダム行きの道路を壊し、年内復旧の見通しが立たないという。では何処か別のルートから入山する方法はないものか。切羽詰った26日の夜、村松さん、石垣さんと三人で地図とにらめっこしたが、結局すべてダメ。そこで、さんざんに計画を乱した荒川三山にけりを付け、行き先を変えて塩見岳から北岳を縦走しようということになった。翌27日の朝、電話で高速バスの予約をとる。27日は朝から忙しく過ごし、計画書を作成したのは夜の8時であった。メールで送った計画書は二人とも見ていなかった。ごもつとも。

新宿駅から階段を上がって外に出ると、夏の日ざしがまぶしい。四つ角にある高速バスターミナルは大勢の人で混雑していたが、予約の窓口(飯田線)ですぐに切符が買えた。途中一時間以上も遅れて、終点の駒ヶ根市バスターミナルに到着。タクシー会社と約束した待ち合わせ場所が違うと思っていると、ドライバーが私の名を呼んでバスの中に顔を出した。このバスは、このあと離れたところにある車庫に入る。ヒヤヒヤした。

そのタクシーに一時間半も乗り、鳥倉林道のゲートで降りる。駐車場に置かれた車の台数から、かなりの入山者がいるもようだ。おかしなことに、ゲートから先はバスだけが入れるという。私達は乾いた砂利道をさらに50分も歩き、豊口山登山口に着く。ここから三伏峠小屋まで約1000m、深い樹林の中を黙々と登る。視界が少し明るくなりだし、ひよっ

こりと小屋が現れたときは5時少し前であった。小屋に着いて目についたのが、庭先に立つ看板。水洗トイレ一回200円、(そうでない)トイレ一回100円、荷物預かり300円など。荷物を預けて塩見岳を往復する人が多いからであろうか。別館の前の坂道を下っていくと、林の中にテント場があり、20張ほど張られてあった。

二階の大部屋に落ち着き、3人で旅の始まりに乾杯する。夕食後は早めに就寝。ところが、夜中トイレに行きたくなくて目が覚める。真っ暗である。ヘッドランプはザックの中だ。カシャカシャとポリ袋の音を立てたくないのに我慢していると、誰かがライトをかざしてトイレに行った。すかさず後を追う。トイレから出ると、その人は先に部屋に戻り、またも真っ暗闇。部屋の間取りを思い出し、壁を伝って階段にたどり着き、一步一步慎重に上がってやっとのことで寝床へ収まった。

7/29 (日) うす曇のち時々ガス

4時の朝食。こんな朝早くに、よくも食べられるものだ。4時半出発。昨日に比べたら楽な登りである。三伏山、本谷山を越え、3時間ほどかかって塩見小屋に着く。登山者の姿がなく、小さな小屋は静まり返っている。玄関が開いていて、部屋に毛布が敷き詰められているのが見える。40人収容で要予約とのこと。私達はすぐ登山道に戻り、塩見岳を目指す。天狗岩を難なく通過し、塩見岳の西峰に来ると、これまで誰にも会わなかったのに、まるで登山者が湧いて出たように賑やかだ。三角点は西峰にあり、食事が出る広さがある。すぐ近くに東峰があり、昨夜小屋で一緒だった夫婦がそちらから戻ってきた。東峰は大岩が積み重なった狭い岩場なので、写真を撮るとすぐ下りて、東峰直下の平坦地で昼食をとる。この近くの草むらで、幸運にも黒百合の花をいくつか見つけた。北荒川岳方面へ向かうと様相が一変し、風雪で曲がったダケカンバの中を歩くようになる。一面に草が生え、気持ちのいい道が続く。その先には、斜面いっぱいマルバダケブキが生い茂り、一週間もしたら一斉に咲き出すだろう。並みのスケールではない。

その先の管理小屋で沢の水を沸かしてラーメンを食べる計画であったが、来て見ないとわからないものである。小さな小屋の入口には釘が打ち付けられ、沢の水も沢音がすれど

姿なしで、その上、足場も悪く探せなかった。蛇拔山を巻き、深い樹林の中をひたすら歩く。特にこれぞというものがない単調な道を急いでいる途中、道の左手に、安倍荒倉岳1分と書かれた標識をちらりと目にする。やや薄暗くなりかけた樹林からひょっこりと抜け出して、待望の熊の平小屋に着いたのが3時。ヤレヤレとばかりベランダで乾杯していると、向かいの山が白くもやってきて、まもなく驟雨となる。本当にヤレヤレであった。熊の平小屋は、こじんまりとしていて感じのいい小屋であった。宿泊者は14~15名。食堂兼居間にストーブが据え付けられ、食後はすることもなく傍らの本箱から写真集を出してみる。雨のあがった窓からは、西農鳥岳が正面に手に取るような近さで見えた。



7/30 (月) 曇りのち雷雨

今朝は空が重い。私好みの管理人さんが玄関先に出てきて、気をつけて行くようにと送り出してくれる。三国平までは長い登り。広い砂礫の平坦地から足場の悪い岩場へと移っていく。右下が大きく切れ落ちた三峰岳の岩を伝っているとき、雷が鳴り出した。まだ朝も早いというのに。追いかけて雨粒も落ちてきた。岩陰で大急ぎで雨具を着て登っていくと、三峰岳の上から10人以上のパーティがこちらに下りてきた。彼らは雷の中をいたって平気で下っていく。雷の恐さを知ってか知らずか。私達は急なハイマツの斜面に身を寄せ、ツェルトをかぶって雨と雷の去るのを待った。ツェルトは劣化しているのか、縫い目からポタポタ雨が落ちてくる。雨は冷たく、手が凍え、吐く息も白い。一時間以上も停滞したが一向に止まない。そのうちガタガタ震えてきたので歩き出すことにする。頭上ではまだゴロゴロ。だがお構いなし。歩き出すと体が温まってくる。時々光るが、鳴り出すのに間があるので少しは安心。三峰岳を越え、仙塩尾根と分かれて間ノ岳へ移る。雷が遠のき雨が

あがる。大きな台地の間ノ岳を越え、ケルンの立つ中白峰岳を下っていると、下から夫婦連れが上がってきた。北岳山荘で様子をみていたらしい。私達も北岳山荘に寄り、ガスの使える部屋を借りる。熱いラーメンをすすると、ようやく体が温まってくる。何だか動きたくなくなり、北岳の肩の小屋にキャンセルの電話を入れて、ここに宿泊することにした。6人の相部屋で、九州から飛行機で来たという夫婦連れの奥さんは、高山病とかで横になったきりだ。山荘の前には昭和医大の救急所があるので、診てもらえることも出来るのに。夜、激しい雨が窓をたたいていた。

7/31 (火) 晴天

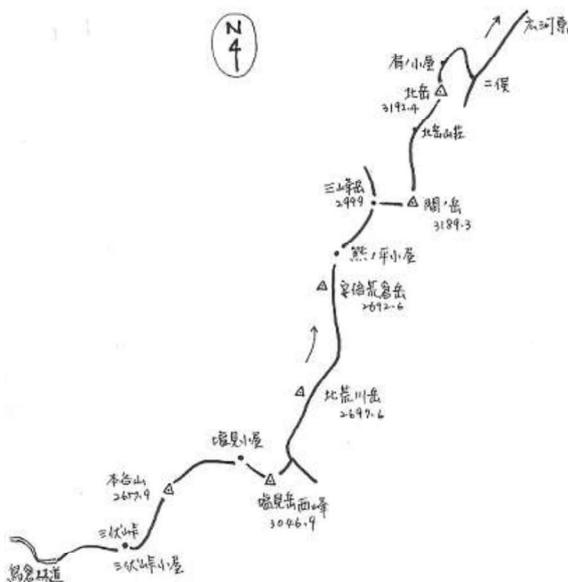
朝食の時間が大幅に遅れ、宿泊者が、遅いじゃないかと従業員を怒鳴っている。昨夜、ストーブの周りで騒いでいた女性のグループが、今朝も4時だいから大声をあげて、食堂の前ではしゃいでいた。朝食後、ガスの濃い中を北岳に向かって出発する。途中、薄日がさして左手の空に三重の輪ができ、その中に三人の影が映った。真ん中の小さいのが私だ。手を振ると影の手も動く。北岳でブロッケン現象を見たのはこれで二度目である。北岳の登りは、下から見上げるとなかなか迫力があるが、わりと簡単に頂上に到着。この頃にはすっかりと晴れ上がり、360度の展望がほしいまま。雲海の上の富士山はいつ見ても美しい。日本第二の高峰は、韓国語も混じって賑わっていた。こんなに晴れると、下山するのが惜しくなってくる。未練を残しながら肩の小屋を後にする。

二俣へ下る途中、斜面一面に咲くシナノキンバイに出会う。鮮やかな黄色のじゅうたんを広げたようである。花の北岳と言われるだけあって、お花畑のスケールの大きさにも驚いた。

北岳は人気のある山で、登山者が大汗をかきながらひっきりなしに登ってくる。二俣に下りてきて、河原でボケーとしてまた歩き出す。3グループほど追い越す。広河原山荘ではこれから登る大勢の登山者が準備運動をしているところだった。私達はバスの切符売り場に直行する。どうしても温泉に入りたかったので甲府行きのバスには乗らず、乗り合いタクシーで芦安温泉へ。入浴後、三人で冷たいビールのコップをカチンと打ち鳴らし、一息にグビッと。一息とは、もちろん私を除い

てであるが。バスで甲府へ出、空いている電
車に揺られて帰途につく。

塩見岳東峰頂にて



概念図

概要

山名	塩見岳～北岳		
月日	平成19年7月28日(土)～31日(火)		
形式	山小屋泊	グレート	4C
山城	南アルプス	地形図 1/2.5万	鳳凰山・仙丈ケ岳・間ノ岳・塩見岳・信濃大河南
目的	高山植物と展望を楽しみながら、3000m級の山々を縦走する。		

費用	約15000円	交通機関	高速バス・タクシー・バス
日程コース	1日目	我孫子駅 5:30→日暮里→新宿駅前高速バスターミナル(高速バス) 6:40→駒ヶ根市バスターミナル 11:20/11:30(タクシー) → (鳥倉林道) →ゲート 12:55/13:10⇒豊口山コース登山口 13:45/13:50⇒三伏峠小屋 16:50 着(泊) ＜行動時間:3時間40分＞	
	2日目	三伏峠小屋 4:30⇒三伏山 4:40⇒本谷山 5:40/5:45⇒塩見小屋 7:35/7:40⇒塩見岳西峰 9:00⇒東峰 9:03/9:10⇒東峰直下 9:12/9:45⇒北荒川岳・管理小屋 11:30/11:50⇒安倍荒倉岳 14:25⇒熊ノ平小屋 15:00 着(泊) ＜行動時間:10時間30分＞	
	3日目	熊ノ平小屋 5:20⇒三国平 6:10⇒三峰岳直下 8:00/9:10⇒三峰岳 9:20⇒間ノ岳 10:40⇒中白峰 11:20⇒北岳山荘 12:00 着(泊) ＜行動時間:6時間40分＞	
	4日目	北岳山荘 5:20⇒北岳 6:45/7:00⇒肩ノ小屋 7:30/7:37⇒二俣 9:20/9:35⇒広河原山荘 11:10 ⇒ 広河原駐車場 11:20/12:00(乗合タクシー) → 芦安温泉 12:40/14:27(山梨交通バス) → 甲府駅 15:20/15:31 → 立川 17:27/17:32 → 西国分寺 → 我孫子駅 18:55 着 ＜行動時間:6時間＞	
ルート状況	<p>・北荒川岳付近の管理小屋は閉鎖されている。テント場には草が生え、水場も見当たらない。沢の流れは聞こえるが、沢に下りるのは危険。</p> <p>30日は朝から雲の様子がおかしい。三峰岳のヤセ尾根の岩稜を通過したところで雨が降り出す。三峰岳の直下で今度は雷が鳴ってきた。3000mに近い岩稜帯で避難場所がない。仕方なく斜面の岩に身をかがめ、3人でツェルトをかぶる。1時間以上も待機したが、一向に止む気配がない。劣化したのかツェルトから雨漏りがし、冷たい雨が身体に滲みていく。震えが止まらないので行動開始。雷が頭上で鳴っていたが、幸い光ってから鳴るまで間があった。高山での天候の急変の怖さを肌で感じた。</p>		
参加者	外崎(L)、村松、石垣 男2名 女1名 計3名		

< 5 5 0 >

雲取山
(2017m)

箕輪完二

1日目 4日(土)曇り

三峰口駅から登山口の三峰神社までのタクシーでの時間は、1時間もありません。山の奥深さを感じられた。三峰神社に参拝し、安全登山の祈願をした。登山口で記念撮影をしていよいよ出発となった。三峰神社の奥宮(妙法ガ岳)への分岐を過ぎると炭焼き平。林の中だが風がないので蒸し暑い。歩きはじめなので何とか地蔵峠までこぎつける。地蔵峠はベンチが置かれ一休みできる場所だ。ここで昼食の時間をとる。汗が吹き出て水分補給すれど、体の疲労感は免れない。食欲もわからない。霧藻ヶ峰は売店のある休憩所であった。大勢の高校生が休んでいた。ここから少しのアップダウンをして、お清平からは急登となる。石灰岩の坂道だ。1時間の我慢と思ってふんばって歩く。しかし、さらなる急登が待っていて、足の疲れがピークに達する。白岩山を越える寸前で足に引きつりを感じた。何とか頑張ろうと暫く歩いたが、このままでは、いづれダメになると思い、リーダーに訴えた。とりあえず、休憩をとってもらい、又歩き出した。ところが今度は別の位置に引きつりや筋肉痛のようなものが出てきた。長い休憩に入り、バンデリンを塗ったり、サポートを巻き、荷物も全部分担してもらった。私は日の暮れる前に雲取山荘にせめて自分の身体を運ばねばならないという思いで、ダブルストックで何とか歩き始めた。この分だと小屋到着が遅れるとの判断で、リーダーが先に行く人に小屋への連絡をお願いしてくれた。道中に蝸が多くうっとうしかったが、鹿の親子に出会い少し気持ちが落ち着いてきた。芋ノ木ドッケ、大ダワを通り、何とか山荘に到着した。山荘到着は、予定より1時間30分の遅れである。山荘では夕食後に、恒例の音楽祭があった。アンデス秩父という南米音楽グループの演奏会である。演奏会終了後は、焼肉とお酒のパーティーだった。明日のために飲みすぎないようにした。

2日目 5日(日)曇り

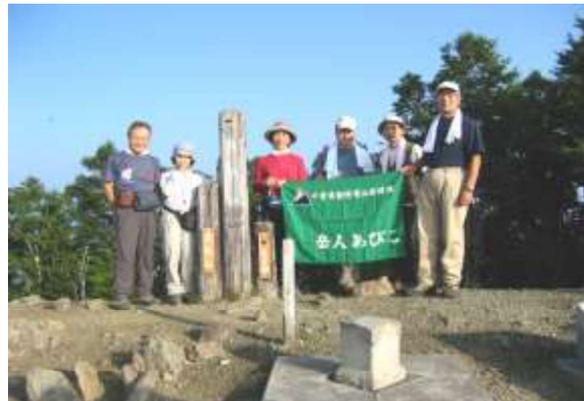
昨日の足のつれが今日も起きてしまったらという懸念があったので、下山ルートを変更してもらった。鴨沢に出るコースだ。鴨沢から奥多摩駅へのバスは、1本逃すと3時間も待たなければならないという。リーダーが山荘にバスの時刻表を確認してくれた。何かとリーダーには感謝である。

雲取山荘を出発する前に、山荘の新井信太郎さんと一緒に記念撮影をした。

雲取山頂までは30分程で着く。霧がでているので展望はよくないが広々とした頂上は気持ちよかった。頂上の標識は埼玉県のもので東京都のものも両方ある。山頂の避難小屋は、丸太小屋も新しくきれいであった。なだらかな斜面にはマルバフキタケの黄色い花が咲いていた。山頂に別れを惜しみながら、しばらく緩やかな稜線を下った。途中、ヘリコプターの発着する広場があったりした。林の中の長い下りではあったが、登ってくる人も比較的多かった。足のつれもなく何とか下山した。

今回の山行は、日頃の訓練と体調管理をしっかりすること、水分とともにミネラルや塩分を十分取ること、歩き方の工夫をすること等々再確認させられた。

リーダーを始め同行者のみなさんには本当に感謝です。



概念図



概 要

山名	雲 取 山		
月日	平成19年8月4日(土)～5日(日)		
形式	山小屋	グレード	3A
山城	奥多摩	地形図 1/2.5万	雲取山、三峰、 丹波、奥多摩 湖
目的	夏場の低山		
費用	13,000円	交通機関	JR、西武池袋 線、タクシー
日程 コース	一日	<p>我孫子駅 5:31→日暮里→JR 池袋/西武池袋駅 6:50(特急秩父号)→西武秩父駅 8:20→秩父鉄道御花畑駅 8:35→三峰口駅 8:50/8:55→タクシーで三峰神社 9:55/参拝/10:10(登山口入り口)⇒妙法ガ岳分岐 10:20⇒炭焼き平 10:55⇒地藏峠 11:35(昼食) 12:00⇒霧ヶ峰 12:10/12:15⇒お清平 12:25/12:30⇒前白岩肩 13:20/13:25⇒前白岩山 13:45/13:50⇒白岩小屋 14:20⇒白岩山 15:50/15:55⇒芋ノ木ドッケ 16:05⇒大ダワ 16:55⇒雲取山荘 17:30 行動時間7時間20分(歩行時間5時間20分、休憩時間計約2時間)</p>	
	二日	<p>雲取山荘 5:55⇒雲取山 6:25/6:45⇒七ツ石山上り口分岐にて鴨沢への道を取る 8:10⇒鴨沢バス停 11:20/11:32⇒奥多摩駅(反省会) 12:20/13:15⇒JR 奥多摩駅 13:21⇒新宿・山手線・上野経由⇒我孫子 16:20 行動時間5時間25分(ほとんど歩行時間。休憩時間計約25分)</p>	
ルート 状況	<p>山荘は水は豊富。湯も無料提供。風呂は無い 山荘から雲取山山頂までは登り30分 山頂の避難小屋は、山荘と似た丸太小屋風の立派なもの。無理すれば20人程度は入る。トイレは別棟にあり。水は無い。 雲取山荘から持って上がる必要あり 鴨沢から JR 奥多摩駅へのバスは、1本逃がすと次は3時間後という時間帯がある。バスの時刻表は雲取山荘で判る。</p>		
参加者	<p>小川誠(L)、松本(SL)、箕輪完、箕輪カ、藤倉、石黒 男性4名、女性2名、計6名</p>		

< 5 5 1 >

大岳山～鋸尾根

(1268m)

高橋英雄

人気の高い山を訪ねる縦走

8月に入り連日の暑さ続く中、8月12日(日)我孫子駅いつもの朝の電車に乗り武蔵五日市駅で下車当初計画ではバスを予定していたが待つ時間があるため、タクシーで登山口まで行くことになった。神社前で軽く体操してアスファルトの林道を30分程登ると登山口、ここから山道、高い杉林の中、沢に沿って登っていくと天狗滝口、さらに進むとやや大きめの綾滝を見ることができる。つづら岩を過ぎ富士見台を過ぎると大岳山荘の所に出る。神社の前で昼食とってから頂上まで25分位が急な登り結構きつい、頂上は晴れて明るいが展望はいまひとつ、霞がかかっている(暑さのせいかな?)何組かのパーティーがいて昼食をとっていた。これから下りの長い鋸尾根に向かう。急斜面のところ3箇所位あり注意を払う。鋸山を過ぎて行くとピークの祠に出会う、神社に着くと町ではお祭りなのか太鼓や笛の音が聞こえ、ようやく下山口に到着。風呂を予定していたが歩行時間がオーバーした為中止、多摩駅前まで歩き反省会。真夏の長い一日が終わり、疲れた。

概要

山名	大岳山		
月日	平成19年8月12日(日)		
形式	日帰り	グレード	2B
山域	奥多摩	地形図	奥多摩湖
目的	人気のある高い山の縦走		
費用	約4500	交通機関	JR
日程コース	我孫子駅5:33分→立川7:00/7:05→五日市駅7:17/8:05→(タクシー)千足バス停8:20/8:25→綾滝9:25/9:35→富士見台10:54/11:54→大岳山荘11:55/12:20(昼食)⇒大岳山12:43/12:53→鋸山14:12/14:18→ピーク(祠あり)15:45→下山口1645/16:50→奥多摩駅(反省会)16:55/15:40→立川18:48/18:54→我孫子20:12(解散)		
参加者	高橋英(L)、原田君(SL)、中村隆、原田和、小川誠、坂巻、石黒(ゲスト) 男6名、女1名、計7名		



綾滝にて



大岳山山頂にて →



< 5 5 2 >

木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳

(2956m) (2931m) (2864m)

佐藤 明子

空木岳の名前に惹かれての山行でした。車で我孫子を3時30分発、駒ヶ根ICを出て駒ヶ根スキー場に車を置き菅ノ平よりバスに乗り換え北御所登山口で下車をする。ロープウェイ駅のしらびそ平まで行くバスに後ろ髪がひかれながらも林道歩きが開始された。遮るものがない正に酷暑。一時間程で蛇腹沢登山口に到着まで500m1のボトルを空にしまった。ここから本格的な登山開始になり樹林帯の尾根を登る。水場のある清水平で一服し急登をしのぐと、うどんや峠に出る。名前に由来するものが見当たらずここにうどん屋さんがあったのかと皆で勝手に訳づくりに忙しい。樹林帯の中は風もなく辛い登りを続け八合目に。鞍銘石まで来ると途端に登山者が増える。乗越浄土ではロープウェイで登ってきた幸せな人たちが込み合っていた。宝剣山荘を横目に見ながら混雑が少ないと予想される頂上木曾小屋へ向かう。

今日一日随分と体力を消耗したので中岳は巻くかと思いきや元気満々のメンバーはせっかくだから登りましょうと迷う気配も無くあっさりと越えてしまった。頂上山荘は期待していた通り込み合いもせず快適でした。この時期に一人に布団一枚でゆったりできるなんてなんと言う幸運でしょうか。しかし最後の課題が



▲木曾駒ヶ岳山頂にて

残っているのに喜びのビールを飲んだのは早すぎました。駒ヶ岳山頂への登りがビールのため体がぐったりと重くなりゆっくりとやよとの思いで祠のある山頂にたどり着きました。

二日目の宝剣岳へは岩だらけのスリリングな登山道で北アルプス程ではないが油断がならない。狭い山頂では登山客が多くて写真を撮るのも順番待ちになってしまう。濁沢大峰から檜尾岳にかけては鎖場もあり慎重に行く。熊沢岳まではアップダウンの連続で疲れを感じる暇もない。東川岳を過ぎ急坂を下ると今夜の宿の木曾殿山荘に着いた。山荘は大勢の登山客でこった返して布団一枚に二人の割り当てで、人いきれで蒸し暑くロフトに押し込まれた人が夜中に酸欠状態になり窓を開けてもらったりで、寝苦しい夜をすごした。



▲振り返って見る宝剣岳、奥に木曾駒ヶ岳

概念図



三日目も快晴。空木岳を目指して直ぐに急登が始まる。第一ピーク、第二ピーク、第三ピークと何度も騙されながら登るが、山頂は360度の大展望で山座同定を大いに楽しむ事ができた。空木岳からは巨大な駒石の前を駆け抜け、池山尾根の下りは登山道を埋め尽くした淡いピンクの下総草に癒されながら快適に下る。小地獄、大地獄、迷尾根も案内標識が親切で道も整備されていて危険は全く無かった。池山小屋近くの水場は豊富な水が溢れていて大休止をして疲れを癒す事ができた。

下山後はこまくさの湯で3日分の汗を流し、お盆の帰省ラッシュをさらりとかわし、夕方6時過ぎには帰宅する事ができた。3日間とも快晴に恵まれ楽しい中央アルプス縦走でした。

▼ 空木岳山頂にて

これで厳しい登りから解放される!!



▲八ヶ岳や北アルプスが見えた

概要

山名	木曾駒ヶ岳～宝剣岳～空木岳		
月日	平成19年8月12日(日)⇒14日(火)		
形式	山小屋泊	グレード	3C
山域	南アルプス	地形図 1/2.5万	木曾駒ヶ岳、空木岳、赤穂
目的	雲海の更にも上、三十六峰八千溪の天辺から神仏御霊に拝礼		
費用	22,000円	交通機関	マイカー・バス
日程コース	一日目	柏公設市場集合 4:00→JH 中央道→駒ヶ根 IC→駒ヶ根高原スキー場駐車場 7:20/7:45 ⇒菅ノ台 BS8:14→北御所登山口 8:43/8:50 ⇒清水平 10:55⇒うどんや峠 11:27/11:40 ⇒一丁ヶ池 12:20/12:30⇒伊那前岳 14:00 ⇒勸銘石 14:54⇒宝剣山荘 15:13⇒頂上山荘 15:42/ 16:00 ⇒ 木曾駒ヶ岳 16:20/16:40⇒頂上山荘 16:55 晴れ< 歩行時間:7時間00分>	
	二日目	頂上山荘 6:20⇒宝剣山荘 6:35⇒宝剣岳 7:00/7:10⇒千畳敷分岐 7:55⇒檜尾岳 10:30/10:40⇒熊沢岳 12:35⇒東川岳 14:15⇒木曾殿山荘 14:40 晴れ< 歩行時間:7時間20分>	
	三日目	木曾殿山荘 4:40⇒空木岳 6:15/6:30⇒駒石 6:50/7:00⇒空木岳避難小屋分岐 7:16⇒池山小屋分岐水場 8:40/8:50⇒タカウチ場 9:20⇒林道終点出合 9:40⇒駒ヶ根高原スキー場駐車場 11:15→こまくさの湯→蕎麦や→駒ヶ根 IC→柏公設市場→我孫子 18:30 晴れ< 歩行時間:6時間35分>	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・北御所登山口からの林道歩きは緩やかな登りだが、遮る物無く熱中症に要注意 ・宝剣岳の登り下りとも急な岩場だが、危険箇所は鎖等があつて心配ない ・剣から木曾殿超までのルートは体力勝負で、気になる危険箇所は無い。 ・池山尾根の小地獄、大地獄、迷尾根は区間約500m。梯子、橋が丁寧に整備されていて危険は少ない。昔の遭難者の慰霊碑があつたが何れも積雪期か? ・池山小屋付近の水場からスキー場の駐車場までは、下山道が階段状になっていて極めて歩きにくい。快適だった山道も印象が一変する。安全ではあるが!? 		
参加者	佐藤健(L)、千葉(SL)、佐藤明、田村 男1名 女3名 計4名		

< 5 5 3 >

笠ヶ岳
(2897m)

瀬田映子

初めての山小屋！！

「笠ヶ岳」からの槍ヶ岳・穂高の展望はすばらしいと聞いた事がある。登りたいな！！でも・・・夜行バス・・・きつと眠れないだろうな？・・・睡眠不足でみんなに迷惑をかけたら大変だし・・・定例会ではあきらめて不参加で提出した。でも参加したいという思いはずっと頭から離れてはいなかった。7月7日の小川リーダーによる「武甲山」の山行に参加した際、帰りの電車の中で「登りたいと思ったら参加したほうが良いよ。行ける時行かないと、また今度という機会は無いかもよ。瀬田さんなら大丈夫だよ！」の安田先輩の一言に勇気づけられ、高橋重リーダーに相談の電話をした。リーダーの「ゆっくり歩くから大丈夫だよ。谷川岳と同じように花を散策しながらゆっくり登るから」の言葉に勇気増！！参加させて頂くことにした。楽しみにしていた山行計画が届き計画書を見て驚いた。任務「やまなみ」瀬田と書かれているではないか！！記憶力・読解力・文章能力ゼロのこの私に「やまなみ」・・・うそでしょ！！

準備するものは？・・・なんと言っても山小屋は初めてである。山行計画には「持ち物は極力控えて」と書いてある。2日分の着替え・水・食料等々・・・随分あるぞ。水だけでもペットボトル6本は必要だろうか？かさばるし、背負っていけるかな？と真剣に悩んだ。まずは着るものからと、トレッキング用品専門店「エルデ」に出かけた。店に入ると、見覚えのある後ろ姿・・・桐生さんではないか！「渡りに船」とはこのことか・・・山荘泊の必携、水のことから下着の話まで十分に教えてもらった。先輩たちが涼しそ

うに背負っているリュックの中身が少し分かってきたぞ！！！！

夜行～1日目 (8月17日・18日 鏡平山荘)

新宿のバスターミナルでパラパラと小雨が降ってきた。天気予報では、寒気が南下し3日間とも雨との予報。心配しながら、新宿発23時の夜行高速バスに乗り込む。万全を期してイザ出発。バスの中で仮眠をとる。熟睡している人もいるが、なかなか寝つけない。雨の音も気にかかる。夜が明けぬ暗いうちに予定より早く平湯に到着した。ジャンボタクシーで新穂高温泉へ向う。

新穂高でヘッドランプをつけての早めの朝食をとった。アルペン浴場前のロッカーにお風呂セットを預け少し軽くなったリュックで気分も楽になった。登山口には誰もいない。準備運動後、さあ笠ヶ岳へ登山開始！昨夜あまり寝てない事もあり、足に自信がない私に「瀬田さん、リーダーの後に着くといいよ」と優しい柴田先輩の言葉・・・この言葉に甘えて最後の日までリーダーの後ろについて行動させてもらうことにした。夜明け前の薄明かりの中、花いっぱい林道を歩く。まず目に留まったのは、青紫色の花「これなんていう花？」「ソバナ」と返事が返ってくる。つぎつぎと目に留まる花に「これなあに・あれなあに」の質問の嵐・・・それに一つ一つ答えてくれるリーダーと仲間。(よくご存知の事と感心しながらメモをとる)・・・バアソブ・ジャコウソウ・オミナエシ・クサボタン・ヨツバヒヨドリ・オカトラノオ・ヤマハハコ・オトギリソウ・・・

2日目 (8月19日鏡平山荘から笠ヶ岳)

シラカバの混じる林の中を過ぎるとワサビ平小屋に到着した。ここで休憩。桐生さんが給水している。(出発前に桐生さんにわさび平小屋で給水すればいいよ。と言われていたが、心配でここまで水を背負ってきたばかな私) ボーとしているわたしに「地図に水と書いてあるところは給水ができる所だよ」と会長さん。

ジリジリと照りつける太陽の中、色鮮やかに咲いているシモツケソウ・オニシモツケ・クルマユリに癒さ

れながら小池新道を登る。

イタドリが原・シンウドケ原からはミソガワソウ・オオレイジンソウ・センジュガンピ・ミヤマホツツジ・カラマツソウ・モミジカラマツ・シンウド・それに咲き残りのキヌガサソウなども見られ足ははかどる。鏡平山荘に昼少し前に到着。

リーダーと桐生さんが小屋の方と親しくお話中・・・しばらくして槍ヶ岳・穂高連峰の展望が良い、そして布団も一人一枚使用の特別部屋に案内された。何度か利用している桐生さんの「顔!」だとか。「さすが!桐生のお姉さま」。「はじめての山小屋で、一つの布団に一人で寝られるとは、瀬田さんラッキーだね」と会長さん。一つの布団に2名はあたり前だとか・・・槍・穂高連峰の展望の良いテラスで、・・・ビールで乾杯!!!「どらえもんの魔法のポケット」ならず、「重の魔法の袋(リーダー)」からつぎつぎに出される「ビールのつまみ」を頂きながら・・・最高!!

午後3時頃、鏡平小屋の周辺を散策。鏡平山荘には、鏡平の池塘に槍・穂高連峰が映し出されるのを見るために訪れる人も少なくないとの事。この時間は残念ながら槍・穂高連峰は雲隠れていた。しかし、午後6時前、槍・穂高連峰が顔を出してきた。そこに夕日あたり、その姿はまるで「絵はがき」を見ているようだ!!!周囲からも「わー!きれい!すごい!すごい!」の歓声の連発。そしてまた、その姿が鏡平の池塘にくっきりと映っているではないか。感無量である!!!この感動の余韻を残しながら、明日も天候がよい事を祈りながら眠りについた。明け方3時頃、「星がきれい」の声で目がさめた。外に出て夜空を見上げると、大きな無数の星「満天の星空」。あまりの見事さに、我も忘れしばし見上げていた。

祈りが通じたのか今日も絶好の天候。山荘をバックに記念撮影後6時に出発。山荘から木道を渡って山裾の秀麗な槍・穂高を背に弓折岳の尾根を登る。稜線の右手後方に御岳・乗鞍岳・焼岳・左手前方に黒部五郎岳・薬師岳・水晶岳・鷲羽岳を見ながら歩く。最初、私にはどの山なのかさっぱり分からなかった。何度も聞き返してやっと分かった。教えてもらった山は一度も登ったことはないが、先輩たちは何度も挑戦してい

るらしい。「私も登りたいなあ!」と柴田先輩に話しかけると「山に登るたびに次ぎの山に登りたいというお土産が出来るのよ」と一言・・・ウーン納得

ハクサンフウロ・ニッコウキスゲ・ヨツバシオガマ・ミヤマキンポウゲ・ゴゼンタチバナ・イワカガミ・ミヤマリンドウ・ウサギギク・エゾシオガマ・・・花のシャワーを浴びながら弓折岳に着いた。弓折岳では一面にチングルマ・ハクサンイチゲの高山植物のお花畑が出迎えてくれた。お花畑でしばし休憩。お花畑をバックに「ハイ・ポーズ」・・・

色鮮やかなトリカブト・クルマユリ・サラシナショウマが惜しげもなく咲いている大ノマ乗越を過ぎ秩父平に到着。秩父平はカール状で残雪とお花畑が広がりすばらしい眺めだ。残雪がジリジリ暑さを和らげてくれる。残雪を口の中にほおぼり「ホット一息」。

チングルマ・ハクサンイチゲ・ハクサンフウロ・ミヤマダイコンソウ・シナノキンバイ・ミヤマキンバイ・アオノツガザクラ・キバナノコメノツメ・ベニバナイチゴ・クロユリのお花畑を見ながら歩をすすめていると突然・男性的な秩父岩が目の前に・・・飽きる事のない景色に疲れも忘れる。

抜戸岳近くになり、頂上に登るかどうか決め兼ねていたが多数決で登ることを止め昼食をとる事にした。歩いてきた稜線を眺めながら、さわやかな空気の中での昼食は一段と美味しい。抜戸岳から笠ヶ岳への稜線が目の前に続き、目的の笠ヶ岳が見えている。後一息!!!抜戸岳を出発してトウヤクリンドウ・チシマジキョウ・タカネマツムシソウ・ミヤマコゴメグサなどをみながらしばらく行くと、遠くで「雷の音」が聞こえた。そのうちに、黒雲と冷気が流れた。リーダーの指示で全員が早足で歩いた。その足はだんだんと走り変わってきた。雨もぽつぽつ落ちてきた。口数も少なく、緊張気味の仲間の顔。雷の音も近くなってきているようだ。山荘は目の前なのになかなか進まない。みんなの息づかいもどんどん荒くなり、私の心臓は今にも止まりそうだ!「もう少し・もう少し・ガンバレ・ガンバレ」のリーダーの声も遠くにかすんで聞こえる。(みんな苦しいのだ!!と自分に言い聞かせ死に物狂いで登った。まるでフルマラソンでのラストスパート

の如く)。テント場を過ぎてやっと山荘に着いたころには、黒雲も冷気も消えていた。(安堵ためか、あの辛さはいっぺんに消えてしまった。)

山荘にリュックを置いて山頂へ・・・ごろごろした岩を20分ぐらいジグザグに登って行くと岩が敷き詰められたように平らになった所にお社があった。その先に3～4個のケルンがあった。着いたぞ！！やっと着いたぞ！！リーダーと握手！！山頂は誰もいなくて岳人我孫子の我々9名だけ。ヤッター！・ヤッター！・リーダーそして同行したみんなアリガトウ！！山頂でしばし撮影。ちなみに会長御夫婦はここで年賀状に載せる写真をパチリ！「ハイ チーズ」

笠ヶ岳の山頂を満喫した後山荘へ。さっきの黒雲はどこに消えたのか、山荘からの槍ヶ岳・穂高連峰の展望がすばらしい！！夕食前の食堂で、再び「重の魔法の袋(リーダー)」からつぎつぎに出てくる「ビールのつまみ」をいただきながら・・・ビールで乾杯！！夕食前、休憩場所での「リクエストによる」登山講座の始まり・始まり・・・

講師 高橋重先生

議題 「急を要する時のストックの使い方いろいろ」
登山の途中で両手を使いたい時、少しの間だけストックが邪魔になる時がある。そんな時、「リュックと背中との間にストックを挟む」・腰とリュックの間にストックを挟む。なるほど、実に簡単である。だが、実技となるとそううまくはいかない。私をはじめ数人が挑戦した。失敗のたびに笑いがとぶ。早速明日実践してみよう！！そんな中、そばで見ていたパーティーの人に「ずいぶん楽しそうですね」と声をかけられた。
今日の山荘も8人二段ベッドにエキストラ布団を入れて一部屋ゲット。「瀬田さん今日もラッキーだね・こんな事は本当に無いよ」と再び会長さん。
床についてしばらくすると雨が降り出した。そのうちに風もでてきた。夜中は稲光と強い風雨の音でなかなか寝つけなかった。みんなも寝つけならしく、あちこちでため息が聞こえた。12時過ぎにトイレに行った後「スースー」という隣の中村さんの寝息を聞きながら1時過ぎた頃には寝入っていたようだ。

4日目(8月20日笠ヶ岳山荘から新穂高・自宅)

夜明け近くになると昨夜の風雨うそのようにやみ、槍・穂高岳も顔を出した。今日も良い天候、なんとラッキーなのではないでしょうか！山荘と笠ヶ岳をバックに記念写真を撮り、昨日は走ってぬけた稜線を、緑のハイマツに心癒されながら帰路に向う。下降開始地点でのお花畑で休息をとり、槍・穂高連峰をバックに「花と山」の撮影タイムをとる。雲ひとつない青空・見飽きるほどのない槍ヶ岳・穂高連峰、そんなすばらしい自然の中、雲上漫步状態・・・・・・・・

杓子平では、ジャンダルム・ロバの耳・穂高連峰をみながらの大休止。杓子平はカールのなか、イワショウブ・タカネヤハズハハコ・クロトウヒレン・タテヤマツボグサなどのお花畑がひろがり気持ちがよい。道はジグザグを繰り返しながら下る。石に気を配りながら、「ここを登るのは大変だね」と話しながら下ると、夫婦らしき人が登ってくる。「大変ですね」と声をかけ、足をとられないように慎重に歩をすすめる。途中心地よい涼風が体をなでていく。時々樹林帯に行くが薄げ落ちないように、気をつけて「あわてないで、ゆっくりでいいよ」と声を掛け合いながら展望のきく下りを降りていく。この日は富士山・南アルプス・中央アルプス・御岳・白山・などと北アルプスの裏銀の一部と立山連峰を除き、殆どの高峰が見えた。途中、ヘリコプターがなにやら山に散布していた。「ヘリコプターを上から見るなんて初めてだわ」と話しながら下る。どうも山が崩れないように植物の種子を散布しているらしかった。やっと林道が見えてきた。笠新道登山口に到着、徒歩で新穂高バスターミナルへ。アルペン浴場で汗を流し、タクシーで松本駅まで向い、新幹線で帰途についた。

リーダーの話では、今回の山行では70種類ほどの花を見る事が出来たそうです。自宅に戻りメモと花図鑑を見ながら復習してみたが、48種類の花しか思い出すことが出来なかった。「重さんごめんさい」こんな私ですが、また誘ってください。

山と天候とメンバーに恵まれた今回の山行には、リーダーと同行者に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。(参加させてもらって本当によか

ったです)。

また、「やまなみ」を書くにあたり、忘れないうちに書いたら良いよ、参考にしてと、早々に「やまたん」の原稿を送ってくださったリーダーの重さん、最初に書いたように「記憶力・読解力・文章力の無い私は大変助かりました。何から何まで本当に有難うございました。

概念図



鏡池に映る槍ヶ岳も見ました



鷲羽岳や双六岳も見え気分は最高



↑夜行バスの疲れはどうしたの？女性はジョッキー、まだ12時です。(鏡平山荘)



貸切の笠ヶ岳山頂でくつろぐさわやかなイン??



杓子平への下山、ベルグハイル!!!



チングルマとハクサンイチゲと槍ヶ岳

概要

山名	笠ヶ岳		
月日	平成19年8月17日〔金〕～20日〔月〕		
形式	夜行一泊+ 山小屋二泊	グレード	3C
山域	北アルプス南部	地形図	笠ヶ岳、三俣蓮 1/2.5万 華岳
目的	山の花を楽しむ(研修山行)、飛騨の霊峰(播隆上人が見た槍穂高)に遊ぶ		
費用	33,000円(交通費、宿泊費)	交通機関	バス、タクシー、JR

日程 コード ス目	1 日目	我孫子 21:27→新宿 22:30/23:00 (バス) →平湯温泉 3:15/3:30 (ジャンボタクシー) →新穂高温泉 3:50/4:40→ワサビ平小屋 6:20/6:40→笠新道分岐 7:05/7:15→秩父沢 8:15/8:25→イタドリガ原 9:20/9:45→シシウドガ原 10:25→鏡平山荘 11:30 (泊)
	2 日目	鏡平山荘 6:00→弓折岳分岐 7:00/7:15→弓折岳 7:30/7:40→大ノマ岳 9:17/9:30→秩父平 10:10/10:30→(抜戸岳) 笠新道分岐 12:05/12:45→笠ヶ岳山荘 14:00/14:25→笠ヶ岳 14:40/15:00→笠ヶ岳山荘 15:00 (泊)
	3 日目	笠ヶ岳山荘 5:40→笠新道分岐 7:10→下降点 7:15/7:30→杓子平 8:35/9:00→昼食 10:55/11:20→笠新道登山口 12:40/12:50→新穂高バスターミナル 13:45/14:45 (タクシー) →松本 16:25/16:59 (あずさ) →19:30 新宿→我孫子 2040
ルート 状況		<p>晴 <行動時間; 6時間 50分></p> <p>晴一時曇り<行動時間; 9時間 15分></p> <p>快晴<行動時間; 7時間 00分></p> <p>(1日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小池新道入口までは広い林道、暗くても歩ける ・ワサビ平小屋、笠新道入口、秩父沢で給水可 ・イタドリガ原で『急登』と『グネグネ道』の分岐標識あるが大差なし ・小屋; ビール 350ml@500円、宿泊費 労山割引OK、夕食春巻など good <p>(2日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弓折岳～大ノマ乗越までは急な下り。大ノマ岳は気がつかない。 ・稜線の穴毛谷側は急でザレ気味の箇所もあり、滑らぬように ・秩父平に雪田が残るが水を取れるほどの水量は無い ・小屋; ビール 350ml@580円、宿泊費 労山割引なし <p>(3日目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稜線から杓子平への下りはカール状で急だが、石がしっかりして歩き易い ・杓子平から急な下りとなるが、岩が石畳様に積まれた箇所も多く、かつ、ジグザグ道で歩きにくいことはない。ただし全体に狭い。高度 100m 毎に標識が立ち、気分的に楽。
参加者		高橋重(CL)、中村隆(SL)、清家、桐生、柴田、小松、瀬田、中村美、榊原 男3名、女6名 計9名

< 5 5 4 >

北股岳～大日岳～飯豊山
(2025m) (2128m) (2105m)

小松庸信

一日目

山行の出発地東京駅に向かう山手線の電車の中で突然の豪雨となり、今までにない重い荷物ザックが肩に懸かり、明日から3日間の体力勝負の山行に気分は緊張気味である。飯豊山は登山者を容易に寄せ付けない奥深い東北の山で、Hardな山行行程ではあるものの、敢えて参加させていただいた。事前の下調べでこの飯豊山群は読み難い名前が多いと思った。飯豊山(イイデ)に始まり、梅花皮山(カイラギ)、木八差岳(エブリサシ)、烏帽子岳(エボシ)、切合小屋(キリアワセ)、姥権現(ウバゴンゲン)、-----。

夏休み期間である上に週末と言うことからバスは満席であった。アルコールとユツタリしたシートのお陰で目的地の米沢駅までの約4時間半はぐっすり寝ることが出来た。米沢駅からは米坂線に乗りして小国駅へ、そこからジャンボタクシーに乗って飯豊山荘の先の車止めに到着。空は真夏の透ける青天であった。一層の暑さと日焼けが気になる。8時20分に出発。橋を渡った直後に目立たない標識があるがその右手が梶川尾根登山入口。初めから急登である時は両手を使って登る程である。約330m(東京タワーの高さ)を1時間位のペースで登り、650m程登って湯沢峠(1693m)にやっと到着した。登り始めて2時間である。さらに急坂を経て水場の「五郎清水」辺りで一休み、水場は4～5分下ったところがあり、埋め込まれたパイプから水が補給できた。冷水を飲んでほっとしながら暑さの中での昼食。

梶川峰からの展望は素晴らしく、北股岳から飯豊山への主稜線を見渡すことができる。日差しは強いが微風が心地よく、疲労感を癒してくれる。木八差岳方面からのルートと合流地点の扇の地紙(チガミ)に到着。

南へ向かって一時間半程の稜線上のいくつかの小ピークを越え、やっと一日目の目的地である門内小屋に到着。小屋は我が8人のパーティ・メンバーが宿泊出来るスペースはなかったので止む無く小屋から下ったテント場で野営をする。暗くなるにつれて、風は一段と強くなりテントがはためく程である。夜半には気温も下がり、シュラフカバーだけでは寒くて眠れない程であった。山頂の気温と下界の温度との違いを思い知らされる。



二日目

風も治まり、朝霧の中でテントを撤収して5時に出発。門内岳(1887m)を経て、北股岳(2024m)を目指す。標高差140m程の登りも早朝の元気さで皆も苦にならない感じであった。北股岳から20分程下ると梅花皮小屋。北股岳から梅花皮岳に続く稜線の鞍部に小屋は立っている。石転び沢の雪渓ルートが直下に見える。水場(治二清水)は小屋から約70mと近く、水量の多い冷水がパイプから噴き出ている、口に含むと気持ちが良い。梅花皮岳、烏帽子岳(2018m)と小さなピークを登り、特に烏帽子岳ではリーダーが持参された自家製のハチミツレモンは最高の味で疲労が癒された。周囲の山肌は緑に包まれて美しい。稜線にある「御手洗池」「天狗の庭」を通り、途中雪渓を間近に見ながら、遅咲きの花々も目を楽しませてくれる。全く日陰のない稜線歩行であったが曇天の天候に助けられて暑さを感じず最適な日であった。

御西小屋には予定時刻より1時間ほど早着。リーダー

一の計らいで急遽、飯豊最高峰の「大日岳」に登ることとなった。往復を3時間弱と見込み、今日の宿泊地を予定していた切合小屋から手前の飯豊小屋に変更することを皆で決めて、いざ「大日岳」に向かう。



▲チングルマのお花畑

御西小屋から程近いところにチングルマが今盛りにと咲き誇っていた。大日岳の山頂近くはガレ破の急登であったが無事に予定より早く到着。往復の歩行は身軽な装備品のお陰で2時間10分と非常に早い歩行であった。御西小屋に戻って、リーダー持参の「ぜんざいタイム」で一服して、元気になったところで飯豊山に向け出発する。駒形山下まで平坦な草原のプロムナードであったが少々西に傾いた日差しと周囲の素晴らしい山々の風景が疲労困憊の体力を元気づけた。飯豊山山頂への道程に山形と福島の間境標識があり、福島県に入ることになった。飯豊山の頂は岩で積み上げられた形であった。景色は三国岳への稜線、飯豊最高峰の大日岳、今日通った飯豊主脈の山々が深い谷を挟んで見渡せる。テント場は山小屋から10分程下がった稜線上にある。風が出てきたので窪地を探してテントを張る。風避けに小石が積上げられて囲まれている。今日は何と11時間半の山行時間であった。

三日目

3時30分起床するもテント周辺は暗闇の中、ガスっていて数m先もヘッドランプの光が届かない程で、地形の記憶だけを頼りに小屋近くのトイレ場に行かざるを得なかった。5時に予定通りテント場を出発し、6時間程度かかる下山路のスタートである。今日は降雨

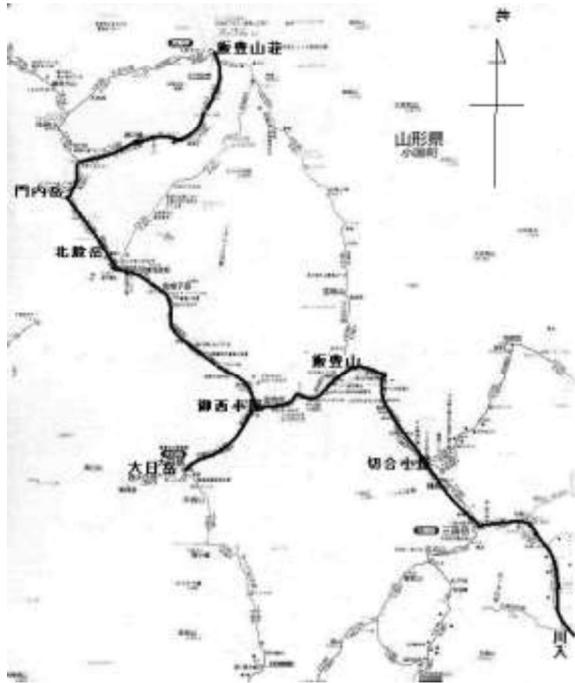


飯豊本山山頂にて

が予想されている為、足早に下っていくが谷から吹き上げる風が強く、肌寒さを感じる程であった。姥権現の鎖場は難なく通過するも岩場のUP-Downは非常に気をつけざるを得なかった。三国小屋手前から雨が降り出し、小屋を通過した直後の下り坂で雨脚が強くなり、雨具を装備する。ルート上危険な箇所である岩稜の尾根を行かなければならない。痩せ尾根を歩いたり、雨に濡れた岩尾根に神経をする減らしながら全員無事通過できた。普通の山道に出たときにはホット安堵する程である。途中で、登ってきたガイド付の数名の女性パーティに出会った。麓からここまで約3時間かかったとのことであったので、下りであれば残り2時間半位で下山出来るかと雨中歩行の中で気持ちが楽になった思いである。しかし、そこからの道には難渋する。粘土質の道は、ザックを背負ってようやく通り抜ける狭さに深く挟られた箇所や木の根が剥き出しになっている箇所があり、又カルミと重なって転んでくださいと言わんばかりである。

この山道の策略に嵌まって、見事転倒した私であった。横峰小屋跡からは多少はましな道になり、一時間弱で御沢についた。ここで汗を拭い、靴の泥を落としてタクシーの待つ御沢キャンプ場に向かう。タクシーで30分ばかりの「いいでのゆ」で長旅の汗をゆっくりと流して、さわやかな気持ちで飯豊の山を後にした。

概念図



概要

山名	飯豊連峰（北股岳～大日岳～飯豊山）		
月日	平成19年8月24日（金）夜発～8月27日（月）		
形式	テント泊	グレード	4C
山域	南東北	地形図	長者原、大日岳、 1/2.5万 飯豊山、川入
目的	① 東北の名山の長大な尾根の縦走。 ② お花畑を楽しむ		
費用	約24,000円	交通機関	夜行バス、JR (新幹線) タクシー
前夜	我孫子駅22:00→東京駅八重洲通りバス乗り場 23:50（高速バス）→		
1日目	→米沢駅（東口）4:45/6:03(米坂線)→小国駅 7:31/7:35(ジャンボタクシー)→飯豊山荘駐車場 8:10/8:20→湯沢峰 10:25→滝見場 11:15/11:35→五郎清水 12:30/13:00→梶川峰 14:00/14:15→扇の地紙 15:05→門内小屋テ ント場 15:40（テント泊） ＜行動時間：7時間20分＞		

	2日目	門内小屋テント場 5:05→門内岳 5:10→北股岳 6:10/6:20→梅花皮小屋 6:40/7:00→梅花皮岳 7:30/7:35→烏帽子岳 8:00/8:10→御手洗ノ池 9:18→天狗の庭 9:50/10:00→御西小屋 10:50/11:10→大日岳 12:10/12:20→御西小屋 13:20/14:10→玄山道分岐 14:50→駒形山 15:10/15:18→飯豊山 15:40/15:45→飯豊山神 社・本山小屋 16:00/16:15→本山小屋テント場 16:30（テント泊） ＜行動時間：11時間25分＞
	3日目	本山小屋テント場 5:05→御秘所 5:35→姥権現 5:40→草履塚 6:00/6:05→切合小屋 6:25/6:35 →種蒔山 6:55→三国小屋 8:05→剣ヶ峰の岩稜 →地蔵山分岐 9:05/9:10→笹平 9:50→上十五 里 10:10/10:20→中十五里 10:35/10:40→下十 五里 10:55/11:00→御沢 11:20/11:30→ゲート 11:40(タクシー)→いいでの湯 12:00/14:50(タ クシー)→山都駅 15:10/15:40(磐越西線)→会 津若松駅→郡山駅 18:03(新幹線)→上野駅 19:39/19:50→我孫子駅 20:30 ＜行動時間：6時間35分＞
ルート 状況	<p>① 梶川尾根ルートは急登の連続、岩や木の根を頼りに両手両足で登る箇所も多いが、それほど歩きにくい道ではない。</p> <p>② 梶川峰～飯豊本山小屋は比較的高低差なく、とても歩きやすい。</p> <p>③ 飯豊本山小屋～横峰小屋跡は岩稜帯通過に神経を使う。登り下りも多く結構厳しい。</p> <p>④ 横峰小屋跡～川入は、粘土質の土壌に加え、木の根が飛び出たり深く抉れている箇所ありでまさに悪路。</p>	
参加者	武内(L)、佐藤健、吉川、小松、外崎、青山、 田村、佐藤明 男4名 女4名 計8名	

< 5 5 5 >

五十沢～金城山

(1369m)

千葉有子

上越の巻機山は織姫伝説のある名山。大学時代、何度も登った。しかし登りも下りもいつも井戸尾根。うんざりするほど、にせ巻を眺めた。計算してみると井戸尾根7往復。少しは違うルートで登ってみたい、ということで裏から登る計画を立てた。ガイドブックによると裏側の五十沢は素晴らしい美渓らしい。事前に現地に問い合わせると何度も「上級者向けのルートで、簡単ではないですよ」と言われた。「大丈夫、何とかできるだろう」と高をくくる。



新道分岐を過ぎた辺り。左手に聳える峰

確かに「増水時は渡渉が困難」とガイドブックにあった

鼻が折られたのは2合目の取水口に着いた時だ。登山道から取水口に下りるための階段には鉄骨で組んだ屋根付きの通路が設置されている。しかし、それがひしゃげて途中から通ることができない。雪の重みでつ

ぶれたのだろうか。この不気味な通路に勇気が半減。途中の壁の穴から通路を出て横の斜面を下る。取水口に下り立つとわずかの幅を昨日までの雨で増えた水が轟々と流れている。ここを飛び越えるしかないのだが、誤るとすさまじい水流にあつという間に落差のある堰下に体を持っていかれるだろう。取水口を何とか越えても、堰向こうに待つ斜面はとても普通の道があるような斜度ではない。岩にペンキで書かれた矢印が見える。あんな斜面をどうやって登るのだろう。かすかに残っていた勇気は一気に消えうせ、名ばかりのリーダーは目を白黒させながら撤退の理由を探し始める。「ここを飛び越えるのは無理よ」と明子さんが助け舟を出してくれて、あつけなく撤退は承認された。

これがこの日遭遇した、気の萎えた最初のシーン。でもこれだけではすまなかった。



水口に下りる階段。鉄骨で囲んであるのに雪のためか崩れ、これ以上下りられない



みやて小屋



五十沢の滝

お地藏様はメンバーの数とちょうど同じだった

陽の射し始めた溪谷沿いの道を、ほっとした気分で美しい滝など見下ろしながらみやて小屋まで戻る。「さあ、これからどうしよう」。「金城山に登って上の避難小屋に泊まってもいいねえ」。「そうしよう、避難小屋で宴会だあ！」。すっかり宴会モードになってしまったパーティーは、金城山登山口まで頼んだタクシーにわざわざコンビニに寄り道してもらいビールまで買い込むはしゃぎよう。

ところが金城山は安易に取り組む山ではなかった。滝入りコースを登り始めてまず下敷に苦しめられる。夏の間は登る人もいないのか、全く整備がされていない。藪に惑わされうっかり道を踏み外すと、沢沿いの斜面に足を滑らせそうだ。2時間かけてやっと沢から離れ、尾根に登る斜面に取り付く。次に待っていたのは滑りやすい急斜面の古くなったロープ。さらには木の根や鎖につかまりながらやっと登れるような箇所。それらが次々に現れて、裏巻機2合目まで往復して疲れ切ったパーティーに襲い掛かる。買い足したビールの重さが肩に伝わる。「誰だ、宴会だなんて言ったのは」。しかも沢で水を補給し忘れ、残り少ない水に不安が募る。

6合目から尾根に上がり、鎖場を何度か越えていくとやがて見晴らしのいい場所に出た。北に、西に、東に見渡せるのは魚野川沿いの田園地帯。日本の米どころ、越後の平野だ。明るい光景に心地よい風も吹いてきて、一息入れることができた。8合目を過ぎた辺りで水場も見つけて一安心。頂上まであと少し、頑張ろ

う。

頂上に着いたときには、全員が汗にまみれてぐったり。すでに夕刻近く、霧も上がってきて南側に切れ落ちた断崖が余計に怖さを増す。ここから避難小屋までは10分。巨岩が折り重なるような分りにくい道を何度か迷いながら進むと、明子さんが「あら、あの岩の上に人がいるわ」。しかし、明子さんが見たのは人ではなくお地藏様だった。断崖を見下ろすように背を向けた地藏は、メンバーと同じ数の4体が立っている。霧に包まれた静かな後姿は、不気味に私たちに何かを語りかけてくるようだ。尾根から見下ろした明るい平野の光景がほんの数十分前のこととは思えない……。

これが今日出会った、気持ちをくじかれた二つ目の情景。ちなみにこの日、幻影を見たのは明子さんだけではなかった。8合目辺りから山頂方向に英雄さんと佐藤さんが避難小屋を見ている。実際の避難小屋に着いて、二人が見たのは小屋の幻であったことに気づく。

避難小屋内部には、行方不明者を探す写真つきの張り紙が貼られていた。霧に巻かれてあの頂上で姿を消す登山者がいるのかもしれない。

担ぎ上げたビールは美味しく、のどを潤してくれたけれど、みんな夕食も食べられないほどに疲れ切っていた。夜中に遭難者の亡霊が出たかもしれないが、それにも気づかないほど熟睡。翌日、すっかり元気を取り戻したパーティーは、晴れ渡った空の下、急な痩せ尾根の続く水無しコースを駆け下った。



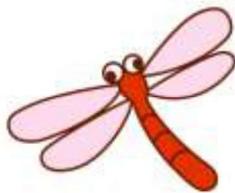
金城山山頂にて。疲れ果てて・・・



金城山登山口

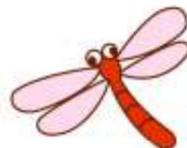


金城山避難小屋



概要

山名	五十沢～金城山		
月日	平成19年9月1日(土)～2日(日)		
形式	避難小屋1泊	グレード	4C
山域	上越	地形図 1/2.5 万	六日町、巻機
目的	美溪(裏巻機)から織姫伝説の山へ		
費用	15,000 円(反省会費用含む)	交通機関	高速バス、タクシー、JR
日程コース	1日目	我孫子駅 20:08→池袋駅 22:52/23:50→(夜行バス)→六日町 2:50/3:00→(タクシー)→五十沢キャンプ場あずまや(仮眠) 5:30 出発→みやて小屋 6:00/6:40→登尾根→割引分岐 7:30→二合目貯水池 8:08(増水の為渡れないと判断) 8:30/8:40→新道分岐→登尾根終わり→みやて小屋 9:30/10:05→(タクシー)→金城山登山口 10:30/10:40→二合目 11:06→三合目 12:45→六合目 14:08→八合目 15:11→水場 15:25→金城山頂上 16:25/16:42→避難小屋 17:00(泊)	
	2日目	小屋起床 5:00 出発 6:45→八合目 7:05→五合目 8:25→四合目 8:50→二合目 9:30 一合目登山口 10:00/10:20→(タクシー)→温泉 10:50/11:50 六日町駅近くで反省会 六日町 13:29→越後湯沢→(新幹線)→上野駅 15:40→我孫子駅 16:30	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・裏巻機旧道は取水口までは2度の渡渉があるも、ルートを間違えなければそれほど難しくはない。道もよく藪が刈られている。 ・二合目の取水口は普段は水が少なく鎖があり、下りて岸に渡れるらしい。ただし今回は水量が大変多く、とても下には下りられない。(荷物なく、水量が少なければ跳び越すのも可能か?) 対岸の道もペンキが見えたが急峻でかなり難しそうであった。鎖が設置されているので、行ってみればそれ程ではないかもしれない。 ・金城山滝入りコースは人がほとんど入っていない。最初は沢沿いで藪が深い。5合目あたりからは藪はないものの大変な急坂で鎖、ロープが随所にあり気が抜けない。 ・頂上から避難小屋までは短い、ルートが分かりにくい。断崖が続く、ガスで見通しがきかない場合はとても危険。 ・下りに利用した水無しコースも急坂の連続。木に捕まりながら、両手両足を使わなければ下れない。7合目すぐ下に、岩場のトラバースあり。鎖と足場が一応設置されているが、岩が滑りやすく注意を要する。水無しコース上は登山口すぐの沢まで水場一切なし。 		
参加者	千葉(L)、高橋英(SL)、佐藤健、佐藤明 男2名、女2名 計4名		



< 5 5 6 >

策ヶ岳 (檜横手山)

(2021m)

武内勇二

1 日目

山行の目的地の策ヶ岳は、南アルプスの展望台で赤石岳が手に取る近さで望めるとの能書き付きの山だから明日のお天気が気になる。常磐線車内で携帯の天気予報サイトを見ると、ウエザーニュースと気象協会とで予報が多少異なっていた。ウエザーニュースは小さな傘マークが付いているのに対し、気象協会の予報では「☁️☀️」と傘マークがない。気象協会を応援しながら、新宿発のあずさ1号、甲府駅でふじかわ4号に乗りついで身延駅に降り立った。

多少雲が多いながらも「晴れ」ており、明日への期待に胸が膨らむ。老平登山口までのタクシーの中で、運転手から「策は見えないが布引岳は見えるよ」と聞かされ、車外の景色に注目した。3日前の台風9号の大雨の名残で、富士川の支流の早川の水量はいつもより多いとのこと。徒渉地点が1ヶ所あるだけに水嵩は気になるがここまで来たからにはじたばたしても始まらない。行ってみるしかない。

老平の車止め手前でタクシーを降り、暫くは舗装のない林道に行く。林道終点から山道を歩いて5分ばかりのところのところに廃屋になっている1軒家がある。登山ルートは奥沢谷に沿ってつけられている。下流に雨畑ダムがあるが、この辺りまで来ると遥か下に溪流が岩を食んで流れている。

竹沢には簡便な吊り橋が架けてあり、静かに歩かないとかなり揺れる。また、所々ではあるがザレているところもある。オーバーハング状の岩斜面から水がシャワーとなって登山道に降り注ぐ箇所は濡れるのを覚悟で走り抜けなければならない。奥鬼怒の女夫淵から加仁湯への遊歩道と似た風情だがこちらの道の方がス

リリングだ。

谷底が徐々に上にせり上がってきて、やがて登山道は広河原にでた。名前負けしそうな小さな河原だ。徒渉地点を示す布切れを付けた棒が兩岸に立っている。しかし、水量が多く流れが激しいので歩いて渡るのはおろか、飛び石伝いにも渡れそうもない。少し上流へ遡り、徒渉地点を探したものの適当な地点が見つからず、撤退も考えざるを得ないと思い始めた時、下流から「オーイ」の聲がかかった。振り向くと男性が一人「こちらへ来い」と手招きしている。聞くと、布引岳にテント泊して策を往復した後下ってきたという。所定の徒渉地点の少し下流だが、そこだけ大きな岩がないので水深が平均的に浅くなっており靴を脱げば渡れる。天の助けとばかり、靴を脱ぎズボンを膝上まで捲りあげて水に入った。一部水流の激しい箇所があったがストックを支えに蟹の横這いで通過、無事に渡りきった。翌日の下山までに会った人はこの人だけで、偶然とは言え本当にラッキーな出会いだった。

広河原からの登りは、急斜面に登山道がジグザグに切ってある。一気に高度を稼いで、沢がどンドン下になる。1時間ほどの登りで山の神につく。尾根の突端の狭いが平たくなった個所に小さな祠が祭ってある。その横に小さな石碑が立っている。遭難の墓標？

山の神を過ぎると再び急登が始まる。ブナを主体とした落葉広葉樹林帯の斜面を真っ直ぐに登ってゆく感じ。ザックが肩に食い込み、足に全重量がかかる。一步、また一步と亀の歩み。それでも着実に高度は稼ぎ、滑車やワイヤーロープが放置されている箇所を通過した。昔、木材の切り出しが行われていたのだろう。いつの間にか、周辺の樹木はカラマツに変わっている。40年ほど前の植林を記した立て札が立っていた。

樹木がシラビソ(コメツガ?)の林にかわると登りもやや緩やかに感じられた。とはいえ、まだまだ坂はきつい。小さな雨がパラっときた。そういえば、上空の雲が厚くなってきたようで多少薄暗い。夕方が迫ってきただけのせいではなさそうだ。

檜横手山の頂上に到着。小さな標識が木にかけられている。その前に小さなスペースがあり今宵の幕営地とした。テント設営もそこそこに缶ビールで明日の晴

天を祈りながら「乾杯、カンパニー！」。苦勞して持ち上がった甲斐があった。

2日目

翌朝、朝食を終えて出発準備にかかろうとした時に、テントにポツン、ポツンの雨音。しばらく様子を見ていたが、雨はやむ気配がない。無理して稜線に出ても南アルプスの展望はないだろう。ついにリーダーが「下山」と決断した。早々にテントを撤収し下山開始。

濡れて滑りやすくなった木の根っこに足をとられないように注意しながら黙々と歩く。荷の重さに喘いだ。昨日の登りと較べて、下山は格段に早い。急斜面の連続で膝が笑いかける寸前で広河原に降り立った。心配した水嵩も少し増えているだけで問題なく徒渉でき、緊張から解放された。

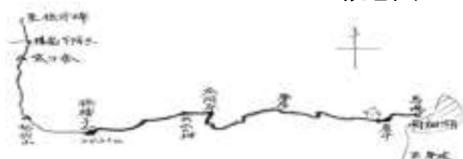
広河原で大休止の後、老平迄約1時間30分、さらに15分ほど歩いてダムの中にあるヴィラ雨畑に11時30分着。もしも策を往復していたら少なくとも5～6時間は余計かかるから、ここに到達するのは夕方5時位にはなっただろう。

檜横手岳は布引岳への尾根の中途の小さな出っ張りに過ぎないが、広河原からでも標高差1,100mのきつい登りは大変なエネルギーを要した。これで充分満足させてもらった。雨のため当初予定の通り行かなかったのは残念だが、結果的には策を断念して良かったと思う。



策ヶ岳の雄姿。次のチャンスに乞ご期待

概念図



檜横手山山頂にて

概要

山名	策ヶ岳 (檜横手山)		
月日	平成19年9月9日(日)～10日(月)		
形式	テント	グレード	4C
山城	南アルプス	地形図	七面山・新倉 1/2.5万
目的	白峰南稜の策ヶ岳から、南アルプスの主峰群を見渡す		
費用	14,500円	交通機関	JR、タクシー
日程コース	1日目	我孫子駅 5:30→新宿 7:00 (スーパーあずさ1号) →甲府 8:28/8:43 (ふじかわ4号) →身延 9:30/9:35 (山交タクシー) →老平 10:10/10:20 ⇒林道終点 10:50 ⇒一軒家 ⇒広河原 12:10/12:55 ⇒山の神 13:55/14:00 ⇒檜横手山 17:15 (泊) 晴のち曇り <行動時間:約7時間>	
	2日目	檜横手山テント場 6:00 ⇒山の神 8:10/8:20 ⇒広河原 9:00/9:15 ⇒林道終点 10:20/10:50 ⇒老平バス停 11:20 ⇒ビラ雨畑 (老平温泉) 11:50/14:00 (山交タクシー) →身延 14:30/14:42 (ふじかわ7号) →甲府 15:34/16:02 (スーパーあずさ24号) →立川→新松戸→我孫子 18:35 小雨 <行動時間:5時間50分>	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・老平から広河原までは、奥沢を左手に見下ろしながら谷沿いの細い道を2時間ほど歩く。 ・広河原は大きな沢音と共に水しぶきがあがり、激しい流れとなっていた。渡渉地点は、本来のルートやや下流の水の流れがやや広くなったところ。 ・広河原から本格的な急登の連続。平坦地がゼロに近い。檜横手山まで約1100m。 ・檜横手山山頂にエスパーズ一張り分のスペースがある。2人用のテントなら、道端にも張れる箇所がある。 ・前夜山麓に泊まり、早朝出発して布引山まで足を伸ばしておく、翌日策ヶ岳の往復が楽になる。しかし布引山まで2100mの登りはあまりにもきつい。さらに下山も考えれば山中1泊が無難。 		
参加者	外崎 (L)、清家、武内 男1名、女2名、計3名		

< 5 5 7 > ウィズハイク

大平山

(341m)

高橋 重

これまでの猛暑が嘘のような涼しい出発の朝だった。レーダーでは栃木県南部のみが局地的な弱い小雨で、数時間後も同様の予報だった。途中休憩の羽生S Aでは、やはり小雨で、今日の行動をどうするか相談が持たれた。Dコースは予定通り。A、B、C各コースの班分けはそのままにして、それぞれがBコース【少年自然の家→大平神社（まき道）→大平山→大平神社→少年自然の家】を歩く計画に変更し、全員が少年自然の家で雨の中を歩く準備を整えた。

楽しく、一緒に山に登るウィズハイク。雨の中でも目的は一緒。急な箇所や滑りそうなどころでは手に手を取ってお互いに意思を確認しながら歩く。2人、3人と協力体制がすぐに出来上がる。下りに補助ザイル出すとすぐに路線確保班が行動する。とても素晴らしいことと感動することばかりだ。行きのバスの中では「みずきのMさんが山歩きが好きになり、今年八ヶ岳を歩いてきたそうです」とのご紹介があった。昨年初めてウィズハイク参加し、何人かの「岳人あびこ」の方と共にMさんと歩いていたので、その時のことが思い出されジーンと来た。

大平山神社では各自が思い思いに、お参りをして小雨の山道へ。総合リーダーや、リーダー部のベテランリーダーの方のアドバイスなどにより班毎の連携も旨く取れ、巻き道から「ぐみの木峠」に向かわず、スグに大平山（富士浅間神社）へ登り返し短い急坂を神社へと下りた。会の方や、経験豊富なリーダーの方たちがマンツーマンで対応したりフリーで動いたために誰一人転んだり尻餅をついたりしたこともなかった。少年自然の家に着くと冷え気味のからだには温まる、かぼちゃ入りの豚汁が準備され、広い体育館で雨具を脱

いで楽しい昼飯をゆっくりと摂ることができた。食料担当の方には大感謝だ！2時過ぎにお世話になった少年自然の家で52人の記念写真を撮り、5時半前に我孫子に着いた。

全国的にも栃木県南部のみがスカッドミサイルのピンポイント「雨」攻撃に曝されたが、精進のよい方が多かったためか？激しい雨にならず、会の方、福祉作業所の方や職員の方とともに楽しく過ごせた、思い出に残るウィズハイクだった。

これからもウィズハイクが会の恒例行事として、多くの参加者のもとで続けられることを願っている。



▲雨具をつけて出発

▼大平山山頂をめざして



概要

山名	大平山		
月日	平成19年9月23日(日) 日帰り		
形式	日帰り	グレード	1A
山城	栃木	地形図1/2.5万	栃木、下野藤岡
目的	施設の若者と山行を楽しむ。		
費用	1,000円	交通機関	市の福祉バス、ワゴン車
予定コース	<p>脚力により下記4コースに分けて計画していたが、小雨のため、AコースとCコースをBコースと同じコースに変更して実施した。小雨のため、往路は太平山の巻き道を行き、復路で急登の登り道と緩斜面の下山道を取った。</p> <p>計画していたコース</p> <p>Aコース；太平山登山口⇒太平山神社⇒太平山⇒ぐみの木峠⇒晃石山⇒桜峠⇒清水寺⇒かかし里（バスに乗る）⇒太平少年自然の家</p> <p>Bコース；太平山登山口⇒太平山神社⇒太平山⇒ぐみの木峠⇒太平山（巻き道）⇒太平山神社⇒太平山登山口⇒太平少年自然の家</p> <p>Cコース；大中寺⇒ぐみの木峠⇒太平山⇒太平山神社⇒太平山登山口⇒太平少年自然の家</p> <p>Dコース；太平山登山口近辺を散策⇒太平少年自然の家（食担を手伝う）</p>		
行程	集合・往路	我孫子駅北口 7:30(バスは布佐ナリタヤ 06:50始発、成田街道沿いに参加者をピックアップして我孫子駅北口 7:30着) 7:35 我孫子駅北口出発→(高速道路利用) 柏IC 7:50→三郷→外環→東北自動車道→羽生SAにて休憩9:00/9:25→栃木 IC 9:53→太平少年自然の家 10:20(雨具着用と準備)→10:45 A、B、Cコース班の順番で出発。そのあと 11:00 Dコース班出発食担班は残留	
	Aコース	10:45 太平少年自然の家発⇒富士見百景展望所 10:55⇒謙信平 11:00⇒太平山神社 11:10⇒ぐみの木峠への分岐 11:30⇒急登の始まり 11:37⇒太平山頂上 11:50/12:00⇒巻き道との分岐に下山 12:10⇒太平山神社 12:20/12:30⇒太平少年自然の家着 12:55 (昼食と豚汁、休憩)	
	Bコース	10:45 太平少年自然の家発⇒富士見百景展望所⇒謙信平⇒太平山神社 11:13/11:20⇒ぐみの木峠への分岐 11:30⇒急登の始まり⇒太平山頂上 11:55/12:04⇒巻き道との分岐に下山⇒太平山神社 12:30/12:35⇒太平少年自然の家着 13:10 (昼食と豚汁、休憩)	
	Cコース	10:50 太平少年自然の家発⇒富士見百景展望所⇒謙信平⇒太平山神社 11:15⇒ぐみの木峠への分岐⇒急登の始まり⇒太平山頂上 12:00/12:15⇒巻き道との分岐に下山⇒太平山神社 12:40⇒太平少年自然の家着 13:15 (昼食と豚汁、休憩)	
	Dコース	11:00 太平少年自然の家発⇒太平山神社 11:30/11:45⇒太平少年自然の家着 12:15 (昼食と豚汁、休憩)	
	帰路	太平少年自然の家発 14:10⇒駐車場バス発 14:20⇒栃木 IC14:40⇒佐野 SA14:55/15:20⇒柏 IC16:25⇒我孫子駅北口着 17:20、解散	

参加者	<p>Aコース 外崎(総合L)、原田和(SL)、柴田、飯合、原作業所―田中、中島生、渡辺 (計8名)</p> <p>Bコース 松本(L)、中村隆(SL)、斉藤、原田君、中村八、品田、細野省、細野清 作業所―大久保、長澤、三宅、山本、及川、齋藤千、吉田、佐藤、中島燈、高沢、あべ (計19名)</p> <p>Cコース 小川誠(総合L、高橋重(SL) 武内、田村、高橋英、柴、村松敏 作業所―志賀、伊東、徳本、根本、大林、中台、秋谷、齋藤和 (計15名)</p> <p>Dコース 日下(L)、箕輪カ(SL) 作業所―井上、牛尾、内藤 (計5名)</p> <p>食担 藤倉(L)、桐生(SL)、本間、大平 (計4名) 岳人あびこ 計26名 作業所 計25名+1(志賀氏ご子息棟太君)</p> <p>合計52名</p>
-----	---

メモ

- 雨天の場合は、館林の「向井千秋記念子ども科学館」を代替訪問先と計画していたが、小雨のため、コースを最もやさしいBコースに統一して、山行決行とした。
- 幸か不幸か、小雨決行の実績ができた。
- 栃木県立「太平少年自然の家」には終始親切かつ協力的対応を受けた。感謝している。朝、急遽雨具着用の場所の提供をお願いしたところ、快諾された。荷物保管場所の提供も快諾された。また、炊爨と昼食のため、体育館を開放して頂いた。
- 食担の太平少年自然の家にて炊爨のかぼちゃ入り豚汁は大変喜ばれた。食担には、山に入って山に登らず、ご尽力頂いた。
- 岳人は登山靴、みずき生徒と職員は運動靴だった。靴底の状況により必要と認めた運動靴には岳人の個人持ち細引きを巻いた。幸い、必要な靴には細引きが足りたが、今後は小雨決行の準備が必要。
- 雨具は、ベテランリーダーの助言により、予め言っておいたので、みずきのほぼ全員が用意していた。今後も雨具常備は呼び掛けておきたい。
- みずきの生徒には岳人あびこのメンバー(一部みずき職員)がサポーターとしてマンツーマンで手を取

- り合って登山・下山した。
- 女性生徒には女性のサポーターを付けたが、力仕事なので、女性生徒にも男性サポーターがよい。トイレや着替えに女性サポーターを充てる態勢がよい。
 - ベテランリーダーの方々にはマンツーマンから自由にして、臨機応変のサポート態勢をお願いしたが効果的だった。C コース班にプールの的に配置していたが、結果的に見て、各班に均等に配置すればもっと効果的だった。
 - 小雨決行を決め、登山コースをぐみの木峠行きを省略して折り返すなど、ベテランリーダーの方々のタイムリーな判断力のご指導が効果的だった。
 - 小雨のため、滑りやすいところが多かったが、幸い、全員、滑ることも転ぶこともなかった。
 - 準備したザイルが下山道で効果的だった。
 - みずきの個々人の個性や能力のデータ・知識を集積して、今後の計画に活用したい。(歩の運びの慎重な2名が集団から遅れた)。
 - この程度の山(従来のウイズハイクのコースに比し、本格的な山)では、岳人の所要時間の2ないし3倍を見込む必要がある。時間的余裕を充分持つことに

- より、慎重に歩を運ぶことができる。幸い、今回はコース短縮により、時間的余裕があった。
- D コースの内藤さんは松葉杖使用だが、牛尾さんと一緒にゆっくり時間をかけて、雨ですべりやすい階段を危なげなく往復し、太平山神社往復を完走した。神社の社務所の執事に親切なお気遣いを頂いた。
 - みずき生徒の多くは作法通り太平山神社参拝を行った。お参りの内容を話してくれた生徒もあり、「ウフフ」の反応もあった。
 - 小雨のため、蚊は居なかった。
 - 今後は、日程を早期に決めて、岳人の参加者を積極的に増やし、更なる盛会を期したい。
 - この日だけ雨。前日も翌日も雨は無し。全国でも雨は栃木県南部だけ。まるでスカッドミサイルのピンポイント攻撃のような雨だった。総合リーダーの日頃の精進によほど問題があるようで反省している。
 - ウイズハイクも回を重ねて今回が第6回。何とか無事実行できて、ご同慶の至りであり、感謝している。

今年も楽しかったウイズハイク！

福祉作業所みずき 志賀 幸夫

毎年、楽しみにしている秋分の日恒例のウイズハイク！今年の見先は、栃木県大平町の太平山と晁石山でした。しかし、向かうバスの中から雲行きがあやしくなり、ポツポツと雨が降ってきてしまいました。雨天時に行く予定になっていた子ども科学館も検討されましたが、雨具を着て、太平山神社から比較的平坦な太平山だけ登ろうということになりました。結果的には眺めが全く観られなかったのは残念でしたが、時間もコースも(ちゃんと山登りが体験できて!)ちょうど良かったと思います。雨の中を歩き回って、少年自然の家の体育館で、昼食と一緒に頂いたとん汁は具沢山で、とてもおいしかったです。みんなおかわりをしていました。今回のウイズハイクも岳人のみなさんのサポートのおかげでとても楽しいものとなりました。

岳人あびこさんとの、ウイズハイクも今回で6回目となります。毎回、毎回、職員や家族とでは、とても行くことが出来ない!というか、思いつかないような場所を探してくださり、様々な参加者のレベルに合わせたコースを考えてくださり、みんなと一緒に楽しめるようにとプラスαの企画も用意してくださる岳人の皆様にはとても感謝しております。

こういった経験は、単調になりがちな障害を持つみんなの生活の中では、きっと貴重な経験になっていると思います。そして、何より参加するみんなは毎年このウイズハイクを楽しみにしています。

来年も、楽しいウイズハイクをよろしくお祈りします。

Dコースのメンバー→



大平神社に登山の無事を祈る



Aコースのメンバー



Bコースのメンバー



Cコースのメンバー

< 5 5 8 >

鳳凰三山縦走
(薬師岳 2780m)

坂口よし江

雨に煙る登山道

9月29日(土) 一日目

朝から降っていた雨は、止むどころか韮崎駅に近づくにつれ雨足が強くなるばかり、車窓から眺めながら行くべきかそれとも取りやめるべきか迷う。

韮崎駅到着。幾分雨足は弱まっているようなので出発を決める。駅の待合室で装備を整え、予約していたタクシーに乗り込む。予約の段階で青木鉱泉より先の中道登山口まで入ってもらえるとのことだったので、運転手さんにその旨話すと道が悪く奥までは入れないという。「事務所の方は確かに登山口まで入れますと言ってくださった」と少々粘ってみるものの、「事務の者はいつも適当なことを言うので困る。道が悪く車が痛むので会社の方針で入らないように言われている」とか。

この雨の中、長い林道歩きかと思うとうんざりするが仕方がない。皆さんに申し訳ないなど思いながら覚悟を決める。車が奥に入るにつれて、道が悪くなってくる。道の整備がなかなか進まないらしい。いろいろと運転手さんとお話しながら、とうとう右手に青木鉱泉の表示が見えるところまで来た。しかし、なぜか、運転手さんはそのまま左の道路を進んで行く。うわー、万歳！どうやら登山口まで入ってくれるつもりらしい。

親切な運転手さんのお陰で、50分の歩行時間短縮で中道登山口を出発する。登山口から少し登ったところ、登山道左側に豊富な水場があった。相変わらず雨は降り続けているが、樹林帯なので少し雨がよけられる。湿度120%で暑く鬱陶しい登りが続く。道迷いを心配していたが、いたるところに赤布やペンキ

マークが付けられているので安心だ。でも、この道でも道迷い遭難した人がいるのだそうだ。油断は禁物。

ジグザグの急登を登ると今度は緩やかなカラマツ林さらに笹原が現れてくる。次はまた急登と、標高差1600mの道のりはそう簡単には登らせてくれない。ダケカンバが現れクマザサが茂る平坦なところに出ると千頭星山方面の展望が得られる。ダケカンバ帯から暗い樹林帯に進むと岩が露出した歩きにくい道になる。岩の周りにゴゼンタチバナの群生が赤い可愛い実を付けて見事だ。



ゴゼンタチバナ

シラビソの樹林帯に入り、一登りすると御座石という大岩に出た。暗い樹林帯の中の巨大な岩は何か不思議な感じ。シャクナゲの群生地を過ぎ、森林限界を抜けると花崗岩の大岩が立つ展望地に出る。と、薄日がさしてきて、遙か左後方に優美な山容が！雨で展望は望むべくもないと思っていたが、くっきりと富士山が姿を現している。

ハイマツの斜面を岩の間を回りこむようにして登っていくと白砂の山頂が現れ、山頂を右手に見てやや急な斜面を下ると今日の宿、薬師岳小屋だ。

9月30日(日) 二日目

今日も雨。それほどひどい降りではないので予定通り縦走は可能かとも思ったが展望も期待できないし、昨夜から高山病の症状の方や足の調子が悪い方、吐き気のある方など、3名の方が不調であったので、大事をとってこのまま往路を下ることにした。雨の中、1,600mの登りで、体調を悪くされたのだと思う。全員が頑張って本当に

りっぱに登ってくださった。無理をさせてしまって申し訳なかったと思う。ペース配分などもう少し私が気をつけていればと反省が残る。

登りと同様、長い長い道のりを青木鉱泉まで下った。青木鉱泉で入浴し、山菜蕎麦を食べながらささやかな反省会。次回の再挑戦を誓い合った。青木鉱泉のお風呂は良くないと聞かされていたが空いていて貸切状態だったせいか、気持ち良く入ることができた。



2日間とも雨具を着続けました

概念図



概要

山名	鳳凰三山 (薬師岳)		
月日	平成19年9月29日(土)～30日(日)		
形式	山小屋	グレード	2B
山域	南アルプス	地形図	鳳凰山 1/2.5万
目的	初心者参加で		
費用	21,000円	交通機関	JR・タクシー
日程	一	我孫子駅 5:31→日暮里駅 6:01/6:07→新宿駅 6:27/7:00(スーパーあずさ1号)→葦崎駅 8:37/9:00→中道コース登山口 9:50/9:55⇒衣服調整 10:27/10:32⇒休憩 10:50/10:55⇒昼食 11:35/11:45⇒休憩 12:25/12:30⇒御座石 14:05⇒休憩 14:20/14:25⇒休憩 15:05/15:10⇒薬師岳頂上(2780m) 15:50⇒薬師岳小屋着 16:00(泊) 雨 <歩行時間：5時間25分>	
	二	薬師岳小屋発 6:30⇒薬師岳頂上 6:45⇒ピーク 7:05⇒休憩 7:25/7:30⇒御座石 7:45⇒休憩 8:15/8:23⇒休憩 9:07/9:15⇒広場 9:50⇒休憩 10:10/10:15⇒中道コース登山口 10:35⇒青木鉱泉着 11:20(入浴と昼食)/ 13:25 (タクシー) → 葦崎駅 14:10/14:31→高尾駅 16:31/16:33→西国分寺駅 16:56/17:06→新松戸駅 18:01/18:03→我孫子駅着 18:16 雨 <歩行時間：4時間25分>	
ルート	状況	<ul style="list-style-type: none"> 赤布・立木の赤ペンキマークが随所にあり、積雪期以外なら道迷いの危険性は少ない。登山道は良く整備されていて歩きやすい 中道登山口に入つてすぐのところ(左側)に豊富な水場がある 上部に石楠花の群落が登山道の左右にあり、開花時は素晴らしいと思われる 展望のない樹林帯の急登が最後まで続く 	
参加者	坂口(L)、細野清(SL)、細野省、高橋英、安田、中村八、原田、箕輪カ、小川誠、矢野、本間、小松 男5名、女7名 合計12名		

< 5 5 9 >

雨飾山 (1963m)

品田千恵子

日本百名山の雨飾山は、双耳峰で猫の耳と地元の人達に呼ばれ親しまれている。

南峰にはケルンと三角点が、やや低い北峰は羅漢上人が石を刻み込んだと言われている石仏が新潟を向いて置かれている。

雨飾山はその名の通り一年を通じ雨が多い所から名付けられたらしいがご多分にもれず今回の山行も糸魚川線の車中で雨が降り始め、だんだんと雨足が強まり、今晚お世話になる雨飾山荘に着いた時にはドシャ降りとなっていた。良く名付けたものですね。

雨飾山荘は三連休最終日と悪天候のため、泊り客は少なく私たち9名と他男性1名のみ（前日は満員との事）。従って秘湯は貸切状態で重曹泉で、飲んでよし浸ってよし（胃腸病・神経痛・皮膚病）との事。私も試しに一口飲んでみたが少々スッパイような、なんとも形容しがたい味だ。それでも三回入浴したが、効能を信じて三回とも飲んでしまった。明日の山行に効き目バッチリかも？

雨飾山荘にはテレビもラジオもなく晴情報が入らず山荘主人の経験談と小松さんが携帯して下さったラジオを（電波状態が悪い）を頼りに9日の山行予定を立て就寝する。



笹原を山頂へ向かう

雨飾山荘の裏から急登と悪路を喘ぎながら登り、2時間位で中の池の看板の所へ出た。さらに1時間程樹林帯の斜面をジグザグに登ると一面の笹で覆われた笹平に出る。

翌朝になっても強く雨が降っており回復の兆しなさそうとの事なので出発予定を30分遅らせ雨が上る事を祈りつつ出発する。

この頃になるとようやく雨も上がり、山頂まではもう一登り、細い登山道を登りようやく南峰の三角点を触れ狭い山頂で集合写真を撮り、北峰の石仏の前でもパチリ、記念写真を撮る。ちょうど霧も晴れたので焼山・火打山、手前の天狗原山・金山・黒姫山・高妻・戸隠山、皆が地図を開いて確認することができた。



黒姫山、地藏山、乙妻・高妻・戸隠山(重なって)

眼下に見える笹平は20分程歩く笹原の道だが頂上から見ると淡緑の布地に墨で一筆書きしたように描かれた織物のようで紅葉とは違った秋色を見ることができ、楽しませてもらった。

昼食は風がない笹平と梶山分岐で食べ、昨夜の雨で足元がぬかるんではいるが注意しながら荒菅沢まで下る。ここから見上げる布団菱の岩峰は紅葉を舞っており、それは見事。一斉に歓喜が上る。写真を撮りに来ている人達にも出会う。荒菅沢は飛び石伝いに渡り、渡りきった所で冷たい川水に手を入れホテッた身がホッと一息つく。出発前にもう一度今回最高の紅葉見どころ地点である布団菱岩峰群を見上げる。

やがて、ブナ林の大木が目立ち写真を撮ったり余裕を持って景色を眺めたりしているうちに広い駐車場に出た。予約しておいた大型タクシーに乗り小谷駅へ着く。そこ

で乾杯用のお酒を購入し車中で全員無事登頂し無事下山できた喜びに乾杯する。



ブナ林の中で

今回で雨飾山登頂2回を成功させた原田(君)さん(7年前還暦登山)は先回とは逆コースで登山されたとのことでしたが、私には数年後の還暦登山にこんなに険しい登山ができるかしらと思う。原田(君)さんから挑戦する勇気と頑張り、そして沢山の元気をいただきました。

概念図



石仏と仲良く



雨飾山山頂にて

概要

山名	雨飾山		
月日	平成19年10月8日(月・祝日)～9日(火)		
形式	山小屋	グレード	2B
山域	頸城山塊	地形図 1/2.5万	雨飾山
目的	紅葉、山のいで湯		
費用	約 23,500 円(交通機関 通費、宿泊費)		JR、タクシー
日程 コース	1 日目	我孫子 6:25/6:28→日暮里 6:58/7:01→新宿 7:21/8:00→(スーパーあずさ5号)→松本 10:41/11:10→南小谷 13:15/13:32→糸魚川 14:22/14:35(タクシー)→雨飾山荘 15:20(泊)	
	2 日目	雨飾山荘 6:10⇒難所のぞき(衣服調整)6:35/ 6:38⇒休憩 7:12/7:17⇒一ぶく処 7:34⇒休憩 8:13/8:18⇒中の池 H1600m 8:30⇒休憩 8:53/ 8:58⇒尾根の分岐 9:25⇒雨飾山 H1963m 9:50/ 10:10⇒尾根の分岐(昼食) 10:33/10:55⇒笹平 11:02⇒休憩 11:38/11:43⇒荒菅沢出合 H1448m 12:10/12:25⇒ブナ平 13:02⇒雨飾高原休憩舎 H1130m 13:55/14:08→(タクシー)→南小谷 14:40/15:00→松本 17:02/17:18→(スーパーあ ずさ32号)→新宿 20:08/20:14→日暮里 20:35/ 20:40→我孫子 21:09 解散 <行動時間:7時間45分 歩行時間:6時間 25分 休憩時間:1時間20分>	
ルート 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・雨飾山荘(新潟側)からは急登約2時間で中の池(看板あり)でやっと一息。さらに1時間ほど急登。 ・ツアー登山者は南小谷側からのピストンが多かった。広い駐車場がある。しかし、こちらも稜線から荒菅沢までは急峻でガレ場もあり、よい道ではない。ブナ平や木道があったりする分、ホッとできる。 ・荒菅沢は飛び石伝いに渡るが、雨の影響で渡れないとは聞かない。ここから、山頂直下に沢を詰めるルートがある。 ・登山道は狭く急で、混雑時は時間を要する。 ・新潟側も登山口まで車が入る。南小谷側も鎌池林道駐車場まで車が入る。 		
参加者	清家(L)、原田君(SL)、外崎、斉藤、中村隆、品田、田村、小松、原田和 男4名 女5名 合計9名		



<560> 県連ウィークデーハイキング

赤薙山
(2010m)

斉藤清一

県連ウィークデーハイキングとモミジ狩り

「岳人あびこ」よりの4人の参加メンバーを含め流通経済大前よりの2号車バスは6:35分に予定時刻通り出発した。同じ頃1号車のバスは千葉駅を出発した。貸し切りバス2台は千葉県連8団体44名の参加者で霧降高原へ向かった。桑原ハイク委員長より社内での「自然保護」の腕章の販売を仰せ付き早速セールスマンとしてセールスを行なう。皆様のお陰で新腕章を8枚販売することが出来ました。

蓮田SAで千葉からのバスを待ち合わせながらのトイレタイムを取る。ほどなくして千葉からのバスと合流して霧降高原に向かった。

目指す日光の山はまだ紅葉には早いようで、黒緑の樹林帯だ。予定時刻通り、霧降高原駐車場に到着した。ハイク委員長から本日の参加者44名を5班編成にしたとの発表がなされた。

我々は4班「岳人あびこ」4名、「山の会らんたん」6名の10名で構成された。柴田さんのリードで準備体操を行い登山開始を待つ。霧降高原駐車場付近の高度は1200m位であるがやや紅葉がまばらに目立ち始めたようだ。今回は東葛山の会が2台の無線機を持参し先頭と後尾に配した。

高原道路の下にあるトンネルを潜り抜け登山道に入る。ロープウェイと平行して山道を登るが先頭と後尾の無線のやり取りが耳に入る。400mの坂を登ったので一人遅れが出ているが、対処してゆくのでそのまま進んで欲しいとの内容である。44名の参加者であると先頭と後尾の距離は眼では確認できないので無線機は便利である。

2000mまで上り続けるのであるが、急坂がありそれぞれが工夫して続いてくる。高度を上げるたびに

周りの「ななかまど」赤色、黄色と紅葉の樹木が目立ち始める。キスゲ平地点に至るが北面は丸山更に奥の山々紅葉が始まったらしく多少赤黒く見える中、照り輝く湖が3ヶ所がピカピカと反射している。



キスゲ平から丸山をのぞむ

紅葉のトンネルを幾度と潜り抜けた。美しい！登ってきた道を振り返ると笹の緑と紅葉が溶け込んで秋が確実に近づいているのだと実感する。焼け石金剛を通過し更に登り続けた。

南面の切り立った谷底は「雲竜溪谷」厳冬期にハイク委員会がウィークデーハイキングを行なった溪谷です。厳冬の溪谷の厳しさは体力と精神力と技術力が必要である。氷ついた「雲竜漠」(滝)は見事との話であるが参加者は少なかったようです。ワカンとアイゼンを着用したようである。

この溪谷の紅葉と滝もまた美しいだろうが、いま色づかず黒緑の樹木が生い茂っているようである。上から見下ろすのも溪谷の険しさ、厳しさが理解できるが溪谷を歩行しながら上を眺めるのもまた格別のような気がしました。

赤薙山に到着する。鳥居をくぐって石祠に詣でて付近で昼食とする。柴田さんが道中袋一杯にゴミを拾った成果を見せてくれる。私は4班の先頭を歩いていたので「自然保護活動」を行なっている事も知らず頭が下がる思いであった。

食後頂上の巻き路を通り下山に入った。急坂で時間

をかけて焼石金剛まで下りる。ここからは上りの坂道をキスゲ平まで下る事になった。小丸山から丸山方面に向かうが暗部へと下りまた丸山へと登りにかかるが階段状の杵を一步一步登るのであるが中々足を上げるテンポは遅くなる。



赤薙山山頂

丸山山頂は広々としていて展望も開けていた。更に進んで急降下して八平ヶ原を通過し深い笹原を漕いで沢に出た。暫く沢沿いを歩き高原ハウス横に到着した。

霧降の滝を見学にバスをいらせその後「カタクリノ湯」で汗を流し帰途に入った。

概念図



概要

山名	赤薙山		
月日	平成19年10月11日(木)		
形式	日帰り	グレード	1A
山域	日光	地形図 1/2.5万	日光北部
目的	県連ウィークデーハイキングと紅葉狩り		
費用	約5,000円	交通機関	JR、貸切バス
行程	<p>我孫子駅集合 6:00 発 6:13→新松戸駅 6:25→流通経済大学前 6:35 バス発→蓮田 SA7:20/7:30→日光口 PA8:45/8:55→霧降高原駐車場着 9:20(準備) 霧降高原駐車場</p> <p>H1340m 登山開始 9:35⇒キスゲ平 H1635m 10:28/10:35⇒休憩 10:58/11:03⇒焼石金剛 11:17⇒赤薙山 H2010m(昼食) 11:55/12:25⇒焼石金剛 13:19⇒丸山への分岐 13:35/13:39⇒丸山 H1689m 14:00/14:05⇒八平ヶ原 14:37/14:41⇒駐車場着 15:20</p> <p><行動時間5時間 45分内、歩行時間4時間 50分、休憩時間 55分></p> <p>駐車場発 15:32→霧降の滝 15:47/16:10→かたくりの湯(入浴) 16:50/18:00→羽生 SA19:10/ 19:25→流通経済大学前着 20:20⇒新松戸駅 20:30→我孫子駅着 20:45 解散</p>		
ルート状況	<p>*霧降高原駐車場より赤薙山間は登山道、標識も整備されている。</p> <p>*赤薙山山頂より奥社跡までは直登と巻き路があり。</p> <p>*八平ヶ原から霧降高原駐車場までは一部ヤブがかかられていない。</p>		
参加者	<p>斉藤(L)、柴田(SL)、箕輪カ、原田和 男2名 女2名 計4名</p>		

< 5 6 1 >

扇山 ～百蔵山 ・黒岳～ハマイバ丸

(1138m) (1003m) (1987m) (1752m)

～滝子山

(1620m)

大串秀雄

初冠雪の秀麗富嶽と紅葉真っ只中の縦走路

今山行の目的は、秀麗富嶽十二景(大月市)に選定されたうちの5座、即ち、三番＝大蔵高丸・ハマイバ丸、四番＝滝子山、六番＝扇山、七番＝百蔵山の各山頂から、初冠雪の富士山を眺望することにあつた。幸い、予報どおり、早朝から雲ひとつない秋空で、早くも中央線の車窓からは、朝日に山頂の雪を輝かせた富士山を望むことができた。

鳥沢駅で下車。梨の木平登山口行バスの発車案内を聞き流し、はやる気持ちを抑え切れず、直ちに歩き始める。快晴微風、ヒンヤリした山の空気が心地良い。大月カントリー倶楽部の脇を登り、梨の木平登山口で一服。九十九折れの山腹路を快調に登る。樹林の切れ目で、秋の日差しと秋の山風に励まされ、一気に扇山山頂に出る。真っ青な秋空の中に初冠雪の富士山…まるで絵に描いたようだ。感激に浸りながら、休日のため大賑わいの山頂で、ゆっくりとランチタイムをとる。

百倉山への縦走路を下る。大久保山からは小1時間の急下降路に苦戦(「ルート状況」欄参照)。ただ、鞍部から百蔵山への登り路は見上げていたほどではなく、快調に登り切る。山頂には都内の山会の一団、20名ほどが陣取っていた。宿車の迎え時刻を計算しながら、富士の眺望を楽しむ。

富士をバックに記念撮影を済ませ、枝道の多い下山ルートを地図で再確認してから、下山開始。葛野部落との分岐まではなだらかな下降路を快調に飛ばす。ところが、この先は倒木だらけの思わぬ悪路に難儀。大

木を跨いだり潜ったりの繰り返しで、大幅なペースダウンを強いられた(「ルート状況」欄参照)。

それでもほぼ定刻に、福泉寺山門前で迎えの宿車に乗り込み、今夜の宿へ。山あいの湯宿にはストーブが赤々と燃えていた。まずは鉱泉の湯で疲れを癒す。家族総出の手料理、山菜づくしが食膳いっぱいにならぶ。実に美味しい。ボリュームたっぷり、空腹を満たすどころか、はちきれそうになるほどだった。

今日はロングコースのため早立ち。5時半過ぎから朝食、6時過ぎには宿を出発。宿主人に、車で大峠まで送って貰う。大峠の空は眩しいほどに青い。30分ほど登った樹林帯の切れ目で、目の前に突然、富士山が現れた。早朝の澄み渡る青空に、朝日に映える富士山…山頂の雪がキラキラと輝いていた。余りの美しさに、指呼の間に連なる今日の縦走路の山々を、同定し忘れてしまった。

長い緩斜面にひと汗かいて、黒岳山頂に出る。本日の最高峰だが展望はまったくない。小休止をし、いよいよ縦走開始。15分ほどで絶好のビューポイント白谷丸山頂に着く。正面(南側)には今日の縦走路、大蔵高丸～ハマイバ丸～滝子山を一望。その奥には御坂山塊(三ツ峠山等)が連なり、さらに最奥には山頂に新雪を戴いた富士山が大きく聳えていた。右に目を転じると、南アルプス、中でも3000峰は雪を冠り、地図なしで、荒川三山・赤石岳～塩見岳～農鳥岳～間ノ岳～北岳を同定できる。その手前には鳳凰三山、オベリスクも見えるようだ。甲斐駒と八ヶ岳の間には、遙か北アルプスの白峰が光っている。金峰の五丈岩も全員で確認。富士山の左方には、御正体山から菜畑山の道志山塊が広がる。北方面は黒岳に邪魔され大菩薩嶺や奥秩父の山々(東アルプス)を眺望できないが、東～南～西方面270度の大展望に圧倒され、暫し“立ち往生”。数名のカメラマニアが秀麗富嶽の撮影に没頭している。中には3時からカメラを構えている愛好家もいた。

紅葉の森の中を湯の沢峠へ下る。朝日が差し込み、紅葉した広葉樹が光っている。仲間から思わず歓声が上がる。「やまなしの森100選…広葉樹林」の大きな

看板を見つけ、一同納得顔。

湯ノ沢のお花畑には、枯草のなかにマツムシソウが数輪。大蔵高丸山頂でも大展望。日が高くなり空気の透明度が落ちてきたためか、白谷丸山頂の二番煎じのためか、感激はやや薄らいだものの、大展望は見飽きない。「あとは夕方に…」と言いながら、カメラマン達を引き返して行った。ハマイバ丸までは一面のススキが原の稜線を往く。前回の山行の記憶が鮮明に蘇る。確かあの時も、大展望を楽しみながらルンルン気分で歩いた道だった。

真っ青な秋空と、新雪が光る白き富士山と、真っ赤に紅葉する稜線と…。紅葉の峰、ハマイバ丸山頂で昼食。樹林の中の縦走路を下る。米背峠から大谷ケ丸山頂までは急登路。縦走2日目の疲労からか、20分ほどの登りに意外と苦戦。山頂では3名の中年ハイカーが酒を酌み交わしていた。

大谷ケ丸からは暫く東に向かう。左手の山肌は赤や黄色で秋一色、その奥の雁ガ原摺り山が大きい。山地図等には未整備箇所ありとの注意書きがあったが、特に問題なく、縦走最終の峰、滝子山に到着。ここで大休止。今日の出発点、遙か彼方の大峠から、今日の縦走路、南大菩薩連嶺を一望。最奥に縦走路最高峰の黒岳。大菩薩嶺～小金沢連嶺はその影に隠れ見えない。ハマイバ丸のなだらかな山頂が真っ赤に紅葉している。大蔵高丸はハマイバ丸の後方に隠れているが、大谷ケ丸からの縦走路は手にとるようだ。

滝子山からは長い長い木漏れ日の樹林帯を一気に下



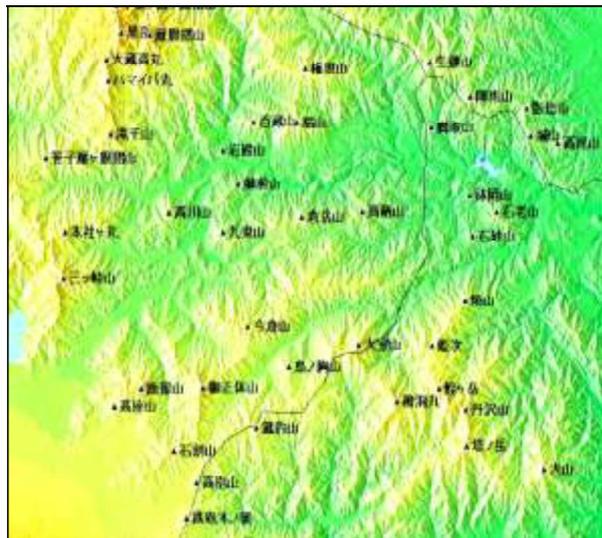
▲1日目 真っ青な秋空を背にして、初冠雪の富士山が光っていた。(休日で大賑わいの扇山山頂より)

る。斜度が適当で歩きやすいが、長すぎる。2日間の縦走疲れもあり、数回の休憩をとり、慎重に縦走路第4コーナーを、一路ゴールへ向かった。

真っ青な秋空の中に初冠雪の富士山、紅葉に染まる稜線…期待以上の大展望と、望外の秋山を満喫。初狩駅近くの八幡神社八幡荘で、さわやかな汗を流し、てんこ盛りのおでんで祝杯。絶好の登山日和と、素晴らしい山仲間に感謝しながら、家路についた。

全く個人的なことながら、扇山～百蔵山間の縦走は中央本線の車窓から見上げるたびに、いつかはと願っていたルートだった。また、南大菩薩連嶺は昨秋、大菩薩嶺から黒岳までの小金沢連嶺を縦走した折、機会があればその先の黒岳から滝子山までを縦走し、大菩薩連嶺全ルート踏破を果たしたいものと願っていたルートだった。念願の2箇所の縦走路を、一気に踏破でき、大満足の2日間だった。

概念図



▼2日目 今日の出発点、大峠は遙か彼方…南大菩薩連嶺を一望(縦走最終の峰、滝子山山頂より)





▲2日目 今日の縦走路(右から大蔵高丸～ハマイバ丸～滝子山)が連なる。その奥には御坂山塊が連なり、さらに最奥には山頂に新雪を戴いた富士山が大きく聳えていた。(白谷丸山頂より)

概要

山名	扇山～百倉山・黒岳～ハマイバ丸～滝子山		
月日	平成19年10月21日(日)～22日(月)		
形式	山麓鉦泉旅館 泊 尾根縦走	グレード	3B
山域	中央本線沿線 大菩薩連嶺	地形図	1/2.5万 上野原・大月 大菩薩峠・笹子
目的	初秋の南大菩薩連嶺縦走～初冠雪の富士山を眺望		
費用	約11,000円	交通機関	JR・旅館車
日程&コース	1日目	我孫子駅 5:41→日暮里駅 6:11/6:17→神田駅 6:26/6:32→高尾駅 7:31/7:47→鳥沢駅 8:18/8:25⇒(衣服調整)⇒梨の木平(登山口) 9:35/9:39⇒大久保の科尔(稜線上の分岐) 10:55⇒扇山(昼食) 11:05/11:30⇒大久保の科尔⇒大久保山 11:40⇒最低鞍部 12:25⇒宮谷分岐(コタラ山下) 12:40⇒百蔵山 13:30/13:40⇒葛野部落・福泉寺分岐 14:15/14:18⇒金比羅宮⇒福泉寺下山口 14:54⇒福泉寺山門 15:10/15:14⇒(宿車)⇒金山鉦泉山口館 15:35 (泊) <快晴 歩行時間(休憩を含) : 6時間45分>	
	2日目	金山鉦泉(起床 5:00/朝食 5:45) 6:10⇒(宿車)⇒大峠 7:03/7:10⇒(衣服調整 3分)⇒黒岳 8:30/8:35⇒白谷丸(写真) 8:50/8:55⇒湯ノ沢峠 9:20⇒大蔵高丸 9:58/10:08⇒ハマイバ丸(昼食) 10:38/10:58⇒米背負峠 11:44⇒大谷ケ丸 12:05/12:10⇒稜線上の分岐・1590m峰 13:20⇒滝子山 13:27/13:40⇒1590m 峰・稜線上の分岐⇒檜平 14:12⇒作業道との分岐 14:40/14:45⇒藤沢子神社下山口 15:48⇒八	

2日目	<p>幡神社八幡荘(入浴・反省会) 16:25/17:30⇒初狩駅 17:35/17:43⇒立川 18:59/19:01⇒西国分寺 19:06/19:14⇒新松戸 20:11/20:13⇒我孫子駅 20:25 着</p> <p><快晴一時薄曇り 歩行時間(休憩を含) : 9時間15分></p>
ルート状況	<p><u>ルート</u></p> <p>全般に標識が確りしていて迷う心配は少ない。また、整備状況も一部(下記②)を除き問題ない。なお、既往会山行で馴染みのない箇所に係る留意点は、次のとおり。</p> <p>①扇山⇒百蔵山 大久保山から最低鞍部までは一気に350m(所要時間40分)ほどの急下降。慎重な対応を要する難路。</p> <p>②百蔵山⇒福泉寺下山口 福泉寺・葛野部落分岐から福泉寺下山口間は、概略50～60本(箇所)の倒木が登山道を塞ぐ、未整備状態の悪路。大木を跨いだり潜ったりの繰り返しで難儀。数年前の台風と松喰い虫の被害による倒木のようだが、通過者が少ないためか、その間に整備した形跡は全くない。ただ、現状は朽ちて倒壊する段階に至っていないので、慎重に通過すれば大きな危険は考えられないか。</p> <p>③大谷ケ丸⇒滝子山 大谷ケ丸山頂から東側へ下るルートもあるが、一旦、ハマイバ丸方向へ数分ほど戻り、分岐を標識どおり右折(東進)する方が無難。このルートには、山地図等に未整備に係る注意書きもあるが、特に問題はない。なお、滝子山山頂の標識は、地形図に表示の1590m峰(三角点)でなく、その西方200mほどの1620m峰にある。</p> <p><u>その他(参考)</u></p> <p>宿泊＝金山鉦泉山口館 2食付7.500円。宿泊者には無料送迎サービスあり。</p> <p>② 下山後入浴・反省会＝八幡荘 初狩駅北側の八幡神社脇(駅から数分)。 入浴料(大盛りおでん付)1.000円。週末は高川山や滝子山日帰りハイカーで混み合う反面、平日は予約が必要</p>
参加者	大串秀(L)、日下(SL)、斎藤、安田、田村、坂巻 男4名 女2名 計6名

< 5 6 2 >

丸山 (960m)

箕輪カオル

巡礼の道にあまたの朴落葉

前夜、関東地方は大雨をもたらして台風20号が駆け足で通過して行った。明けて山行当日は快晴となった。嬉しい限りである。駅から駅までハイキングのコース案内にあるように、西武秩父線芦ヶ久保駅からスタートである。赤谷～大野峠コースは、前夜の雨で難しくなり果樹園コースを選択。果樹園の道には、無人売場がいたるところに設置されて、柚子、柿、梅干、らっきょうなどが置いてあった。売り場ごとに、誰かが買い込むとその連鎖でまた誰かが買うことになって、にぎやかで楽しい山行のスタートである。

果樹園を過ぎて鹿除けの柵がしてある山に入ることとなる。木の実や色づいた木々を見ながらゆっくりと歩く。森林の日陰に、サラシナショウマがたくさん咲いていた。真っ白で涼しげである。マウンテンバイクをかつぐグループにも出会った。しばらくして、車道を横切って雑木林を切り切ると丸山頂上へたどり着く。頂上にはコンクリートの立派な建物がある。これが望遠鏡を備えた展望台である。秩父盆地は勿論のこと、遠く日光連山、浅間山、八ヶ岳などの展望に感激した。ここで昼食をとる。原田さんから、来る途中の無人売場で買った柿をごちそうになった。ここから県民の森に下る。そして、森林学習館に立ち寄り休憩をとる。館内では、自然物を使った遊び道具や展示を見た。

秩父巡礼4番札所である金昌寺までの道のりが長かった。分岐からは、岳人としては険しい道を選択せざるを得ない。雨で石肌が出ていてツルツル滑るので慎重に歩く。どんぐりやあけびの実が多い。この山に棲む動物達は安心して冬を越せるに違いない。

金昌寺は、石仏の寺と呼ばれるとおりに羅漢が並ぶ。子育て観音像や仁王門に大きな藁草履がある。ここから西武秩父駅までは、途中の札所を回りながら歩いた。

駅近くの蕎麦屋で反省会。実りの多い一日であった。

果樹園を過ぎどんぐりの山に入る
むかご揉る帽子をのびのびしては



▲展望台上で。後ろに見えるやまなみは…?

▼丸山頂上にて。この右手に展望台がある



▲金昌寺は石仏の世界ではとりわけ有名なお寺。境内の石仏群は名も知れぬ石工たちによって飢饉、洪水の多かった天明・寛政の頃に造立された。

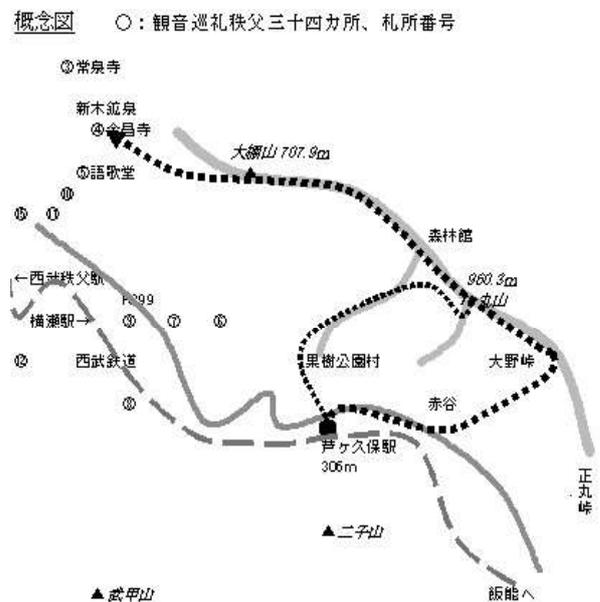
秩父観音霊場巡りは総延長 90kmあるそうだ。それだけでも大変なのに、江戸近郊から「奥武蔵」の山々を越えて 100kmの道のりを歩いてきたと思うと、体力と精神力の強さに感服、物見遊山ではとても歩けない。

人は、生活に疲れ、悩み、苦しんだりすると、心の「やすらぎ」求めて旅に出るのだろうか。

概要

山名	丸山		
月日	平成19年10月28日(日)		
形式	日帰り	グレード	1A
山城	奥武蔵	地形図	正丸峠、秩父、皆野、寄居
目的	展望と巡礼道		
費用	2,670円	交通機関	電車
行程	<p>我孫子駅発 6:12(成田線)→日暮里駅 6:43/6:48 →池袋駅 7:01/7:06(西武)→芦ヶ久保駅着 8:41(準備) 登山開始 9:05→果樹公園村→登山口 9:50 ⇒ 林道出合 11:00 ⇒ 丸山 960m 11:30/12:10(昼食)⇒森林館 12:30/12:50 ⇒林道に出る 13:05⇒二番札所真福寺への分岐 14:40/14:45⇒四番札所金昌寺 15:15/15:25⇒五番語歌堂 15:50⇒十番大慈寺、十一番常楽寺遙拝⇒市役所前着 16:25(反省会立花)発 17:05⇒西武秩父駅 17:15/17:33 発 →飯能駅 18:34/18:40→池袋駅 19:32/19:37→日暮里駅 19:49/19:53→我孫子駅着 20:26 (解散)</p> <p>行動時間:7時間 20分、歩行時間:5時間 50分</p>		
ルート状況 & メモ	<ul style="list-style-type: none"> 池袋駅の JR から西武への乗り換えは“Suica”のお陰でわずか 5 分、予定の電車よりひとつ前の直通に乗ることが出来、芦ヶ久保駅には予定より 30 分近く早く着くことができた 出発に当たって、コースの変更を提案した。予定のコース「赤谷～大野峠」には、沢が2、3箇所あり、台風の影響で増水の恐れがあるので、西側の尾根コースに変更したいと ようやく舗装道路から解放され気持ちのいい雑木林を歩く。鹿除けであろうか、ネットのフェンスがあり扉を開けて入る。防火帯の広い道は直線に伸びて気持ちがいいが、時々急登が待ち受 		

ルート状況 & メモ	<p>ける。林道を横切れば頂上は近いと思ったら、ひとつピークを越えてその向こうであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 丸山山頂は 360度のパノラマが楽しめる展望台とわずかな広場があり、秋晴れのさわやかな空気を味わいながら食事を取る。展望台からは間近の武甲山や特徴のある両神山はもとより、雪を冠した八ヶ岳、浅間山、日光の山が遠望できた。 北の道と合流するあたりから堀割りの道が多くなり、巡礼道の面影が残っている。しかし現在では雨水で底は削られ狭くなっている。雨上がりの底は滑りやすい。途中二番札所真福寺への道を分け、四番札所金昌寺に着く。無数の石仏がいろいろな表情をして並んでおり、御堂には役の行者が祀られている。
参加者	<p>中村隆(L)、榊原(SL)、中村八、飯合、原、原田和、松本、箕輪カ、箕輪完、千葉、大平、矢野、本間</p> <p>男4名 女9名 計13名</p>



< 5 6 3 >

夕日岳
(1526m)

坂巻 明

教育研修 地図読み山行

当初、稲倉山の予定でしたが、台風の影響で夕日岳に変えました。次に、細尾峠から登る予定でしたが、交通事情で古峰神社から変えました。続いて、当日、タクシー運転手との行き違いで登山開始地点が変わりました。

11月に入り秋深まる中、晴天に恵まれ、絶好の山行日和となりました。新鹿沼駅から見覚えのある道を通り、タクシーで古峰神社に向かいます。今年の春に三点確保の研修をやった時、岩山に向かって歩いた道です。古峰神社を過ぎ、運転手さんが「到着しました」との声で下車しました。

早速、準備体操をして地図読み開始です。しかし、どうも様子がおかしい。予定の場所ではないようです。林道終点と思いきや、そこは足尾へ向かう道路の通行止め終点でした。目的の場所と違うところに連れてこられたのでした。

私達は登山口を捜すため、その道路を登り始めました。行けども、行けども登山口は見つかりません。西に進んでいるようです。古峰ヶ原湿原に到着し、はっきりと現在地を確認することができました。夕日岳からは遠く離れてしまいました。

その結果、なだらかな高原地帯が広がる足尾山地の南部を歩くことになりました。旧足尾町を眼下に、遠くは渡良瀬溪谷を望みます。この辺りは紅葉のきれいなところですが、少し時期を過ぎている様子みたい！春には一面ツツジの花で染まるそうです。井戸湿原がメジャーです。

来年もう一度来ようかな？

少なくとも地蔵岳には登ろうと行者沼を通過して頂上

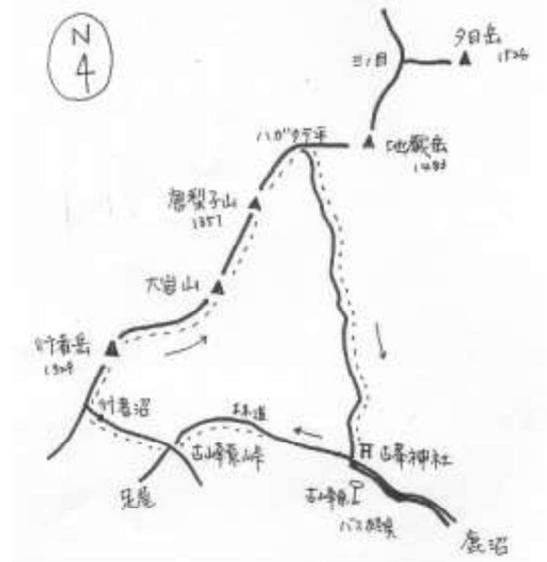
を目指しましたが、ハガタテ平分岐点止まりとなりました。寒気がやってきたのか、急に気温が下がってきました。昼食もままならず、古峰神社に下りてきたのが午後四時過ぎになってしまいました。

バスの姿が見えたのに！ちょうどバスが出たところで間に合わず。みやげ屋の奥さんが「次のバスが最終ですよ」と教えてくれました。奥さん、商売うまいね！

タクシーをやめて、バスを待つ間にそのみやげ屋で反省会をすることにしました。そんなこんなで、昼食の時間はなくなってしまいましたが、反省会は無事終わり、工程完了です。最終バスで帰途に就きました。最高の地図読み山行となりました。

計画変更はよくあること、変えたときこそ慎重に！！を今回の山行で学びました。

お疲れ様でした。



▲「古峰原高原」入口にて地図の正置の学習



▲やっと探し当てた行者沼のミズナラの大木。



▲ハガタテ平にて。木の間から地蔵岳が見えています

行程	<p>我孫子駅 5:30→北千住 5:53/6:31 (東武線) →新鹿沼駅 7:56/8:00 (タクシー) →古峰原 高原入口、ゲート 8:45/9:00 (車道歩き) ⇒ 古峰原峠 10:00/10:10⇒行者沼 10:55/11:00⇒ 行者岳 11:35/11:50⇒大岩山 12:22/12:30⇒唐 梨子山⇒ハガタテ平 13:25/14:25⇒林道終点 15:05⇒古峯神社 15:50/17:15 (バス) →新鹿 沼駅 18:05/18:12 (東武線) →春日部駅→柏 駅→我孫子駅 20:10 <歩行時間:5時間20分> <行動時間:6時 間50分></p>
参加者	<p>外崎(L)、高橋重(SL)、箕輪カ、箕輪完、小 川、大平、桐生、坂巻 男4名 女4名 計8名</p>



▲カラマツ林の秋の装い。

概要

山名	夕日岳		
月日	平成19年11月4日(日) 日帰り		
形式	日帰り	グレード	1A
山城	日帰り	地形図 1/2.5万	古峰原・日光南部
目的	① 地図で調べながら山を歩いてみる。 ② 紅葉を楽しむ。		
費用	5000円	交通機関	JR、私鉄、タクシー、



< 5 6 4 >

小 川 山
(2418m)

柴田節子

静寂の黒い森

「小川山」と聞いてもピンとこない人もいるかも知れない。南佐久郡川上村と山梨県北杜市須玉町の境にある。この山名はもう10年も前にならうか記憶にあった。当時のわが身にはとても及ばない存在だった。奥秩父らしい山旅の楽しさを十分に味わわせてくれそうで、いつかきつと登りたいと願っていた。そのチャンスが巡ってきた。参加を希望したまでは良かったが、後に計画書を見せて頂きベテラン揃いの中に私が一人である。初のハーネスの装備もあるし天気は2日とも雨天である。「どうしよう」と不安が生じリーダーに電話してしまう。「松本方面は一時曇りになりそうだから、それを信じて実行します」「もう、レンタカーも借りましたよ」と。ハーネスも私の為に用意して下さり、尻込み等してはいられない。気持ちを取り直し、かえってメンバーから色々吸収出来るチャンスだし良い経験になるだろう。

傘から溢れ出してしまう程のザックを背負い明けやらぬ夜道を駆へと急ぐ。雨は尚も降り続く。我孫子駅北口に待っていて下さった車に各々大きなザックを詰め込み晴れない気持ちで出発した。

談合坂SAで川上村の最新情報を入手する。まずまずの予報だと解る。車中2日間の行動について3つの提案が出て、多数決の結果は一日目はテントを張り、二日目に小川山に登ることに決定する。車は順調に走り続け、川上村役場を通過し、キャンプ場のゲートに着く頃には雨は上がり安堵する。

キャンプ場の手続きが済むと素早くテントが出来上がる。翌日小川山に登る下見を兼ねて、左回りコースをとる。初めてのハーネスの装着はリーダーにお任せ、幼児が着させてもらう様に、その手の動きを追いなが

ら何やら不思議な感情が湧いてきて「さあ、これを付けて行くぞ」みたいな・・・姿のみ一人前になる。



カモシカコースに向けて出発

キャンプ場から西股沢沿いの林道を10分ほど歩くと登山道入口になる。馴れない物を付けているので気になってしょうがない。まあ、その内馴れるのでしょうか。その場所に立看板があり、遊歩道「かもしかコース」としてある。かもしかのやさしいイメージを想像して明日足馴らしにちょうどいいなとその時思った。



すぐに針葉樹林の急登となる。「どこが遊歩道なの」「あの表示は危ないよね」「名を変えた方が絶対いいよね」等と言い合う。時々メンバーの話し声の他には音さえしない。静かに足並みを揃えて登り続ける。小川山への分岐までは1時間足らずだが大小さまざまな岩場に取り組み、クサリや梯子などと変化に富み、慎重にさえ行動すれば問題ないが緊張の連続だ。

薄暗く濡れている山道の唐沢の滝辺りも少しも気が抜けず、ていねいに歩を進める。高所から流れ落ちてくる見事な滝だ。まるで秘境の滝のように思われる。賑わうはずのクライマーたちの姿さえない。出会った登山者(?)は2日間で2組の4人のみだ。



唐沢の滝にて

その後展望台へ向かうがそこで問題が生じた。大きな岩石に3方向に矢印が記してある。一方の矢印は通行不可である。残りの2つの矢印に惑わされてしまった。咄嗟にメンバーの全員が動き出す。印が示す藪の中を登り降りした末、皆で各々の意見を交わす。さて、もう一度、岩石の前に立ってよく見て見ると矢印の方角が少しずれているが右の方向に道は延びている。皆納得の末、展望台に向かう。



展望岩に行くのに惑わされた矢印

たどり着いたあづまやは平凡な位置にあり霧が邪魔をして何にも見えない。寒くもあり早々にテント場に

下る。10分足らず15:30に下山する。

このテント場は登山基地として申し分ない。すべての設備は申すに及ばず、岩峰の屏風が巡り黄金色のカラマツ、清潔で大きな建物の金峰山荘の中央の広い窪地に整っている。私たちの外に人影は少数のみ。適地を見つけメンバーの誰が何を指示することもなく、すべての準備が進められる。キャンプ場周辺から各々たきぎを拾い集め、まだ明るいうちからファイヤーを囲む。又とない極上の一夜を過ごすことが出来た。食担さんが作ってくれたクリームシチューの美味しかったこと、テント生活の新しいメニューが一つ増えいつの日か活用したい。

余韻を残しながら20時に各々テントへ帰る。私は中々寝つかれずにいるのに何処からかアツという間にいびきが轟く。なんと幸福者よ！その中に雨音がテントを叩き、頭の近くではテントがはたためく。「明日は登れないかも」と考えつつも足が冷たく、足の裏にカイロを貼ってみる。いつしかZZZ・・・。

4時に目覚め外に出た。驚きと共に言葉が出ない。それは美しく煌めく沢山の星々に夜空が埋め尽くされていた。下界には決して見られない光景に満足感で胸が熱い。「小川山よ、ありがとう」私にもわけもわからない言葉がほとぼしっていた。極上のプレゼントに気分はルンルンであった。

風もなく寒くもなく、雨だって降らず登山の準備は着々と進む。テント撤収作業もスムーズに終え、サブザック、本日はハーネスはない。小川山分岐までは昨日のおさらい、気が楽だ。山頂への分岐を過ぎるとシクナゲのトンネルで、至る所に群生している。細い山道にまで枝が伸び、それらをかき分けながら進む。雨で濡れた露を払っているうちに手袋はビショビショで指の感覚が無くなってくる。シクナゲの木は私の背丈の倍以上もあり、このような林になっている場所を他に知らない。花が咲いたら私の事、又言葉もなく花たちと見つめ合うことだろう、心が和む。

山頂間近になると、原生林の中からのぞき見える岩峰の重なりがすさまじい。要塞とも見える岩峰群、シクナゲの林に黒い原生林は奥秩父の象徴であろう。「山頂までは後10分だ」と言われてから随分時間が

経ったように思えた。AM10:00頃にこじんまりとした所に三角点があり「ようやく来ました」と撫で回す。四方をシャクナゲが囲み眺望はない。行動食をほおぼる少しの間にも皆寒くなり、ハイポーズもそこそこを下山する。レンタカーの返却時間等もありピストンする。

来た道を下るとはいえ、岩稜帯には十分に気を使い、ハーネスの出番こそなかったが基本に忠実に黙々と下る。金峰山や瑞牆山が遠望できる辺りまで下つてくると、晴れ間もあったが不安定な天候だった。コメツガの森に入ると無数に落ちた枯枝、落葉の下にかくれた根っこ、その上に濡れている悪路は歩き方が下手なのか、バランス感覚が鈍いのか、緊張のため体が固まって始末が悪かった。その状態が解けたのはすっかり帰り支度の整ったレンタカーに着いた時だった。

出発前に不安もあった山行ではあったがテント生活に馴れた人たちの中の私には会得した事柄が数々あり、終日心地よい時を共に過ごさせて頂いた。真に静寂であり、人気もなく、黒い森の地味な山は熱く、私はこの時登山をしているんだという充実感に浸る事を知った。

末筆ながら、両日共に長い道程を運転して下さった佐藤（健）氏に新ためて御礼を申し上げる。

リーダー始め、皆さんと共にした楽しい山行を忘れず、そして川上村の何処までも続いたカラマツの純林に夕日が光り、過ぎ去っていく季節の有終の美を皆で愛でた事も、これからも記憶しておこう。

概念図



概要

山名	小川山		
月日	平成19年11月10日(土)～11日(日)		
形式	テント	グレード	3B
山城	奥秩父	地形図	瑞牆山、居倉 1/2.5万
目的	紅葉とテント泊を楽しむ。岩稜歩きを楽しむ。		
費用	8,300円(反省 会費含まず)	交通機関	レンタカー
日程 コース	1 日 目	我孫子5:40→柏IC6:00→長坂IC10:35→廻り目平キャンプ場(昼食)11:30/12:00⇒休憩12:30/12:35⇒無名峰岩峰12:47/12:52⇒小川山分岐13:17⇒唐沢の滝13:33⇒かもしかサイドロック⇒屋根岩14:01⇒パノラマコース分岐14:23⇒展望台15:07/15:17⇒廻り目平キャンプ場15:30 <歩行時間:3時間30分(休憩含む)>	
	2 日 目	起床4:30/廻り目平キャンプ場発6:42⇒休憩7:10/7:15⇒小川山分岐7:50⇒休憩8:40/8:47⇒休憩9:04/9:10⇒小川山山頂(昼食)10:00/10:12⇒休憩11:13/11:18⇒小川山分岐11:57⇒廻り目平キャンプ場12:46/13:10→長坂IC14:15→柏IC17:05→我孫子着17:40 <歩行時間:6時間4分(休憩含む)>	
ル ー ト 状 況	<p>一日目</p> <ul style="list-style-type: none"> コースは、遊歩道という表示がされているが、これを信じて行動すると、とんでもない。小川山への分岐までには少し手間取る岩場がある。これを過ぎても、唐沢の滝周辺も侮れない。もっとも、左回りでこのルートに入ると、入口には、上級者コースと注意書きがある。 展望岩までの表記が不十分なため、ここまでたどり着くまでいったりきたりすることになる。 右回りコースで展望岩までの往復なら危険箇所はない。 <p>二日目</p> <ul style="list-style-type: none"> 帰りのレンタカーの関係で小川山までのピストンをすることにしたが、それほど急な岩場ではなかったが、何箇所かは、勾配がきつく、帰りは、雨にぬれた岩場と、しかも木の葉の下に隠れた木の根があるのでスリップには十分な注意が必要だ。 テント場は、駐車場、炊事場(夜間照明あり)、水洗トイレがある。また、温水シャワー(有料)、お風呂(有料)もある。金峰山荘は、比較的新しく、清潔な感じがした。 また、このコースは、ロープの必要はない。 		
参 加 者	柴(L)、武内(SL)、柴田、外崎、千葉、佐藤健、佐藤明、田村 男性3名、女性5名、計8名		

< 5 6 5 >

社 山
(1827m)

高橋英雄

この日は天気が気になり心配だったがどうにか持ちそうです。我孫子駅 5:31 分に乗り、北千住駅から東武日光駅までバスで中善寺温泉まで、そこから歌が浜駐車場までは普通の歩道で、駐車場から狸窪までは整備された歩道である。

イギリス、ベルギー、イタリア大使館の別荘を見ながら進むと目の前に社山の姿が現れる。狸窪から阿世湾までは落ち葉を踏みながら進む。中禅寺湖越しに男体山が真正面に見えて雄大である。阿世湾から本格的な山登りが始まり、初めの登り 400m は緩やかで、亜世瀉峠の残り 200m 位は階段の急登で、亜世瀉峠から頂上までは標高約 400m の急登である。

ザックを道の横に置いて登り、1つ、2つのピークを超えてもまだ2、3のピークがあってようやく頂上に着く。

頂上には他の山の会の1グループがいた。周りを見渡すと雨か雪でも降りそうなので集合写真をお願いして、早速下山に入る。ザックを登山道の横に置いた所当たりから雪が降り出した。たぶん今年になって初めての雪であろう。早めに下山し阿世瀉から同じ道を歩き雪はやんだが湖岸の途中まで来たあたりから北風が強くなり、県営駐車場に着いた時は非常に強かった。

この時期に何故か東南アジア系の観光客が多かった。バスで駅まで行き、早速反省会をして帰路に着く。チャンスがあったら時期をずらして登ってみたい。面白い山だった。



▲対岸からのぞむ社山

▼社山山頂



概 要

山名	社山		
月日	平成19年11月18日(日)		
形式	日帰り	グレード	2A
山域	日光	地形図	中禅寺湖 1/2.5万
目的	晩秋の中禅寺湖・男体山と日光白根山の眺望を楽しもう		
費用	約 4,400 円 (気ままに日光フリーパス利用)	交通機関	電車、バス

行程	<p>我孫子駅5:31→北千住駅5:53/6:31→東武日光駅8:24/8:36→中禅寺温泉BS 9:17/9:20⇒阿世瀉登山口10:25/10:30⇒阿世瀉峠10:50⇒標高1600M付近(昼食)11:30/11:40⇒社山頂上12:10/12:15⇒標高1600M付近12:40/12:45⇒阿世瀉峠1:05⇒阿世瀉下山口13:05⇒歌ヶ浜駐車場14:20⇒中禅寺温泉BS14:40/15:00→東武日光駅16:00/16:58→東武春日部駅19:02/19:19→我孫子駅20:00</p> <p>晴れ時々小雪<行動時間 5時間20分、歩行時間 4時間55分></p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・中禅寺温泉バス停から歌ヶ浜県営駐車場までは普通の歩道。 ・県営駐車場から狸窪までは湖畔の整備された遊歩道で、イギリス、ベルギー、イタリア大使館の別荘を見つつ、また社山が目の前によく見えます。 ・狸窪から阿世瀉まで落ち葉の道で、中禅寺湖越しに男体山が真正面に見えます。 ・阿世瀉から本格的な登山開始。始めの400m位は緩い登り、阿世瀉峠までの残り200mは階段の急登。 ・阿世瀉峠から頂上までは標高400mの急登。 <p>目の前に頂上が見えているのに、頂上になかなか着かない感じの山です</p>

ルート状況 & メモ	<ul style="list-style-type: none"> ・気ままにフリーきっぷは、北千住発名で購入しないと、東武北千住駅に入れません。(当日、北千住駅の窓口で直接購入出来ます。券売機では売っていません。) ・北千住駅で乗り継ぎのため30分の待ち時間。その間に腹ごしらえなど出来ます。 ・東武日光行き(快速)は前2両。空いていたので座れました。 ・混んでいる時は、会津田島行きの車両に乗り下今市で日光行きの車両に乗り換えも可。 ・湯本温泉行きバスの直前に、中禅寺温泉行きバスもあります。 ・日没時間が早いので、行動時間が短くまた気温が低いので、休憩は3回・30分弱でひたすら歩いていました。 ・手袋、帽子は体温を奪われないためにも忘れないように。 ・帰りの区間快速は、日光から東武動物公園まで各駅止まりで、各駅停車で帰っても時間は余り変わりません。
参加者	石垣(L)、松本(SL)、矢野、斉藤、高橋英 男4名、女1名 合計5名



< 5 6 6 >

愛宕山 ・ ポンポン山

(924m)

(679m)

細野清子

1日目〔鯖街道…八瀬比叡山口から古知谷〕

本に紹介されていた、京都の鯖街道を2ルート歩こうというわけだ。初日は八瀬比叡山口～古知谷まで。出町柳で京福電鉄に乗り換えた。今回、原田夫妻は広島から、前日から京都に来ていた大畠さんほか3名は京阪伏見稲荷から、名古屋から乗り込んだ小川洋子さんを含め9名は東京から、そして私たち夫婦はJR六地蔵駅からと、あちこちからの集合で、時間に果たして集まれるか少々不安であった。京阪東福寺駅で今日の参加者17名全員の顔がそろって無事出町柳まで来た。京福電鉄は一両で、のんびり揺られながら八瀬比叡山口に到着。駅にかえてたちが紅葉しているが色がいまいちで期待はずれだった。『さあ一歩くぞ!!』といきごんでみたものの、いきなり国道敦賀街道。一部国道歩きがあるので要注意と紹介されていたが、道幅いっぱいダンブカーが通るところや歩道が整備されていないところもあり、少々怖い思いもした。途中朝が早かったのでおなかがすいたので昼食を食べようとお寺さんの境内を登っていったら、『ここは観光場所ではない』と、えらい剣幕でおこられた。帰りのバスの車窓から、ここを通りかかったとき、あそこの階段で弁当を食べさせてもらったねと、笑い話になったけれど…

土井柴漬け本舗本店あたりまで、大きな車が通りあまりよい気分ではなかったが、そこを過ぎれば大原らしい風景がひろがっていた。人が余裕で入れそうなくらいの、漬物用の大きな樽がいくつも転がしてあってなかなか風情がある。花尻橋を左にとり、川沿いの道をいくと、かえでが紅葉していてやっと大原らしい風景に出会えた。野菜畑が広がり、京野菜の聖護院大根を収穫している農家

の人の姿も見られた。京都北山トレイルの表示がところどころあった。鯖街道のルートから少しはなれているが、三千院や寂光院、古知谷にある阿弥陀寺にぜひ行ってみたいと計画を立てたものの、どのお寺さんも山門にたどり着くのは容易なことではない。京都の郊外にあるお寺さんはどこも小高い山の上にあるので、山門の開いている時間に間に合うためには、足早に歩かないと到底たどり着かないのだ。

三千院は大勢の人でにぎわっていた。とても大きなお寺さんで、お庭も広く紅葉は、今がちょうど見ごろであった。今年の紅葉はいまいちと観光協会の人々が危惧していたが、三千院の紅葉を初めてみる人は、『わあ～きれい』と、あちこちで感嘆の声を上げていた。

三千院から寂光院さんに向かう道は、昔懐かしい感じがした。誤報があったとかで、寂光院の山門の近くに消防自動車は何台も停まって少し異常な雰囲気だった。山門が何年か前に放火されたため、むかしの風景と変わっていた。しかし、山門と階段と木々の配置が絶妙で、さすが京都のお寺さんと感心するばかり。時間がないので中には入らなかった。

トレイルルートに戻り阿弥陀寺へと急ぐ。川沿いに鯖街道の表示が2箇所あった。ここまでくるとさすが人は少なく、私たちのグループだけであった。心細くなり『この道であってますよね?』と地元の人に確認した。

中国風の山門を右に見て暗くなりかけた参道を駆け上がる。坂巻さんは[3日前から関西にきていて奈良を歩きまわっていたため]歩きつかれ、荷物番をしてくれた。足の早い人は中の庭を拝観、ゆっくり組は時間切れで入り口のところで坂道を引き返す。登りは長く感じたが下りはあれよあれよという間に荷物の置いてあるところに降りてきてしまった。バスに乗り込むころ小雨がぱらついた。冷たい雨だった。バスに揺られながら、今日はこんなに歩いたんだと八瀬比叡山口までのみち乗りの長さに驚き、皆元気な足に感謝、感謝だった。

2日目〔愛宕山～高山寺〕

愛宕山と名のつく山は全国に26山もあるらしい。京都

の愛宕山が1番高いと思っていたがそうではないことがわかった。長野県北佐久郡軽井沢町にある愛宕山が1番高く1,167Mある。ちなみに一番低い山は東京都港区にあり26Mの高さだそう。千葉の愛宕山は自衛隊其地のなかにあり、頂上より数十歩手前まで、ほんのわずかの距離が許可がないと入れないことは皆ご存知のことだ。

京都の愛宕山は私にとっては懐かしい山である。高校時代WGに入っていた次男が大学に入った折に記念と一緒にのぼったし、また、青春時代職場の仲間と登って、境内の広場で『達磨さんが転んだ』を暗くなるまで楽しんで山、そして幼いころ両親に連れられて登った様な気がする山でもある。京の町のたいていの台所には愛宕神社の「火の用心」のお札がはってある。毎年ご近所のどなたかが変わりばんこにのぼりお札をうけてくる。台所には古いのや新しいのやベタベタと何枚もお札がはってあった。今のようにガスや電気での炊飯でなかったため、おくどさんに貼って火の用心に心がけたのだろう。

懐かしい思い出に加え、京阪ハイキングのしおりに頼りきったばかりに、表参道しかないと思い込み入り口で登山道ありの標識を見ているのに、表参道を選んでしまい、きつい3合目までの階段を登る羽目になってしまった。途中NHKの朝ドラの『ちりとてちん』に出てくる落語の『かわらがけ』の場所が見られたり、京の町が展望できたりよいこともあった。結果的にキロ数は、登山道の方が長いので下山後の鯖街道歩きを考えると、表参道を選んだ事が正解だったかもしれないが……紅葉は所々みられた。神社が近づくにつれ『寒い』。下界と10度違うと張り紙がしてあった。三角点はここよりさらに10分入ったところにあるが、神社のほうが標高は高く、寒さと時間もないのでここまでとする。薪ストーブで暖をとらせてもらい、お腹も満腹になったところで下山コース上の月輪寺へと向かう。途中の陽だまりは暖かく感じられ、曲がりくねった桂川と広沢の池が展望でき、すばらしい眺めにしばしばちどまる。月輪寺は通過するだけでも入山料を払わなければいけないらしいが、どなたもおいでではなかったの、足早に通り過ぎたところで、紅葉とお寺さんの屋根をバック

に記念写真を撮る。

沢音が聞こえてくると間もなく清滝さん。清滝に下りると急に人が多くなった。それもそのはずこの沢沿いの道は東海道自然道で鯖街道、京都でも人気のスポットである。さらに川沿いの道を高雄へと進む。すんだ水に紅葉が映り思わず足を止めてしまう。ビューポイントで絵を描いているひともいた。ツンと澄ました北山杉のみどりに紅葉の赤やオレンジや黄色が映える。さらに高雄に入るとあたり一面が紅葉していて、顔が染まりそうなくらいである。神護寺の急な階段にもたくさんの人がいて紅葉をめめている。『紅葉より団子』の人もいたが……さらに柵尾に向かって鯖街道を北に進むと西明寺さんの門前には真っ赤な紅葉。神護寺さんの紅葉と同じ赤でもちょっと違う赤にみえる。去年はこの赤はもっときれいな赤だった。高山寺さんには男性5人が登った。こちらの紅葉はまだ早かったようだ。鯖街道は中川中学校まで続くがわれわれはここまでとする。バス停で待っているとき、今日もまた雨がぱらついていた。京都駅についた時には小雨が降っていた。

3日目〔ボンボン山〕

今日は大阪高槻市から京都府の南部、向日市に山越えをする。バスを降りてから摂津峡方面に歩いてしまったが直ぐに気がつき修正する。さらさらと小川の流れる道をしばらく行くと参道に入る。しかし残念ながらアスファルトの坂道。東海道自然道も下のほうに見えるが薄暗くてなんとなく気持ちが悪い。ほとんど歩かれてないようで、地元の人たちも見た限りではそのアスファルト道を歩いていた。参道に鳥居の代わりに、注連縄に木の枝がぶら下げてあった。枝の長短で商売の繁盛のよし悪しを、反映したらしい。途中何度かその注連飾りを潜り抜けながら神峰寺に到着。ちょうど紅葉は見ごろで京都の高雄・清滝と又違った落ち着きがあり、人も少なく静かな佇まいの中に紅葉が映えていた。お寺の黒い瓦屋根に赤や黄色が絶妙だった。穴場かな？ さらにアスファルト道が続くが、本山寺に近づくにつれだんだん道も山道になる。林の中で昼食をとる。一日遅れになったが昨日の『鯖街道歩き』にちなんで、持ってあがった鯖寿司を皆でたべる。今が旬の鯖寿司は私の大好物のひとつでもあり、味わって食

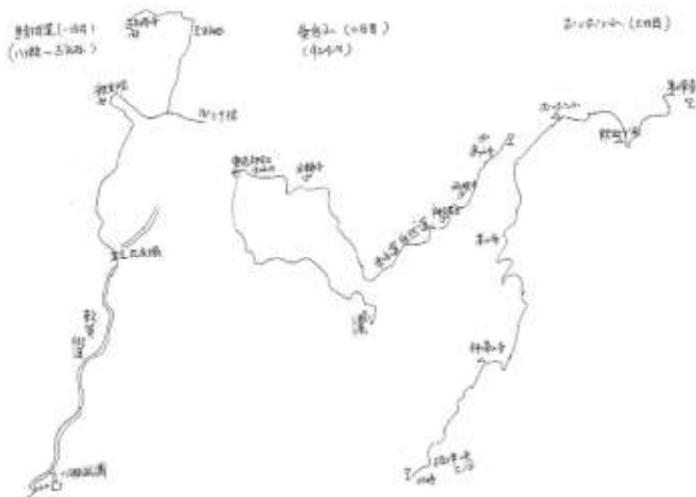
べていると雨がぱらつき始めた。大急ぎで片付けるが、直ぐ止み青空がひろがる。狐の嫁入り?と思ったがその後小雨になる。そのころポンポン山付近ではアラレが降ったようで、寒いと4組のパーティが駆け下りてきた。カップをつけわれわれは頂上に向かった。山頂まで黄葉が続く、きれいな景色が見られた。

その昔ポンポン山は加茂勢山と呼ばれていたが、晴れた日には山頂を歩くとポンポンと音がするため《ポンポン山》と呼ばれるようになったそうだ。今ではポンポンと音がする箇所は少なくなったようだ。今日は雨でもあり無理だと思ったが、教わったところを歩いてみるがやはり音はしなかった。北山はかすんで見えず、京の町が山すそに抱かれるように広がっていた。高槻のビル群はよく見えた。しばらく止んでいた雨が又降り始めた。

釈迦ガ岳から善峰寺に向かう途中ハンターに、「その道は善峰寺に行かないヨ」といわれたが地図を確認したり、友人が送ってくれた手作りの手紙地図を確認し予定どりのコースを行く。『大きな看板・ちいさな看板』と唱えながら皆で確認。このころには小雨もやんだ。もう少しで下山口のところで、善峰寺の境内が一望できた。この眺めがすばらしい。本堂の瓦屋根、茅葺の鐘撞堂、松の木、薬師堂その他のお堂の屋根、そして紅葉。おまけに空は真っ青。そこだけ1枚の絵を切りぬいたようだった。

京都山行の最後にこんなにすばらしい風景に出会えるなんて、気分上場。

終わりよければすべてよし!!



概要

山名	愛宕山・ポンポン山		
月日	平成19年11月20日～11月22日		
形式	山麓(神社)	グレード	1A 2A
山域	京都北山・ 京都西山	地形図 1/2.5万 [昭文社]	京都北山(一)・ 京都西山
目的	鯖街道を歩く・京都の紅葉		
費用	新幹線+京都での交通費 2,780+宿泊費 5,500 +拝観料 1,600 [最高 37,480]		
交通	JR、私鉄、市バス		
日程 コース	一 日 目	京都駅中央乗換口 9:50→東福寺 9:56/10:08→ 京阪三条 10:15/10:16→出町柳 10:22/10:41→ 八瀬比叡山口 10:55/11:08→西林寺 12:10/ 12:35→花尻橋 12:55→三千院 13:40/14:35→ 寂光院 15:05→阿弥陀寺 15:50/16:15→古地谷 バス停 16:25/16:43→八瀬比叡山口 17:10/ 17:21→出町柳 17:35/17:43→京阪伏見稲荷 18:00→参集殿 [歩行時間 4時間55分]	
	二 日 目	参集殿 6:08→JR稲荷 6:12/6:18→京都駅 6:22/6:57→清滝 7:45/8:05→五合目 9:24→七 合目 9:45/9:52→黒門 10:23→愛宕山 10:45/11:20→月輪寺 12:05→身助地藏 12:36/12:41→清滝 [東海道自然道分岐] 13:10/13:25→清滝橋 14:15→神護寺山門 14:40→西明寺 15:00/15:15→高山寺 15:30→ 梶尾バス停 15:31→京都駅 16:53→JR稲荷→ 参集殿 [歩行時間 6時間30分]	
	三 日 目	参集殿 7:30→JR稲荷 7:35/7:45→京都駅 7:51/8:16→高槻駅 8:30/8:49→摂津上の口 9:08/9:10→牛地藏 9:48→神峰山寺 10:10/ 10:15→本山寺 11:55→ポンポン山 [加茂勢山] 13:05/13:20→釈迦岳 13:50/13:55→大きな看 板 14:03→小さな看板 14:09→下山口 14:47→ 善峰寺 14:55/15:35→小塩バス停 15:45/15:50 →JR向日町 16:23/16:35→京都駅 16:40→法 華会館 17:00/18:00 解散→京都駅 [歩行時間 5時間35分]	
ルート 状況	<ul style="list-style-type: none"> 鯖街道の出発点の八瀬比叡山口～土井しば漬け本舗までは敦賀街道歩きで歩道のないところやダンプカーが通る危険な箇所も歩かなければならない 花立橋からは大原らしい日本の原風景が広がり、鯖街道の表示が2箇所あった。 愛宕山へは表参道に平行して登山道があるが距離が長い [山頂まで7K] 表参道 [4K] は3合目までは階段、結構きつかった 山頂は下界と10度も違い寒かった 		

ルート 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・三角点は頂上よりさらに10分ほど入ったところだが高度は神社のほうが高い ・月輪寺〔つきのお寺〕は通過するだけでも有料と表示がある。 ・ポンポン山へのアプローチは、本山寺まで、東海道自然道もあるが、暗く日が射さないせいかあまり歩かれたようすはない。地元の人が大勢歩いていたが皆アスファルトの道をおいていた
参加者	細野清(L)、細野省、柴田(SL 1日目)、田村(SL 2日目)、大串恵(SL 3日目)、大串秀、小川洋、斉藤、榊原、原田君、大島、原田和、箕輪カ、小川誠、大平、坂巻、山本(ゲスト) 男7名、女10名、計17名



▲鑄街道の表示



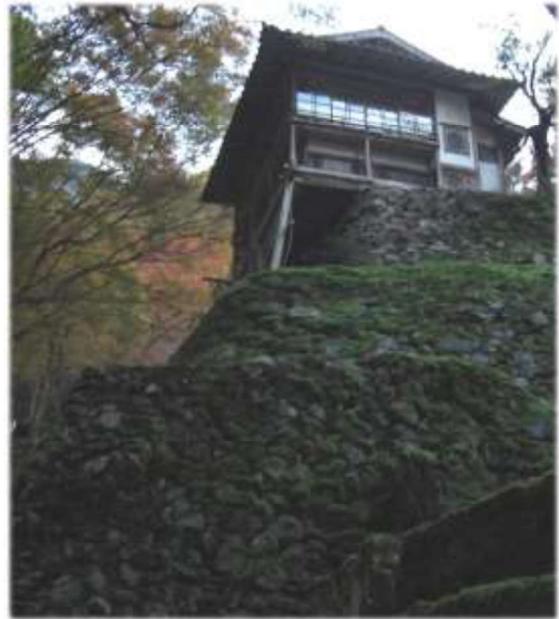
▲三千院にて





▲大原から鯖街道を古知谷へ。

▼山上の古刹、阿弥陀寺へは一汗も二汗も…



▼ポンポン山山頂にて。



< 5 6 7 >

手賀沼一周

飯沼トミ子

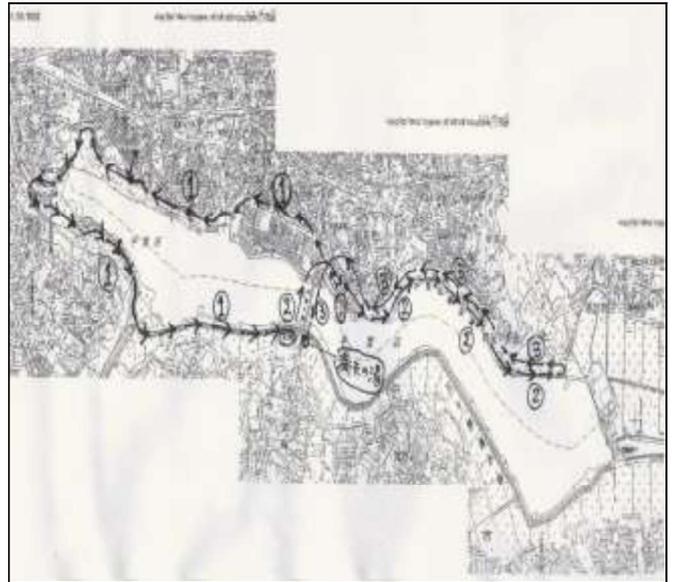
「北の鎌倉」手賀沼を探訪

師走の声を聞き、なんとなく気ぜわしい年末の一日を地元の手賀沼探訪とクリーンハイクに出掛けました。天気にも恵まれ、風も無く静かな楽しい一日になりそうです。計画では、3班に分けての身近な手賀沼周辺のハイクでしたが、人数の都合で1班1コースでの行動になりました。

「水の館」の駐車場を出て志賀直哉邸跡、杉村楚人冠公園下を過ぎ、手賀沼公園にて全員集合。武者小路実篤邸跡へ進むと、たまたま庭師の方が作業中でしたので、庭に入れていただくことをお願いしたところ、親切に受け入れて戴きました。そして、武者小路邸跡地の散策が出来て、遅ればせながらの紅葉が私達のハイクを楽しいものにしてくれました。京都の紅葉狩りに参加された方が「我孫子の紅葉も京都に負けない美しさですね」と写真を一枚パチリと。文学散歩？いやクリーンハイクである。

レジ袋の中には種々雑多な物がかなり集められました。タバコの吸殻だけを集める人もあり、手賀沼周辺のクリーン作戦は大成功に終わりました。今回のクリーンハイクは、当初「8の字」で一周する計画ではありましたが、結果的には一部割愛することになりました。手賀沼を含めた我孫子市と柏市を比較すると、道路の設備などにおいても市政の勢力の違い(?)を感じました。北千葉導水ビジターセンター付近では鮭を釣り上げていた家族にも出逢いました。ひとつのローカルカラーが覗かれた感じでした。

手賀沼大橋上空を東から西へ横切った5羽の白鳥の優美な姿には一瞬、眼が止まりました。手賀沼一周と言えども、なかなか味のあるハイクでした。文学散歩のみならずクリーンハイクも沢山の収穫がありました。地元これだけ歩き甲斐のある美しい場所があることは素晴らしいことです。ワーストNo.1であった手賀沼も昨今は少しずつキレイになっている様です。地元の自然探訪も侮る勿れ！かな、...



武者小路実篤邸跡にて。



概要

山名	手賀沼一周		
月日	平成19年12月1日(土)		
形式	日帰り	グレード	1A
山域	我孫子市&柏市	地形図 1/2.5万	流山、取手
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと手賀沼を巡り、足慣らしと親睦を図る ・手賀沼をきれいにするため、ごみを拾って歩くクリーンハイク 		
費用	約3,000円(入浴料、懇親会費、歩行のみ参加者は0円)	交通機関	電車 徒歩
行程	<p>手賀沼畔の「水の館」駐車場 8:00 集合⇒手賀沼北側道路を西へ志賀直哉邸跡 8:20⇒杉村楚人冠公園下 8:27⇒電車で来た人と手賀沼公園にて合流 8:30/8:40 (参加人数が少ないので、当初計画を変更し、一班編成とした) ⇒手賀沼北側の道(自動車道路と平行の北側の道)を西へ⇒武者小路邸跡 9:05/9:15⇒北柏ふるさと公園 9:35/9:50⇒北柏ふるさと大橋⇒手賀沼南側の道を東へ⇒北千葉導水ビジターセンター 10:00⇒ヒドリ橋 10:20⇒黄金の亀 10:35⇒道の駅沼南(昼食休憩) 10:47/11:15⇒手賀沼大橋を南から北へ渡る⇒手賀沼北側遊歩道を東へ⇒水の館 11:30⇒フィッシングセンター手前の橋から引返す 12:45⇒手賀沼北側遊歩道を西へ⇒水の館(カッパ噴水前) 13:00⇒手賀沼大橋を北から南へ渡る⇒13:15 手賀沼大橋南側の「満天の湯」到着、入浴 13:25/14:00「満天の湯」の1階休憩室にて懇親会。14:00/16:00 懇親会終了、解散。</p>		
参加者	<p>小川誠(L)、原田、外崎(SL)、箕輪完、原田和、飯沼、高橋重、大島 (一周歩行のみ参加) 斉藤、松本 男6名、女4名、計10名、懇親会参加者8名</p>		

< 5 6 8 > 忘年山行

高宕山～八郎塚
(330m) (342m)

小松庸信

2007 年忘年山行 (房総 高宕山)

昨年の忘年山行は寝坊してしまい、丁度バス出発時に目覚め、参加できなかったという苦い思い出があった。今年は目覚ましを2個準備して、万全の態勢で望み、無事バスに乗り遅れずに参加することができた。そのためかどうかは知らないがバスに乗り込んだら早々に佐藤リーダーから「やまなみ」お願いします。」と。楽しもうと思ったこの山行が突然、暗雲に包まれる思いのバスのなかであった。バスの窓外はそれとは裏腹に朝焼けの快晴で風もなく山行に絶好の天気であった。そんな中、バスは房総街道を軽快に進んで行く。

最初に、他のチームの皆さんより“宿原”集落にてバスから降車したのは食担チーム10名。山行計画書よりは約30分早目の8時からの行動開始であった。周辺は田圃と小森に囲まれた雅に里山の風景である。三島神社への鳥居を通して、暫く進むと二又に分れる道で迷う。偶々通った小型トラックのお爺さんに高宕山への道を聞くことになる。暫く平坦な道を進むと右側に三島神社。神社の杉林から木洩れ日が一層神社の荘厳さを引き立てていた。稲刈りの終わった田圃の夜露から出る微かな水蒸気が自然の息つきを感じさせる。未だ残っている艶やかな紅葉を見ながら里山を進み、四箇所の古い冷やりした照明のないトンネルの中を通り、出発地点から舗装された道を約2 KM進むとT字路にぶつかる。その近くに高宕大滝がガードレール越しにある。そこから直ぐのところが高宕山登山入口である。一寸見逃し易い脇道であった。

今までは平坦な舗装道路であったので登山口から急な登山道を感じる。この辺は高宕山のサル生息地と案内書にあったが登山中に一匹たりともその姿をみることはなかった。整備された登山道をGroup全員が順調に登るも、時には大石の塊の上を通るところもあり、朝露で滑らないように注意しながら歩く。登山入口から40分位登山が続けたが誰にも会わず、林の中で鳥の鳴き声だけが聞こえる。初めての人との遭遇は岳人仲間のAコース

“せかせかチーム”であった。更に10分位後に石山の登山道でAコース“のんびりチーム”に会う。歩き始めてから2時間ほどして、やっと高宕山の頂上に到着した。頂上は大岩の上であり、設置されている数段の梯子を上がり、少人数がやっと立てる狭いスペースで記念撮影する。頂上からの眺望は素晴らしく、房総の山並みが一望できる。少し雲を抱いた富士山も遠望できた。

下りでは年配の団体の方々や軽装でローヒールを履いた女性の方も見受けられた。遅い、紅葉観光気分のようなのである。結構な急な山道もあり、決して楽な山ではないように思えるので軽装にはちょっと驚く。約3kmの下山道を一時間半で下り、下山口の“奥畑”に予定より早く到着する(11時半頃)。待機していたバスに乗り込み宴会場のバーベキュー場へ向かう。12時頃から食担の準備開始する。四箇所のバーベキューの会場に火を熾してバーベキューセットの準備が完了。それから待つこと約一時間の13:30頃にやっと全員揃ったという感じであった。

バーベキューの宴会は登山チーム毎に火を囲み、チーム毎に歌を合唱する。小川さんによる村松さんの物真似は余興として卓越したもので皆の大笑いを誘った。石垣さんの道芸にはいつもながらハラハラしながら見入る。16:00頃にバーベキュー場の後片付けして、大いに盛りあがった今年の忘年宴会も無事終了となった。

帰りのバスの中では歌集“山の歌”を歌いながらの楽しい酒宴であった。ここでも村松前会長の話で盛り上がり、山行の疲れと酒でほろ酔い気分の中我孫子駅に到着、今年の忘年山行に幕を下ろした。

最後に、私事、この山行後の次の日から約一週間以上風邪を引き、最悪時は声も出ない状態になったのは初めての経験であった。



▲高宕山頂にて。食担チーム

▼オカリナを囲んで盛り上がるコーラス隊。



概 要

山名	高宕山～八郎塚		
月日	平成19年12月9日(日)		
形式	日帰り	グレード	2 B
山城	房総	地形図	鬼泪山、坂畑 1/2.5万
目的	遅い紅葉を楽しみながら、今年の山行と反省会を締めくくる		
費用	4,200円	交通機関	貸切バス
行程	<p>【各チーム共通】 我孫子駅北口集合 5:30/5:45→(貸切バス) →市原 SA6:55/7:10→君津 IC7:30→宿原 バス停 (食担班下車) 7:55/8:00→奥畑バ ス停着 8:05 各チームに分かれて山行→ 懇親会 14:05/15:45(後片付け)清和県民の 森発 16:15→君津 IC16:50→市原 SA17:10/ 17:25→我孫子駅北口着 18:50</p> <p>【食担チーム記録】 宿原バス停 7:50/8:02⇒高宕大滝三叉路 9:00/9:05⇒高宕大滝 9:07/9:09⇒高宕山 登山口 9:11⇒(A Team ”せかせか” とふ れ合い道路で遭遇 9:50)⇒(A Team”のん びり” と石山近辺で遭遇9:58)⇒高宕山山 頂 10:00/10:15⇒郡界尾根コース分岐 10:55⇒八良塚 11:05⇒奥畑バス停 11:30 →キャンプ場 11:40→炊事準備 12:00</p> <p>【Aコース・せかせか、のんびり両チーム とも記録はありません】</p> <p>【Bコース・せかせかチーム記録】 奥畑バス停発 8:10⇒高宕山・八良塚分岐 8:47/8:55⇒八良塚9:10⇒金吊るし休憩所 9:33/9:38⇒八良塚・監視所コース分岐 10:15⇒林道高宕線 10:25⇒高宕大滝三叉 路 10:45/10:55⇒高宕大滝コース登山口 11:00⇒高宕山下の分岐 11:30⇒高宕山 11:45/12:05⇒高宕山下の分岐 12:15⇒高 宕山・八良塚分岐 12:48⇒奥畑バス停 13:13 快晴<歩行時間4時間20分></p>		

▲10周年記念に結成された手話コーラス隊
がまた笑わせてくれました。

ルート 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・八良塚コース・高宕大滝コースともよく踏まれており整備状況もよい。但し、岩盤を穿った階段が連続し、水気の多い箇所は苔がついており滑りやすいので注意が必要。 ・高宕山下の分岐箇所はルートが四方に分かれているので、間違えないよう道標に注意。 ・山は里山コースだが樹林帯に囲まれて急坂のアップ・ダウンが多く気が抜けない。 ・2万5千の地図に従い高宕山頂上から下山しようとしたら下山口にトラロープが張られて進入禁止になっていた。その為下山ルート調査に時間を要し、登ってきた道を約300m程下山して、関東ふれあい道路に出てルートを確認する。
参加者	<p>【食担チーム】 石垣(CL)、千葉(SL)、青山、坂口、堀口、清家、外崎、坂巻、小松、小川誠 男5名 女5名 計10名</p> <p>【Aコース・せかせかチーム】 高橋英(CL)、中村八(SL)、藤倉、田村、本間、松本、村松敏 男3名 女4名 計7名</p> <p>【Aコース・のんびりチーム】 原田君(CL)、大畠(SL)、原、柴、中村隆、佐藤健 男3名 女3名 計6名</p> <p>【Bコース・せかせかチーム】武内(CL)、佐々木(SL)、矢野、日下、箕輪カ 男3名 女2名 計5名</p> <p>【Bコース・のんびりチーム】 原田和(CL)、細野清(SL)、小川洋、佐藤明、高橋重、細野省 男3名 女3名 計6名</p>

< 5 6 9 >

那須岳 (三本槍岳)
(1917m)

千葉有子

意気揚々の若手トリオ

赤羽駅のホームというちょっと変わった集合地点に集まった岳人あびこ若手トリオ（自称）は、快速で黒磯へ向かった。この列車は、古い特急の車両を使っていて、途中の駅・沿線で多くの鉄男たちがカメラを構えている姿に迎えられた。

バスで那須湯元に下り立ち、大きなザックを背負い車道を歩き始める。リーダーが2日前に問い合わせた情報では雪は全くない、ということだったが湯元ですでに雪がある。車道はずれ自然探勝路に入ると新雪を踏みしめての歩行となった。昨日、一昨日あたりでかなり降った模様だ。

今回のルートの中大倉尾根は、ロープウェーに通じる道路を途中から北に下りた温泉地、北湯にその登山口がある。沢浴いに建つ旅館は、昔ながらのものでなかなか風情がある。湯気の上がる源泉を見ながら、登山口のベンチで食事を済ませると登山道に入った。階段状の道はいきなりの急登で息が上がる。先に入った2人のものらしい足跡を忠実にたどっていく。やがて道はなだらかに山腹を巻くようになった。ラッセル泥棒をしながら歩いて、1時間30分近くが経った。しかし、リーダーから一本の声はなかなかかからない。あともう少しで分岐だから、と言われたが、なにやら足元がおぼつかなくなってきた。無理して行けないことはない。でも分岐から後の今日の行程、清水平まではまだまだであることを考え、リーダーに休憩をお願いする。

ルート変更で気を取り直す

リーダーの言うとおおり、休憩地点からほんの10分ほどで分岐に着いた。ここから東への道は、スキー場の

マウントジーンズ・スキーリゾートに通じている。清水平まで行けない場合、ここの平坦地がテント場になる。スキー場からスノーシューで来たらしい足跡が確認できた。しかし、このスノーシュー跡が曲者。ここまでついてきた登山靴のトレースはスノーシューのそれにかき乱され、ラッセル泥棒がうまい具合にいかない。しかも雪の深さが増して、ワカンを割愛したパーティーは20分も進まないうちに「これはまずいぞ」と気づかされる。時間はすでに14時半。この調子で清水平まで行くのは無理だ。では分岐に戻ってテントを張るのだな、とは私だけの甘い考えだった。リーダーの提案は「峠の茶屋～茶臼岳のコースなら、トレースがついていてワカン無しでも登頂可能かもしれない。これから下まで下りて、明日そのルートに挑戦しよう！」というもの。

せっかく2時間近くかけて登ってきた標高差約450mを惜しげもなく、振り返りもせずに駆け下る。この日の夜は、弁天温泉近くの某企業保養所裏にある小道に幕営した。テントを張る頃には風が出てきていた。テントの中でこれから臨む雪山のこと、冬装備のことなどに話が咲いて夜は更けた。

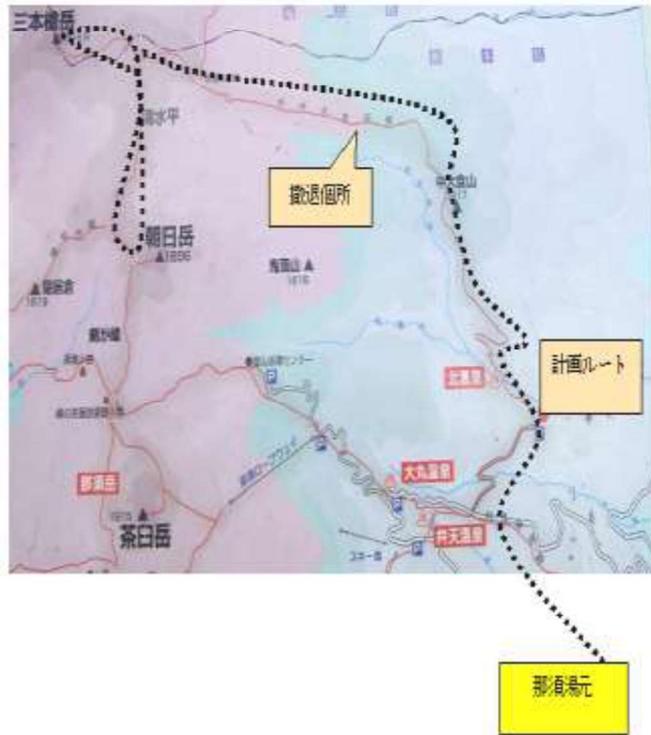
夜中に降雪

翌朝テントから外を眺めると雪。夜中のうちに降り積もった雪を見て、茶臼登山を諦める。リーダーの指導の下、自然探勝路を行きつ、戻りつ、たっぷり歩いて新雪歩行訓練をしながら湯元へと向かった。新雪に足跡をつける間も雪は後から後から降り積もった。車道では大きな除雪車が往復し、雪で動けなくなった無防備な乗用車にJAFが出動していた。

ゆっくり3時間かけて湯元まで下山すると、折角なので温泉に入って汗を流した。鹿湯は沢浴いの古くからの温泉宿。洗い場でシャンプーや石鹸は使えないが、浴槽が細かに温度別に分かれているのが面白かった。

反省会は帰りの電車の中で。残った行動食を食べ、しっかり反省しながら東京へと向かった。

概念図



湯元から北湯へ向かう途中、渓谷に架かる橋



▲雪のない1日目

雪の積もった2日目▼



▲中大倉尾根の登山口、北湯。駐車場から急な斜面を下った沢沿いの宿

自然探勝路にて、2日目 →
新雪に足跡をつける間も雪は降り続いて……



←殺生石にて。

湯元近くまで戻ると雪の積もった道を、多くの観光客が歩いていた

概要

山名	那須岳 (三本槍岳)		
月日	平成19年12月15日(土)～16日(日)		
形式	テント	グレード	3C
山域	那須	地形図 1/2.5万	那須岳
目的	雪山歩行訓練		
費用	約 10,000 円	交通機関	電車、バス、
日程コース	1日目	赤羽駅 6:44→黒磯駅 9:02/9:25(バス)→那須湯元温泉 10:00/10:10→自然探勝路入口 11:05→北湯温泉入口 11:50→北湯温泉 12:10/12:30→スキー場と清水平への分岐 14:00/14:10→引き返し点 14:30→北湯温泉 15:30/15:50→北湯温泉入口 16:10→テント場 16:30 曇のち雪<歩行時間：5時間30分>	
	2日目	テント場 7:50→自然探勝路入口 7:55→東屋 8:00/8:10→自然探勝路入口 8:20→駐車場 9:00/9:15→展望台 9:35/9:55→つつじ橋入口 10:00→那須湯元温泉 10:45→鹿の湯 11:00/11:45→那須湯元温泉駅 11:50/12:00(バス)→黒磯駅 12:32/12:35→宇都宮駅 13:25/13:39→赤羽 14:57/15:03 雪のち曇<歩行時間：2時間>	

ルート 状況	<ol style="list-style-type: none"> 計画では図の点線のように、那須湯元から北温泉を経て中の大倉尾根を登り、清水平で幕営、朝日岳と三本槍岳登頂の予定だった。しかし実際は新雪に阻まれ、「撤退個所」で撤退を余儀なくされ計画変更。いったん弁天温泉近くまで下りテントを張って翌日に登山センター、峠の茶屋経由、茶臼岳の登頂を目指した。 しかし翌日は天候が大幅に悪化、大量降雪模様になってきたので計画を再変更、テント場から自然探勝路をたどってゆっくり下山した。 撤退要因の第一は直前に新雪への準備を怠ったこと。実はアイゼンは用意していたもののワカンを持参していなかった。雪山歩行訓練といいながら大失敗だった。 敗因の第二は翌日の降雪の予想。天気予報では降水確率30%程度、大きな低気圧の接近もなく、まあ大丈夫と踏んでいた。しかし那須の頂上付近だけ大雪に見舞われた。下るとうそのように晴れている。以上の装備と天候判断という二つのミスは、場合によっては危険な状況に陥りかねないことだった。 ピークハントは逃したが、雪路(雪山ではない)歩行訓練には十分だった。那須の自然探勝路って通ったことありますか?各所に見晴台や説明板があつてなかなか面白いハイキングになりましたよ
参加者	吉川(L)、坂口、千葉 男1名、女2名、計3名

< 570 >

鷹取山（三浦半島）

(139m)

中村隆泰

市街地に残った里山歩き

この鷹取山は湘南妙義とも言われているそうだがいささか大袈裟に聞こえる。しかし、石切り場跡は垂直に切り立った壁があり、そこは岩登りのゲレンデになっている。そんなところが妙義山を連想させるのかもしれない。

このコースは市街地近くに残されたわずかな尾根をたどって歩く。足下に家並みが垣間見えて味気なさはあるが、山道そのものは気持ちのいい林間を歩き、岩あり、鎖ありの変化のあるハイキングコースである。

登山口の老人ホームの盆栽をしばし観賞して山道に入る。林に囲まれ、苔むした谷合は都会の喧騒を忘れさせる。尾根に取りつくと間もなく神武寺に着く。歴史の重みを感じさせる大木に囲まれた古刹である。

さらに尾根道をたどると、ロープや鎖もある岩道でちょっぴり楽しんで広場に出る。そこからひと登りすれば展望台の立つ鷹取山山頂で、東京湾や房総の山並み、丹沢や富士山を眺められる。



クライミング体験

山頂付近は昔の石切り場で、その垂直の壁はいまやロッククライミングの練習場となっている。当日もクライマーが続々集まってきて壁を登りだした。昼食の休憩時間を利用して見学をした。

見るだけでは物足りない、われわれも数メートルの壁にロープを掛け、簡易ハーネスをつけて、ささやかながらクライミングを体験した。しっかり三点確保が出来て見事でした。もっと高い壁に挑戦したい気持ちになったかどうかはわからない。



磨崖仏

磨崖仏を見て下山は南にのびる尾根道を下る。足下に家並みの屋根が迫る細い尾根である。京急田浦駅のすぐ上までのびているはずの気持ちのいい尾根道が最後の下りで宅地造成のため立入禁止、いささか気分を損ねて途中下車となった。折角先人が大切にしてくれた裏山も心ない？人によって蝕まれているのであった。



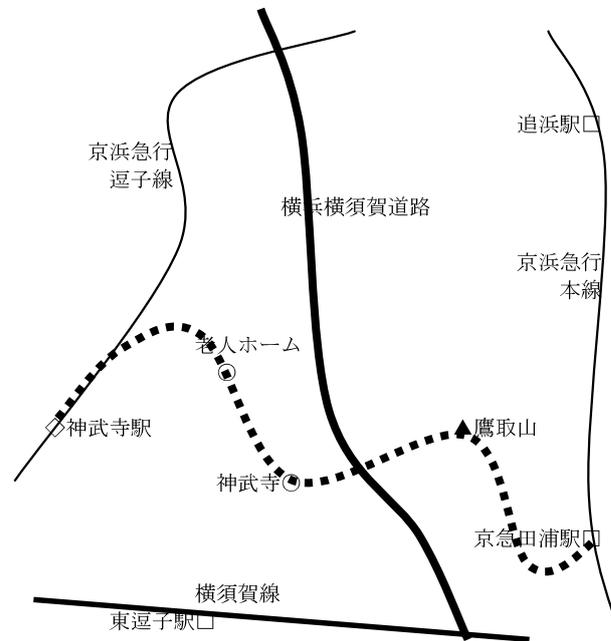
鷹取山山頂

参加者	中村隆(L)、斉藤(SL)、細野省、細野清、安田、柴田、日下、中村八、飯沼、原、坂巻、箕輪完、箕輪力 男6名 女7名 計13名
-----	--

概要

山名	鷹取山		
月日	平成20年1月20日(日)		
形式	日帰り	グレード	1A
山城	三浦半島	地形図 1/2.5万	横須賀
目的	古刹と湘南妙義と戦艦三笠		
費用	3,100円(交通費)	交通機関	電車
行程	我孫子駅 6:12→上野→品川 7:21→JR 逗子 8:12→京急逗子駅 8:22→神武寺駅 8:32/8:45(準備)⇒登山口 9:10⇒神武寺 9:25/9:45⇒鷹取山(昼食) 10:20/11:30⇒磨崖仏 11:40/11:55⇒住宅地上 12:20⇒京急田浦駅 12:40→京急横須賀中央駅 12:45⇒記念艦三笠見学 13:10/14:00⇒反省会 14:25/ 15:25⇒JR横須賀駅 15:49→品川 17:05→上野 17:24→我孫子駅着 18:00		
ルート状況	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神武寺までの登山道は苔むした岩にシダが茂り深山幽谷の雰囲気。 2. 神武寺は1300年ほど昔に行基が開創したと伝わる古刹。梵鐘や薬師堂、樹齢400年のなんじゃもんじゃの木などがある。 3. 鷹取山までは露岩の多い尾根道、ロープや鎖もある。岩は砂岩でもろい。 4. 山頂は展望台があり、東京湾や丹沢や富士山を眺められる。山頂付近には石切り跡があり、その垂直の壁を利用して岩登りのゲレンデとなっている。 5. 下山は市街の裏山にわずかに残された細い尾根を歩く。しかし駅へ下りる最後の尾根は宅地開発のため立ち入り禁止、やむなく途中下車。 6. 明治38年日本海海戦でロシアのバルチック艦隊に勝った記念艦三笠(横須賀市三笠公園内)を見学、たまたま戦艦大和の展示も見られた。 		

概念図



太田道灌(室町時代の武将)の逸話

道灌が鷹狩りに出かけたとき、急に雨が降り出しました。一軒のあばら屋に寄って、みのを借りようとしたら、一人の少女が出てきて、黙って一本の山吹の花を差し出しました。憤然として帰って、家人に話したところ、その一人が示した歌が兼明親王(平安時代)の「七重八重 花は咲けども 山吹の みのひとつだに なきぞ悲しき」であった。少女は山吹の花に託して蓑がないことを伝えようとしたのです。驚いた道灌は己の不明を恥じ、この日を境にして歌道に精進するようになったといえます。漢詩にもこんなのがあります。

題道灌借蓑図(道灌蓑を借るの図に題す) 作者不詳

孤鞍衝雨叩茅茨 (こあん雨をついてぼうしを叩く)

少女為遣花一枝 (少女ためにおくる花一枝)

少女不言花不語 (少女言わず花は語らず)

英雄心緒乱如糸 (英雄のしんしょ乱れて糸の如し)

< 5 7 1 >

赤城山 (黒檜山)

(1828m)

桐生恭子

初めての冬山テント泊

冬山基礎研修に参加してきました。前日ザックに荷物を入れて、あまりの大きさに自分で担げるか少々不安になりました。もう一つの不安材料は初めてテントに寝る事です。それも雪の上。「寒いだろうな。寝られるかな。」心配な事だらけで参加しました。

一日目

入りきらない荷物を手に持って電車に乗りました。席に着いたら外崎さんが「荷物は一つの方がいいのよ」といって清家さんとふたりでザックの中に「まだ入るよ。上に乗せても大丈夫だから」と言って、てきぱきと手に提げていたものをザックに収めてくれました。さすがにベテランのお二人だ、と感心してしまいました。

高崎から両毛線で前橋へ、駅前からジャンボタクシーで赤城へ。去年は凍らなかつたと聞いていた大沼は今年にはワカサギ釣りのテントがたくさん出ていました。赤城神社からテント設営の場所を探しながらつるつるに凍った道路を歩きました。場所決定後テントを張り終えたのは昼前でした。

明日の天候は下り坂になるらしい、とのことで、昼食後黒檜山を往復することになり軽く食事を済ませて出発しました。荷物は少なく身軽で行くように、と指示がありサブザックでの行動となりました。

最初からアイゼンを着けるように言われ、アイゼン歩行の練習です。登山口から初めはゆるやかな登りでしたがだんだん岩と雪が混ざったり木の根があつたりなかなか気が抜けません。

途中で下を見ると、自分たちのテントや、たくさんの

ワカサギ釣りのテントが眼下に見え疲れを忘れさせてくれました。樹氷の中をジグザグに登っていると突然風が強くなり急いでネックウォーマーをあげ頬の痛さに耐えました。何度か風に耐えているうちに尾根に出ていました。

ピッケルを持った登山は初めてでどうなることかと思いましたが、皆さんがゆっくり登ってくださりなんとか山頂へ着くことができました。山頂では登れたうれしさで思わず笑みが出てしまいました。やっと周囲をゆっくり見渡す事ができ、遠く筑波山、浅間山、谷川岳、八ヶ岳など登って初めて目にすることの出来る景色を堪能しました。山頂付近は風もあまり吹いていなく木の枝に付いた雪がまるで繭玉のようなかわいらしさで迎えてくれました。

テントに戻り初めて経験するテントの中での食事です。清家さんのザックから今晚のサブライズメニュー(さしみ)が出てきて全員で「わー」。みなさんてきぱきと狭いテント内で宴会をして食事をしてお茶を飲み・・・びっくりするやら、感心するやら私はただ何も出来ずに言われたことを少し手伝っただけでした。また一番心配していた夜も寝られて「良く寝ていたわよ」なんて言われてしまいました。

二日目

昨晚リーダーが決定してくださったように、リーダーと小川さんと私の3人が研修2日目ということで駒ヶ岳往復。他の方は黒檜山から駒ヶ岳縦走と別れて行動です。

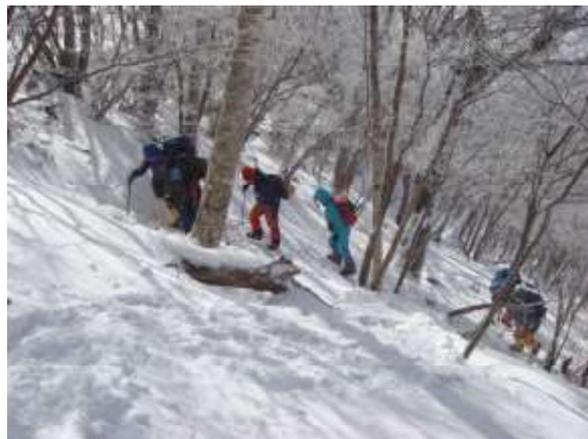
登りはアイゼンをつけないで「つぼ足」での登りです。ところどころ凍っていて滑りそうになりながらストックとピッケルで体を支えながら登りました。どうやってあがるのだろうと思われる箇所はリーダーがピッケルで足場を作ってくれました。途中から富士山がはっきり見え、その上に笠雲がかかっていました。富士山に笠雲がかかると天気がかざるそうですがとてもきれいな笠雲でした。

駒ヶ岳への登山道は階段が多く、凍っている箇所や、さらに雪までもが積もっているところがあり、緊張の

連続でした。最後の急登をつぼ足でやっと登った先に待っていたのは、朝日に輝く樹氷と雪原。思わず感嘆の声が上がります。天候もどうやら午前中は大丈夫なようで、360度山々を見ることが出来、関東平野の先に筑波山もよく見えました。私達が一番先に登ったようで尾根に出たからは誰も歩いていない雪のうえを気持ちよく歩きました。下りは不安なのでアイゼンをつけます。登りに1時間30分ほどかかったのに、なんとくだりは30分で無事登山口に到着しました。私達3人がテント場に戻って10分もしないうちに縦走組も帰って来ました。なんという早さでしょう。おどろきました。

今回は好天の中でのアイゼン歩行、キックステップ、テントの設営、飲料水の造り方、テントの撤収などいろいろなことを習いました。あの狭いテントのなかでメンバー全員が食事をする。本当にびっくりしました。テント泊初参加でただただ驚きの連続で何をして良いのか解らない状態でしたが、皆さんに暖かく教えていただき、助けて頂きました。リーダーをはじめ一緒に歩いた皆さんに感謝しています。ありがとうございました。

概念図



▲美しい樹氷の中を猫岩目指して黙々と登る



▲尾根に上がると大沼や我々のテントが良く見える

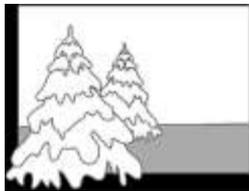


▲明日のコースを偵察に黒檜大神へ。

▼朝日に光る樹氷の中、富士や小沼を背に主稜線を駒ヶ岳へ（駒ヶ岳隊）



▲撤収前のテント場にて全員集合。



▲美しい樹氷の中を歩く精鋭部隊、砂糖の中の
アリのようだ

概要

山名	赤城山		
月日	平成20年1月19日(土)～20日(日)		
形式	テント泊	グレード	3C
山域	上州赤城	地形図	赤城山 1/2.5万
目的	冬山基礎研修（冬の山を楽しむ）		
費用	約9,100円	交通機関	JR、タクシー

日程 コース	1 日目	我孫子 5:31⇒上野 6:04/6:16(高崎線) ⇒高崎 8:03/8:05(両毛線)⇒前橋 8:20/8:45(タクシー) ⇒赤城神社啄木橋 9:50/10:05⇒テント(設営・昼食) 10:25/11:45⇒黒檜山 13:40/13:50⇒黒檜山登山口 14:55⇒テント 15:05 (泊) 晴れ <行動時間; 3時間 20分休憩含む>
	2 日目	①黒檜山～駒ヶ岳周遊精鋭隊 テント 7:00⇒黒檜山登山口 7:05⇒黒檜山 8:25/8:40⇒駒ヶ岳 9:25/9:35⇒駒ヶ岳登山口 10:15⇒テント場 10:30* <行動時間; 3時間 30分 休憩含む> ②駒ヶ岳往復隊 テント 7:05⇒駒ヶ岳登山口 7:30⇒駒ヶ岳 8:50/9:10⇒大洞下山口 (アイゼン装着) 9:30 ⇒駒ヶ岳登山口 10:00⇒テント場 10:20* <行動時間; 3時間 15分休憩含む> *テント場 11:35⇒赤城広場 11:50/13:40(タクシー)⇒前橋 14:45/14:56⇒高崎 15:14/15:31(高崎線) →上野 17:14/17:24 →我孫子 18:00 うす曇り後晴れ
ルート 状況		<ul style="list-style-type: none"> ・黒檜山への登りは急坂。猫岩から先は一部南側が切れているがトラロープが目印となり雪を踏み抜くことはない。 ・駒ヶ岳へは、ジグザグの急な箇所や鉄の階段に氷が付いている。駒ヶ岳隊は研修目的でアイゼンを付けずにカッティングなどで登った。 ・稜線は20日明け方に少し降雪があり、トレースが消えている箇所もあった。 ・稜線に上がるまで、ゆっくりと休める箇所が少ない。
参加者		高橋重(CL)、外崎(SL)、村松、清家、小川誠、青山、千葉、桐生、武内 男4名、女5名 計9名

< 5 7 2 > 県連ロングハイク

石尊山～清澄寺～三石山

坂口よし江

1月26日(土) 一日目 鋸山 (東葛地区のみ)

東葛地区は早朝に出て前日山行を実施し、その後にロングハイクに合流するとのこと。毎年の恒例になっているようだ。今回、私は初めての参加で要領がよくわからない。

貸切バス2台で、鋸山駐車場を目指す。駐車場から車力道コースを石切場経由で鋸山山頂へ。手軽に登れるためか、多くの人に行き交う。山頂は樹林の中で展望が悪い。鋸山展望台に移動して昼食を摂る。展望台からは東京湾が臨まれ、気持ちが良い。条件が良ければ、富士山や大島がきれいに見えるという。今日は、曇っているので、わずかに富士山の頭が垣間見える程度。

展望台から石切場跡まで戻り、少し進むと観月台からの登山道に合流する。石切場跡は巨大な前衛彫刻のような様相で面白い。凍っているところは滑るので注意をしないとイケないが危険な箇所もなく安心して歩ける道だ。観月台周辺には水仙の花がたくさん咲いていた。



石切場跡

バスで今晚の宿である七里川温泉・沖津屋に向かう。温泉の一軒宿で玄関のスペースに数箇所囲炉裏が据えてある。自由に使ってよいのだそうだ。いろいろの食材を炭火で焼いて食べるのは楽しそう。賑わっている。

ロングハイクの受付は、3時半からということでお風呂に入ったりお茶を飲んだりして過ごす。ロングハイクの参加者がぞくぞくと集まってくる。

夕食後、ふわくハイキングサークル・鶴沢さんの「房総の山と歴史」と題しての特別講演があり、とても分かりやすく面白かった。

概念図



1月27日(日) 二日目 石尊山～清澄寺～三石山

6:00 ヘッドランプをつけて石尊山へ向かう。

登山道は概ね歩きやすい。樹林に囲まれて展望のない山頂に到着。山頂には石祠が祀られ、背後に二等三角点がある。

左右が切れた細い尾根道を進む。東大演習林近くなると、原生林が広がっていてとても気持ちが良い登山道だ。しばらく行くと、モミ次郎・モミ太郎と名づけられたモミの大木に出会う。とてもすばらしい。

麻綿原高原の聴拝園近くには、たくさんのおじさいが群生していた。7月の花の頃には、青紫一色に彩られるそうだ。トイレがあり、あたたかな日差しの中で一休み。

天拝園からは、少々単調な長い林道歩きが続き、清澄寺に到着。境内には、千年杉と呼ばれる大木があるとの

こと。清澄寺を通り過ぎた少し先の駐車場で昼食。

再び林道歩き、冬とは思えない暖かさで汗ばんでくる。2時間弱の林道歩きの後、再び三石山へ向けての登山道に入る。樹林帯の道は涼しくて気持ちが良い。山道らしい山道を歩いて地蔵峠を過ぎ、ゴールのアスファルト道路に出たのは、15:42。良く歩きました。



石尊山山頂

概念図



概要

山名	鋸山、石尊山～清澄寺～三石山		
月日	平成20年1月26日(土)～27日(日)		
形式	温泉宿	グレード	3A
山域	房総	地形図	保田(鋸山)、坂畑、上総中野、天津小湊(石尊山～清澄山～三石山)、
目的	ロングコース歩きと親睦		
費用	10,000円	交通機関	貸切バス
日程 コース	1 日目	バス我孫子北口 6:25 発→鎌ヶ谷市役所 6:50/7:15→市原SA 8:25/8:30(休憩)→鋸山 駐車場(体操) 9:15/9:30(車力道コース) 発 ⇒車力道登山入口 9:52⇒石切場跡 10:23⇒鋸 山山頂(三角点) 10:55/11:00⇒展望台(昼食) 11:18/11:43 下山⇒石切場新道 11:55(観月台 コース) ⇒観月台 12:40/12:55⇒鋸山駐車場 13:18/13:30→きみつふるさと物産館 14:18/14:35→七里川温泉:沖津屋 15:05 着 <曇り 歩行時間:3時間15分>	
	2 日目	七里川温泉:沖津屋玄関集合 5:50/6:00⇒石尊 山 6:35/6:40⇒小倉分岐 7:15⇒麻綿原(天拝 園) 9:50/10:15⇒清澄寺 11:15/11:20⇒清澄寺 駐車場(昼食) 11:25/11:50⇒元清澄山登山道 入口 13:05⇒三石山分岐 13:45⇒三石山下山 15:42⇒きみつふるさと物産館 16:00/16:20→ 幕張SA(休憩) 17:40/17:50→鎌ヶ谷市役所 18:32/18:35→我孫子駅北口 7:05 着解散 <曇りのち晴 歩行時間:8時間40分>	
ルート 状況	・良く整備されたしっかりとした道がついてい る ・赤テープやペンキマーク、標識も多くありわ かりやすい ・危険な箇所はないが凍結時は滑りやすく注意 を要する		
参加者	斉藤(L)、外崎(SL)、日下、高橋英、小川誠、 坂口 男 4名、女 2名、計 6名		

< 5 7 3 >

高山

(1668m)

中村八重子

絶好の冬晴れに恵まれた一月下旬、雪山を求めて高山へ向かった。いろは坂に差しかかるバスから見える美しい日光の山々。

明智平と馬返しを結ぶ路程で、葉を落とした樹々の間からトンネル坑が見えた。昭和45年に廃線となった登山鉄道トンネルのようだ。

朝日を浴びた中禅寺湖では飛沫着氷や氷柱が輝き、冬の風物詩のシーンを造り出していた。それを求めて多くのカメラマンが立ち回っていた。これまで何度もなくいろは坂を登り降りしているが、何もかも初めて見る光景だ。

バスから降りると、冬の高山はシーンと静まりかえっていた。雪一面となったこの下ではシロヤシオやシヤクナゲが春を待ち構えている。

身支度をし登山道に入る積雪の中、アイゼン、ワカン装着して歩きが始まる。しかし、岩場に差し掛かると次の一歩がなかなかでない。冬山の経験が少ないため、なかなか気持ちに余裕が持てない。メンバーに助けられながら山頂に到着したとき、雪山ならではの別格の幸せを感じた。

下山経路の小田代ヶ原は深い雪野原。脚がぬけなくなり、身体ごと前に転げ大笑い。方向があやふやになると、地図読みとなった。リーダーの方向指示に従った。地図が読めないと大変なることを改めて感じた。

箱庭的な日光は、春の新緑、秋の紅葉、どちらも素晴らしい景色だが、この山行でまだ見ぬ冬の素晴らしさをたくさん発見できた。

「あの山の冬はどんな光景が見られるのだろう。」そんな楽しみも増えた。これだから山歩きは面白い。



山頂直下の急斜面を登る



高山山頂にて

概念図



概要

山名	高山		
月日	平成20年1月27日(日)		
形式	日帰り	グレード	2B
山域	日光	地形図 1/2.5万	男体山
目的	研修山行(雪山基礎)		
費用	5,000円	交通機関	東武、バス
行程	我孫子駅 5:31→北千住駅 5:55/6:31→東武日光 8:25/8:37(バス)→滝上 9:40/10:05⇒休憩 11:35/11:40⇒H1565mピーク 12:10⇒高山 13:00/13:20⇒分岐 14:17/14:22⇒道路 15:20/15:25⇒石楠花橋 15:45⇒赤沼茶屋 16:00/16:20(バス)⇒東武日光 17:30/18:55→春日部 20:50/21:05→柏 21:45/21:56→我孫子 22:00 (解散) <行動時間5時間55分歩行時間5時間15分>		
ルート状況	① 赤テープはあるが余り目立たない。 ② 高山頂上直下の急な下りは、雪は吹き飛ばされて路面が露出して凍結。		
参加者	武内(L)、松本、佐々木、原田和、中村八、青山 男4名 女2名 計6名		

< 5 7 4 >

鳥屋山 ～ 倉岳山
(808m) (990m)

村松敏彦

天から思わぬ贈り物

中央沿線南面の高柄山から高畑山、九鬼山と続く前道志の山々、北面の陣馬山、百蔵山、扇山等の山は駅から登山へ直接下山できる山として非常に人気が高く休日になるとこれらの山はハイカーで大賑わいですが、季節を外し、ルートを変えると一転して静かで、登山の魅力である冒険心をくすぐる山に変貌します。この2つの魅力を満足できる山行として季節は冬、ルートは登りは鳥屋山北尾根、下山は倉岳山北西尾根を辿る山行が計画されました。このような計画が発表されると心わくわくします。

さて、山行前日、リーダーから「天気予報をみると天気が悪いようですがどうしますか？」との電話、

「行くだけ行きましょう。悪かったら行く先を変えるか、途中撤退しても良いのでは」との返答、この際、簡単に諦めるような企画ではないのでとにかく強行する事にする。

当日、関東地方は大雪注意報が発生され、朝から深々と雪が舞い降りている。平素は登山者で賑やかな中央線の電車内でも登山者は見当たらず、周囲の一般客は「この人達はこの大雪に何処へ行くのだろう物好きなグループだ」と言う様な冷たい視線を感じながら下車駅の梁川駅に、9名の家にいても相手にしてくれそうもない人々が着いた。晴れていれば正面に鋭角な倉岳山の山容が見えるはずだが今日は一面真っ白な墨絵のような世界、反面展望はまず期待できない。誰からともなく「帰りの電車ありますか」と聞いてくるが「なかったら何処かに泊れば・・・」と持ち前のいい加減さで応える。あきれて一瞬その人の顔が曇る。駅の南に真っ直ぐ伸びる道を梁川大橋、トタン沢橋を通過して右

に立野峠に至る一般登山道を見送り、唐栗橋を過ぎた右側に北尾根の取りつき点を探し当てた。昨年登ったとき目印につけたポールを探したが見当たらなかった。ここでアイゼン、雨具等付け、コンパスを鳥屋山にセットして急斜面を登って尾根に取り付く。(ヤブ山、雪山、天候不順の場合に地図とコンパスの設定は非常に重要です)



▲鳥屋山北尾根取り付き地点。身支度を整え、磁石を合わせる

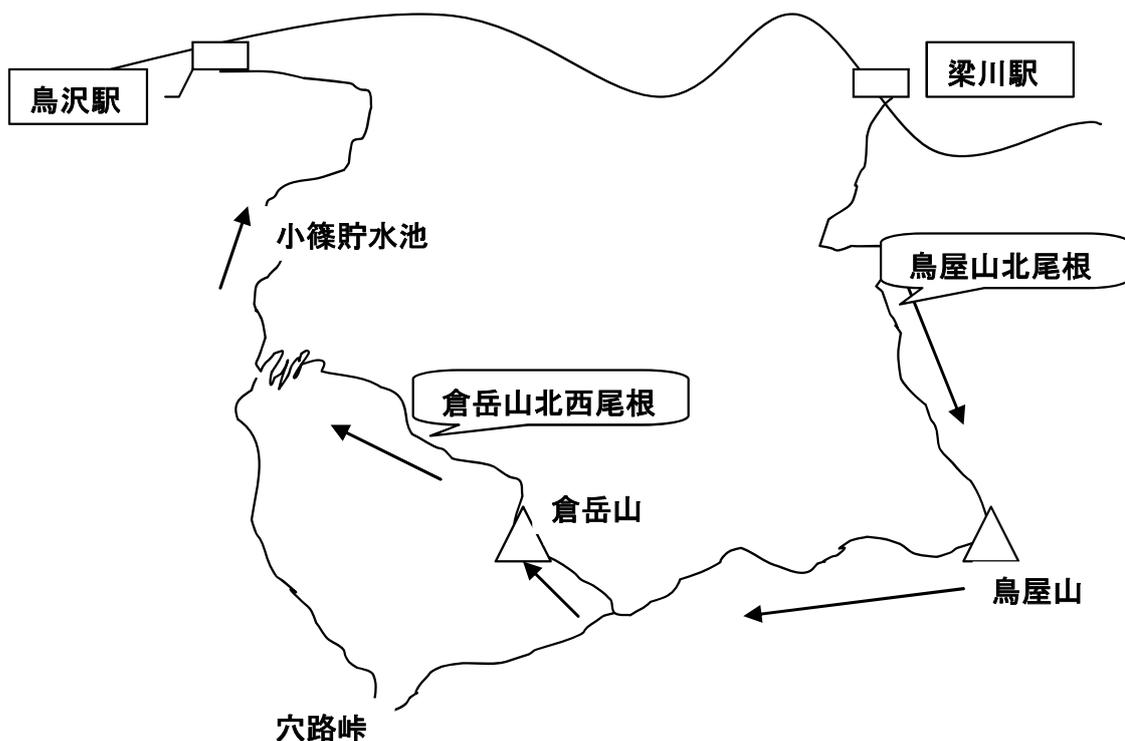
気温は以外に高く、水分を含んだ雪はアイゼンに団子上に付き歩きづらい。南東に進んできた尾根を標高500m付近で南に変える。ここは昨年、下山に利用した時には直進してしまい、深いヤブに捕まった事態を思い出しました。尾根を忠実に尚、且つエフをチェックしながら小さな板にやっと山名が読める鳥屋山に着いた。積雪は30cmを越えている。ここから倉岳山までは一般登山道だが今日は雪のため登山道らしくない。いくつかのピークを越えると立野峠に着く。はるか昔、この峠は道志と郡内を結び多くの人が行き交う生活の道として又、峠として栄えた事だろう。倉岳山に登る一般登山道は右から登ってきている。左の道は道志秋山の浜沢への下降路です。最後の急坂を登りつめると三等三角点のある山頂に着いた。晴れていれば正面に御生体山を前衛に富士山が見える筈だが、今日は風の音と雪のため視界はほとんどない。寒さのため登頂した証拠に記念写真を撮って、すばやく下山にかかる。



鳥屋山山頂にて

ルートは北西尾根を選んだ。少し行くと左側に何時来ても枯れる事もなく、又凍る事もない水たまりが現れる。この水溜りを誰ともなく「ヘソ水」と呼んでいる。倉岳山のへその部分にあるのでそう呼ばれているのだろう。北尾根との分岐で一度ルートを間違えたが確実な所まで戻って事なきを得た。これは登山における道迷い時の鉄則で、ルートが変だと思ったら確実な所ま

概念図



で戻って確認する事が大事です。アイゼンに付く雪の団子を取り除きながら鳥沢駅から高畑山に登る一般登山道に合流するともうアイゼンは必要ない。小篠ダムの広場で「雪合戦を男女別れてしませんか？」と提案したが「そんな子供じみた事はいや」といとも簡単に拒否されると同時に軽蔑の眼で睨まれたので止めにする。鳥沢駅では雪のため電車は遅れてはいるが動いているので一安心する。

さて、事故もなく、又、天からの思わぬ雪の贈り物を頂いて、このまま帰ったら非常に申し訳ないので反省会をどうするか検討した結果、高尾駅で途中下車が良いとすばやく意見が纏まる。しかし何時も行く蕎麦屋さんが天候悪化のためか、客が来ないのか店が閉まっていた。このような時には頭の回転が特に良くなるもので反対の京王電車側の改札口近くに店を見付け事なきを得た。そこで恒例の反省会をして楽しくも充実した1日を終えた。



▼北尾根。急な斜面を尾根筋に忠実に登る



概要

山名	鳥屋山～倉岳山		
月日	平成20年2月3日(日)		
形式	日帰り	グレード	2B
山域	中央沿線 (前道志)	地形図	上野原 大室山
目的			
費用	約3,000円	交通機関	JR(ホテルバス利用)
行程	我孫子駅発 5:33→新松戸→西国分寺→高尾→ 梁川 7:45/8:05⇒トタン沢橋 8:20⇒唐栗橋 8:26⇒登り口 8:31/8:50⇒H500m 地点 (休憩) 9:20/9:25⇒H600m 地点 (休憩) 9:50/9:55⇒鳥 屋山 10:36/10:45⇒細野山 11:05/11:07⇒立野 峠 11:32/11:40⇒倉岳山 12:25/12:35⇒H840m 地点 (昼食休憩) 12:55/13:15⇒H800m 地点道迷 いロスタイム 13:30/13:45⇒穴路峠への分岐 14:15⇒貯水池 14:40/14:50⇒鳥沢駅 15:25/ 15:40→高尾 (反省会) →西国分寺→新松戸→ 我孫子駅		



ルート 状況	<ul style="list-style-type: none"> 鳥屋山北尾根は入り口を間違えなければ、忠実に尾根をたどって山頂まで行ける。目印のテープは長い距離の間ついていない箇所もあった。 倉岳山山頂直下で、北東尾根と北尾根・北西尾根のルートが分かれる。 倉岳山 北尾根と北西尾根の分岐は大きなモミの木が目印になる。北西尾根はモミの木から左斜め方向に進む。すぐに左手下方に水たまり(へそ水)が現れ、ルートを確認できる。 720m地点から右に下るルートは斜面がどんどん急になり、テープなど目印になる物が見つからなかったため、引き返した。後でガイドを見ると一度鞍部まで下りて644mピークに登り返し、北に延びる尾根をたどって下畑に下りるルートのようなだ。 720m地点から下った西へ向かうルートは急斜面をジグザグに道がきいてあり、沢まで下りて渡ると穴路峠へ登る登山道と合流する。この道を下って、最後に小篠貯水池に出た。
参加者	千葉(L)、村松敏(SL)、中村隆、清家、外崎、 武内、小川誠、佐々木、青山 男性4名、女性5名、計9名



雪の梁川駅

< 5 7 5 >

大霧山

(767m)

箕輪カオル

陽だまり山行とはいっても、前日までの雪が残っている。貸し切ったマイクロバスからは橋場バス停で下車。粥新田峠まで林道を行く。積雪のため、大霧山までの往復と予定変更となる。登山口である粥新田峠には東屋が設置されている。ここからは、今日始めて雪道に足跡をつけた岳人あびこの私たちであった。

登りは、スパッツだけでアイゼンはつけないで歩く。雪を掻き分けながら先頭を行くリーダーは大変だったと思う。道の所々に、石塔が雪に埋もれている。快晴の中、風もなく穏やかな日だったのでみんな楽しそうに歩いた。ときどき立ち止まると、木の上から飛雪が日を受けてきらきら舞い落ちる。雪の妖精のようであった。頂上は、比較的狭いが展望はよい所だ。三角点はすっぽり雪の中。眼下に秩父市街が、そして両神山、双子山、武甲山、雨飾山等々の山々が前方に見られて絶好のひと時だ。遠くは日光連山、上州の山々も望まれるという。ゆっくりする間もなく、次から次と他の人たちが登って来るので、早々にアイゼンをつけて下山した。そして、登山口の粥新田峠の陽だまりで昼食をとった。アイゼンもここで外した。

同じ道を往復したために、時間の余裕ができて事故やアクシデントもなくすっきりしての下山であった。私はこの数年、雪山にはご無沙汰であった。当然アイゼンも久しぶりに着けた。前日に、家でアイゼンの着け方をやっておいたので、当日あわてずに出来た。雪の中を安全に歩くことができるかどうか、出かける前の心配は、嘘のように消えていた。

雪の上小さき風の生まれけり

風花やところどころに小休止



林道も真っ白



大霧山山頂にて



下りはアイゼンをつけて

概要

山名	大霧山		
月日	平成20年2月10日(日) 晴		
形式	日帰り	グレード	1A
山域	奥武蔵	地形図 1/2.5万	安戸
目的	陽だまり山行 外秩父の展望		
費用	約5,000円(バス代、 反省会費含む)	交通機関	貸切バス
行程	<p>我孫子駅北口集合 5:30/5:35 出発 (貸し切りバス) 柏 I C 5:45 → 高坂 S A 7:00/7:15 → 嵐山小川 I C 7:50 → 小川町橋場バス停着 8:20 (準備) 登山開始 8:35 → 衣服調整 8:66/9:00 → 休憩 9:30/9:35 → 粥新田峠登山口 9:45 → 大霧山 (676m) 10:33/10:50 → 粥新田峠 11:17/11:40 (昼食) ⇒ 橋場バス停着 12:35</p> <p><行動時間 3時間 50分内 歩行時間 3時間 00分 休憩 50分></p> <p>橋場バス停発 → 小川町 (松栄庵) 12:45/14:36 (反省会) 小川嵐山 I C 14:35 → 柏 I C 15:40 → 我孫子駅北口 16:00</p>		

ルート状況	<p>: 電車山行からバス山行に変更。</p> <p>: 前日雪の予報が雨、当日高速道路に雪はない。一般道に入ってから路面滑る。</p> <p>: 橋場バス停から粥新田峠の登山口迄、バスで行く予定が路面凍結のため、徒歩になる</p> <p>: 登山口から雪があり深い所では30cm位あった。</p> <p>: 頂上には三角点があり、あまり広くない。</p> <p>: 天気が良く、外秩父の山々が見えた、目の前には雨飾山がはっきり見えた。</p> <p>: 下山には雪で滑る為、アイゼンを着ける。</p>
参加者	<p>高橋英(L)、中村隆、原田君、原田和、小川誠、箕輪完、藤倉、松本、安田、飯沼、箕輪カ、斉藤、小川洋、石黒 (ゲスト)</p> <p>男 8名、女 6名、計14名</p>

概念図



<——>卒業山行

高尾山

(599m)

坂巻明

(やまたんより転載)

小松庸信

「岳人あびこ」に入会して本当によかった。先輩の皆さんが親切で何よりです。優しく、丁寧に指導していただきまして有難うございました。特に、指導係の外崎さん・清家さんにはお世話になりました。おかげで、無事一年続けることが出来ました。

卒業山行は雪の高尾山縦走となり、アイゼンを使うことも出来ました。当日は天気にも恵まれ、雪も私たちを応援しているようです。

山登りの楽しさが少しわかってきました。これからも、いろいろな山に挑戦してみたいです。よろしくお願いします。(坂巻明)

卒業という名前には、当方の山の経験度からその名には落差を感じながらも、一年経過したケジメの行事であり、新人が経験する一度だけとの思いの山行。

昨年3月の新人歓迎山行からこの一年間、新人世話役を担当いただいた清家さんと外崎さんには山行の先生として、ある時は母親のように親切に面倒をみていただき、感謝感激。

高尾山の山行では、登山道は雪が踏み固められたアイスバーンで、初体験のアイゼン装着。早速装備訓練となる。山頂からは、正面に富士山の勇姿を澄み切った青空にクッキリと眺望。

城山の手前のところで昼食。そこで世話役の方が準備された「甘酒」で卒業山行に乾杯。山で飲む「甘酒」は最高。

気温の上昇でぬかるんだ登山道を進み、パラボラアンテナのある城山を経由して、嵐山の山頂に着いたのが14時半。雪道等で計画予定より遅れたため、山行計画とは別ルートで下山。

相模湖駅前のレストランで約一時間の反省会、素晴らしい山行であったとの賞賛。無事に帰途へ。(小松庸信)

まず、早川さんが、よんどころない理由のため、急に不参加となったのが残念です。3人とも本当に意欲があり、山行計画も綿密に練ってありました。研修委員は只付いて歩くのに精一杯。実に頼もしいお二人でした。今後が楽しみです。(研修担当)



高尾山頂で。卒業を祝い、ラムネで乾杯！！



相模川に架かる弁天橋。

概要

山名	高尾山		
月日	平成20年2月11日(月)		
形式	日帰り	グレート	1A
山城	中央沿線	地形図 1/2.5万	与瀬
目的	第12期生	卒業山行	
費用	2540円 ホリデー パス利用	交通機関	JR、京王
日程 コ ー ス	我孫子駅 6:10→新松戸→西国分寺→高尾駅 7:59/8:05→京王線高尾山口駅 8:07/8:35→稲荷山 9:30/9:35→高尾山 10:20/10:45→城山 12:15/12:25→弁天橋 13:35→嵐山 14:25/14:40→嵐山橋バス停 15:20/15:26→さがみ湖駅発 16:55→西国分寺→新松戸→我孫子駅着 18:30 <行動時間:約7時間>		
参加者	小松(L)、坂巻(山行計画担当)、清家、外崎(男2名 女2名 計4名)		

資料

推移グラフ（1996年～）

山行一覧表（2007年）

活動の記録（1996年～）

活動の記録

その1

年	月	日	行 事	場 所	備 考
1996年 平成8年	10	2	定例集会	市民プラザ	会則の立案他
	10	12-13	創立記念山行	会津朝日岳	テント泊、自家用車利用
	10	17	県連理事会	千葉弁天会館	県連加盟の承認
	11	5	定例集会	市民プラザ	役割分担他
	11	12	定例集会	市民プラザ	山行計画、報告書式検討
	12	19	定例運営委員会	柴宅	今後のスケジュール他

年	月	定例集会		運営委員会		備 考
1997年 平成9年	1	7	市民プラザ	21	市民プラザ	
	2	12	市民プラザ	25	市民プラザ	
	3	11	市民プラザ	25	市民プラザ	
	4	6	市民プラザ	22	市民プラザ	
	5	7	市民プラザ	27	市民プラザ	
	6	14	市民プラザ	24	市民プラザ	
	7	5	市民会館	22	市民プラザ	
	8	9	市民プラザ	26	市民プラザ	
	9	6	市民プラザ	6, 19	市民プラザ	
	10	4	寿市民センター、	21	市民プラザ	
	11	8	市民プラザ	28	市民プラザ	
	12	13	市民プラザ	16	市民プラザ	

年	月	日	行 事	場 所	内 容
1997年 平成9年	1	11-13	雪崩講習会	谷川岳	県連（川名、清家、坪井参加）
	1	15	岩トレ	天覧山	
	2	15	公開市民登山発表		我孫子市広報掲載
	3	2	公開ハイキング及び会員募集説明会	市民プラザ	
	3	16	公開ハイキング	石老山	一般40名参加
	3	26	新入会員決定通知		23名入会
	4	1	臨時運営委員会	市民プラザ	予算作成、総会準備
	4	6	第2回総会、定例集会	市民プラザ	
	4	13	新人装備購入ツアー	カモンカ	6名参加
	4	20	新入会員歓迎山行	大楠山	歓迎と親睦
	6	1	千葉県清掃ハイキング	養老溪谷	県連
	6	14	新人研修会	市民プラザ	山のマナー
	6	21-22	救助隊救出訓練	船橋	県連
	6	28-29	登山交流集会	船橋	県連
	7	5	新人研修会	市民会館	歩き方
	7	5	納涼祭	五本松公園	テント講習
	10	1	秋の公開登山参加者募集	市民広報掲載	
	10	4	新人研修会	市民プラザ	地図の見方、折り方
	10	10-11	1周年記念山行	尾瀬集中登山	3コース
	10	19	公開登山説明会		
	10	25-26	公開登山	丹沢主脈縦走	
11	4	雪崩机上講習会		県連	
12	7	忘年山行			
12	20-21	クリスマス山行	笠取山		

年	月	定例集会	運営委員会	備 考
---	---	------	-------	-----

活動の記録

その2

1998年 平成10年	1	10	市民プラザ	20	市民プラザ	
	2	11	市民プラザ	17	市民プラザ	
	3	14	市民プラザ	17	市民プラザ	
	4	5	市民プラザ	21	市民プラザ	
	5	9	市民会館	26	市民プラザ	
	6	13	市民会館	23	市民プラザ	
	7	11	湖北台近隣センター	21	市民プラザ	
	8	8	市民プラザ	19	市民プラザ	
	9	5	市民会館	18	市民プラザ	
	10	3	湖北近隣センター	20	市民プラザ	
	11	7	湖北近隣センター	24	久寺家通り会館	
	12	12	市民会館	22	市民プラザ	

年	月	日	行 事	場 所	内 容
1998年 平成10年	1	10	臨時運営委員会	市民プラザ	長期展望他
	1	18	新年山行	鐘撞堂山	
	2	10	臨時運営委員会	市民プラザ	
	2	18	拡大運営委員会	市民プラザ	
	2	22	公開登山説明会	市民プラザ	
	3	8	公開登山	扇山	
	4	5	第3回総会	市民会館	
	4	5	新人研修	市民会館	ガイダンス、日帰り装備
	4	26	新人歓迎山行	棒ノ折山	
	5	2-5	ゴールデンウィーク合宿	蝶ヶ岳、常念岳	
	5	24	リーダー研修	岩山（鹿沼）	
	6	7	新人研修	伊豆ヶ岳	ロープワーク、三点確保
	6	9	救急法机上講習会	県連	
	7	11	岳人祭	湖北台中央公園	
	7	11	新人研修	湖北台	救急法、テント
	8	8	臨時運営委員会	市民プラザ	ハイキング部、ランニング制
	8	5	新人研修	市民会館	地図の読み方
	9	23	公開登山説明会	市民プラザ	
	9	27	ふれあいハイキング	神峰山	東葛地区
	10	10-11	公開登山、創立記念山行	八ヶ岳	
11	8	機関紙発行者交流集会	柏	県連主催（中村出席）	
12	6	忘年山行	裏筑波山		
12	19-20	クリスマス山行	甲武信岳		

年	月	定例集会	運営委員会	備 考
---	---	------	-------	-----

活動の記録

その3

1999年 平成11年	1	9	市民プラザ	9, 26	市民プラザ	
	2	13	市民プラザ	23	市民プラザ	
	3	13	湖北台近隣センター	17, 27	市民プラザ	
	4	4	市民会館	20	市民プラザ	
	5	8	市民プラザ	25	市民プラザ	
	6	12	湖北台近隣センター	22	市民プラザ	
	7	10	五本松公園	21	市民プラザ	
	8	7	市民プラザ	24	市民プラザ	
	9	11	湖北近隣センター	17	市民プラザ	
	10	2	湖北近隣センター	22	市民プラザ	
	11	6	湖北近隣センター	24	市民プラザ	
	12	11	市民会館	21	市民プラザ	

年	月	日	行 事	場 所	内 容
1999年 平成11年	1	10	新年山行	鐘撞堂山	
	1	30-31	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	16	会員募集広報掲載	我孫子市広報	
	3	7	入会希望者説明会	市民プラザ	
	3	13	公開登山実行委員会	湖北台近隣センター	
	4	4	第4回総会	市民会館	
	4	5	新人研修	市民会館	ガイトンス、日帰り装備
	4	18	新人歓迎山行	大鹿山、笹子雁ヶ腹摺山	
	5	1-4	ゴールデンウイーク合宿		雪山
	5	22	公開登山説明会	市民プラザ	”両神山”
	5	23	登山学校開校式		県連主催（安田）
	5	30	リーダー研修	岩山（鹿沼）	
	6	5-6	公開登山実施	両神山	一般13名、会員20名
	6	13	新人研修	本社ヶ丸 - 鶴ヶ鳥屋山、高畑山	
	7	~2000/6	誌上「岳人あびこ登山教室」12回	《やまたん》	講師：村松敏彦（リーダー部長）
	7	10-11	岳人祭	五本松公園	クリーン作戦、テント講習、宴会、テント泊
	7	10	新人研修	五本松公園	テント講習他
	7	21	山行文集「やまなみ」創刊号発行		96 / 10 ~ 98 / 12
	10	2	「ブナの山旅」講演会（公開）	湖北台近隣センター	講師：坪田和人氏
	10	3	岡発戸・都部の谷津を探勝	我孫子市内	
	10	24	第9回ふれあいハイク	筑波山	千葉県障害者交流登山
	11	13-14	新人研修山行	丹沢主脈縦走	
	12	5	忘年山行	百蔵山	
12	23-25	クリスマス山行	甲武信岳一金峰山		
12/28-1/5		海外トレッキング（県連主催）	ネパール	外崎、細野清参加	

年	月	定例集会	運営委員会	備 考
2000年	1	11 市民プラザ	21 市民プラザ	

活動の記録

その4

平成12年	2	5	市民プラザ	6.18.26	市民プラザ	
	3	5	湖北台近隣センター	22	市民プラザ	
	4	8	市民プラザ	18	市民プラザ	
	5	10	湖北台近隣センター	23	市民プラザ	
	6	10	市民会館	20	市民プラザ	
	7	12	湖北近隣センター	18	市民プラザ	
	8	9	市民プラザ	22	市民プラザ	
	9	9	五本松公園	26	市民プラザ	
	10	11	市民プラザ	24	市民プラザ	
	11	11	湖北近隣センター	21	市民プラザ	
	42	9	市民会館	19	市民プラザ	

年	月	日	行 事	場 所	内 容
2000年	1	16	会員募集広報掲載	我孫子市広報	
平成12年	1	23	第1回県連登山学校閉校式	千葉県青少年女性会館	修了者：安田みづほ
	1	29-30	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	5	5周年記念山行実行委員会	湖北台近隣センター	
	2	5	会員募集説明会	湖北台近隣センター	
	3	5	第5回総会	湖北台近隣センター	
	3	5	新人研修	湖北台近隣センター	ガウン、日帰り装備
	3	26	新人歓迎山行	浅間嶺	
	4	8	5周年記念山行実行委員会	市民プラザ	
	4	15	登山学校開校式	県連主催	榊原、大串(恵)
	5	3-6	ゴールデンウィーク合宿	浅草岳・守門岳	雪山
	5		ホームページ開設		HP担当 川下
	5	20	公開登山説明会	市民プラザ	”雲取山”
	6	3-4	公開登山実施	雲取山	一般14名、会員17名、計31名
	6	17-18	リーダー研修	丹沢	
	6	1999/7~	誌上「岳人あびこ登山教室」12回終了	《やまたん》	講師：村松敏彦(リーダー部長)
	7	2	新人研修	岩山	
	8	~2001/7	「楽しい登山学」(机上講習会)開始	《やまたん》	講師：柴 勇(登山部長)
	9	9-10	岳人祭	五本松公園	クレーン作戦、テント講習、懇親、テント泊
	11	11-12	新人研修山行	塔ノ岳-鍋割山	
	12	3	忘年山行	倉岳山	
12	23-24	クリスマス山行	安達太良山		

年	月	定例集会	運営委員会	備 考
2001年	1	10 市民プラザ	19 市民プラザ	
平成13年	2	7 市民プラザ	16, 24 市民プラザ	

活動の記録

その5

3	4	湖北台近隣センター	21	市民プラザ	
4	7	市民プラザ	17	市民プラザ	
5	9	湖北台近隣センター	22	市民プラザ	
6	6	市民プラザ	19	市民プラザ	
7	11	湖北近隣センター	17	市民プラザ	
8	8	市民プラザ	21	市民プラザ	
9	9	アビイホール	25	市民プラザ	
10	13	湖北近隣センター	23	市民プラザ	
11	7	湖北近隣センター	20	市民プラザ	
12	8	市民会館	18	市民プラザ	

年	月	日	行 事	場 所	内 容		
2001年 平成13年	1	14	新年山行	石老山	5周年記念山行富士周辺スタート		
	1	21	第1回県連登山学校閉校式	千葉県青少年女性会館	修了者：榊原、大串（恵）		
	1	27-28	房総ロングハイキング	房総	県連主催		
	2	18	会員募集説明会	市民プラザ			
	3	4	第6回総会	湖北台近隣センター			
	3	4	新人研修	湖北台近隣センター	ガイドブック、日帰り装備		
	3	18	新人歓迎山行	越前岳（富士）			
	4	14-15	登山学校開校式	県連主催	受講者：川下		
	5	2-5	春山合宿	大笠山・笈ヶ岳	雪山		
	5	19	公開登山説明会	湖北台近隣センター	”巻機山”		
	6	9-10	公開登山実施	巻機山（越後）	一般13名、会員24名、計37名		
	7	2000/8～	「楽しい登山学」（机上講習会）終了	《やまたん》	講師：柴 勇（登山部長）		
	1～7月		5周年記念富士周辺シリーズ		14回		
	8	18-19/25-26	5周年記念山行	富士山	4コース		
	8		山行文集やまなみ 第2号の発行		平成11年1月～平成12年2月		
	9	9	創立5周年記念講演会	アビイホール	講師：田部井淳子、坪田和人		
	10	13	岳人祭	湖北台近隣センター	クローン作戦、文化祭、5周年祝賀会		
	10		5周年記念山行文集「富士山と富士周辺の山々」の発行		平成13年1月～平成13年8月		
	12	2	忘年山行	助川山（常陸）			
	12	23-24	クリスマス山行	木曾駒ヶ岳			
山技術講習 (集会時)	年	月	日	No.	項 目	講 師	
		01	4	7	1	ウォーキング技術	村松、柴、清家
		01	6	6	2	救急処置法	外崎、清家
		01	11	8	3	山で遭難しないために	ビデオ
		02	1	9	4	ストックの使い方	清家
	02	2	6	5	アイゼンとピッケルの使い方	柴	

年	月	定例集会	運営委員会	備 考
2002年	1	9 湖北台近隣センター	22 市民プラザ	
平成14年	2	6 市民プラザ	17、23 市民プラザ	

活動の記録

その6

3	10	湖北台近隣センター	20	市民プラザ	
4	6	市民プラザ	16	市民プラザ	
5	8	アビスタ	19	市民プラザ	
6	6	湖北近隣センター	18	市民プラザ	
7	10	市民プラザ	16	市民プラザ	
8	7	アビスタ	20	市民プラザ	
9	11	湖北近隣センター	24	市民プラザ	
10	19	五本松公園	22	市民プラザ	
11	9	アビスタ	19	市民プラザ	
12	5	湖北近隣センター	17	市民プラザ	

年	月	日	行 事	場 所	内 容
2002年 平成14年	1	26-27	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	17	会員募集説明会	市民プラザ	
	3	10	第7回総会	湖北台近隣センター	
	3	10	新人研修	湖北台近隣センター	カッター、日帰り装備
	3	24	新人歓迎山行	八溝山	
	5	3-6	春山合宿	鹿島槍ヶ岳	雪山
	5	19	公開登山説明会	湖北台近隣センター	”安達太良山”
	6	9	公開登山実施	安達太良山	一般29名、会員32名、計61名
	6	7	ウイズハイク実行委員会	アビスタ	
	8		山行文集「やまなみ」第3号発行		平成12年3月～平成13年2月
	9	28	ウイズハイク実施	(鋸山)	雨のため「大洗水族館」に変更
	10	19-20	岳人祭	五本松公園	クワン作戦、講演会、実技研修、懇親、テント泊
	12	8	忘年山行	加波山	
	12	22-23	クリスマス山行	会津朝日岳	
登山技術講習 (集会時)	月	日	項 目		講 師
	8	7	ウォーキング技術		村松 (敏)
	10	19	講演会 最近の山の道具について		よしき店主 吉野清氏
	10	19	テントの張り方、ロープワーク		リーダー部
	12	4	山行計画の立て方		細野 (省)
	1	8	山の料理		清家

年	月	定例集会	運営委員会・リーダー会議	備 考
2003年 平成15年	1	8 市民プラザ	21 市民プラザ	
	2	8 アビスタ	16, 22 アビスタ、市民プラザ	
	3	9 湖北台近隣センター	18 市民プラザ	
	4	9 市民プラザ	22 市民プラザ	

活動の記録

その7

5	7	アビスタ	18	市民プラザ	
6	5	湖北近隣センター	17	市民プラザ	
7	9	市民プラザ	15	市民プラザ	
8	6	アビスタ	19	市民プラザ	
9	4	湖北近隣センター	16	市民プラザ	
10	4	湖北近隣センター	21	市民プラザ	
11	5	アビスタ	18	市民プラザ	
12	3	アビスタ	16	市民プラザ	

年	月	日	行 事	場 所	内 容
2003年 平成15年	1	25-26	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	16	会員募集説明会	アビスタ	
	3	9	第8回総会	湖北台近隣センター	
	3	9	新人研修	湖北台近隣センター	カイトンス、日帰り装備
	3	30	新人歓迎山行	奥久慈男体山	
	5	2-5	春山合宿	白馬岳	雪山
	5	18	公開登山説明会	湖北台近隣センター	赤城山
	6	1	公開登山実施	赤城山	一般33名、会員34名、計67名
	9	27	ウィズハイク実施	鋸山	
	10	4-5	岳人祭	五本松公園	クリーン作戦、救急法講習会、懇親、テント泊
	12	7	忘年山行	足和田山	
	12	20-21	クリスマス山行	和名倉山	
教育研修	月		机上研修		実技研修
	3		山行の申し込み方、装備の点検	岩山	岩登り基礎。
				奥久慈男体山	山のマナー、パッキングの仕方
	4		地図の読み方、コンパスの使い方	モミソ・源次郎沢	沢登り基礎。
				百蔵山	地図読み山行
	5		筋肉痛と水分補給	岩山	三点確保
	6		楽しい山行計画の立て方		
	7		雷にあったら、蜂に刺されたら	黒姫山	テント泊体験
	8		三角巾の使い方		
	9		心臓蘇生法	白笹・南月山	地図読み山行
	10		心臓蘇生法 実技		
	11		山での歩き方	日和田山	ストックの使い方
	12			足和田山	山での食事の作り方
	12		山行計画作成（新人卒業山行）	安達太良山	冬山基礎、わかん、ビッケル。藪山の地図読み
2			笹尾根	冬山体験。新人の卒業山行	

年	月	定例集会	運営委員会・リーダー会議	備 考
2004年 平成16年	1	7	アビスタ 14, 20	市民プラザ
	2	5	湖北台近隣センター 15, 21	アビスタ、市民プラザ
	3	7	湖北台近隣センター 16	市民プラザ
	4	7	アビスタ 13	市民プラザ
	5	7	アビスタ 18	市民プラザ

活動の記録

その8

6	9	湖北近隣センター	15	市民プラザ	
7	7	アビスタ	13	市民プラザ	
8	4	アビスタ	17	市民プラザ	
9	8	アビスタ	14	市民プラザ	
10	6	アビスタ	19	市民プラザ	
11	10	湖北近隣センター	16	市民プラザ	
12	8	湖北近隣センター	12, 14	アビスタ、市民プラザ	
年	月	日	行 事	場 所	内 容
2004年 平成16年	1	24-25	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	15	会員募集説明会	アビスタ	
	3	7	第9回総会	湖北台近隣センター	
	3	7	山行文集「やまなみ」第4号発行		平成13年3月～平成15年2月
	3	7	新人研修	湖北台近隣センター	ガイドンス、日帰り装備
	3	28	新人歓迎山行	足利行道山	
	5	2-4	春山合宿	五頭山・菱ヶ岳・二王子岳	雪山
	5	8	登山教室（机上）	市民プラザ	受講生7名参加
	5	23	公開登山説明会	市民プラザ	会津磐梯山
	6	6	公開登山実施	会津磐梯山	一般16名、会員34名、計50名
	6	12	登山教室（実技）	岩山	受講生5名、会員（講師）3名、計8名
	7	10	登山教室（机上）	市民プラザ	受講生5名参加
	9	11	登山教室（実技）	三頭山	受講生5名、会員（講師）2名、計7名
	10	2	登山教室（机上）	市民プラザ	受講生3名、新人1名参加
	10	23	ウィズハイク実施	鹿野山（マザー牧場）	福祉作業所16名、会員18名
	12	5	忘年山行	鳥場山	
	12	25 - 26	クリスマス山行	和名倉山	
	1	16	岳人祭	湖北台近隣センター	講演会（講師：谷口けい）、懇親
	教育研修	月	机上研修		実技研修
3		山行の申し込み方、装備の点検		行道山	山のマナー、パッキングの仕方
4		地図の読み方、コンパスの使い方		九鬼山	地図読み山行
				モミソ・源次郎沢	沢登りを楽しむ。
5		山の歩き方		赤ぼっこ	山の歩き方。ストックの使い方
6		中高年の体力低下。日常のトレーニング		玉原高原	ブナを訪ねて
				南八ヶ岳	岩稜歩き
7		山歩きの食事、十分な水分をとる		霞沢岳	山での食事（テント）
8		基礎的な天気図の見方。観天望氣		背戸蛾廊	三点確保
9		楽しい山行計画の立て方			
10	地図の読み方、コンパスの使い方				

活動の記録

その9

11		矢倉岳	地図読み山行
12	山の道具の使い方	烏場山	行事山行時の食事の作り方
		金峰山	雪山を楽しむ
1	有効なストレッチ	鳴虫山	雪山の基礎

年	月	定例集会	運営委員会・リーダー会議	備	考			
2005年 平成17年	1	16	湖北台近隣センター	18	市民プラザ			
	2	9	アビスタ	13, 19	アビスタ、市民プラザ			
	3	6	湖北台市民センター	15	市民プラザ			
	4	6	アビスタ	12	市民プラザ			
	5	11	アビスタ	17	市民プラザ			
	6	9	湖北近隣センター	14	市民プラザ			
	7	6	アビスタ	12	市民プラザ			
	8	3	アビスタ	16	市民プラザ			
	9	6	湖北近隣センター	13	市民プラザ			
	10	12	アビスタ	18	市民プラザ			
	11	12	湖北近隣センター	15	市民プラザ			
	12	8	湖北近隣センター	13	アビスタ			
年	月	日	行	事	場	所	内	容
2005年 平成17年	1	29-30	房総横断ロングハイキング	房総	房総	県連主催		
	2	13	会員募集説明会	アビスタ				
	3	6	第10回総会	湖北台市民センター				
	3	6	新人研修	湖北台市民センター		カイトンス		
	3	27	新人歓迎山行	二ッ箭山				
	5	1-3	春山合宿	景鶴山・燧ヶ岳		雪山		
	5	24	第1回10周年記念準備委員会	市民プラザ				
	6	11	公開登山説明会	市民プラザ		早池峰山・栗駒山		
	6	17-19	公開登山実施	早池峰山・栗駒山		一般11名、会員20名、計31名		
	7	20	第2回10周年記念準備委員会	市民プラザ				
	8	21	登山教室説明会	市民プラザ		出席者 男2名、女2名 計5名		
	8	28	登山教室（実技・岩トレ）	岩山		受講生5名、会員9名、計14名		
	9	6	山行文集「やまなみ」第5号発行			平成15年3月～平成16年2月		
	9	11	登山教室（実技・沢登り）	丹沢葛葉川本谷		受講生1名、会員11名、計12名		
	9	17-19	労山フェスタ	美しの森 たかね荘		日本の登山と労山の未来を考える		
	9	23	ウィズハイク実施	土岳・花貫溪谷		福祉作業所18名、会員24名		
	9	27	第3回10周年記念準備委員会	市民プラザ				
	11	12	第4回10周年記念準備委員会	湖北近隣センター				
11	12	岳人祭	湖北近隣センター		山での事故対応。ゲーム。懇親会			

活動の記録

その10

	12	5	忘年山行	蓬田岳	
2005年	1	6	10周年実行委員会	市民プラザ	
平成18年	1	28-29	房総横断ロングハイキング	房総	県連主催
教育研修	月		机上研修		実技研修
2005年	3		オリエンテーション（山行の申込、注意事項等）	ニッ箭山	山のマナー、山の歩き方
平成17年	4		リーダーの役割、山の天気、緊急時の対策（リーダー研修）	岩山	ロープの結び方、使い方。シュリンゲンによる支点のとり方（リーダー研修）
	4		地図の読み方	道志二十六夜山	地図読み山行
	5		夏山に向けてのトレーディングおよび注意点	川乗谷逆川	沢を楽しむ
				塔ノ岳～檜洞丸	山小屋の利用の仕方
				早池峰	環境保護について考えよう
	7		ストックの応用		
				富士山	高度順応
				苗場山	山の歩き方。ストックの使い方
	10		雪山に向けての知識と準備	陣場山～高尾山	低山のロングハイクを楽しむ
	11		山の中で事故に遭ったら		
2006年	1		ロープの結び方と使い方		

年	月	定例集会	運営委員会・リーダー会議	備 考	
2006年	1		6 市民プラザ	10周年準備委員会	
平成18年		11 アビスタ	17 市民プラザ		
	2	8 アビスタ	14 久寺家通り会館		
	3	5 湖北台市民センター	14 市民プラザ		
	4	12 アビスタ	18 市民プラザ		
	5	10 アビスタ	16 市民プラザ		
	6	8 湖北近隣センター	13 市民プラザ		
	7	5 アビスタ	11 市民プラザ		
	8	9 アビスタ	22 市民プラザ		
	9	5 湖北近隣センター	12 市民プラザ		
	10	4 アビスタ	17 市民プラザ		
	11	8 湖北近隣センター	14 市民プラザ		
	12	7 湖北近隣センター	12 アビスタ		
年	月	日	行 事	場 所	内 容
2006年	1	6	10周年準備委員会	市民プラザ	10周年準備委員会
平成18年	1	28-29	房総横断ロングハイキング	房総	県連主催
	2	19	会員募集説明会	アビスタ	
	3	6	第11回総会	湖北台市民センター	

活動の記録

その11

	3	6	新人研修	湖北台市民センター	カブックス
	3	26	新人歓迎山行	難台山・吾国山	
	5	3-5	春山合宿	上州武尊岳	雪山
	5	21	公開登山説明会	市民プラザ	
	6	11	公開登山実施	男体山	一般28名、会員33名、計61名
	7	5	山行文集「やまなみ」第6号発行		平成16年3月～平成17年2月
	7	5	10周年記念 T-シャツ配布		
	7	12	10周年準備委員会	久寺家通り会館	
	8	30	10周年準備委員会	市民プラザ	
	9	23	ウィズハイク実施	佐白山・富士山	福祉作業所24名、会員25名
	10	13-15	10周年記念山行	八ヶ岳集中登山	懇親会会場 美しの森ファーム
	10	29	10周年記念祭	我孫子南近隣センター	講演：渡邊輝男（都岳連救助隊長） 「山で遭難しないために」 落語：山遊亭金太郎
	11	18-19	県連40周年記念レセプション	清和県民の森	
	12	10	忘年山行	花香月山	
2007年	2	7	山行文集「やまなみ」第7号発行		平成17年3月～平成18年2月
平成19年	2	19	会員募集説明会	アビスタ	
教育研修	月		机上研修		実技研修
2006年	3		オリエンテーション（会山行申込み、注意事項その他）	難台山・吾国山	山のマナー、山の歩き方
平成18年	4		地図の読み方（尾根と谷）	鬼ヶ岳・節刀ヶ岳	地図読み山行
	5		事故事例に学ぶ		
	7		山で雷にあったら		
	10		環境保護について考えよう	八ヶ岳	テント生活を楽しむ
	10		山の中で事故に遭ったら	殿平・鞍吾山	地図読み山行
	12		雪山に向けての知識と準備	花香月山	行事山行時の食事の作り方
2007年	1		ロープの結び方と使い方	房総の山	ロングハイクを楽しむ
平成19年	2			朝日山・赤鞍ヶ岳	雪山を楽しむ
	3			奥久慈男体山	山行計画の作成と山行
年	月		定例集会	運営委員会・リーダー会議	備考
2007年	1	11	アビスタ	17 市民プラザ	
平成19年	2	8	アビスタ	14 久寺家通り会館	
	3	5	湖北台市民センター	14 市民プラザ	
	4	12	アビスタ	18 市民プラザ	
	5	10	アビスタ	16 市民プラザ	
	6	8	湖北近隣センター	13 市民プラザ	
	7	5	アビスタ	11 市民プラザ	
	8	9	アビスタ	22 市民プラザ	
	9	5	湖北近隣センター	12 市民プラザ	

活動の記録

その12

	10	4	アビスタ	17	市民プラザ	
	11	8	湖北近隣センター	14	市民プラザ	
	12	7	湖北近隣センター	12	アビスタ	
	1	10	アビスタ	16	アビスタ	
	2	7	アビスタ	13	市民プラザ	
				18	アビスタ	
年	月	日	行 事	場 所	内 容	
2007年	3	4	第12回総会	湖北台市民センター		
平成19年	3	6	新人研修	湖北台市民センター	カブックス	
	3	25	新人歓迎山行	古賀志山		
	5	3-5	春山合宿	鹿島槍ヶ岳	雪山	
	5	21	市民登山説明会	アビスタ		
	6	9-10	市民登山実施	カヤの平・奥裾花	一般25名、会員19名、計45名	
	9	22	ウィズハイイク実施	大平山	福祉作業所25名、会員26名	
	10	13-14	岳人祭	五本松公園		
	12	9	忘年山行	高宕山～八良塚		
2008年	1	9	山行文集「やまなみ」第8号発行		平成18年3月～平成19年2月	
教育研修	月	机上研修		実技研修		
2007年	3			奥久慈男体山	卒業山行（自分たちで計画を立て山行を行う）	
平成19年	3	オリエンテーション（会山行申込み、注意事項その他）		古賀志山	山のマナー、山の歩き方	
	4	山の地図を読む（ビデオ）		岩山	三点確保	
	5	山の天気を知る		モミソ沢	沢登りを楽しむ（初級）	
	6			カヤの平・奥裾花	ブナの魅力（講師：坪田和人氏）	
	7	ロープの結び方、使い方				
	8	無線免許の取得について		笠ヶ岳	山の花を楽しむ	
	10			岳人祭（五本松公園）	テント生活を楽しむ	
	11	雪山を楽しむ		夕日岳	地図読み山行	
2008年	12			高宕山～八良塚	行事山行時の食事の作り方	
2008年	1	山行計画の立て方		房総の山	県連の仲間との交流	
平成20年				高山	雪山を楽しむ（雪山基礎）	
	2			高尾山	卒業山行（自分たちで計画を立て山行を行う）	



やまたん 2007年9月号 ~ 2008年2月号



編集後記

皆様の思いの詰まった大切な紀行文の編集に関われたことをうれしく思います。

まだ編集に取り掛からなくても大丈夫かな。と思っているうちに夏になり、今年の夏山はなどと考えているといつまでたっても編集のスピードがあがりませんでした。心のこもった記事や楽しそうな写真を見て励まされました。又、武内編集長には後から押して頂いたり、引っ張って頂いたり大変お世話になりました。ありがとうございました。

(K. K.)

一年間の成果の結集が出来上がりました。山行時の皆様の澀刺とした笑顔の写真や臨場感に溢れた文章をいち早く拝見させて頂き、幸せなことでした。久しぶりの編集作業で、地図や写真をうまく挿入できなかったりその他諸々、武内さんにはいろいろとご面倒をおかけしました。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

(Y. S.)

秋も深まり、近くの公園の檜の木も見事に色づき始めた。今年の秋は、暖かい天気が続いたと思うといきなり冷え込んだりして、寒暖の差が激しいので、例年にも増して紅葉が鮮やかなようである。

何とか年内に発行したいとの意気込みで、「やまなみ第9号」の編集に取り掛かったのがこの春。K. K.さん、Y. S.さんに頑張ってもらい、12月の定例集会時に、52の山行紀行文を載せたやまなみを会員にお渡しできるのは嬉しい限りである。原稿の早期提出にご協力いただいた会員各位、それに今年より新たに編集係に加わり、最終の校正をして戴いたY. O.さんにも感謝している。

(Y. T.)

それまでは何気なく読ませていただいていたやまなみだが、校正係として原稿をお預かりした時、その分厚さと地図や写真を挿入しここまで纏められたご苦勞を感じずにはいられなかった。細かい作業にさぞ神経を使われた事だろう。私のお役はただ少しの訂正をするだけ。編集係と言うより読者の一人に過ぎない。皆さん、ご苦勞様でした。

(Y. O.)

千葉県勤労者山岳連盟

岳人あびこ

山行文集 **やまなみ 第9号**

発行日 平成20年12月10日

発行者 岳人あびこ 会長 中村隆泰

千葉県我孫子市青山台3-11-3

編集者 会報部 やまなみ編集係

武内勇二 桐生恭子

坂口よし江 小川洋子

印刷所 太平洋印刷株式会社

ホームページ：<http://www18.ocn.ne.jp/~kounkan/gakujin/>

E-mail：gakujinab10@yahoo.co.jp